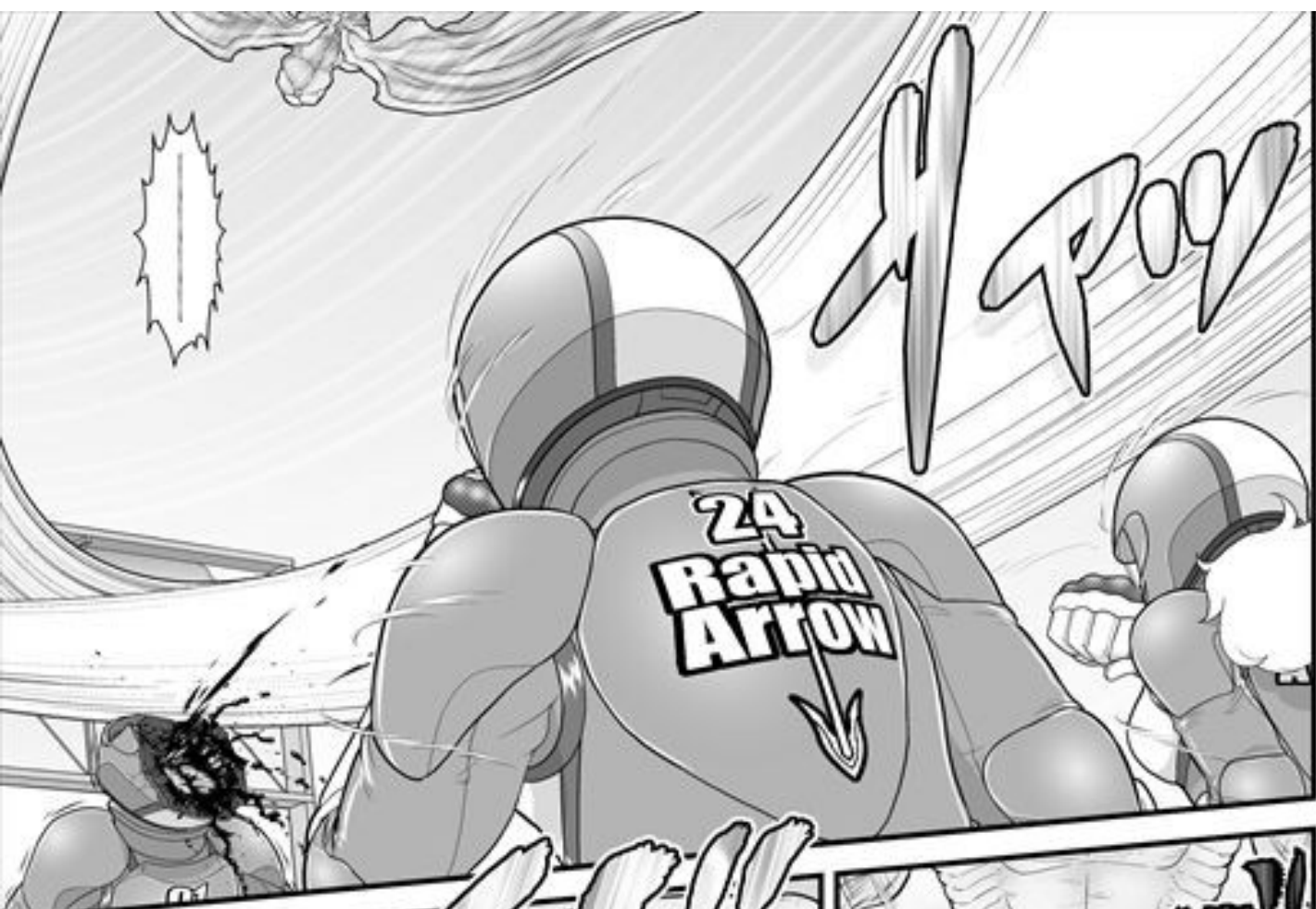
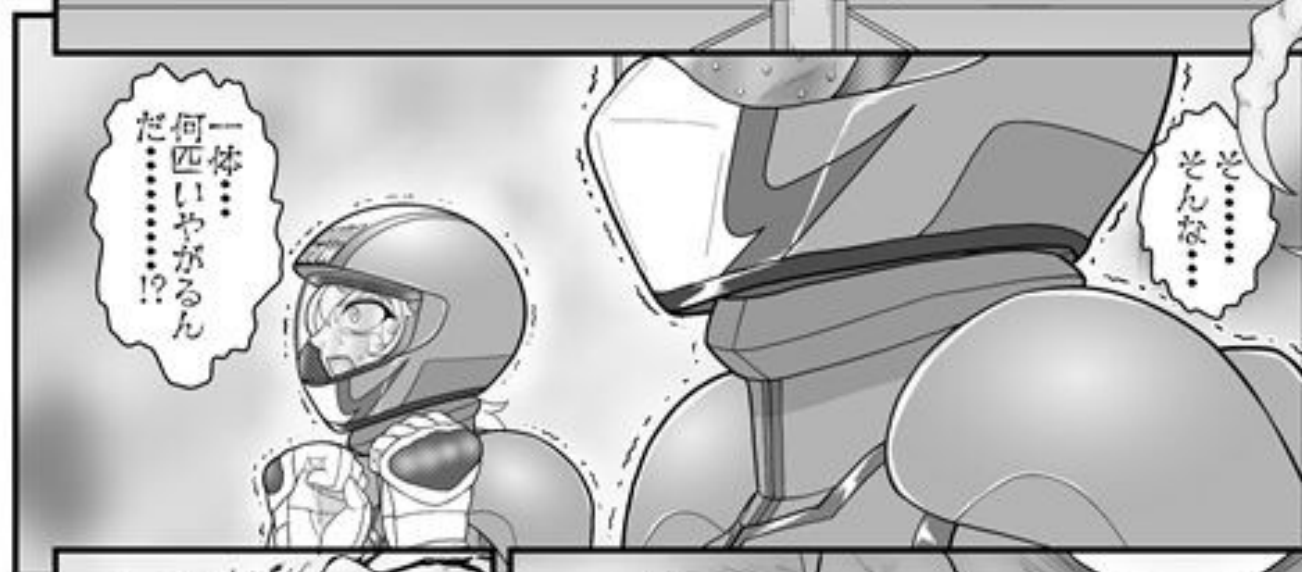
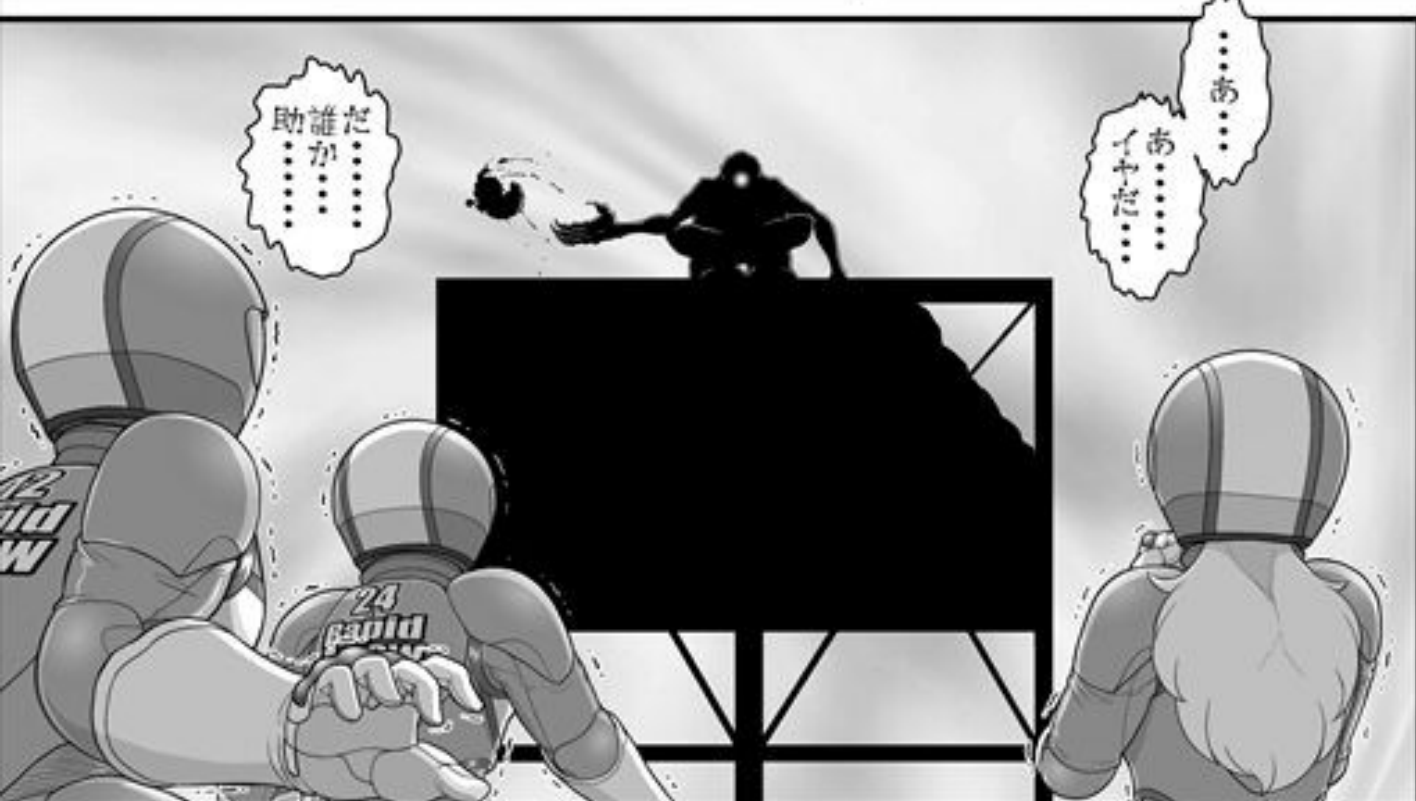


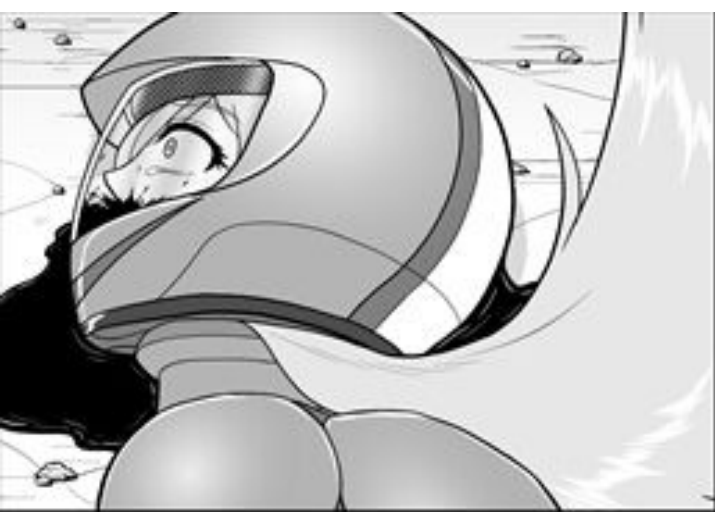




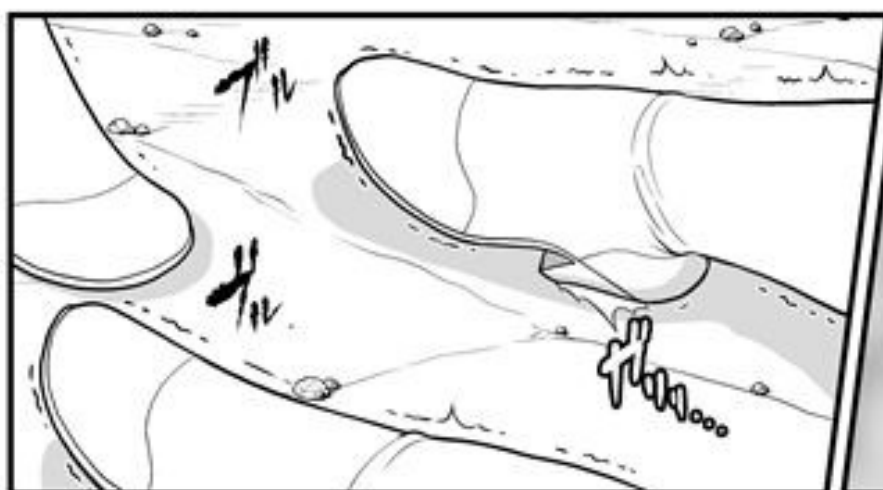








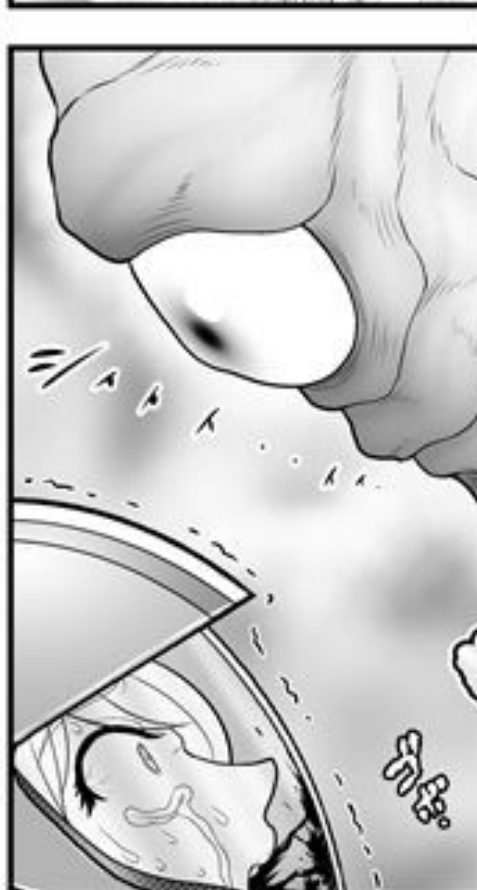






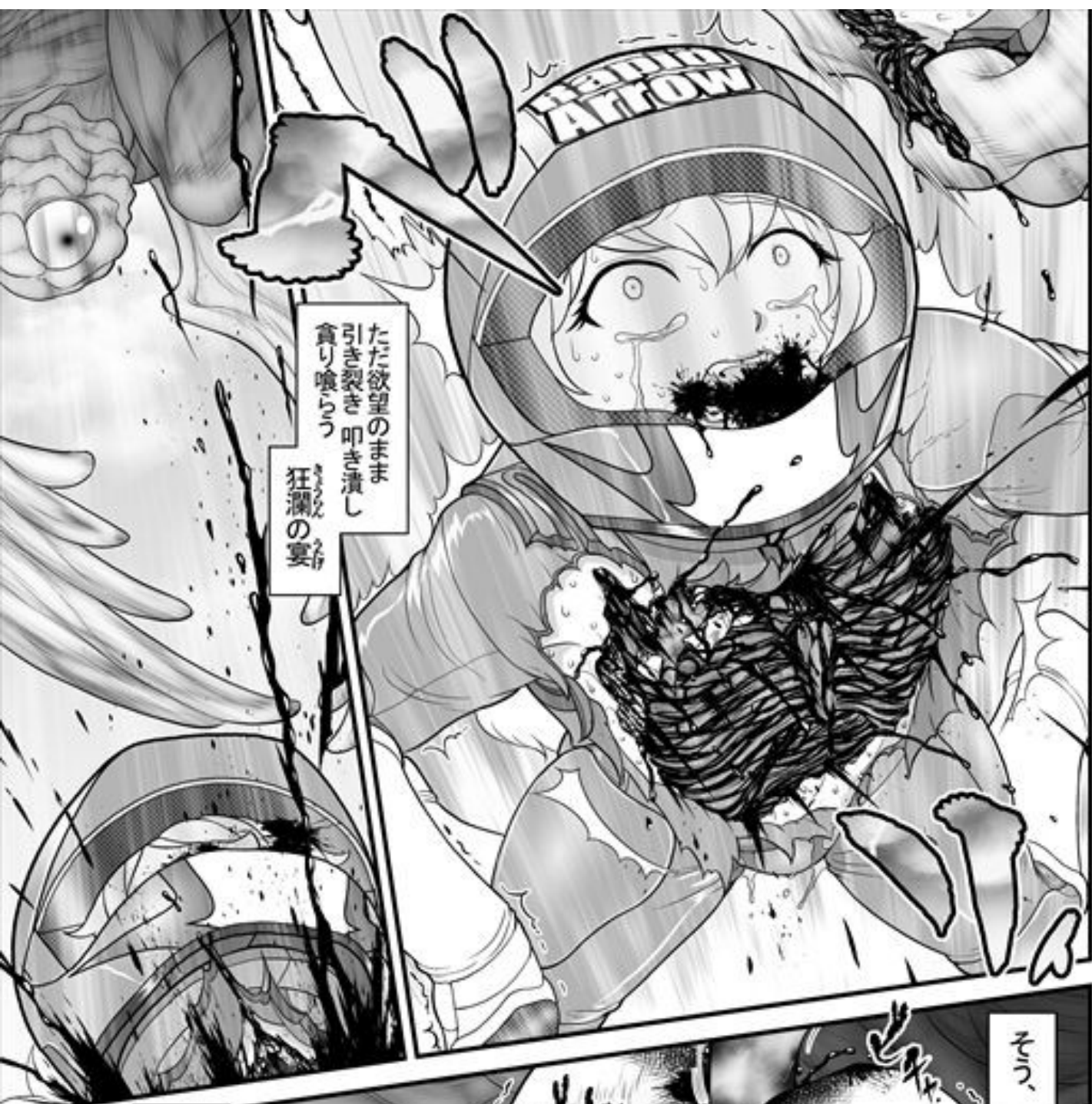


「戦い」と呼ぶには
あまりに一方的で



「狩り」と言うには
あまりに他愛もなく





ただ欲望のまま
引き裂き叩き潰し
貪り喰らう

狂瀾の宴



そう、

殺戮は
『奴ら』にとって



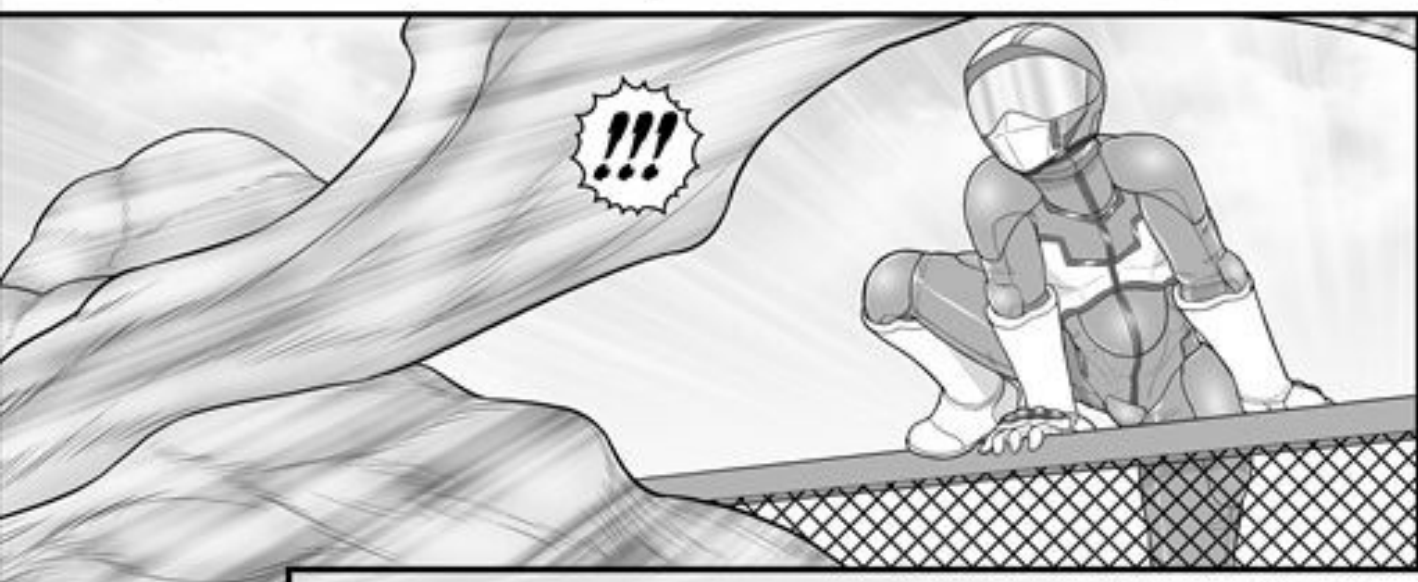
ただの

「食・事」でしか
ないのだ















ひびき
アアアア
ひびき
アアアア

ひびき
アアアア

ああああ

ガッ

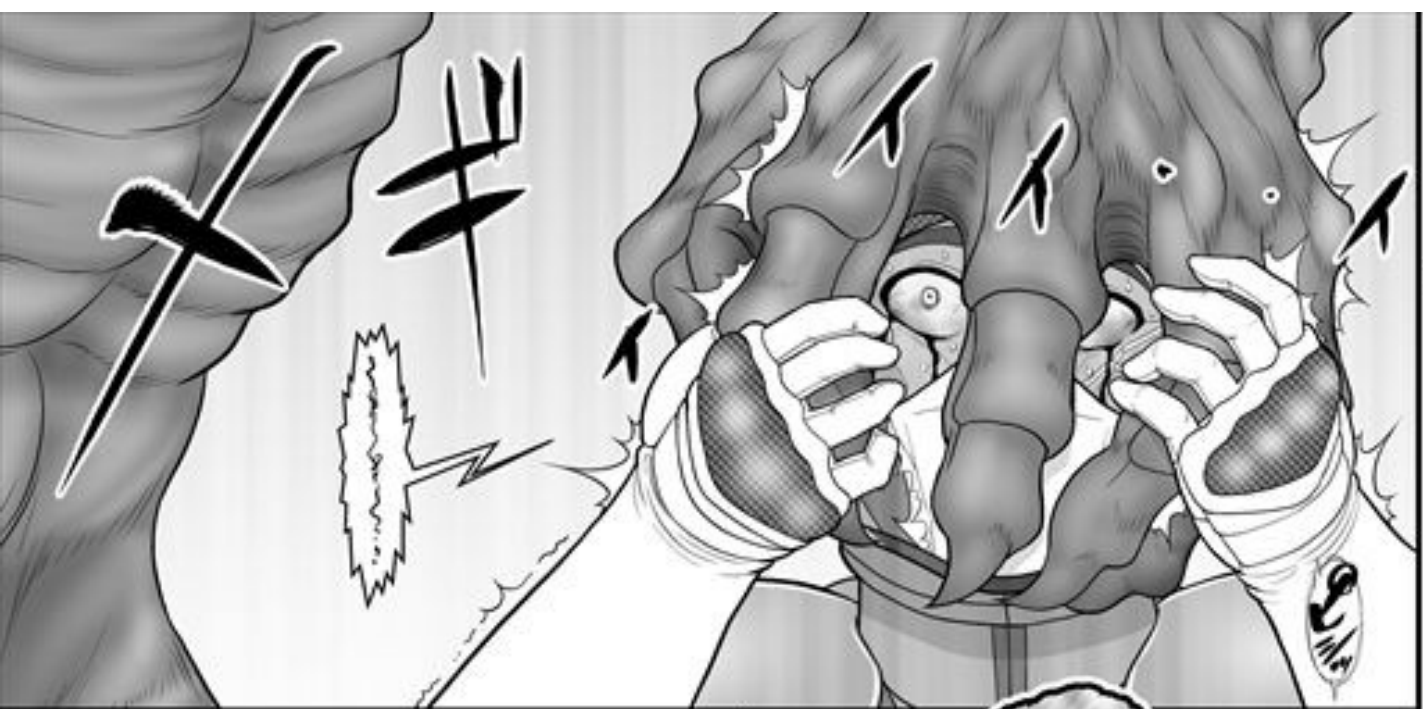
ひびき
アアアア
ひびき
アアアア

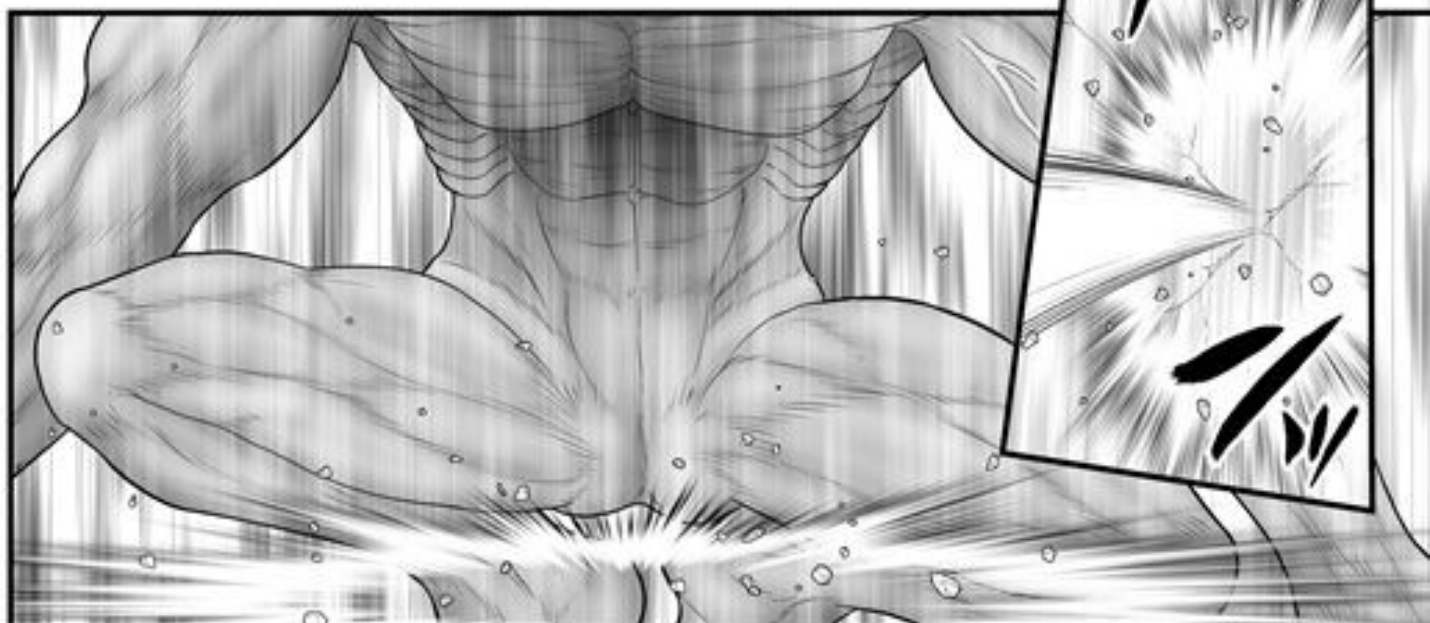
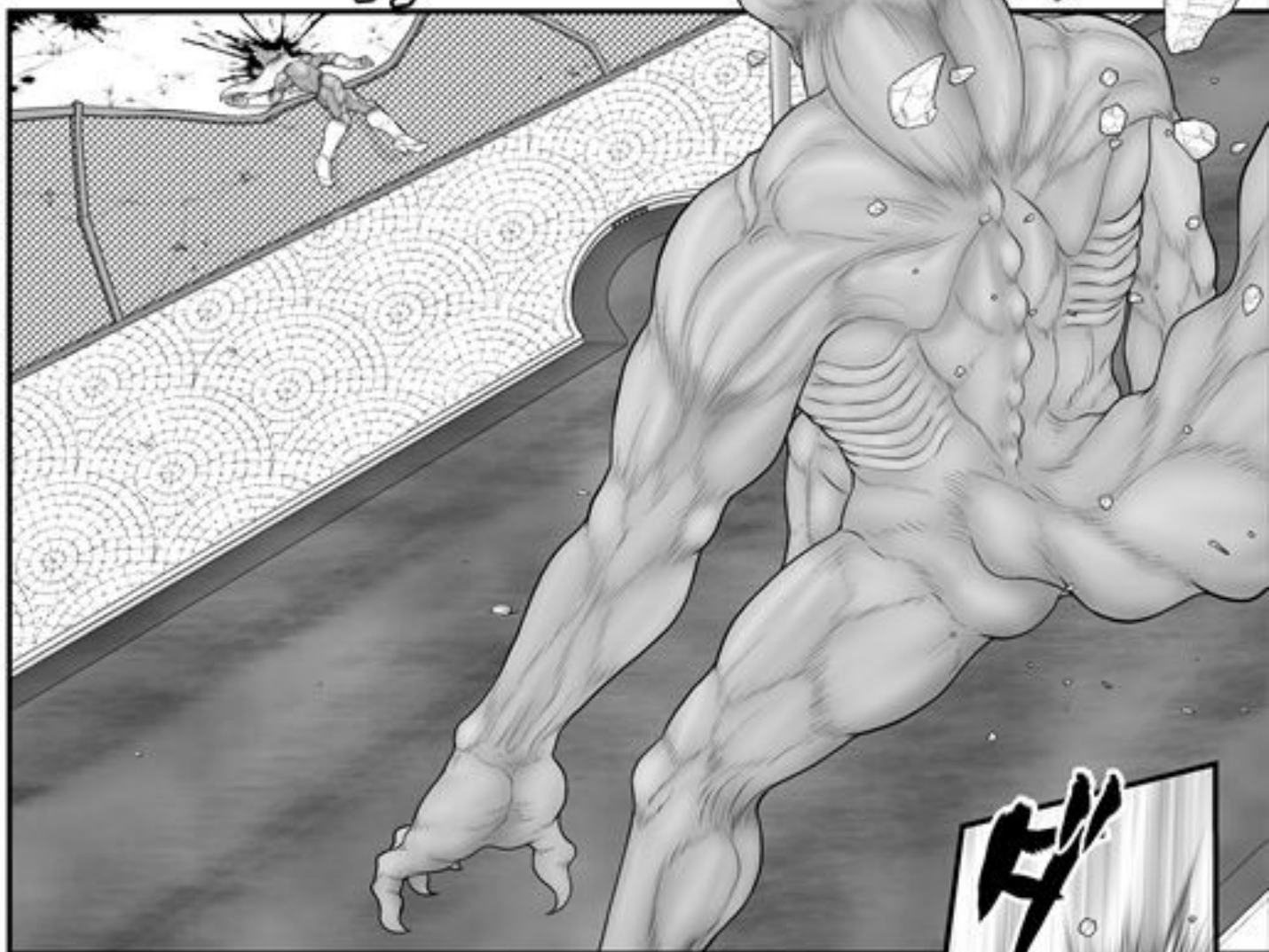
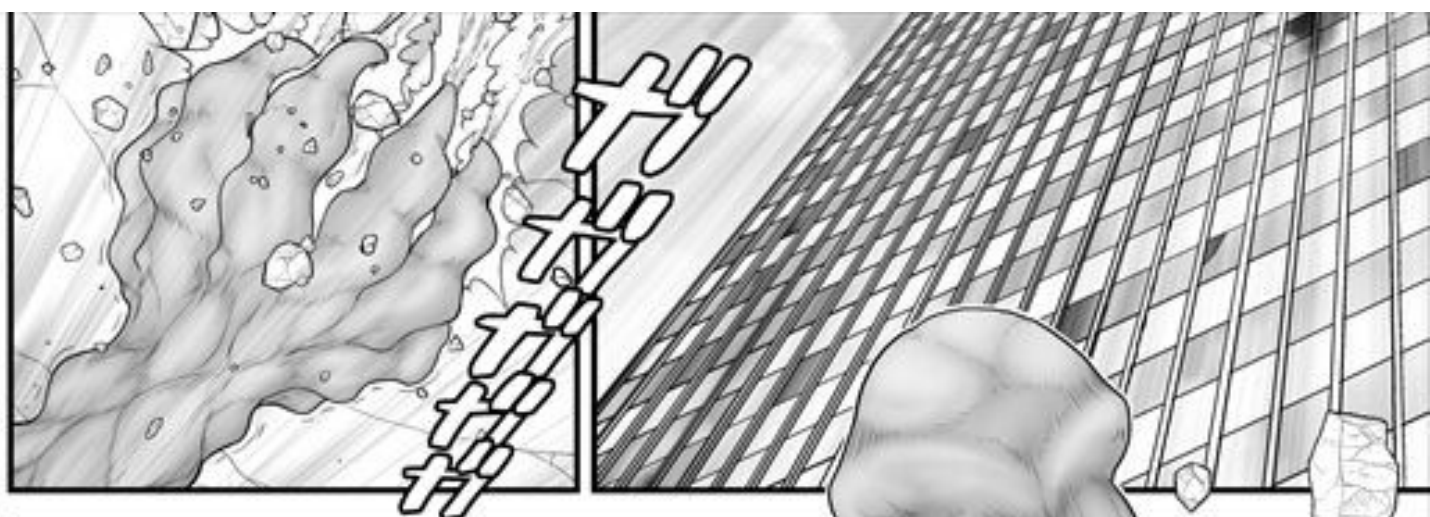
ひびき
アアアア

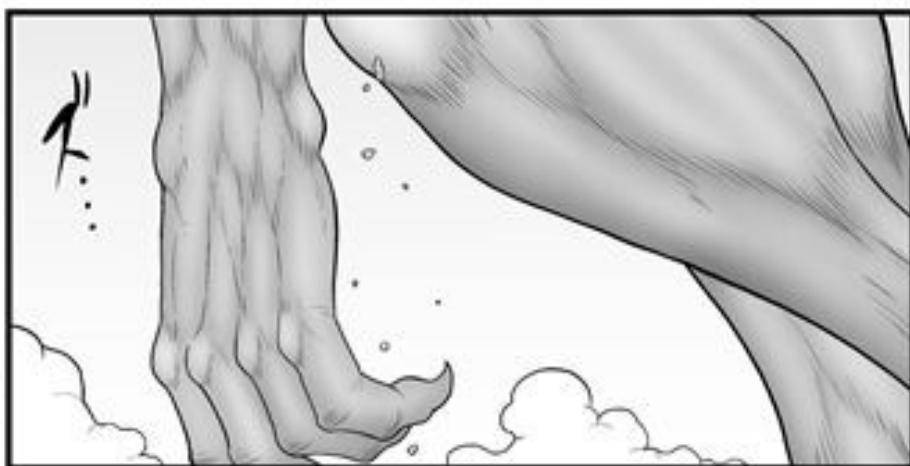
ひびき
アアアア

ひびき
アアアア

05
Rapid
Arrow









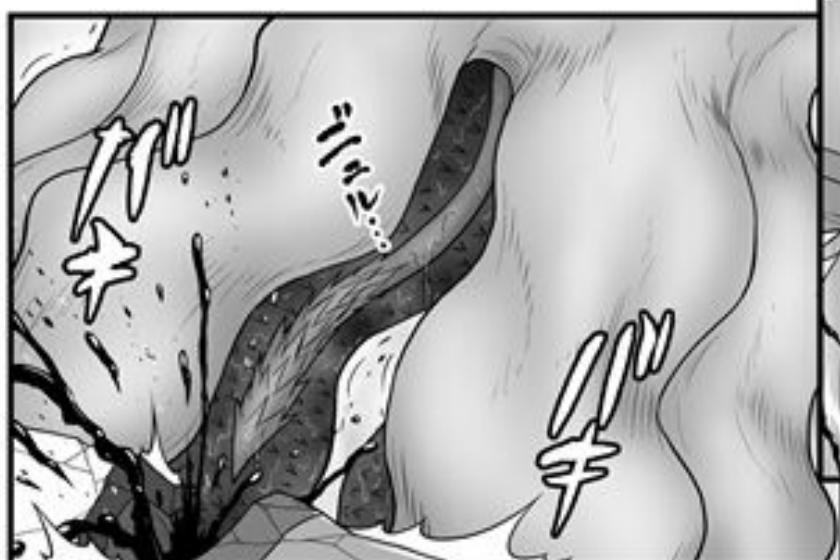
完全装備のライダー
20人を何の苦も無く
挽肉にしたザードが
……こいつが来た途端
静かになった……？

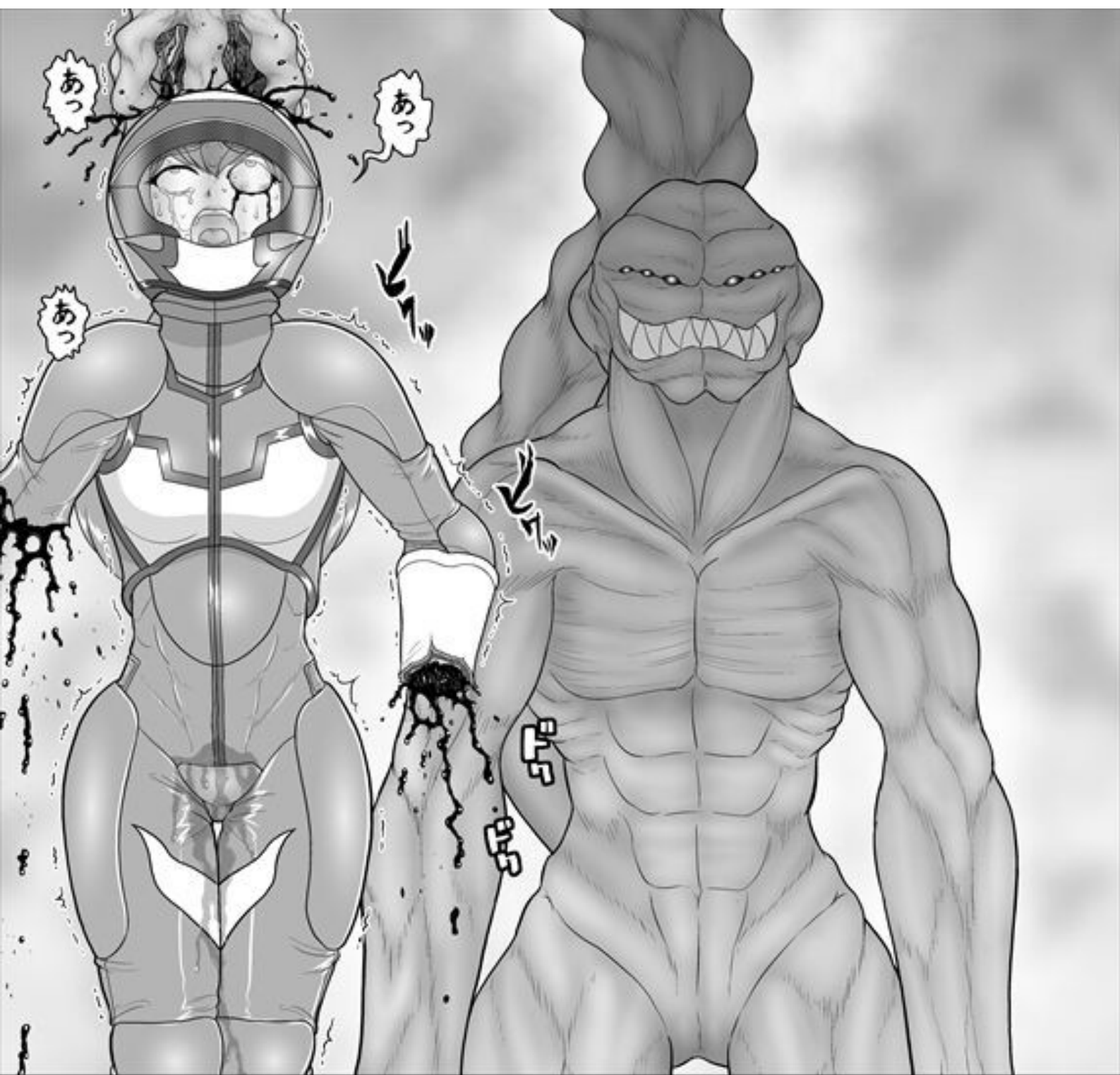
……まるで……
雷鳴に怯える
子犬みたいに――





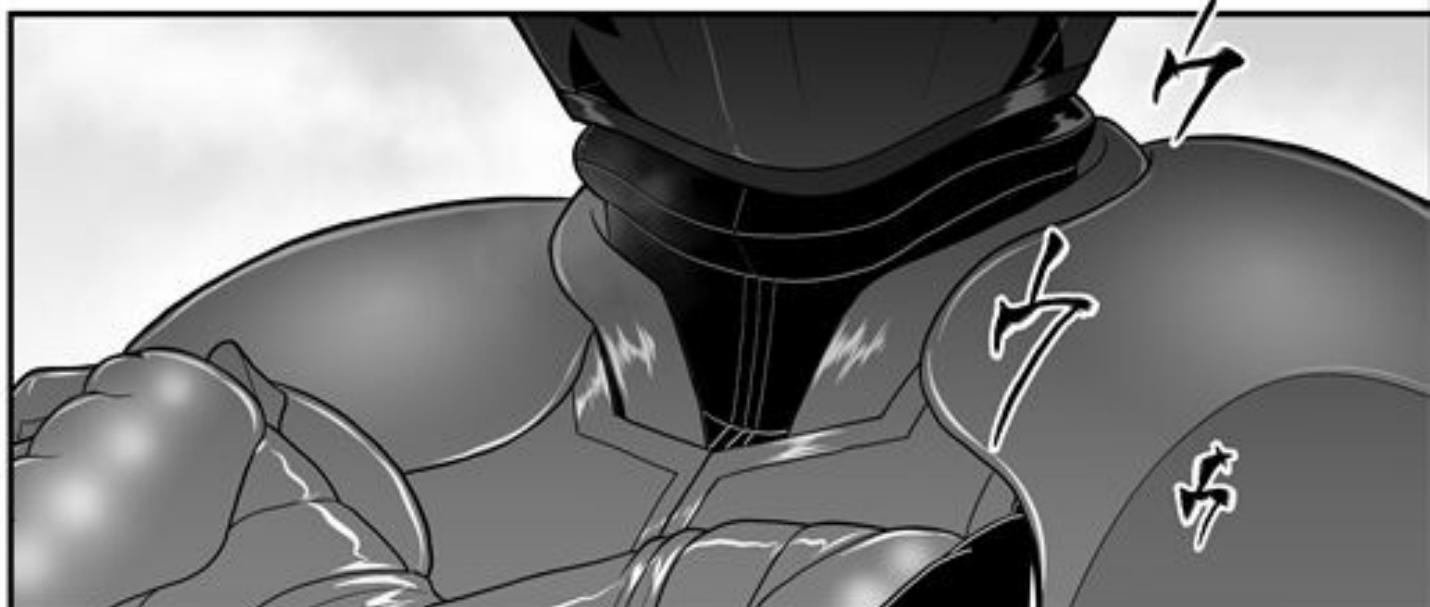


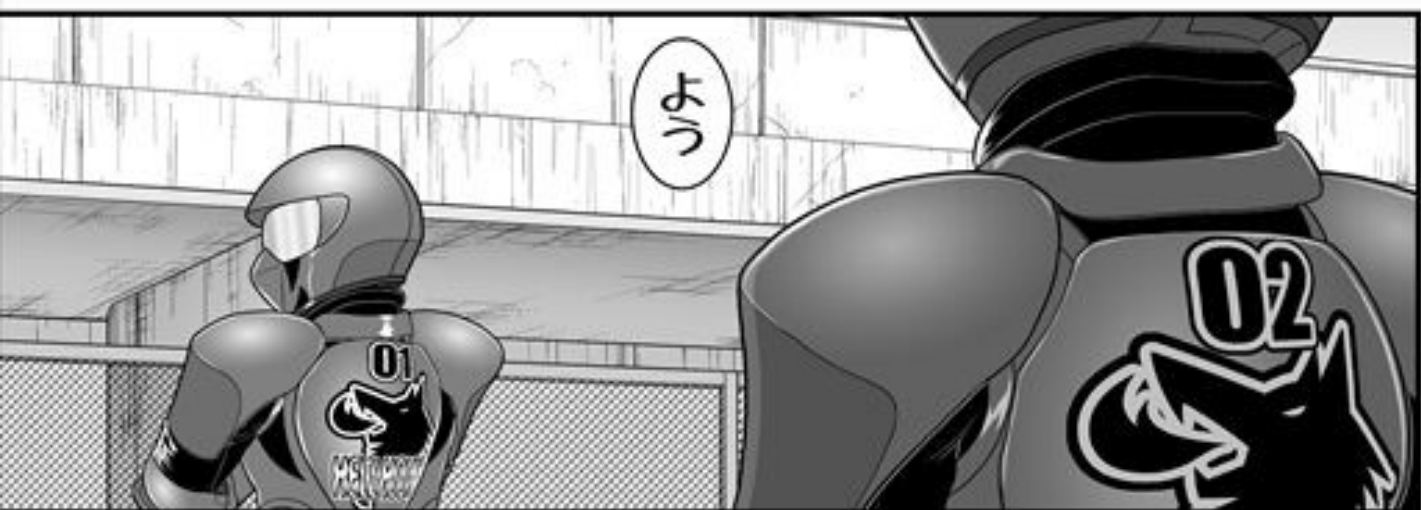
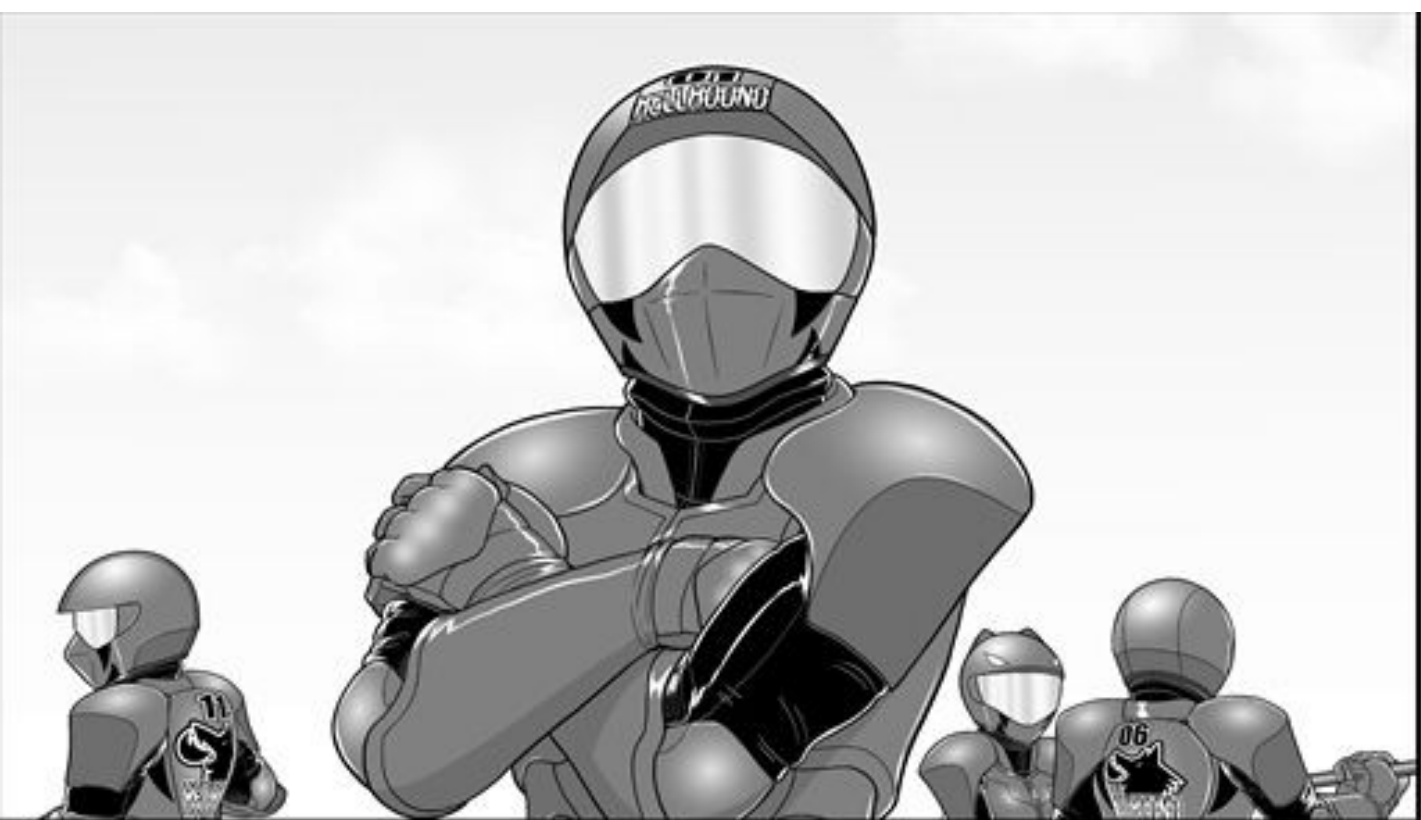






数日後





バイクは
置きっぱなし



あるのは
大量の血痕
だけ



やっぱり
誰もいないな

死体も
奴らの痕跡も
ない……

……何か
おかしくないか？

これが奴らの
仕業なら

手足の一本すら
落ちてないのは
どういうことだ

……さあな……
よっぽど
腹が減ってた
んだろ

奴らがする事の
理由なんざ
どうでもいい

一匹残らず
ぶっ殺すのに
考える意味
あるか？

ふ……

お前のそういう
所が好きだ

……

お前……

例の奴が
やったと思っ
て
るんだろ？

フン……
お見通しか

げ

当たり前だ

お前の事は
金〇の裏の
ホク口の数まで
全部知ってる

何だおい……
濡れちまっ
たか？

一発ハメるか
ここで

『瞬速の矢』っていうや
地味で堅実なだけが
取り柄のクソ
つまんねえチームだ

大して人気も
なかったし実際
誰も騒いでねえ

だが……逃げ足の
速さだけは折り紙
付きだった

そんな連中が
こんな街の近くで
逃げる間もなく全滅
したことが自体が
異常事態だろ



で…『瞬速の矢』が
最後に受けてた任務に
目を付けたって詠だ

ま…要は
ただの俺の
勘だがな
少し前なら
『異端者』を
疑ってた
ところだ



…まあ
ともかく

後は…

あそこだけ
だな……

おっしやあ

散歩は中止だ
全員集合しろ

パーティーの
時間だ！



行くぞオ!!!

ザッ

「奴らがいたら
片っ端から全部
ぶっ殺せ!!」



誰だ!?



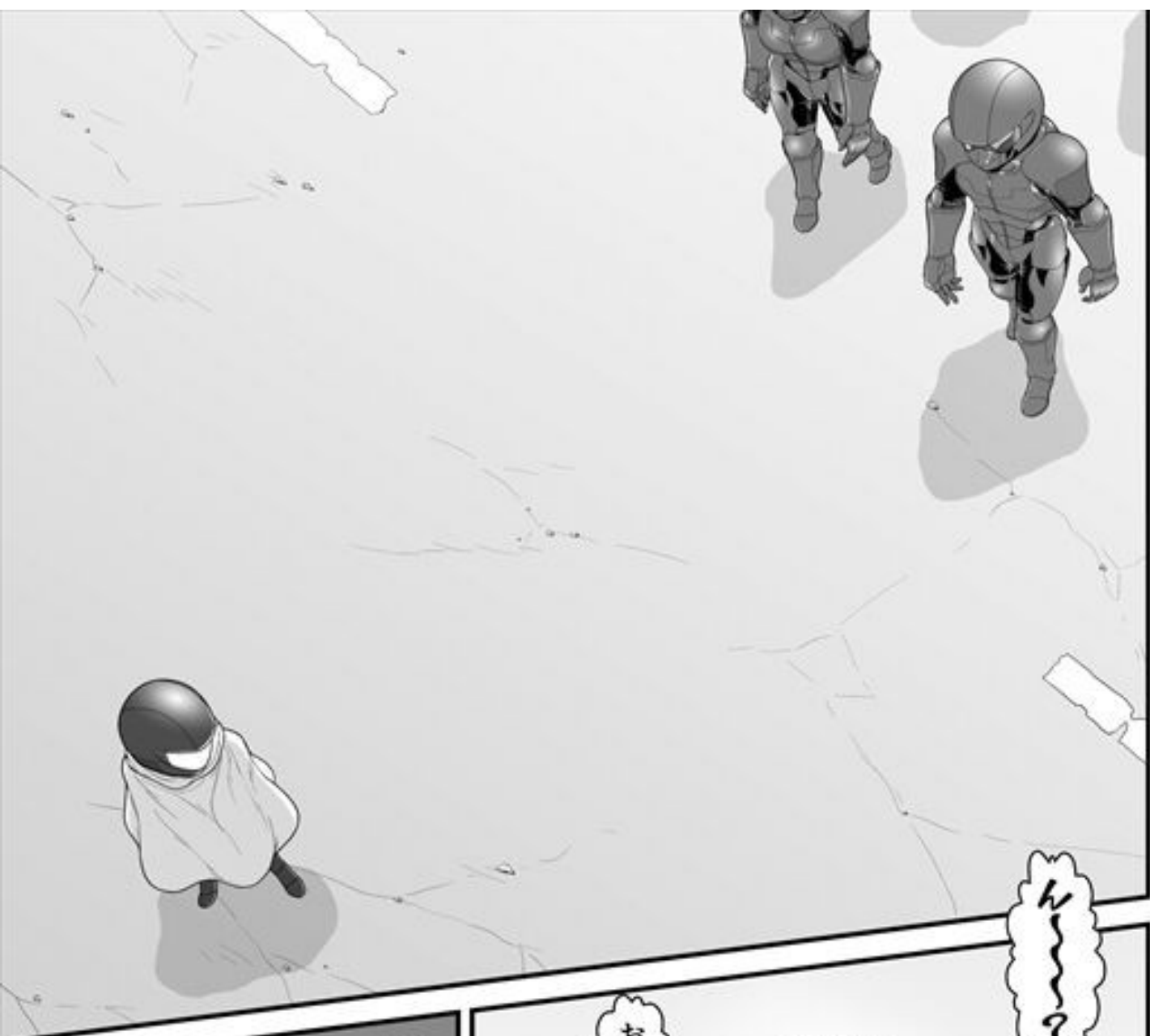
とにかくこのまま
手ぶらじゃ帰れねえ

一月もご無沙汰で
そろそろ殺らねーと
勃たなくなっちゃまい
そうだぜ



D地区踏破の後は
療養やらTOFやらで
ろくに「外」に行けて
なかったからな...

!



ん〜？

お前……！
ここで
何してる？
何か
奥うな



おい……

どうい
うこと
だ？

01

んーとね

ちよつと待つて
調べるから……







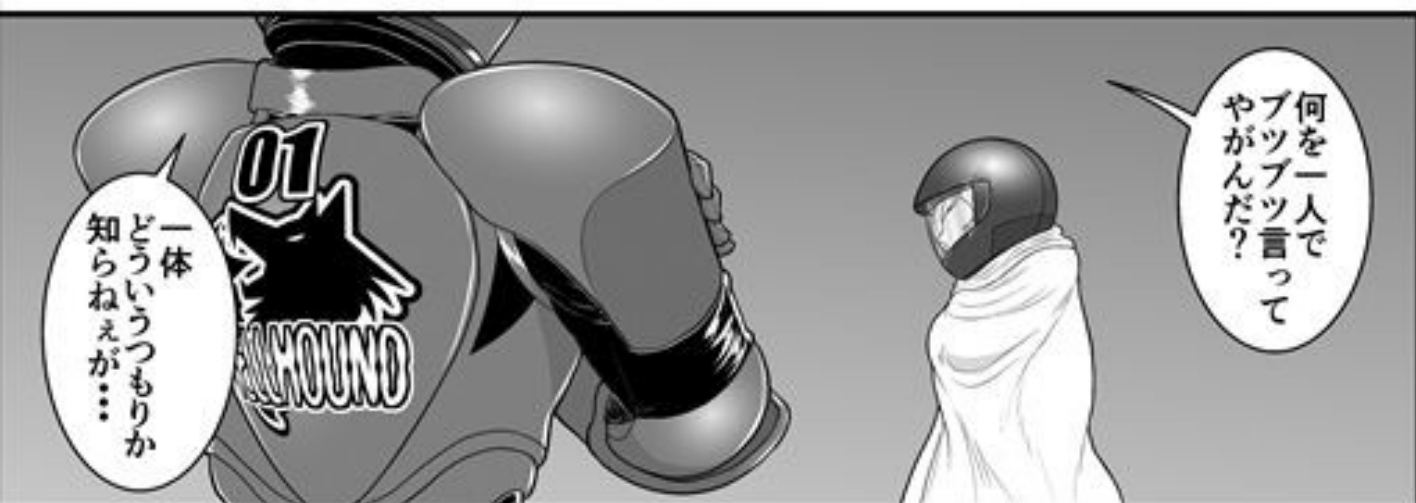
案外
目的は私達と
同じかもな

さあ……
分かんが



単なる観測機器の
設置任務だよ

バトルで鳴らした
トッパンカーが
なんでまたこんな
初級任務を……?



一体
どういうつもりか
知らねえが……

何を一人で
ブツブツ言っ
てやがんだ?



おい

何だ
こりゃあ……?



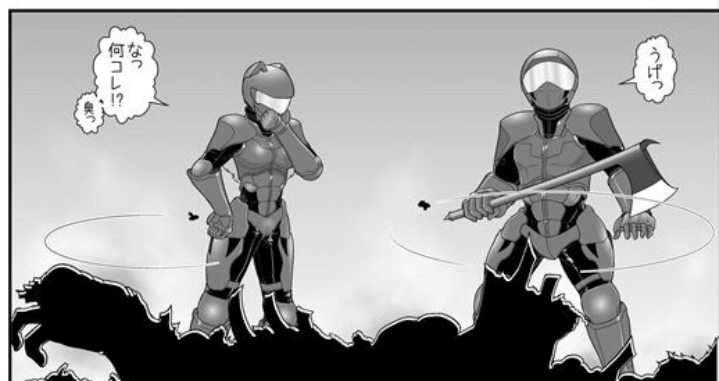
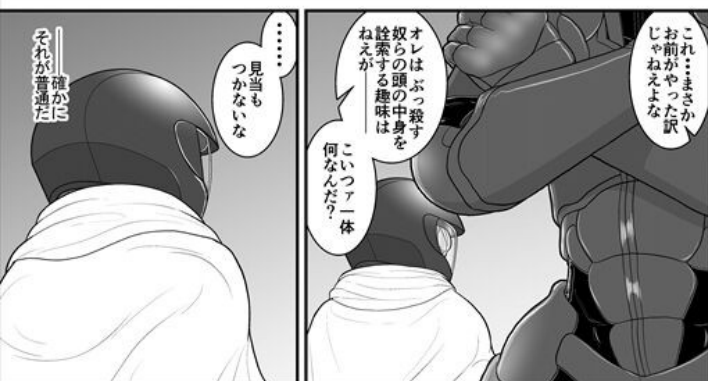
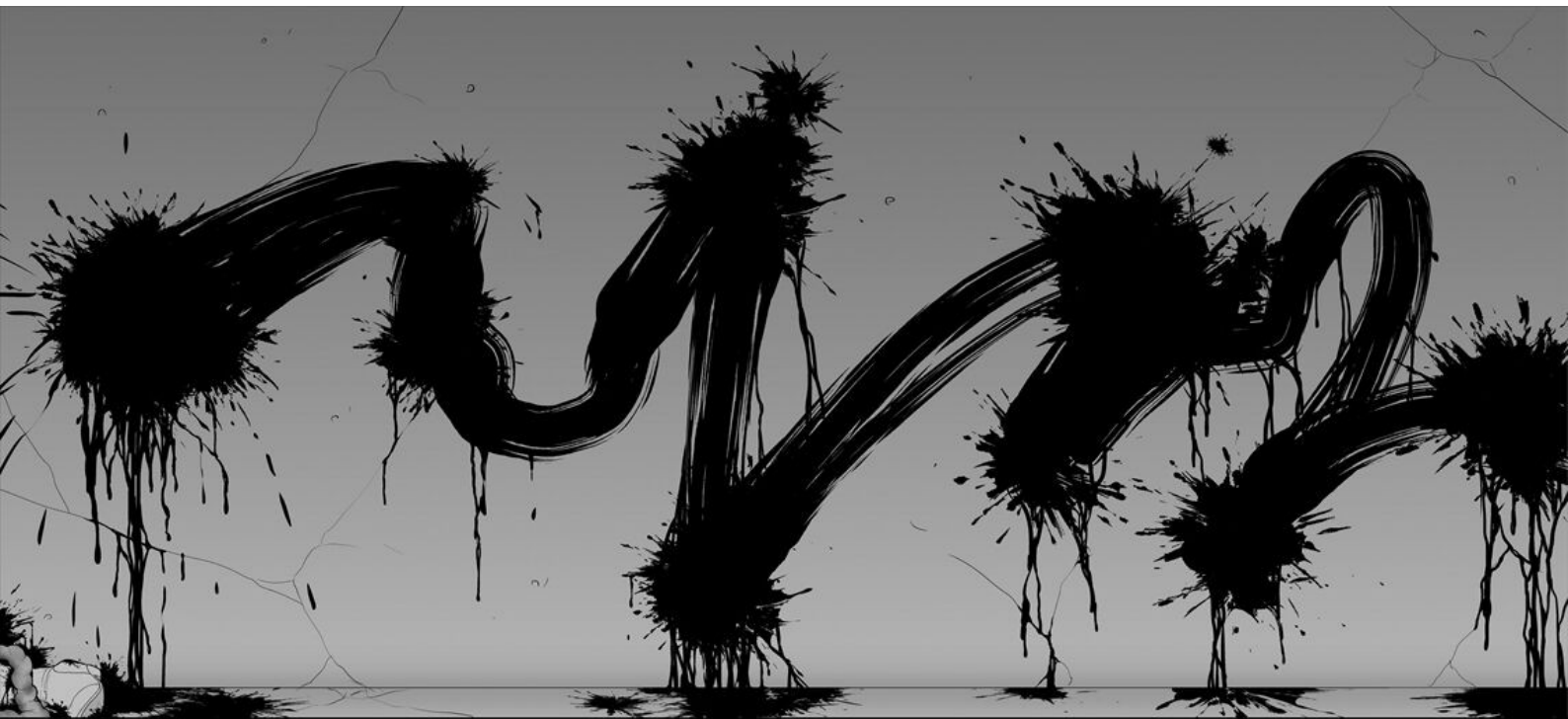
邪魔する気なら
タダじゃ

!



……マジかよ





「奴らの事を
いくら考えても
答えは出ない」

だから
思考停止して
ただ「殺す」
その方が簡単だ

だがあいつを
追ううちに

私は奴らの行動に
違和感を覚え始めた

無軌道な殺戮と
その裏に見え隠れ
する作為

まるで何かを
伝えようとする
かのような

奴らは群体

一体一体は群れを成して
獲物を襲うだけの単細胞
ではない

だが……
それに意思を与え
動かしてる頭脳が
いるとしたら？

これ見よがしに
死体を撒き散らし

壁の近くまで
群れを送り込み

そしてこれ――

ここに来る人間に
見せつけるための
『存在表明』



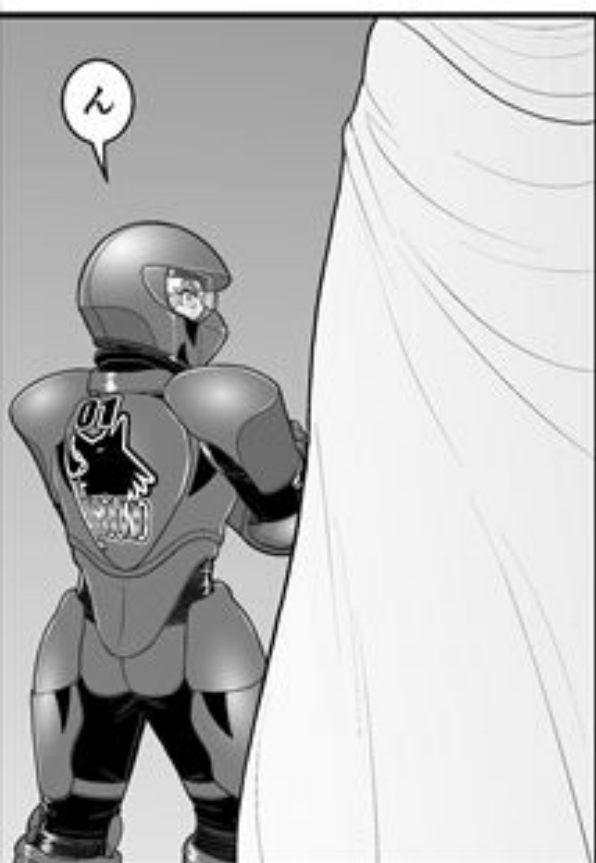
——そう

『これは
キング
示威』だ



この世界は
我々のもの

次はお前が
こうなる



ん



これが生存競争だと
言うのなら

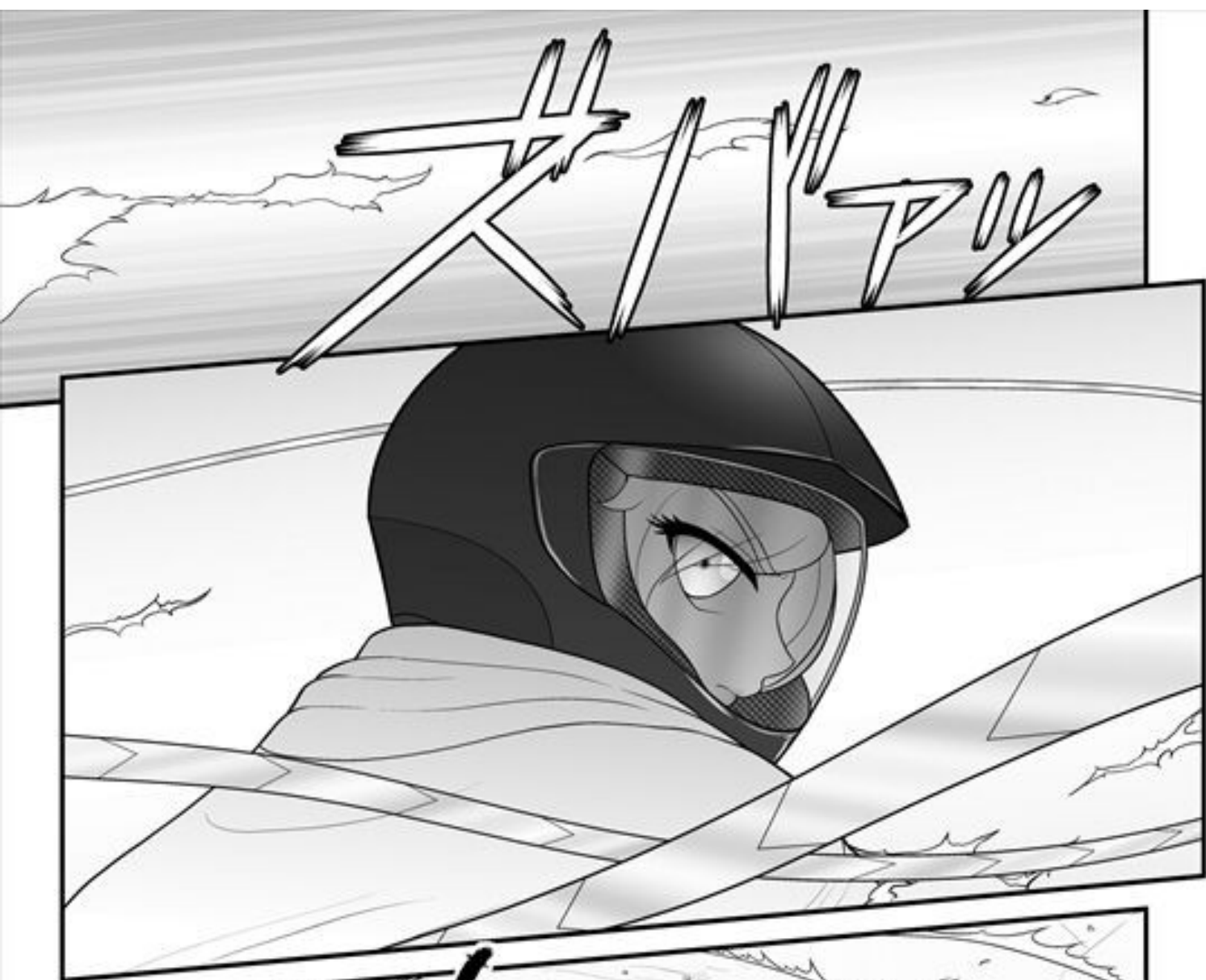
受けて立ってやる

うん

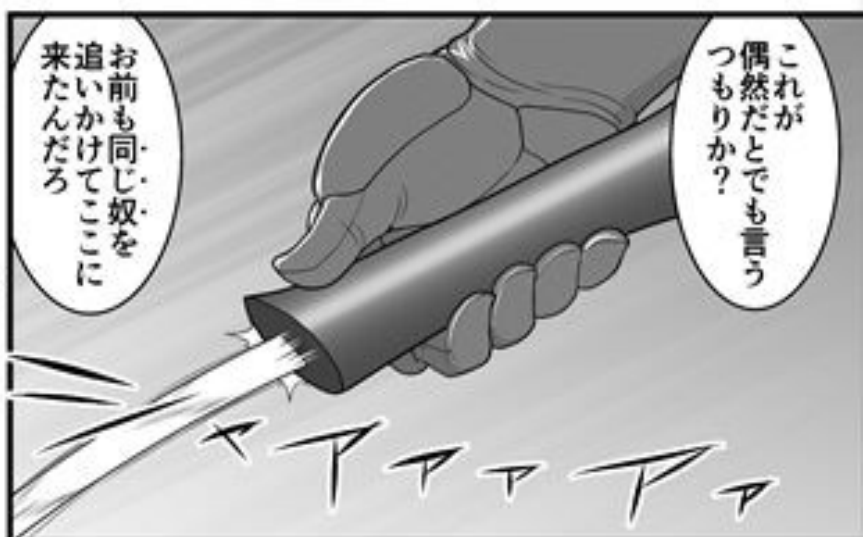


上等だ











いいだろう



あー
もー…

結局
こうなるのね

ああ見えて結構
熱くなりやすいタイプ
なんだよな

まそこがまた
カワイイところでも
あるんだけど…



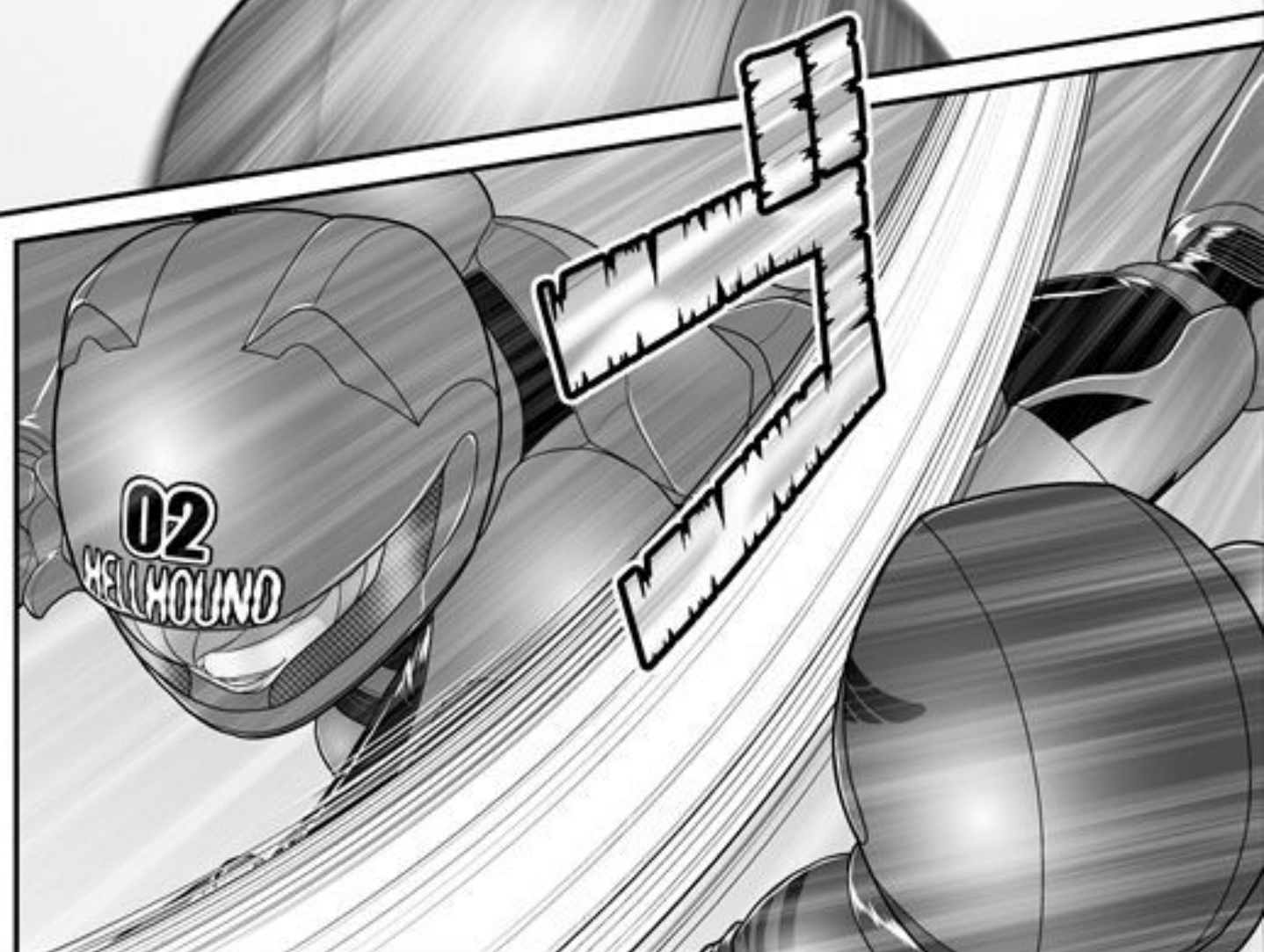
「計画」の為に

頭数は多ければ
多いほどいい



それにしても
『魔犬』も異生体を
追ってたとはね

これはある意味
好都合かも





初手から隙だらけの
振り回しパンチー

こいつ…
舐めてるのか？
それとも
ただの喧嘩屋
か……



茶番に付き合う
つもりはない

手早く
終わらせる

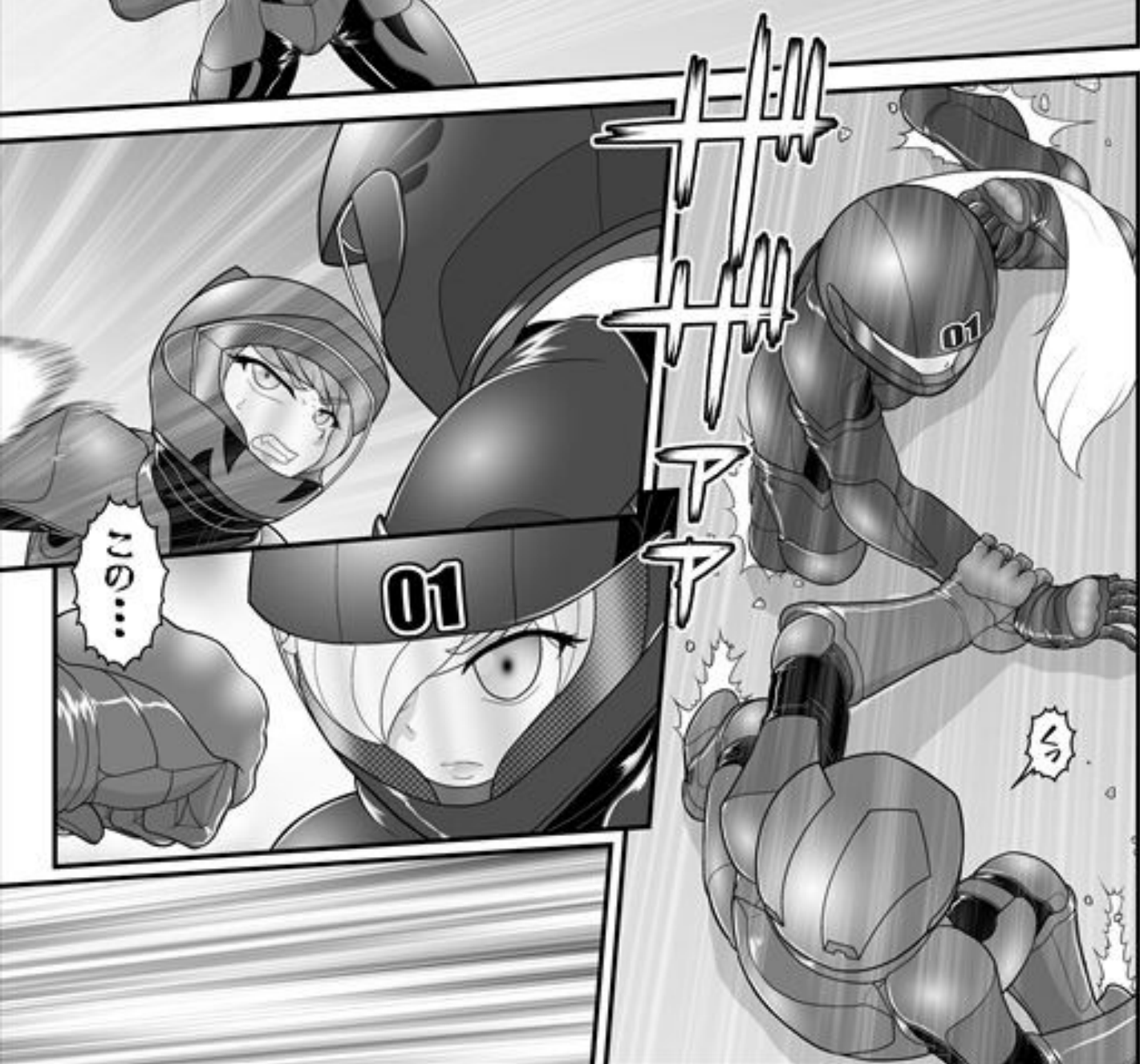




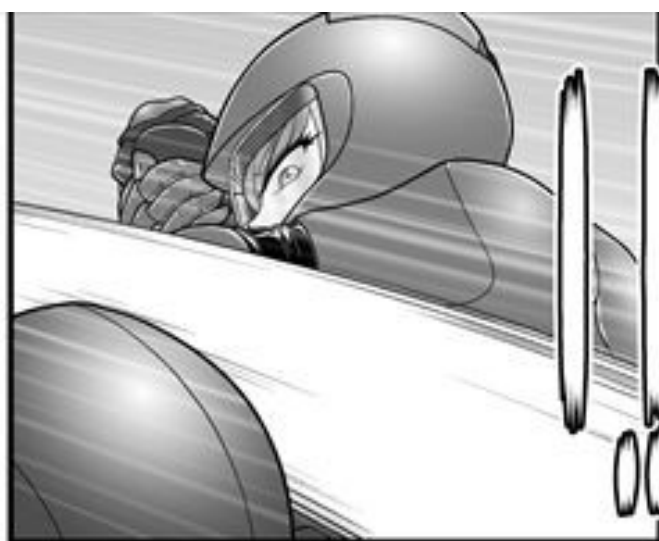






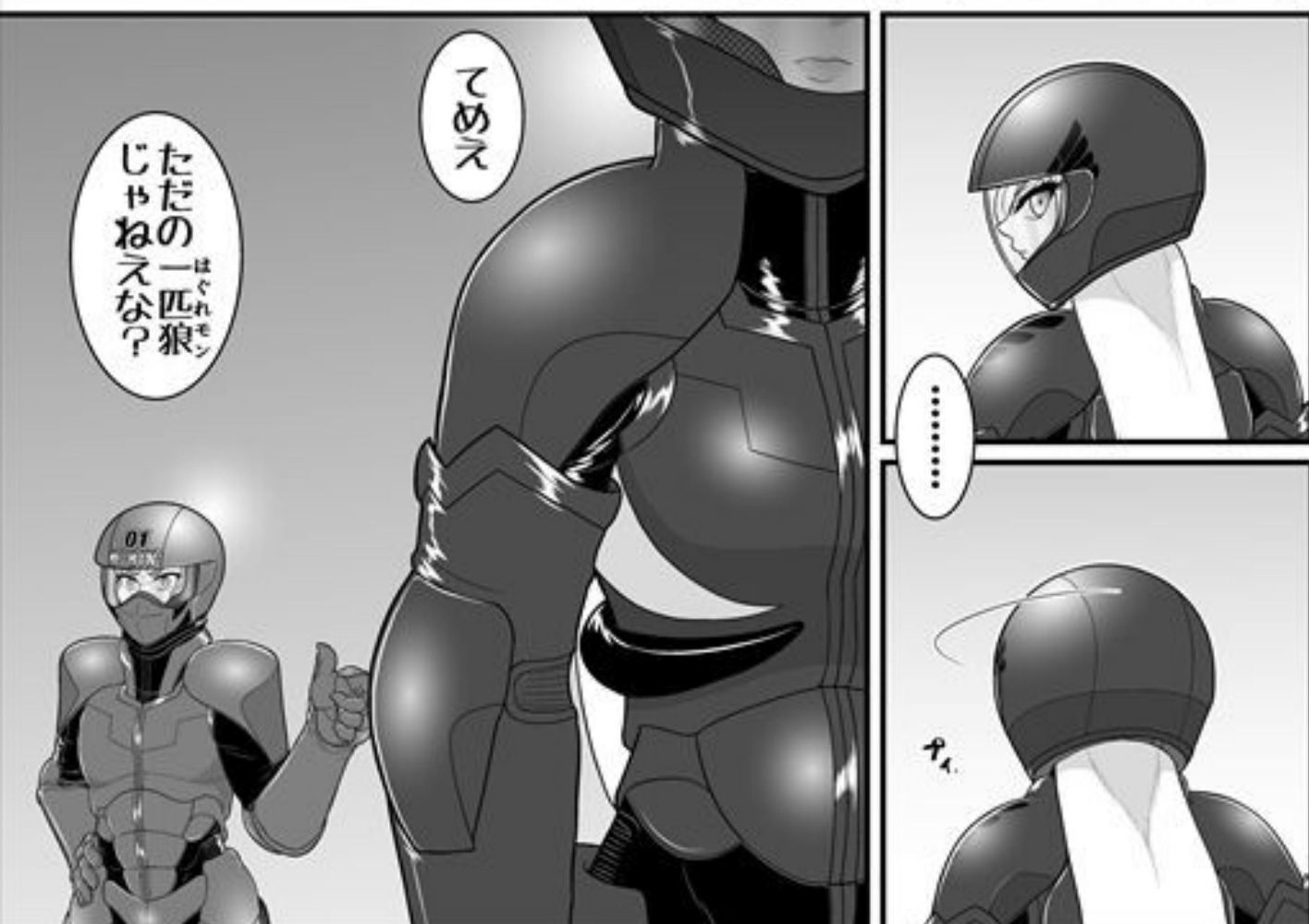
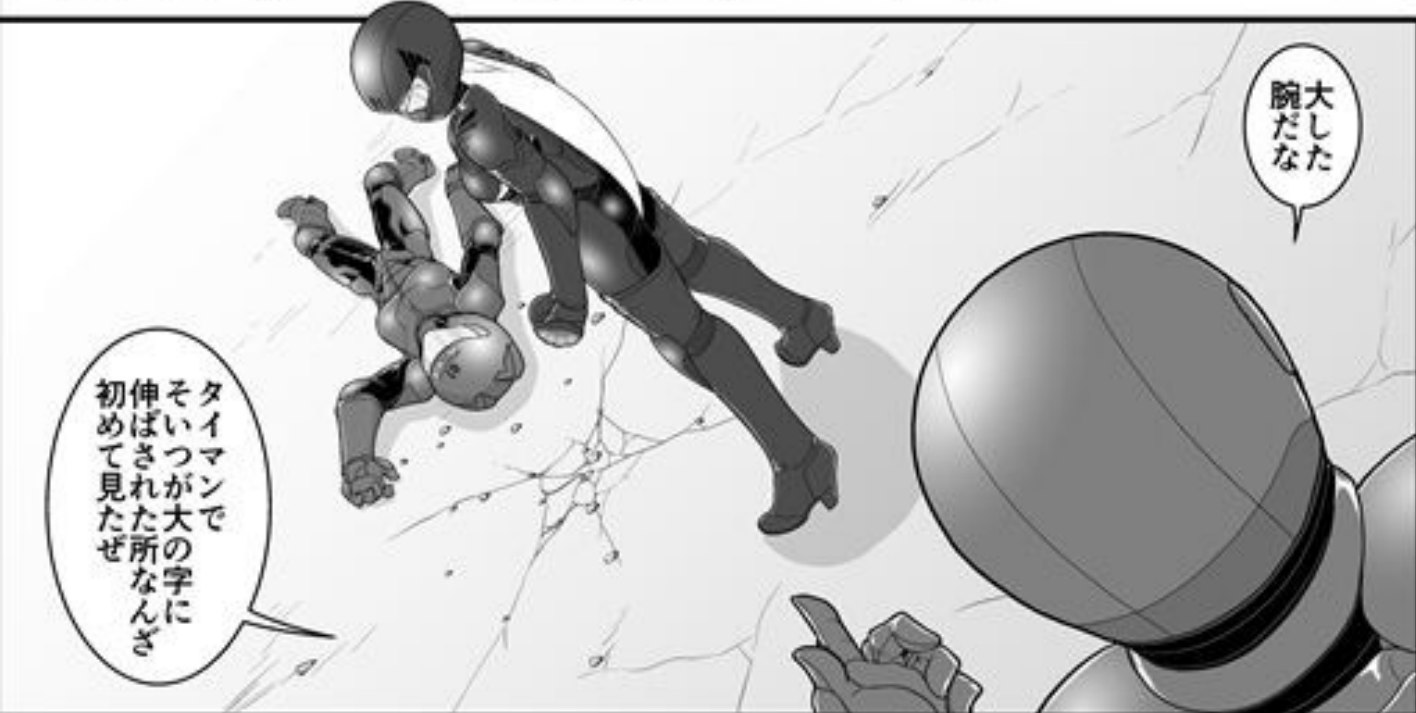
















ただのケンカで
そこまでの根性は
見上げたものだ



根性だけで
勝てるのなら



世話はない





まだだ

いや

オレ達より
遥かに

もし…こいつが
本気を出せば

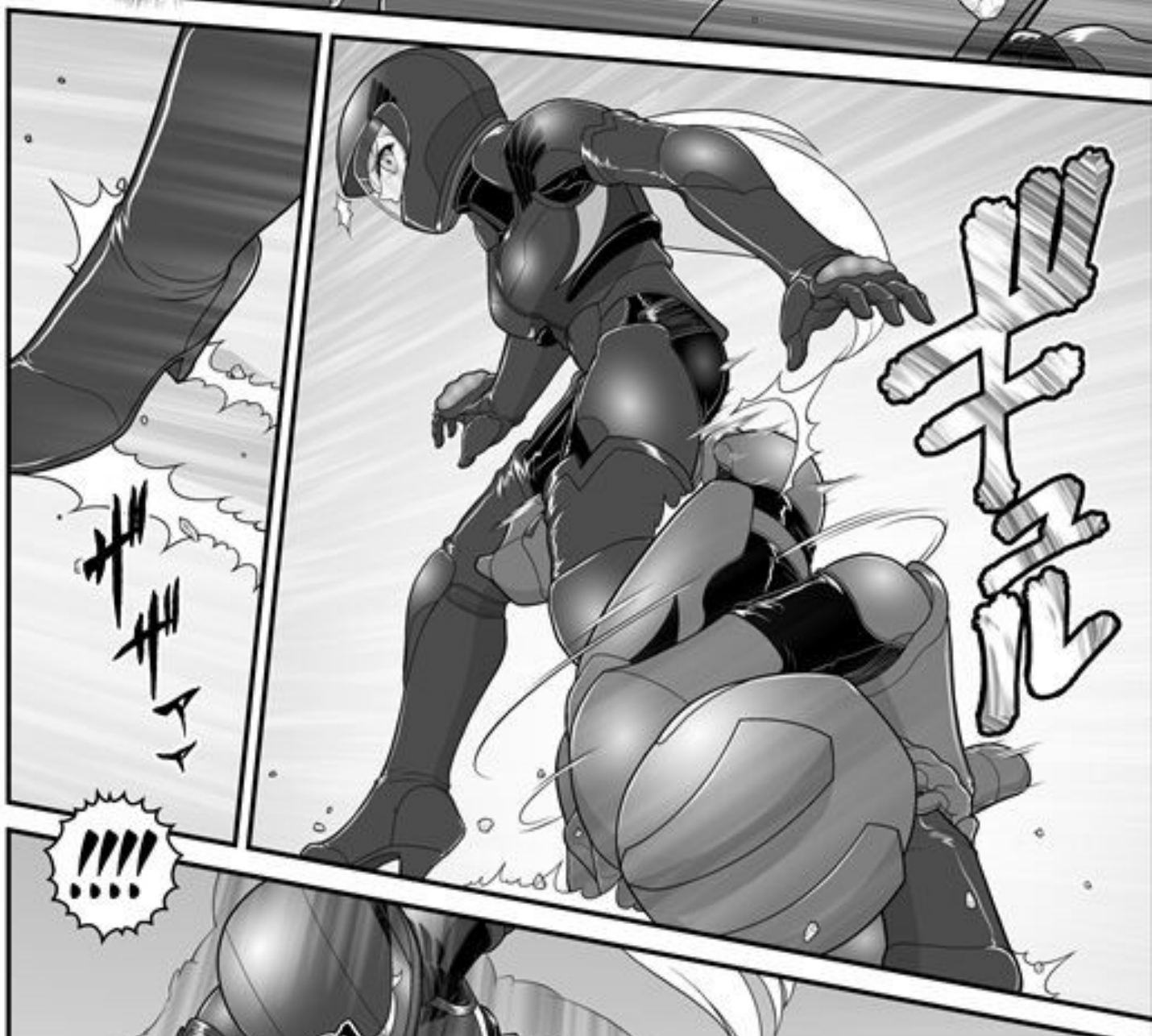
完全に手玉に
取られてやる
しかも
向こうはまだ
本気を出してもいねえ

キッ



妹^{あな}まだ

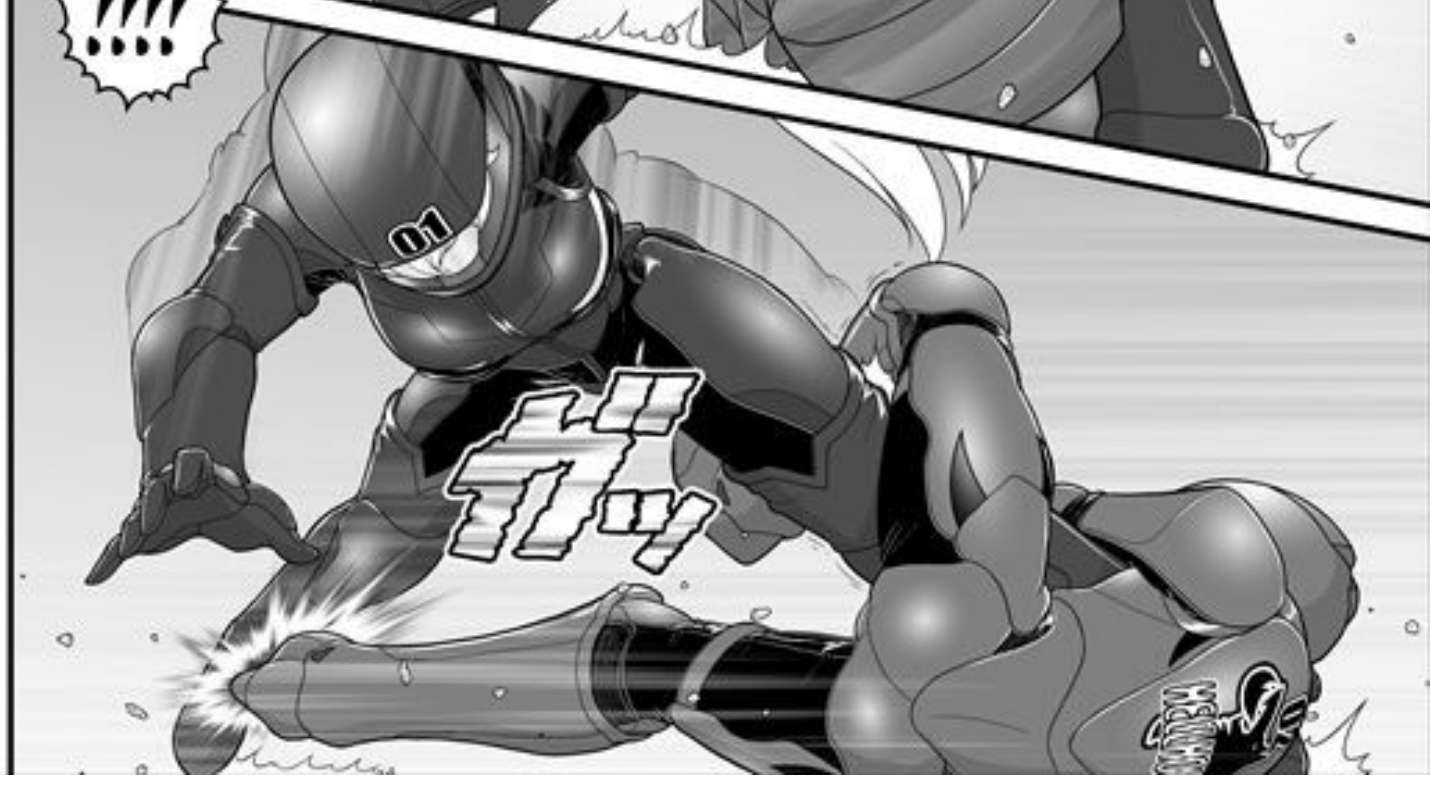
『本気』は
見せてねえ



ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

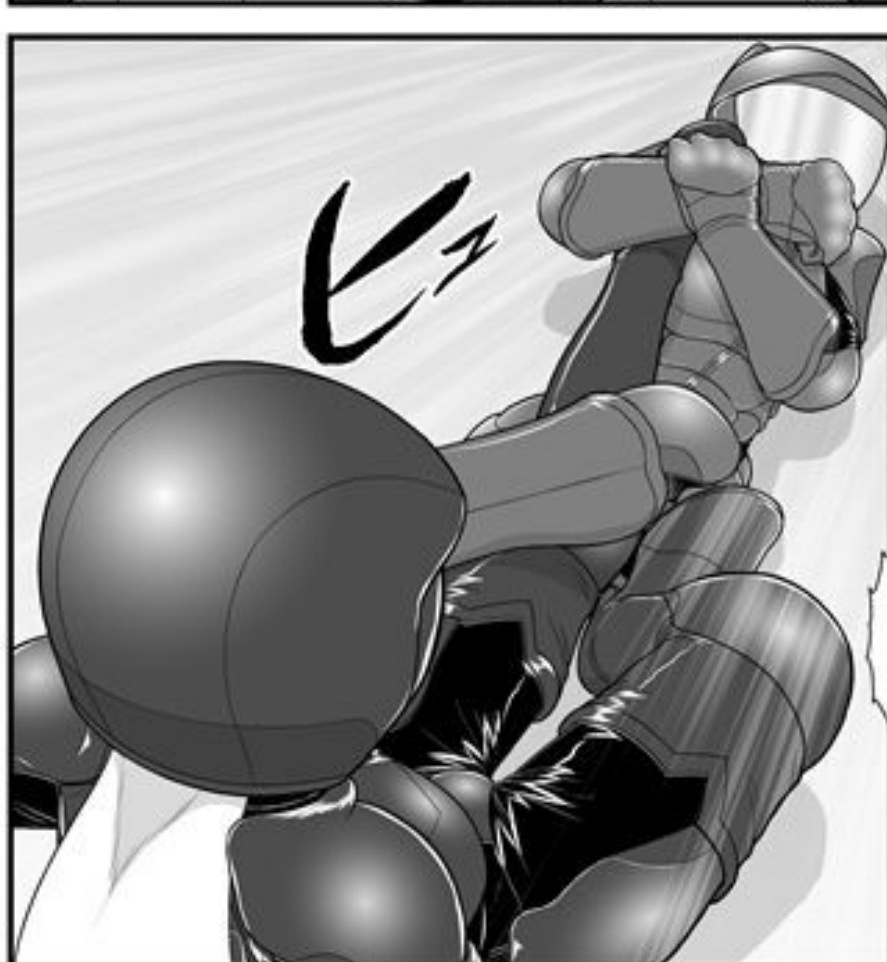
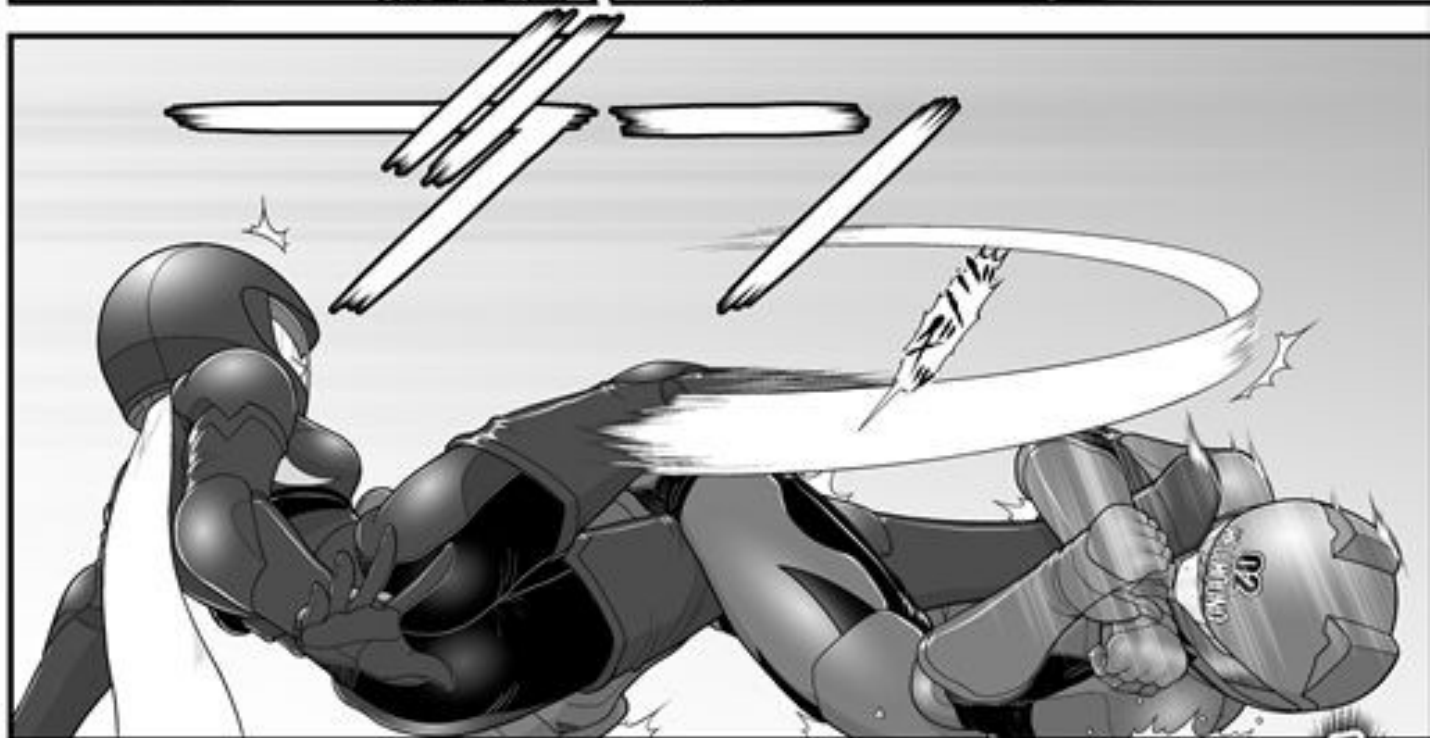
!!!!



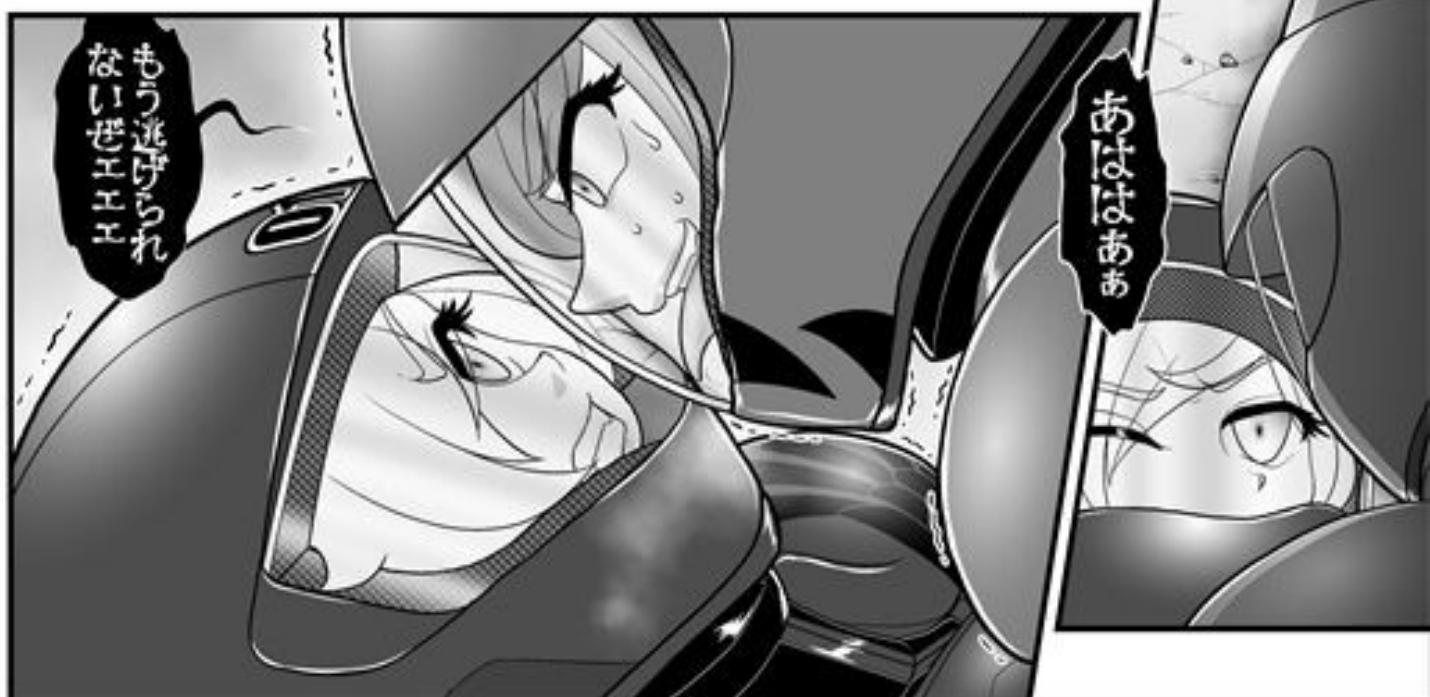
ズ
ズ
ズ

MEIKO











今度は
こっちの番だ

たっつぷり
可愛がつて
やる

死にたくなる
くらいイかせて
やるぜ



散々
もてあそんで
くれやがつて



感じて
来ちまった
じゃねーか
テメー



いい声で
鳴けよ

その方が
燃えるからな



…双子か

確かに
よく似てる

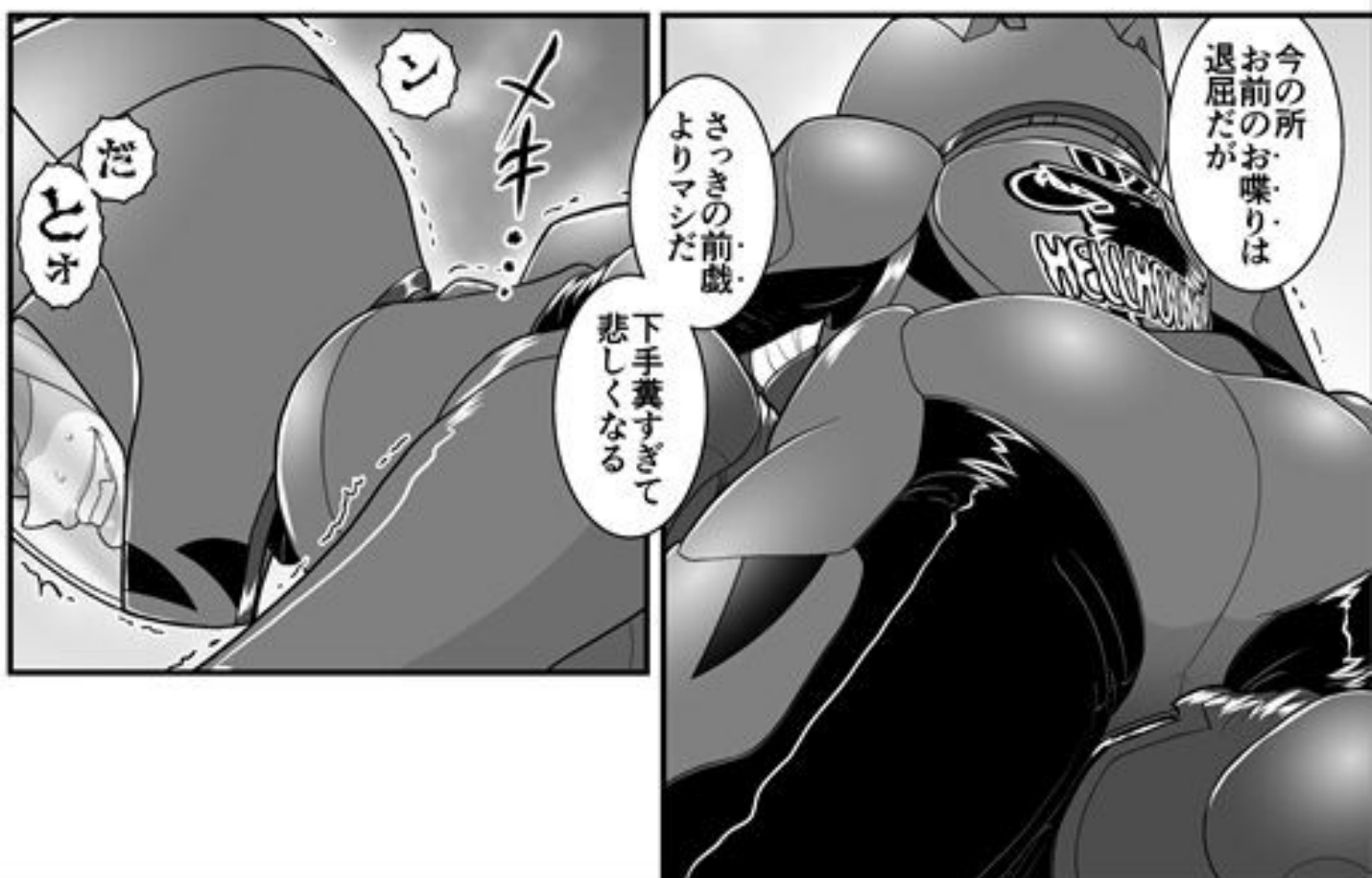
特に無駄口の
多さがな

ヒュー

殺せエエ

早く
折ってエエ

じらしん
じゃねーよ



二度とそんな
減らず口を叩けねえ
ようにじっくり
締め上げてやる

がつつくん
じやねえよ……

せいぜい
逃げてみる

本番は
これからだ

出来やしねえ
だろうがッ

うぐっ
う!!

イッたァ
!!

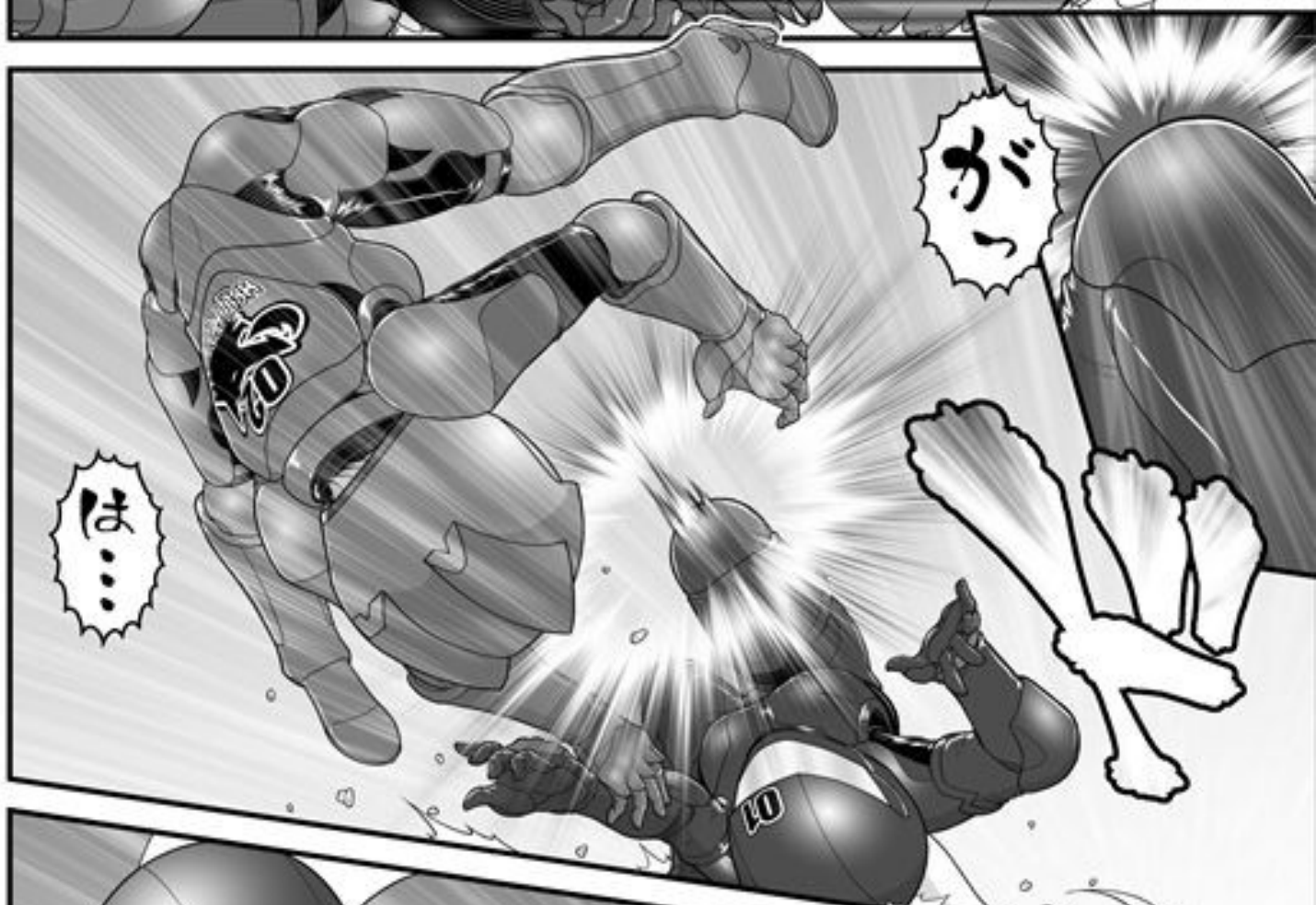
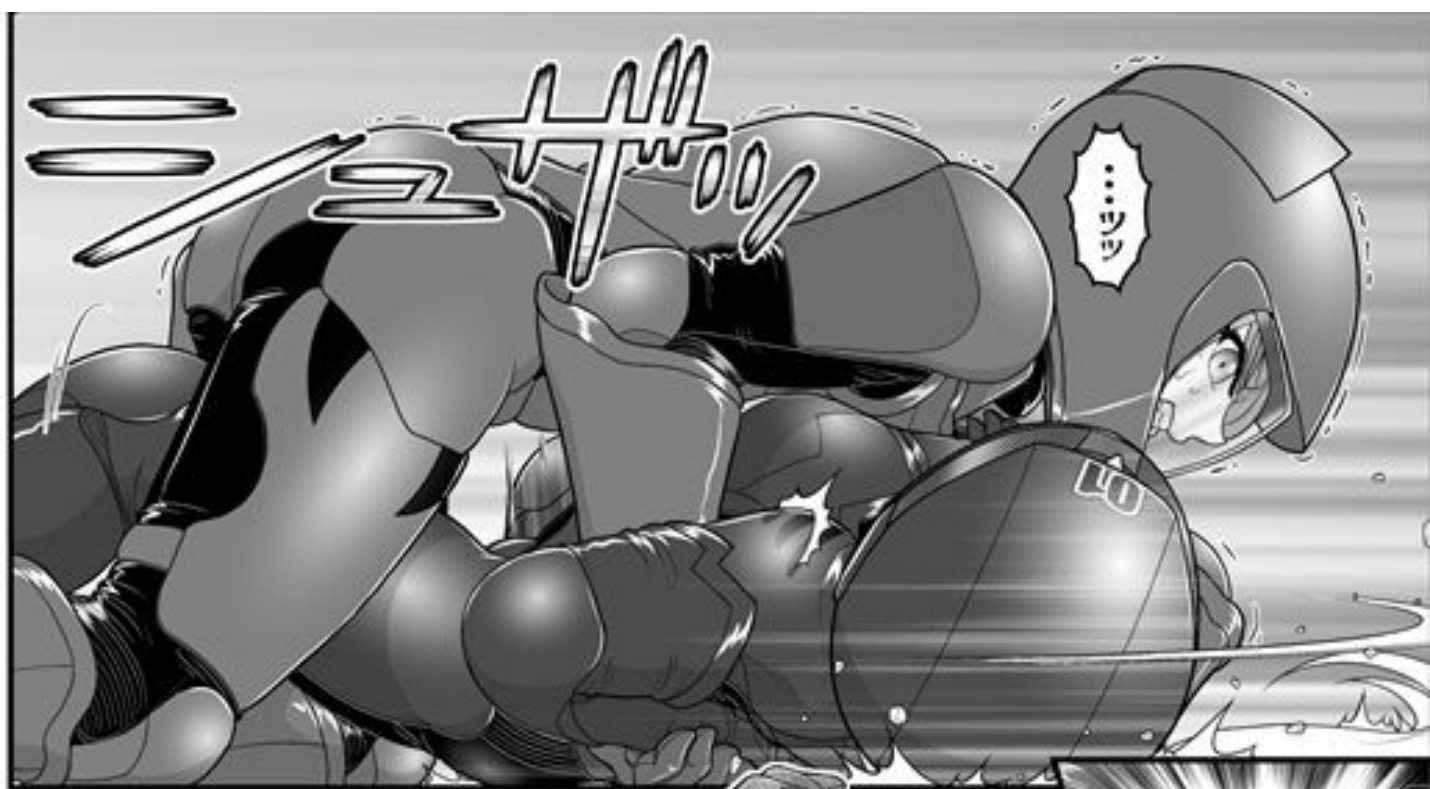
W
O
O
O
O
O
!!!

02
HELLHOUND

02
HELLHOUND

01

!!





間違いない、靱帯が切れる感触があつた

普通なら激痛で息も出来ないはず……！

ん……
ああ……

左足の
ことか

もう治った

は!?

お前の無駄話のおかげでな

次からは口でする前に手を動かせ

デタラメく過ぎんだろッ

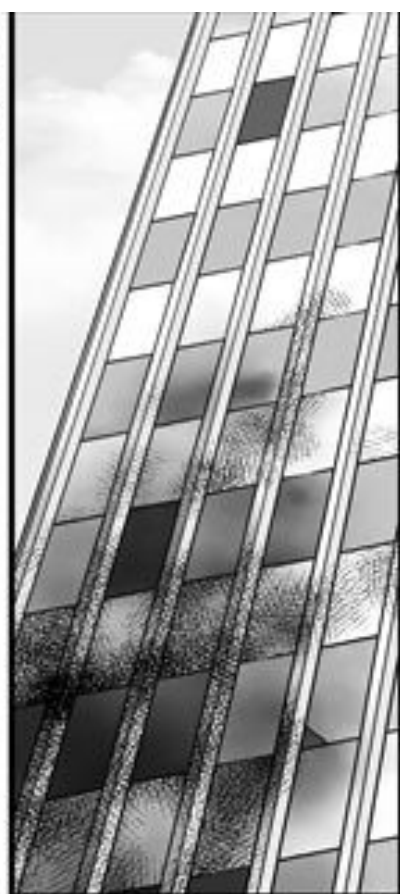
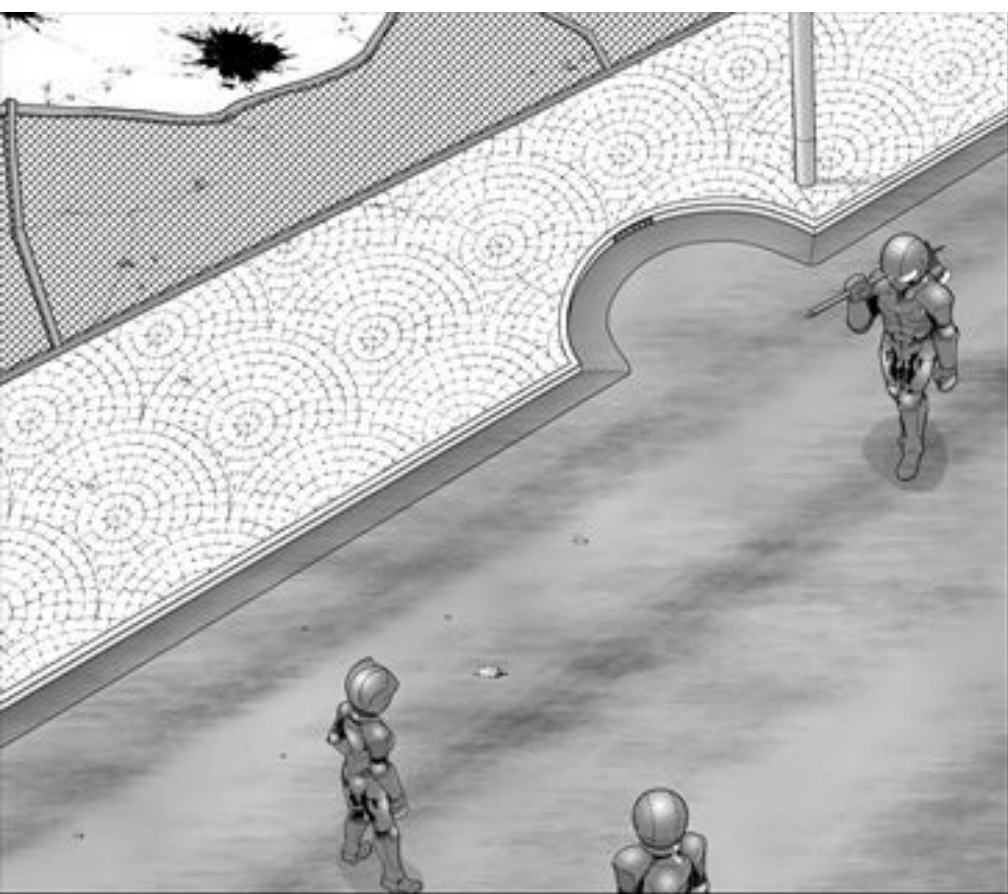
……てめえ……

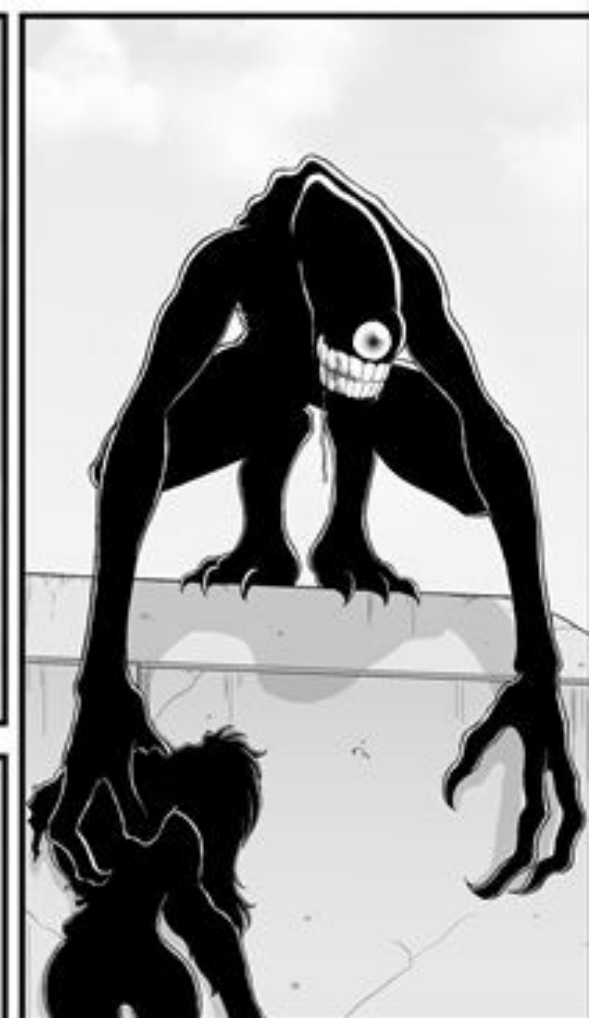
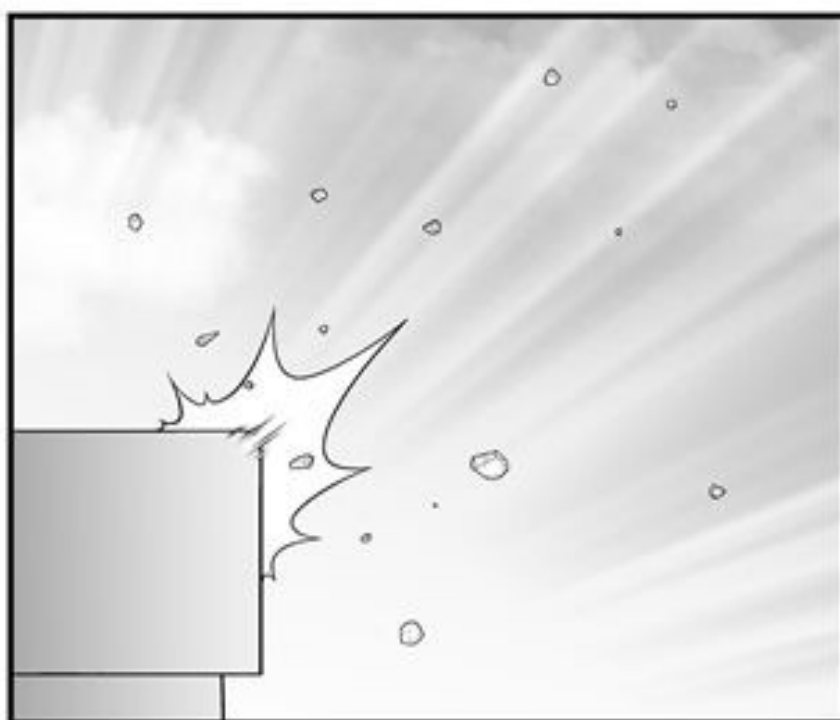
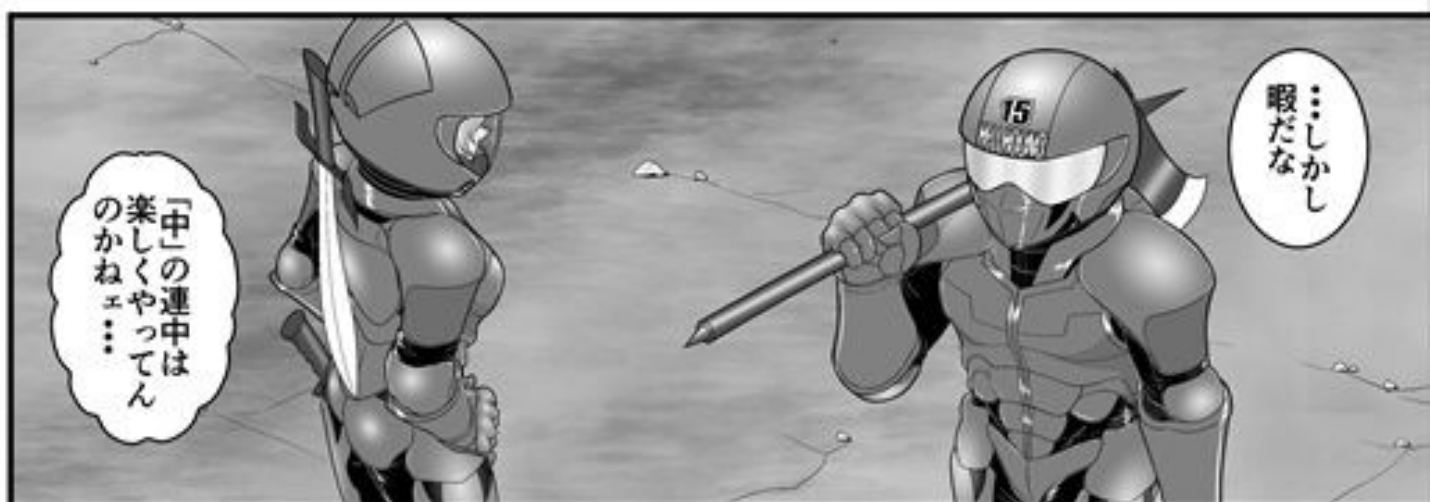
一体……
何なんだ？

……なぜか最近よく聞かれるな

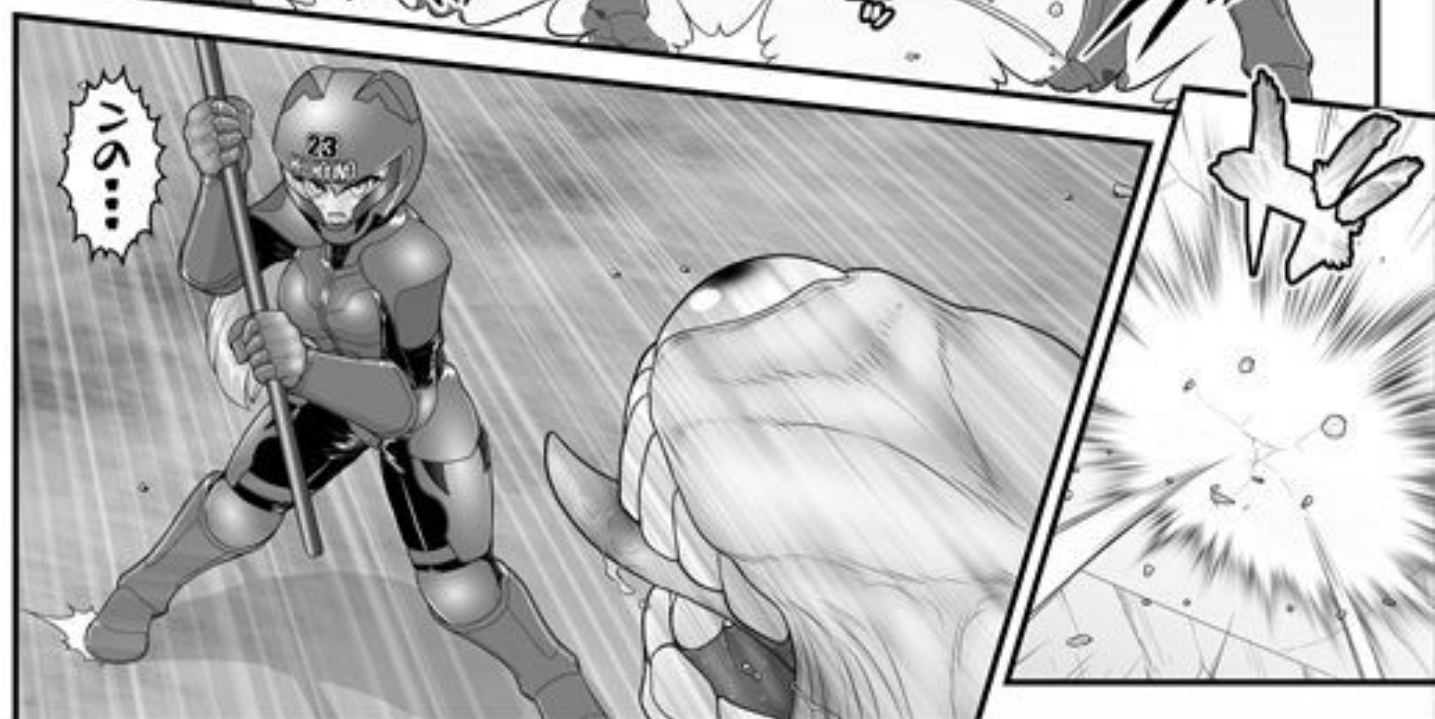
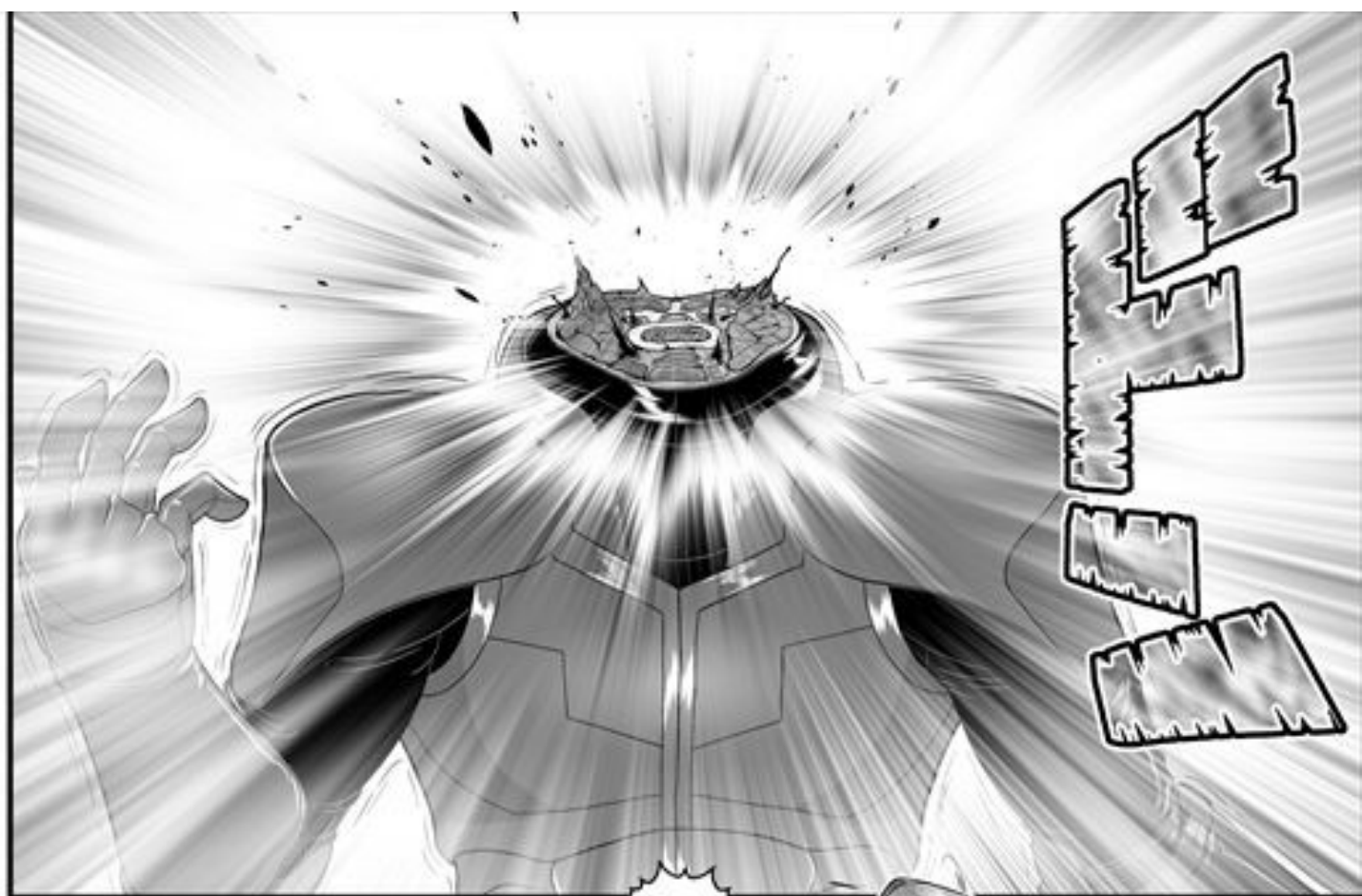
どうでもいいだろう

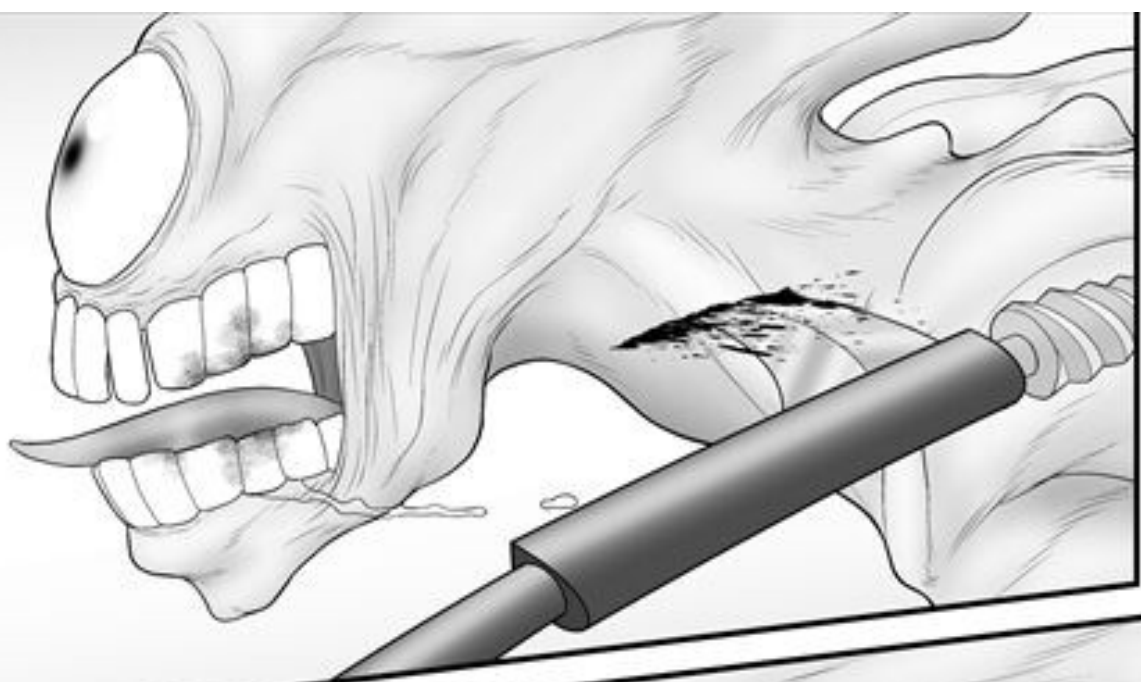
私が『何か』なんて

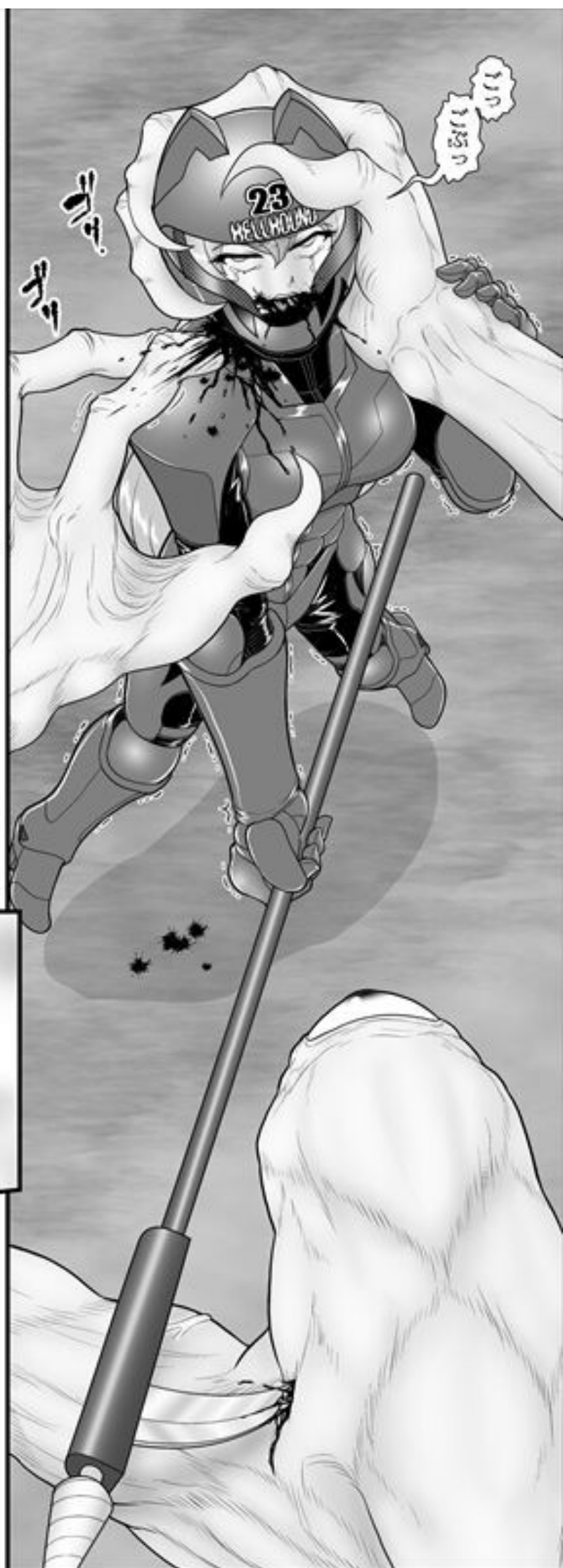
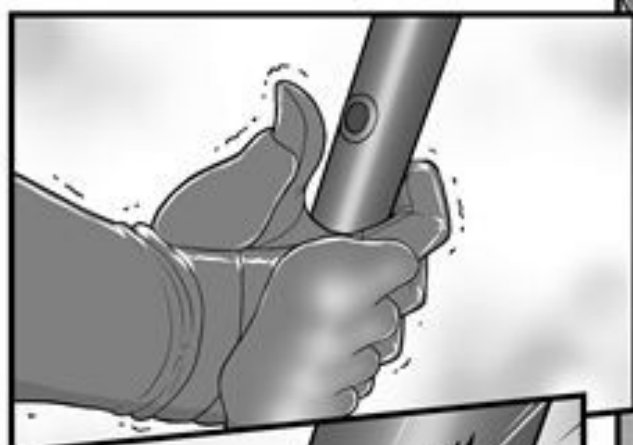




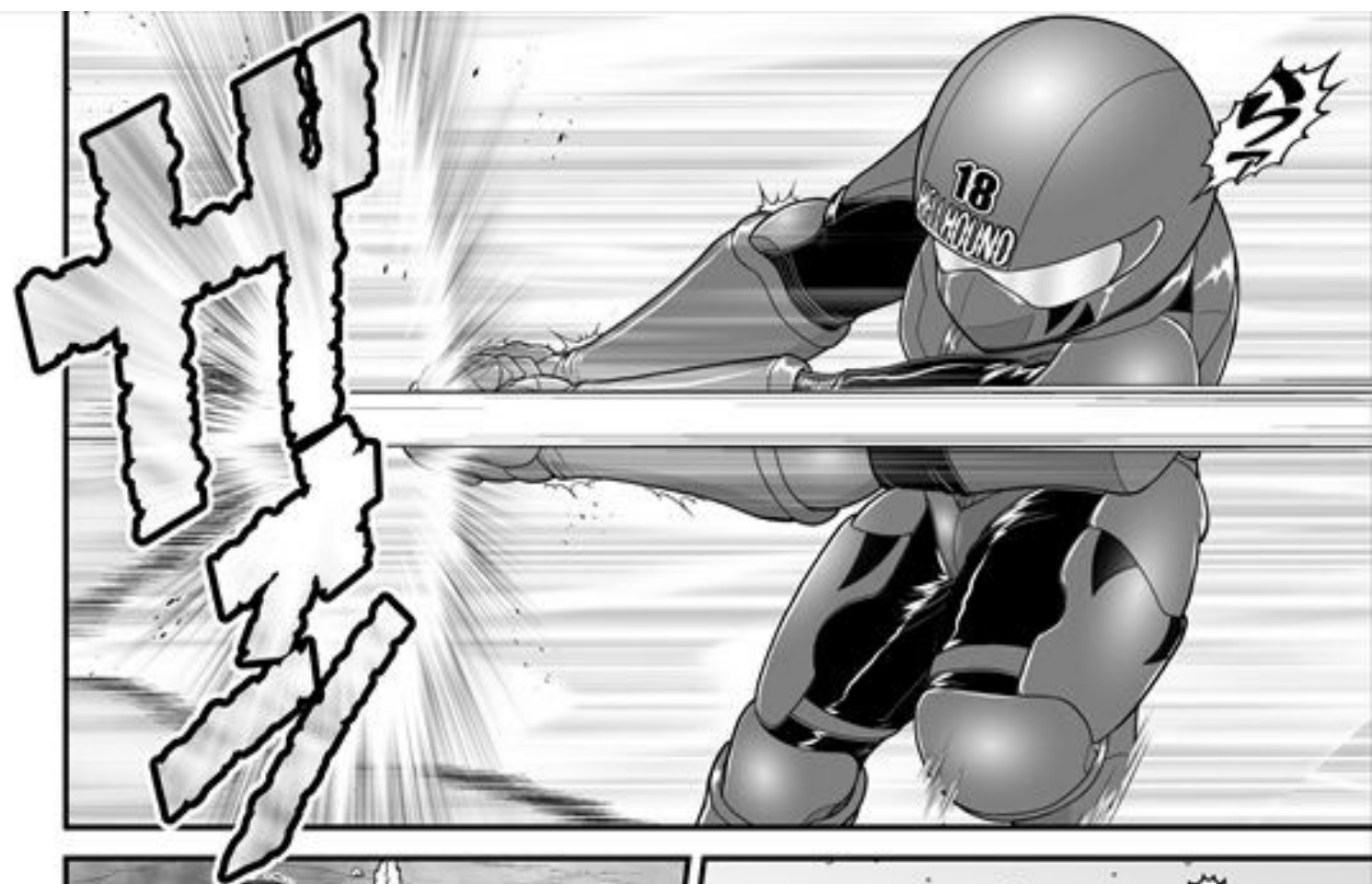


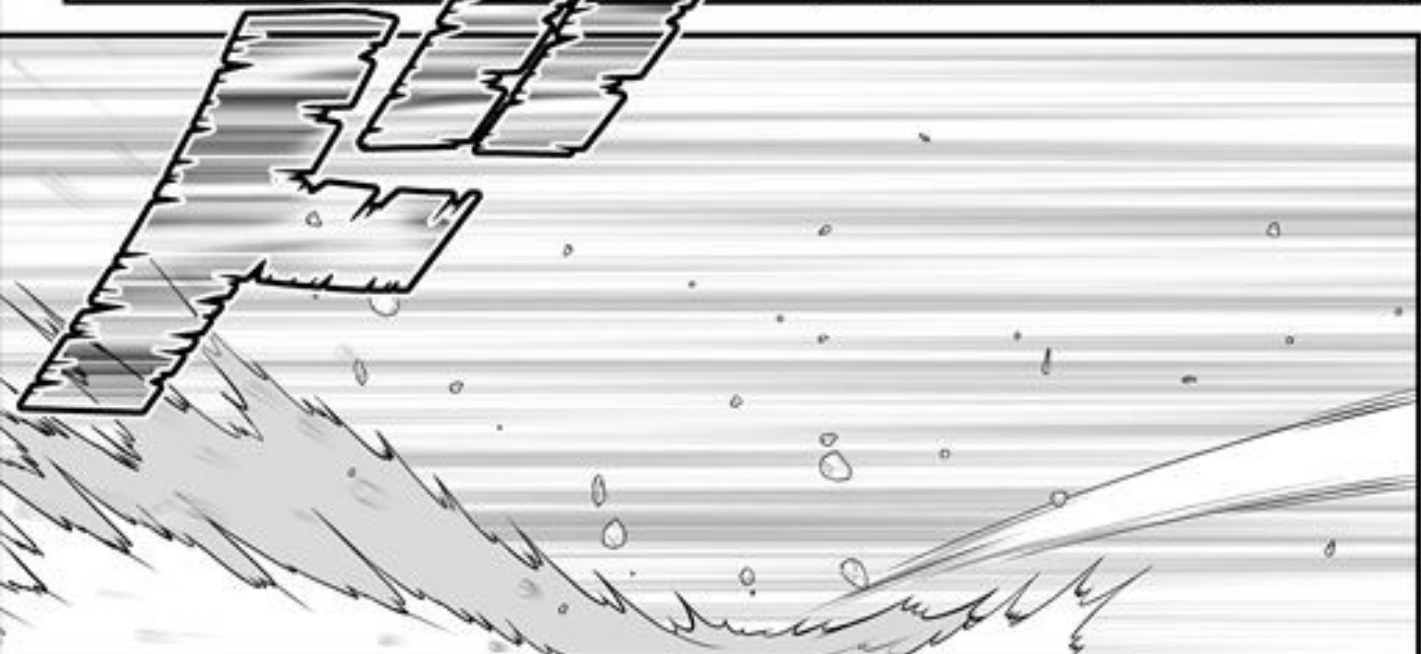




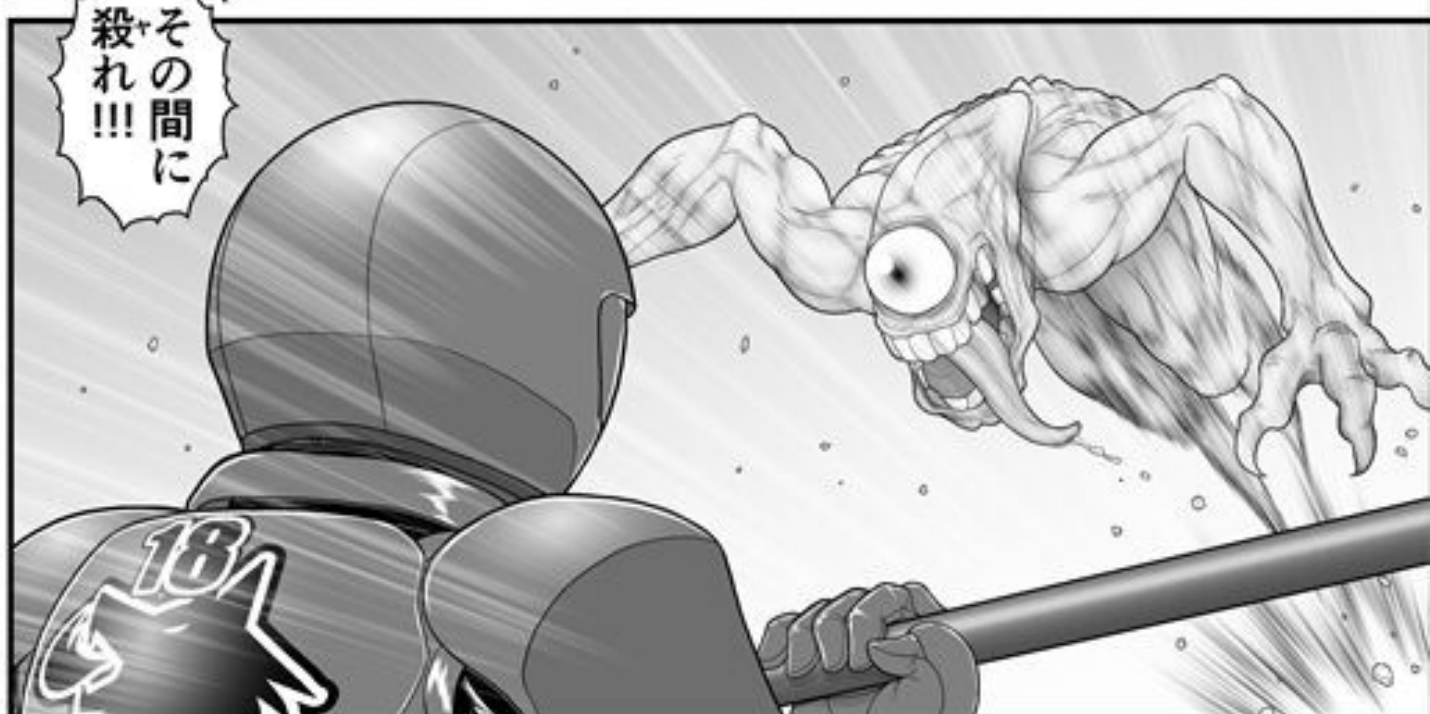


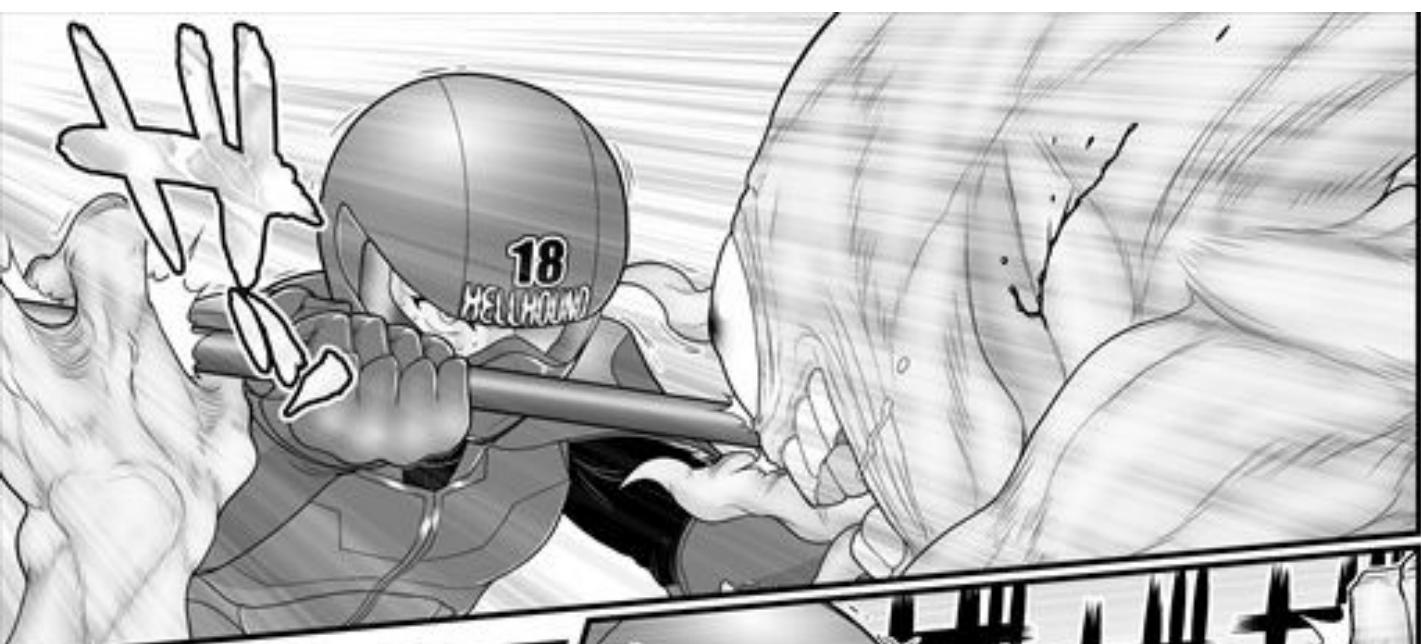












“セカンド”の
攻撃にも耐える
アーマーを
一撃でッ…

ゲボッ

やはり…
こいつ—
“サード”!!!

貴様ア—
!!!

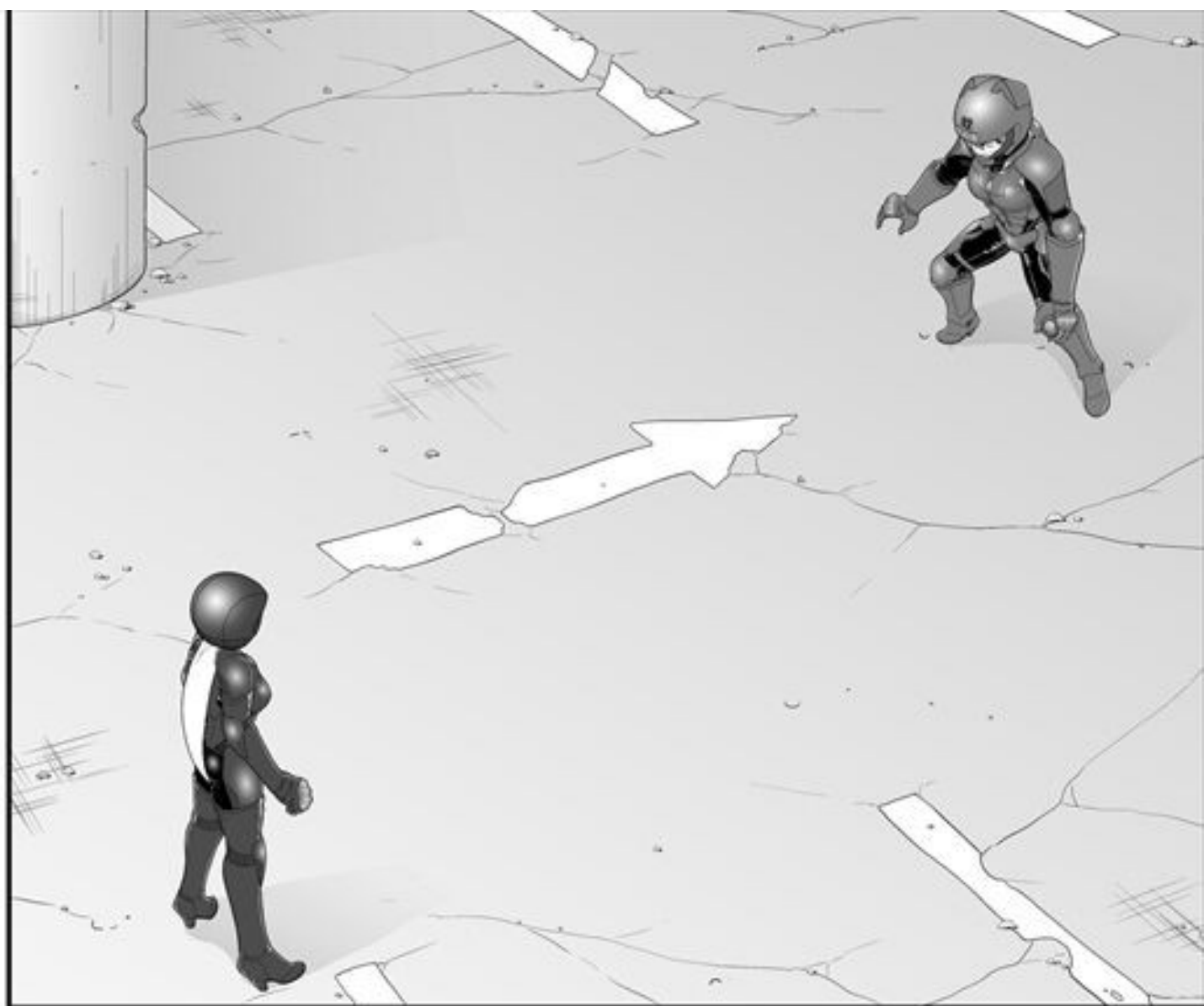
!!!

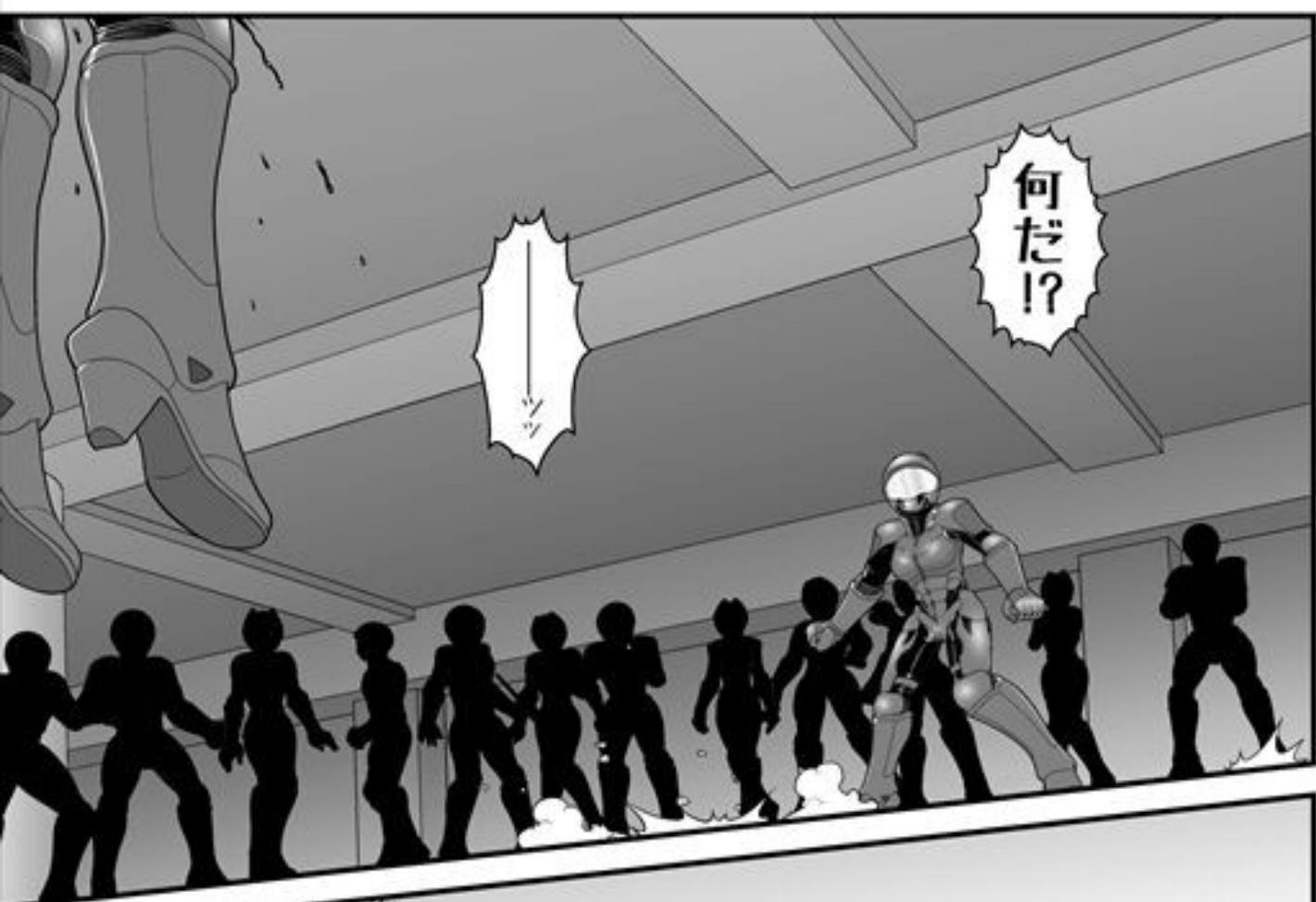




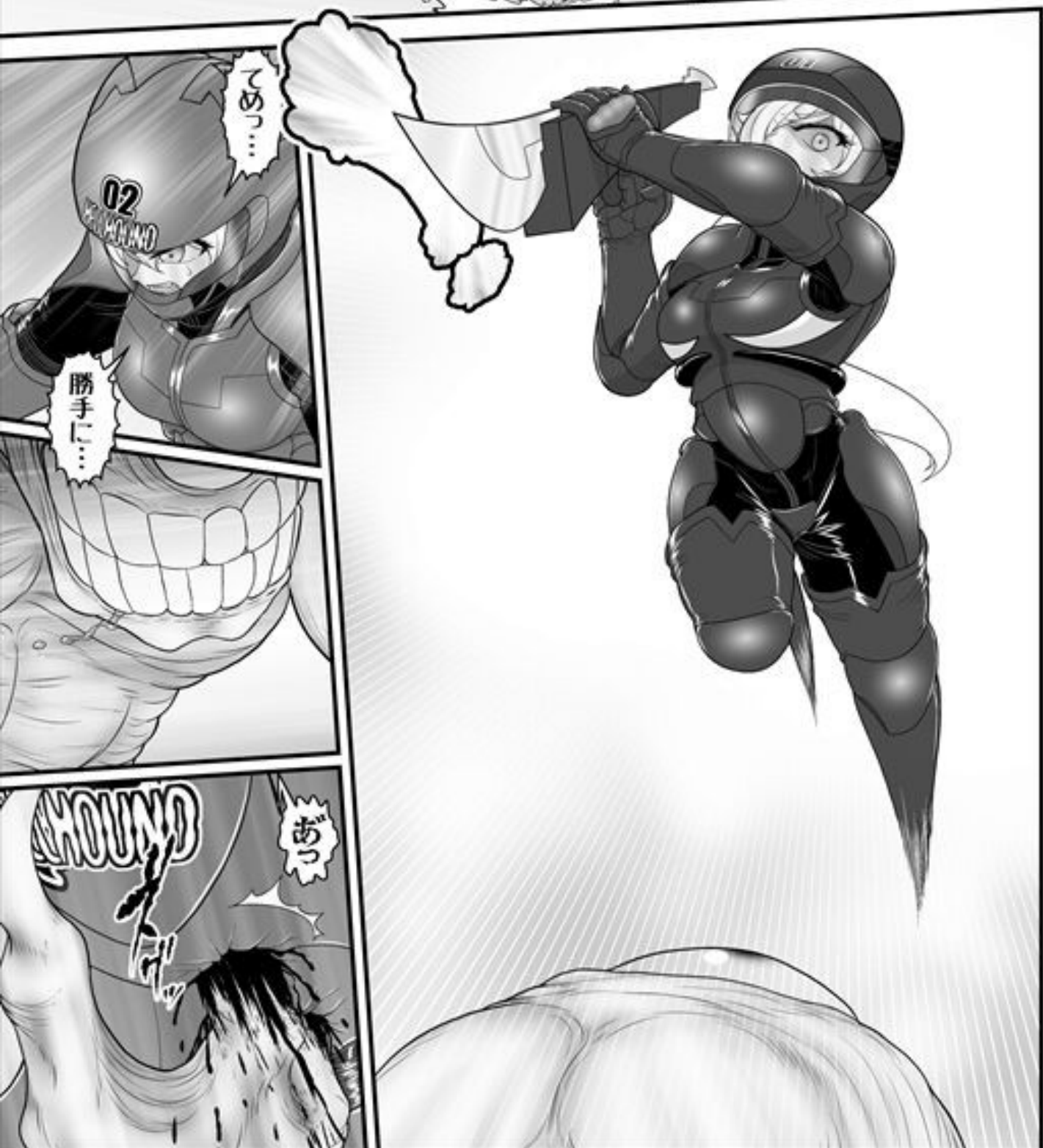














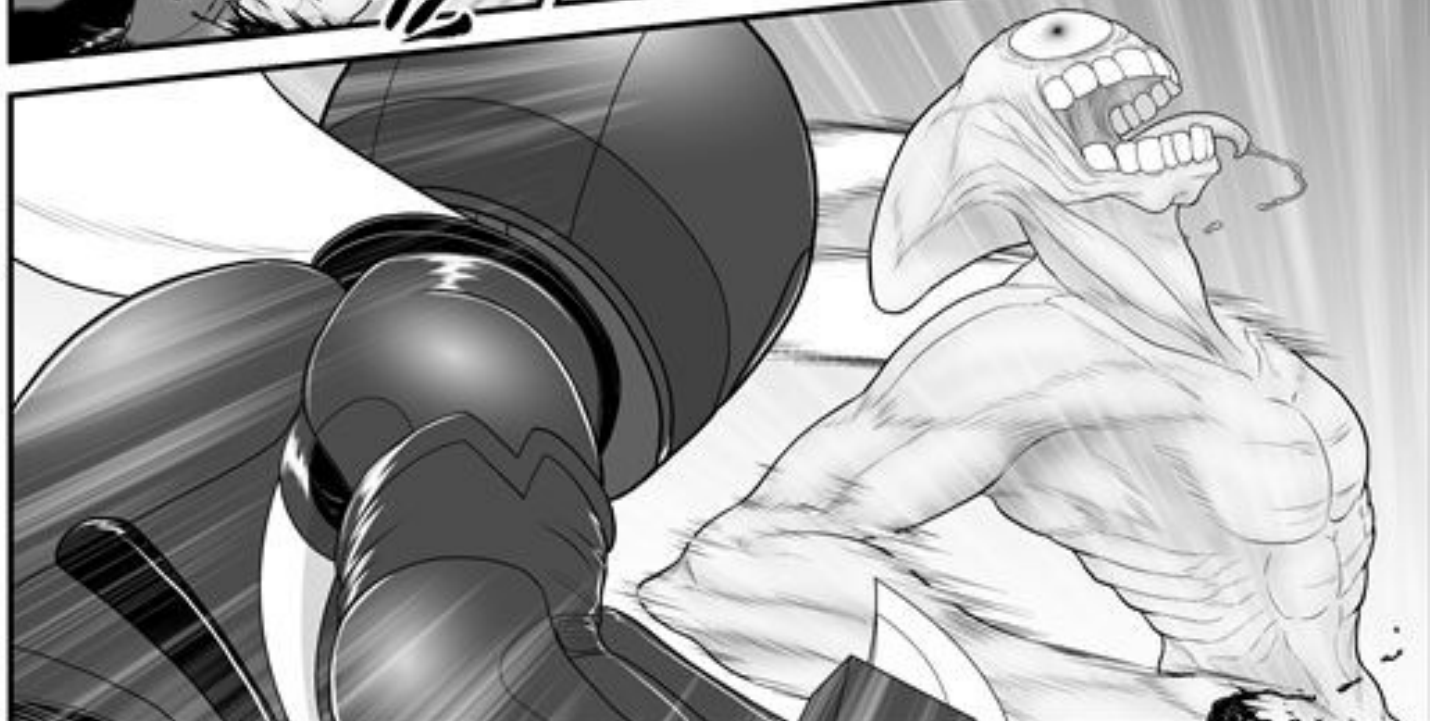
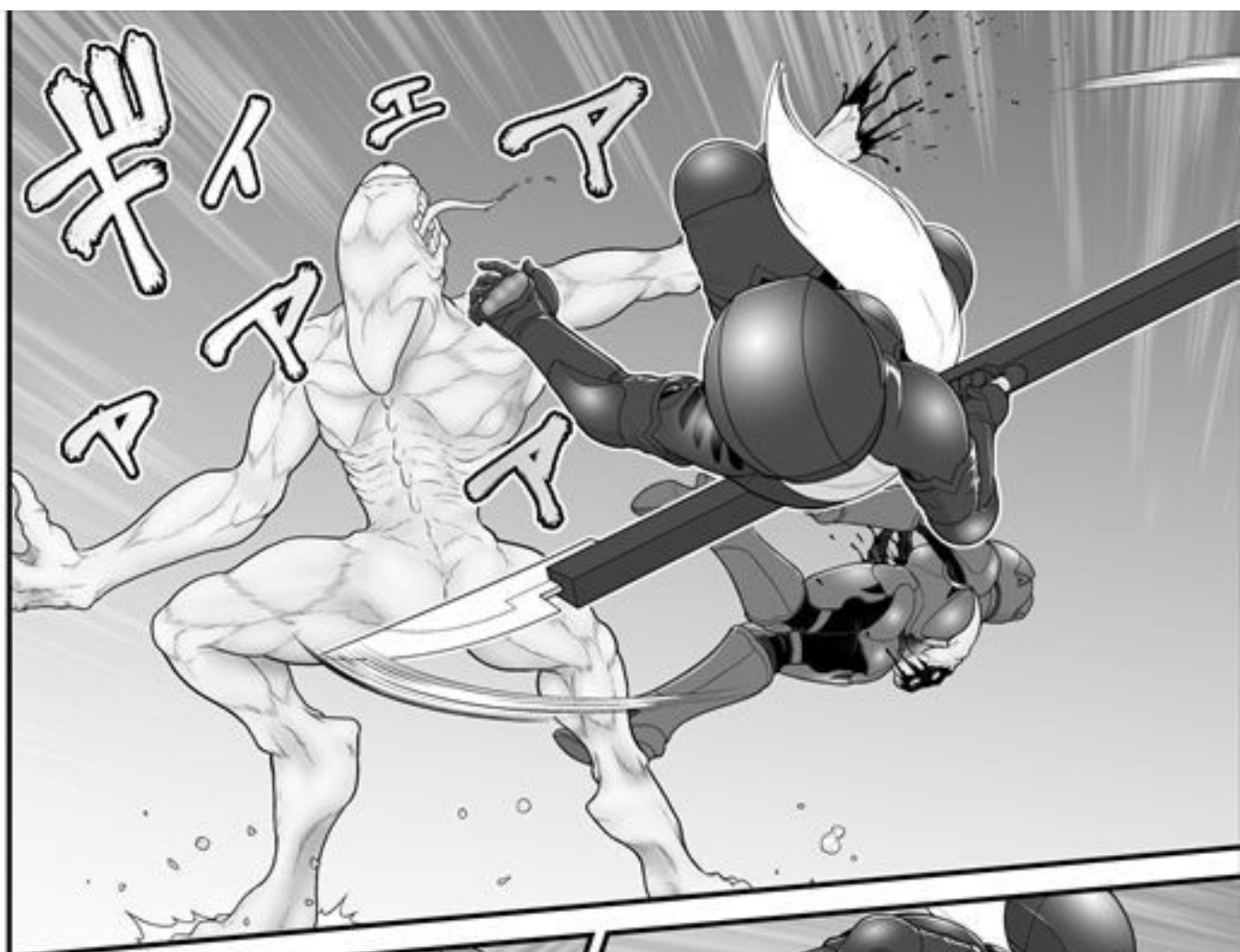
：馬鹿に
するなよ

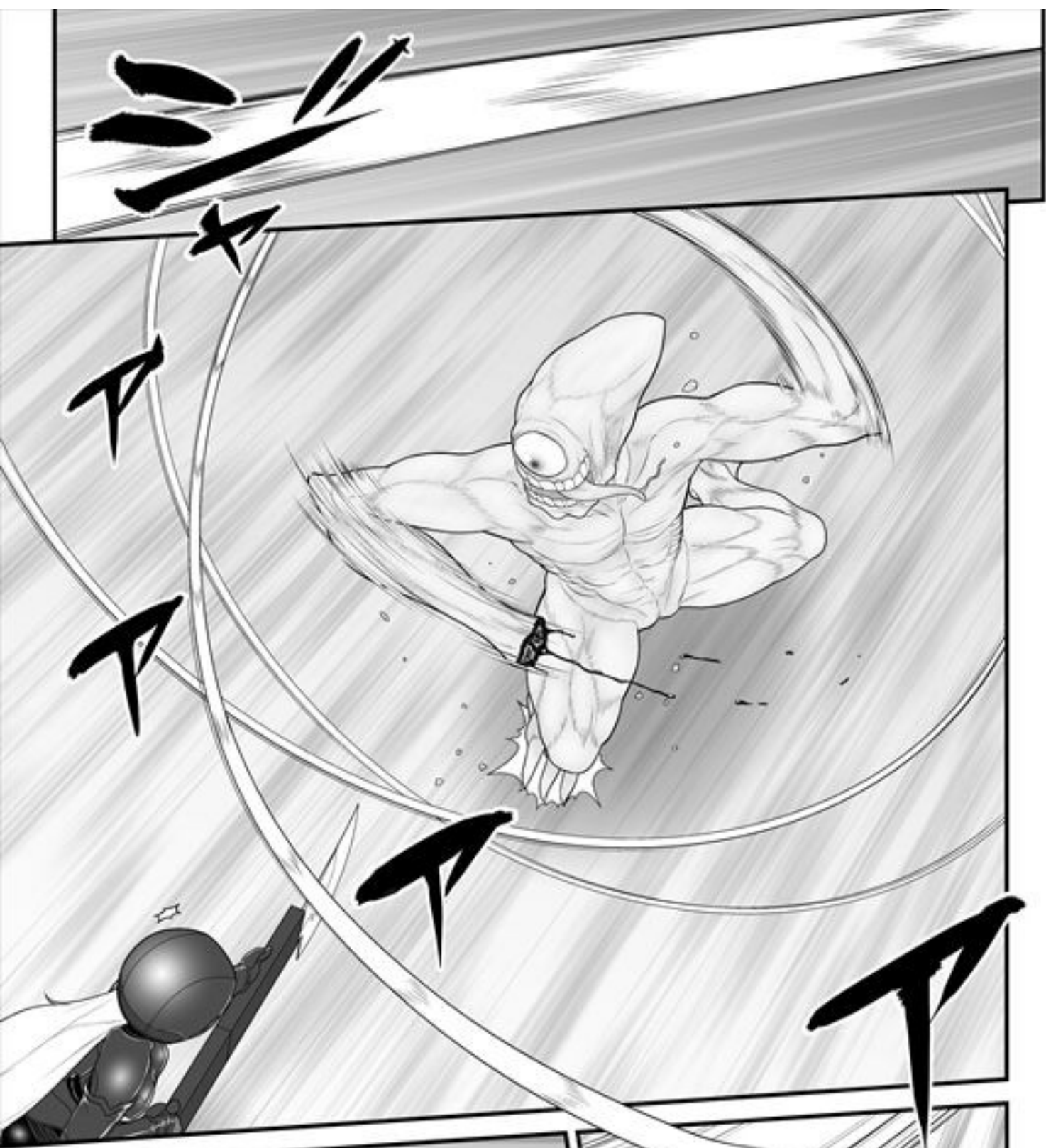
何度も
同じ手を



喰つかッ!!!

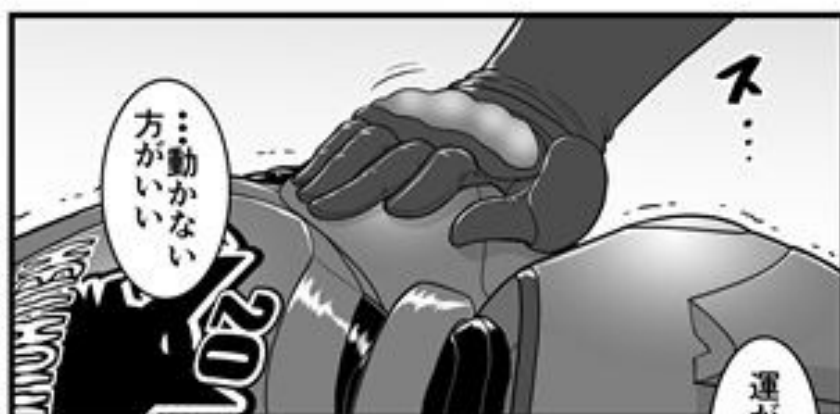


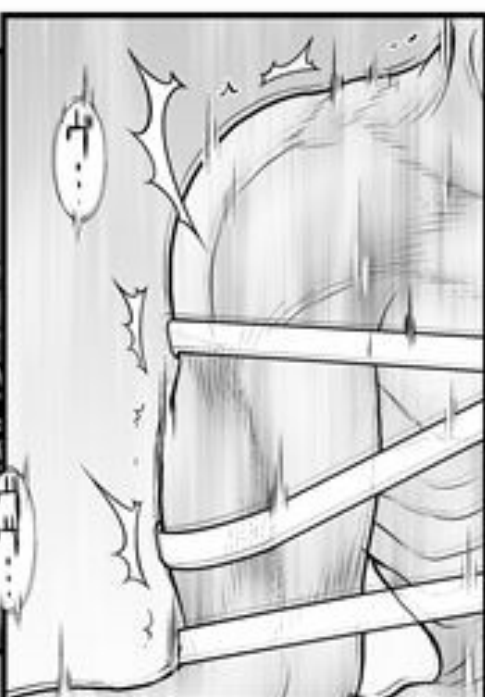












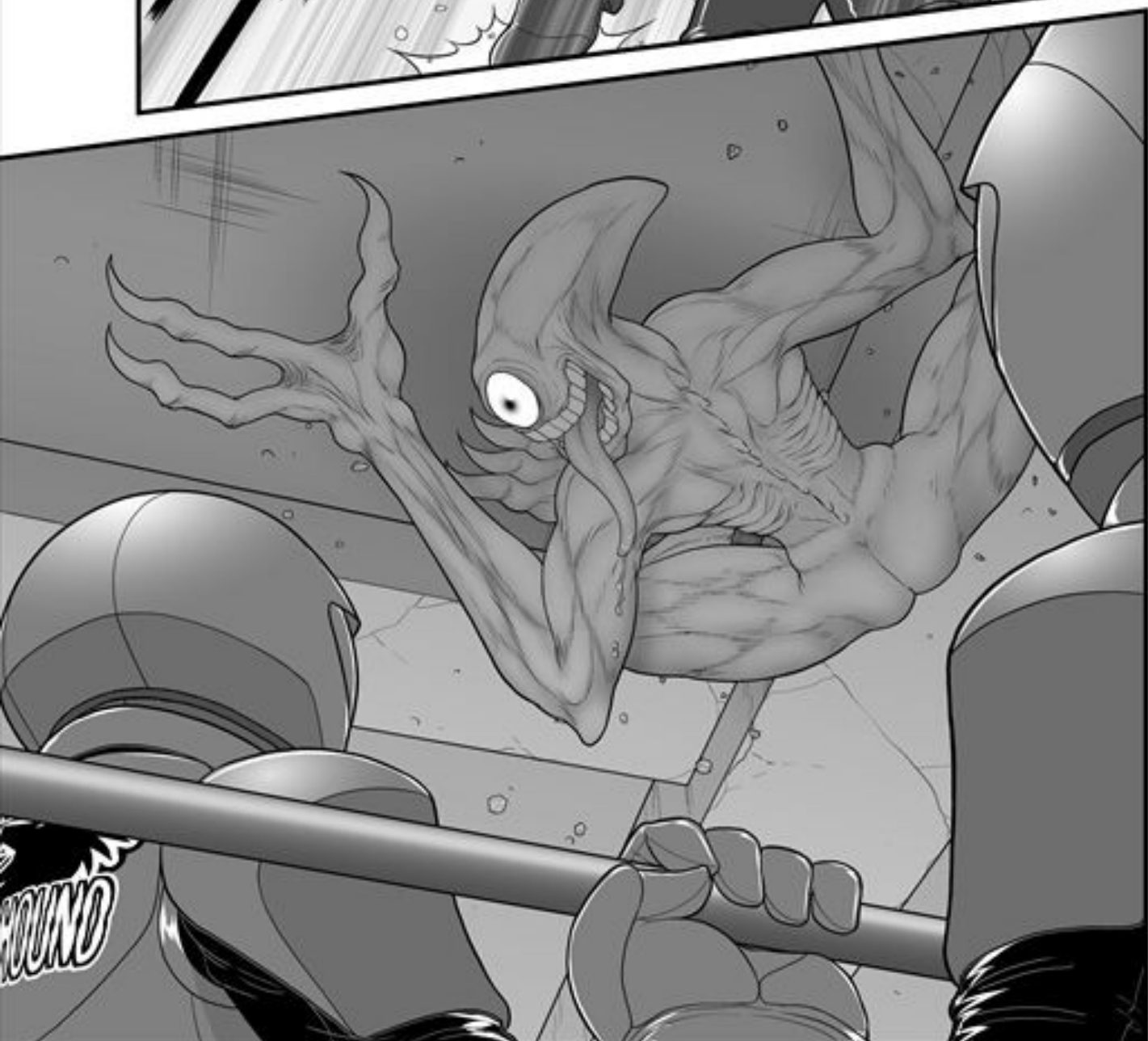
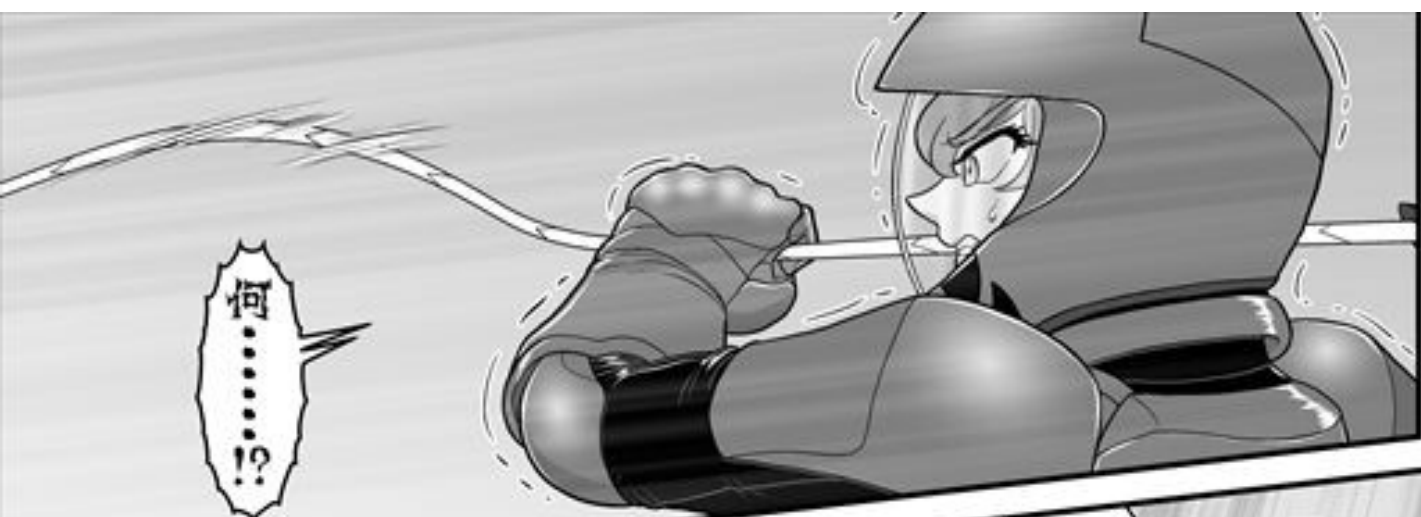
もういい
殺れ!!

今すぐ
殺れッ!!!

こいつ何か
する気か...!?

全身縛られ
てんだぞ!?
何もできや
しねえ

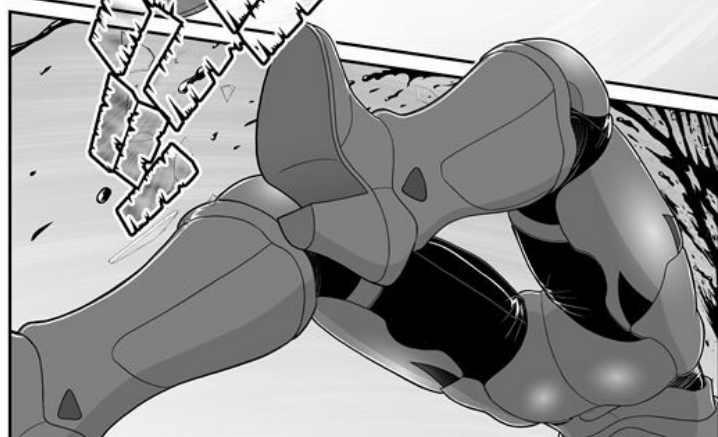
!!!?













奴にとつては
壁も天井も
床と同じ

まさに屋内は
奴の領域だ



こいつ……ッ

速すぎる……
どうなってんだ!?

間違いない……
報告にあった
『超』高速機動型!!

この異常な
機動力……



…ひょっとしなくても
結構ヤバイ状況？

…かなりな

どこから来るか
分からない上に
「的」が多すぎて
狙いが絞れない
壁を背負う戦法も
使えなさそうだ

どうする……？

「魔犬」もこのまま
尻尾を巻いて
逃げるタマでは
ないだろう

だが
乱戦ともなれば
奴の独壇場…
しかも私は
集団で戦うのに
慣れていない

があああ

ナニ。

となれば…

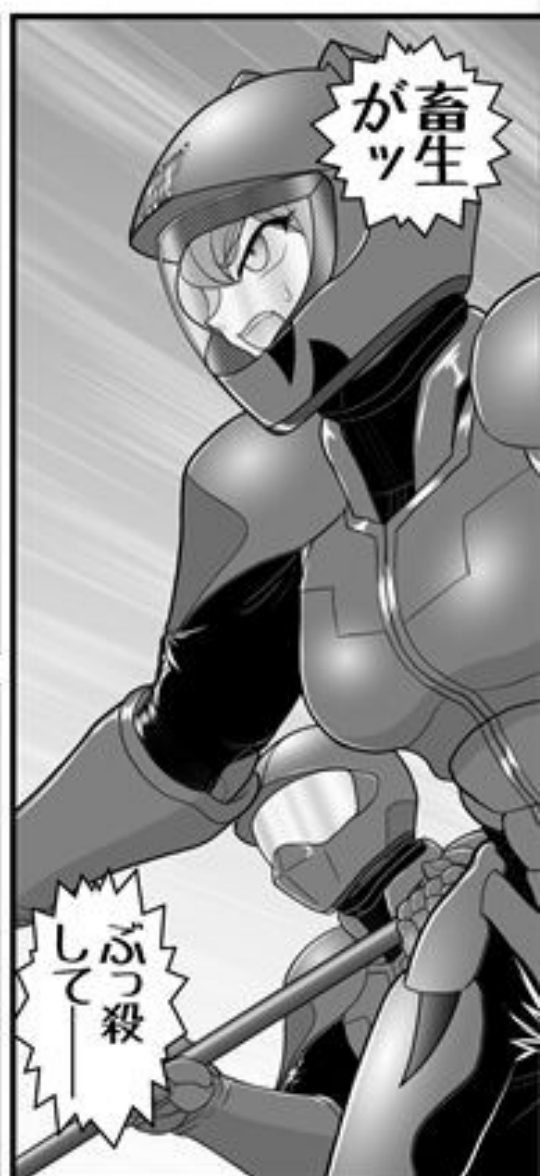
採るべき道は
一つしかない
…か……

ブルブル

ブル

ゲエエエ
エエエエ







おい…
お前!

さっき何か
言ってたな

こいつの事
知ってんのか?



……



超スピード特化の
サード…か…

オレとした事が
こういう奴がいる
可能性を見落とし
てたぜ



例の『報告』のことは
黙っておいた方が
よさそうだな

いや…

初めて見る
奴だ

説明が面倒だし
「魔犬」は信用できない
手の内は見せない
方がいいだろう



だが
この手の奴に
数の利がない事は
分かるだろう

闇雲にかかってても
パニックを誘発する
だけだ

…だろうな



オレ達は
デカくてタフな奴を
相手するのは得意
なんだがな



こういう奴は
そっちの方が
慣れてそうだ



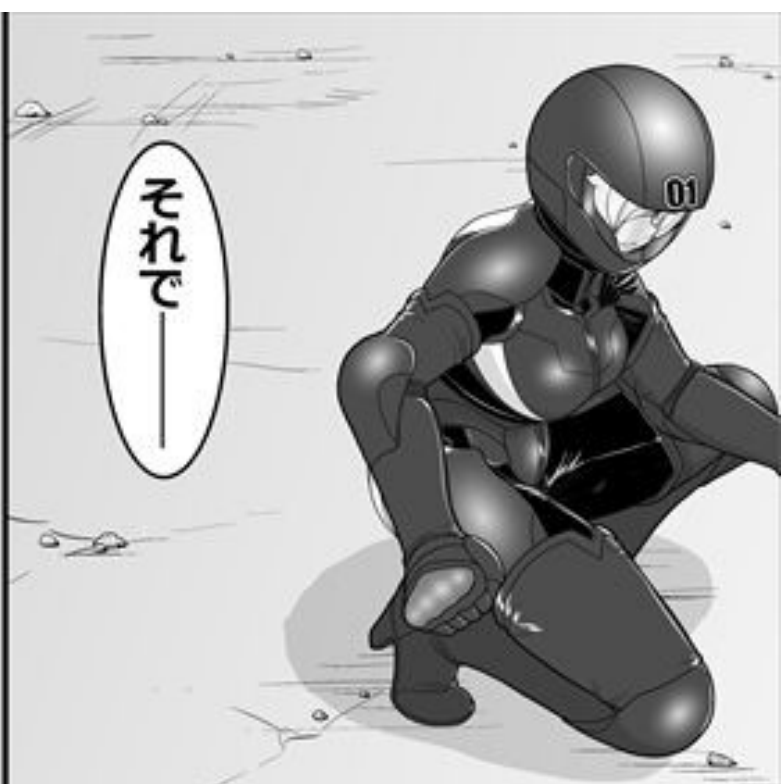
仕切って
みろよ



お手並み
拝見だ

あ!?

何言ってるんだ
— ため



それで—



お前なら
どうする?

サヤ

私を矢面に立たせては、様子を見ようという肚か

：悪いが
私は一人でやる
方がいい

周りを
ウロウロされる
のは迷惑だ

私が同じ事を考えて
いると察して
先手を打ってきたな
確かにただの戦闘狂
ではないようだ

距離をとって
自分を護ることに
だけ集中してろ

逃げたければ
逃げてもいい

あと、いつか
何とかしてやれ
死ぬぞ

だが――

任せると
言うのなら

私の邪魔を
するな

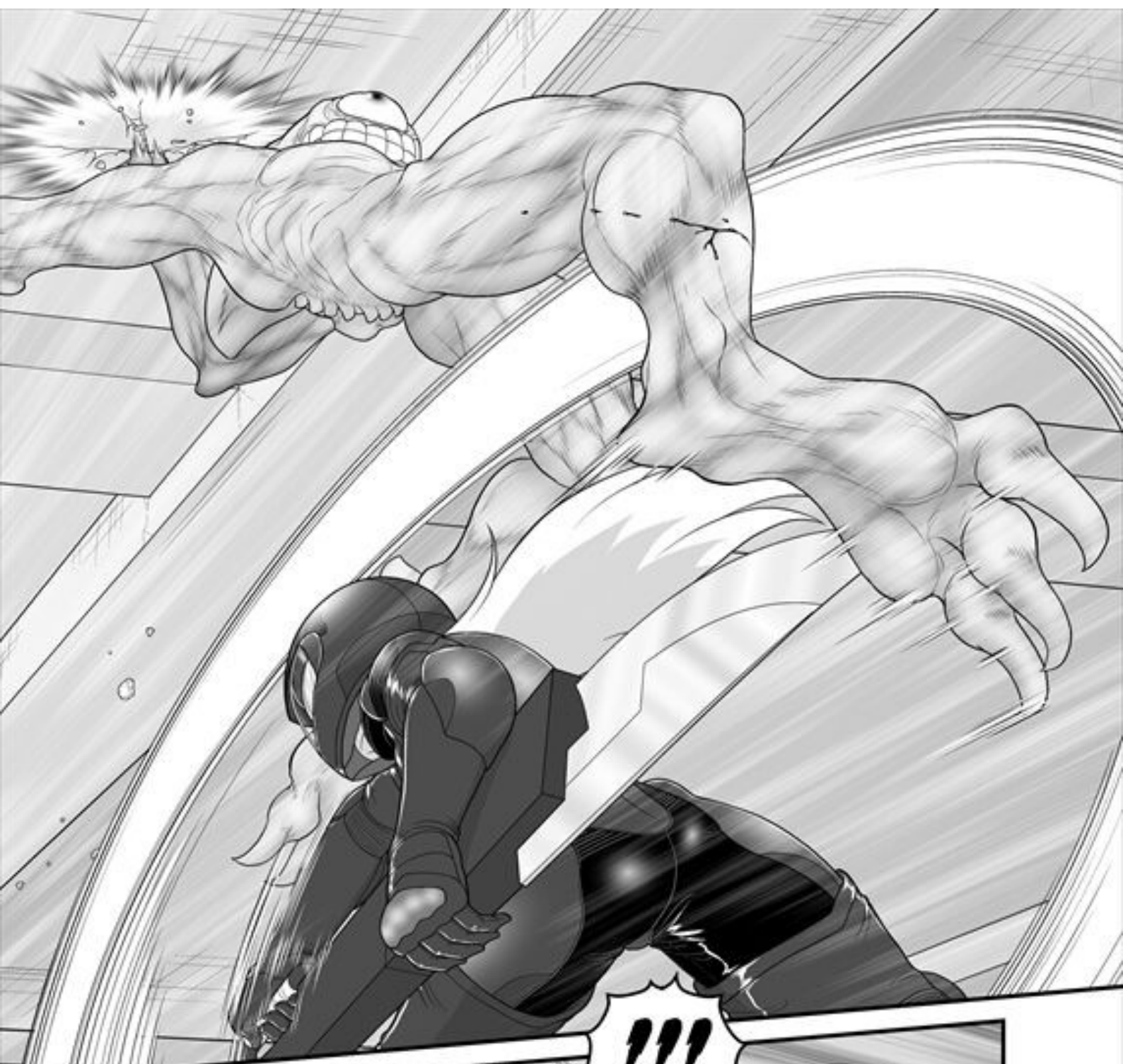






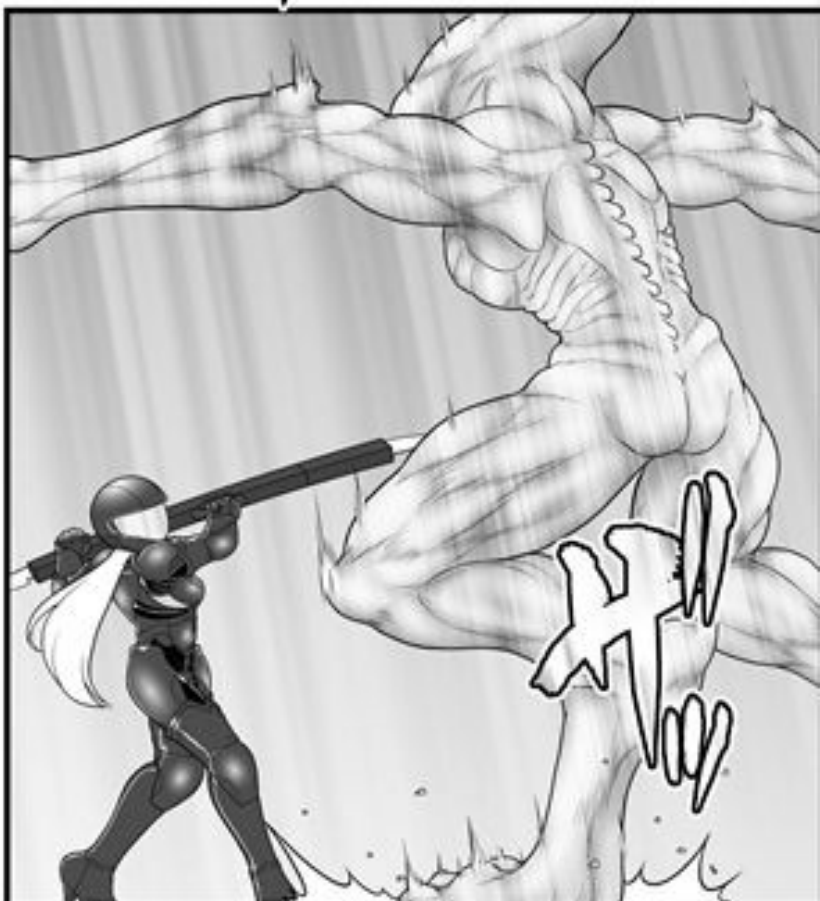
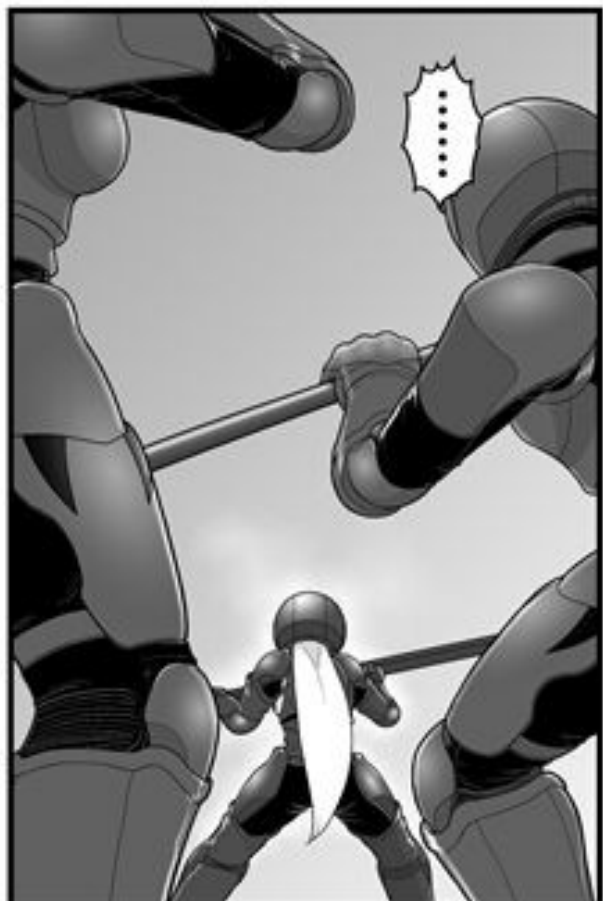
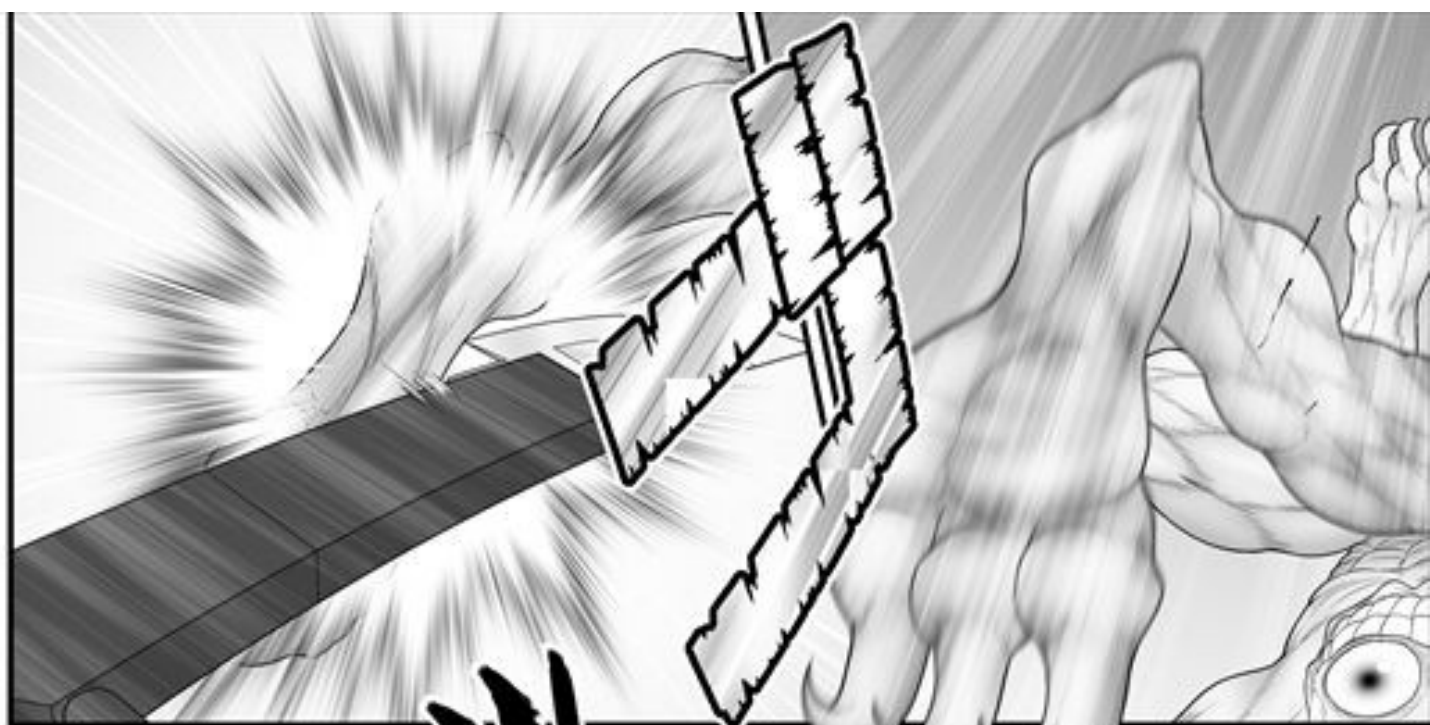






!!!





本気で
譲っちまう
気なのか？

仲間が
殺られてんだぞ

何を
考えてんだ？
ギャリー

キッ

…マジかよ
あのバケモノと
互角にやりあって
やがる……！

…カッコイイ

まだ
勝負はついて
ねえんだッ

認めねえぞ

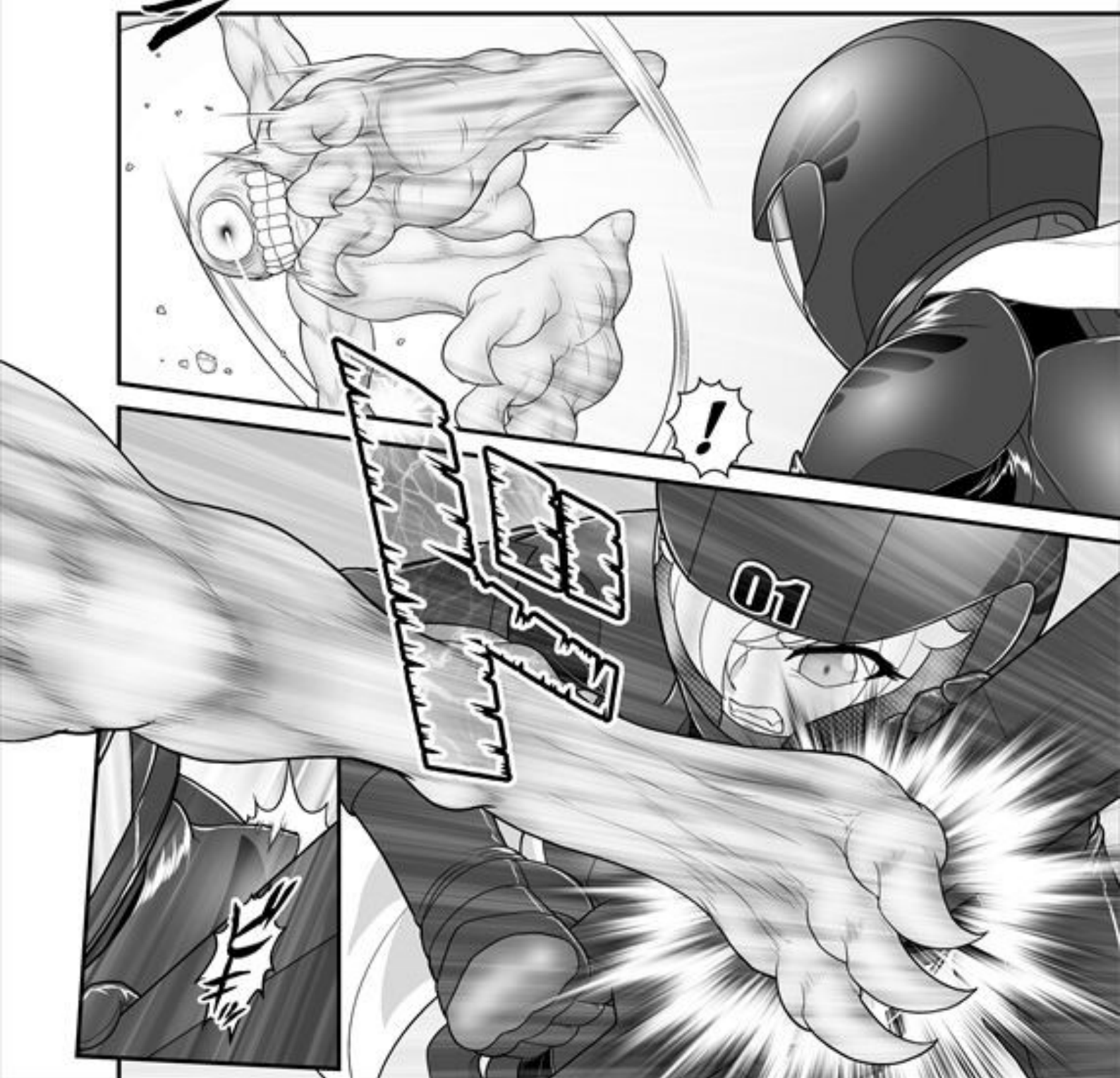


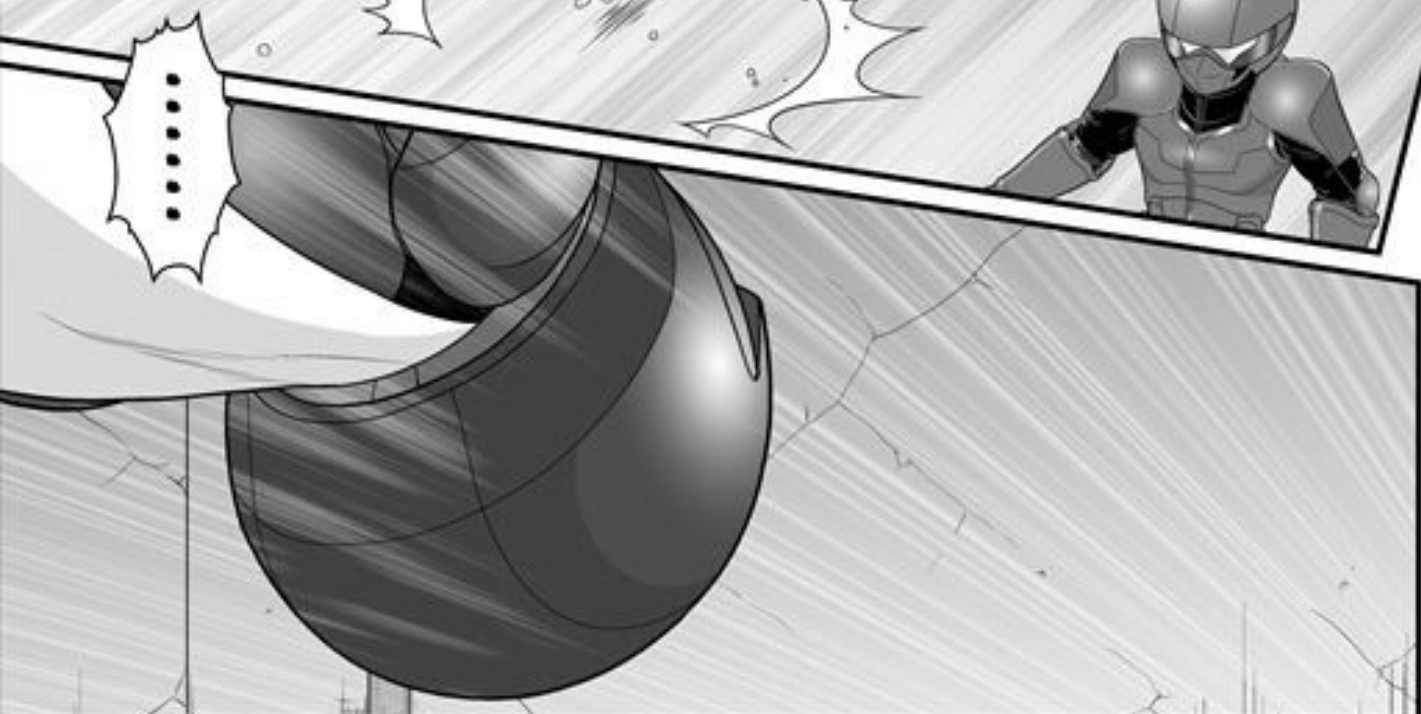
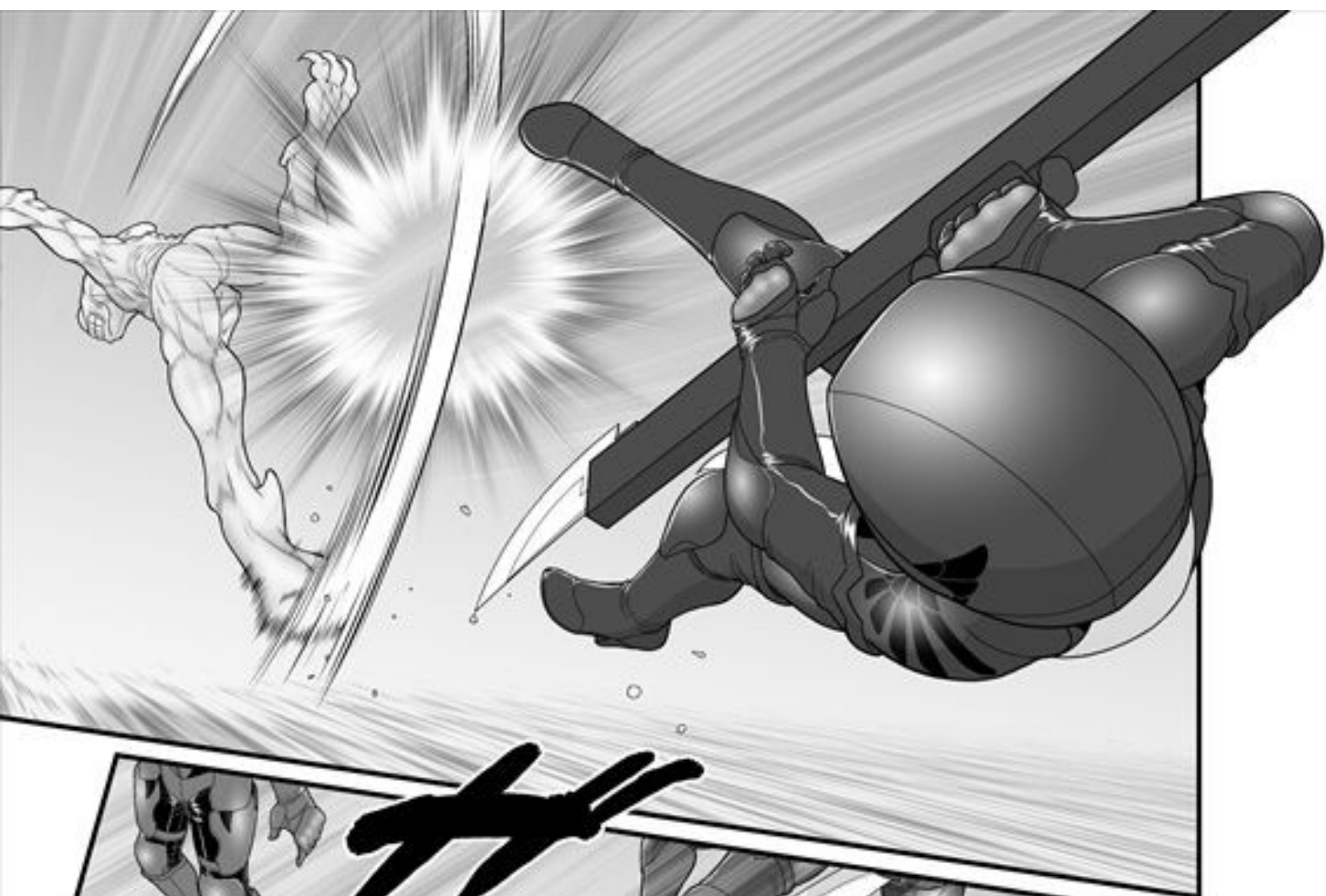


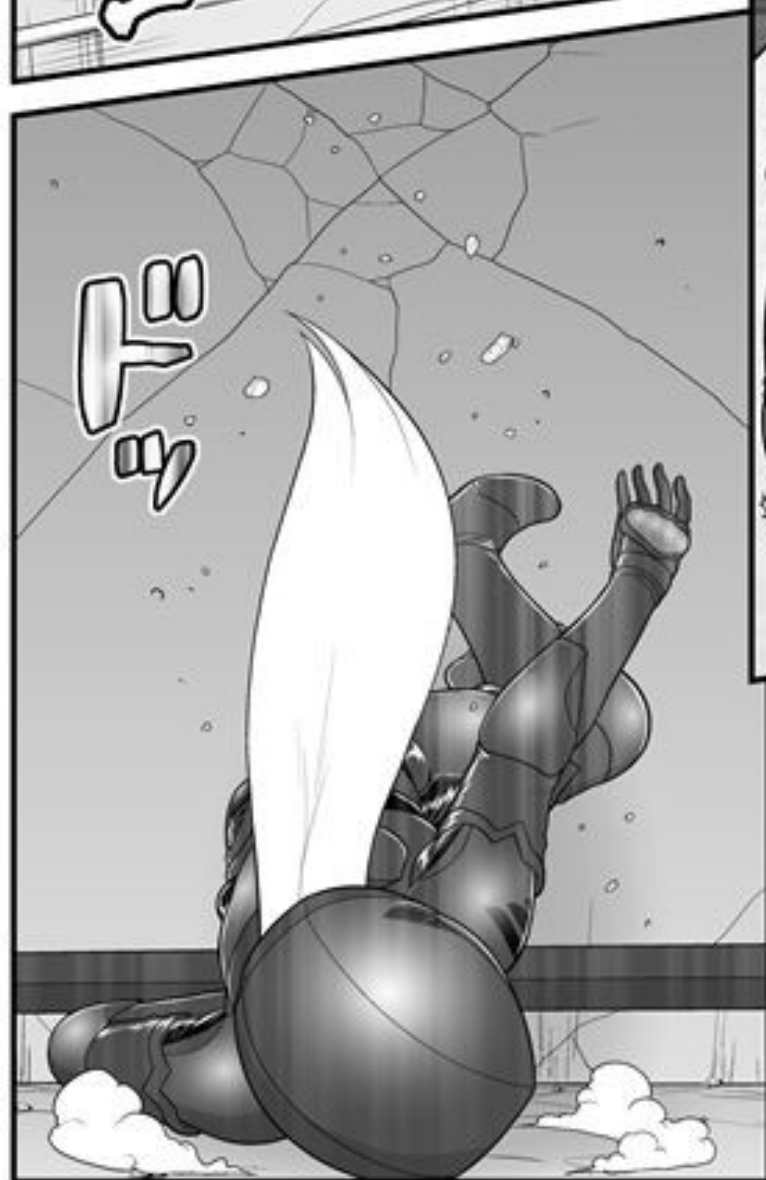
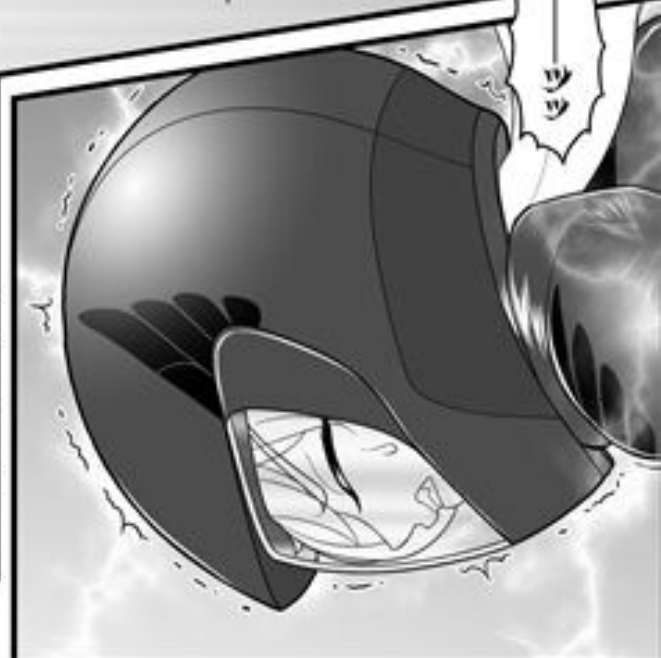
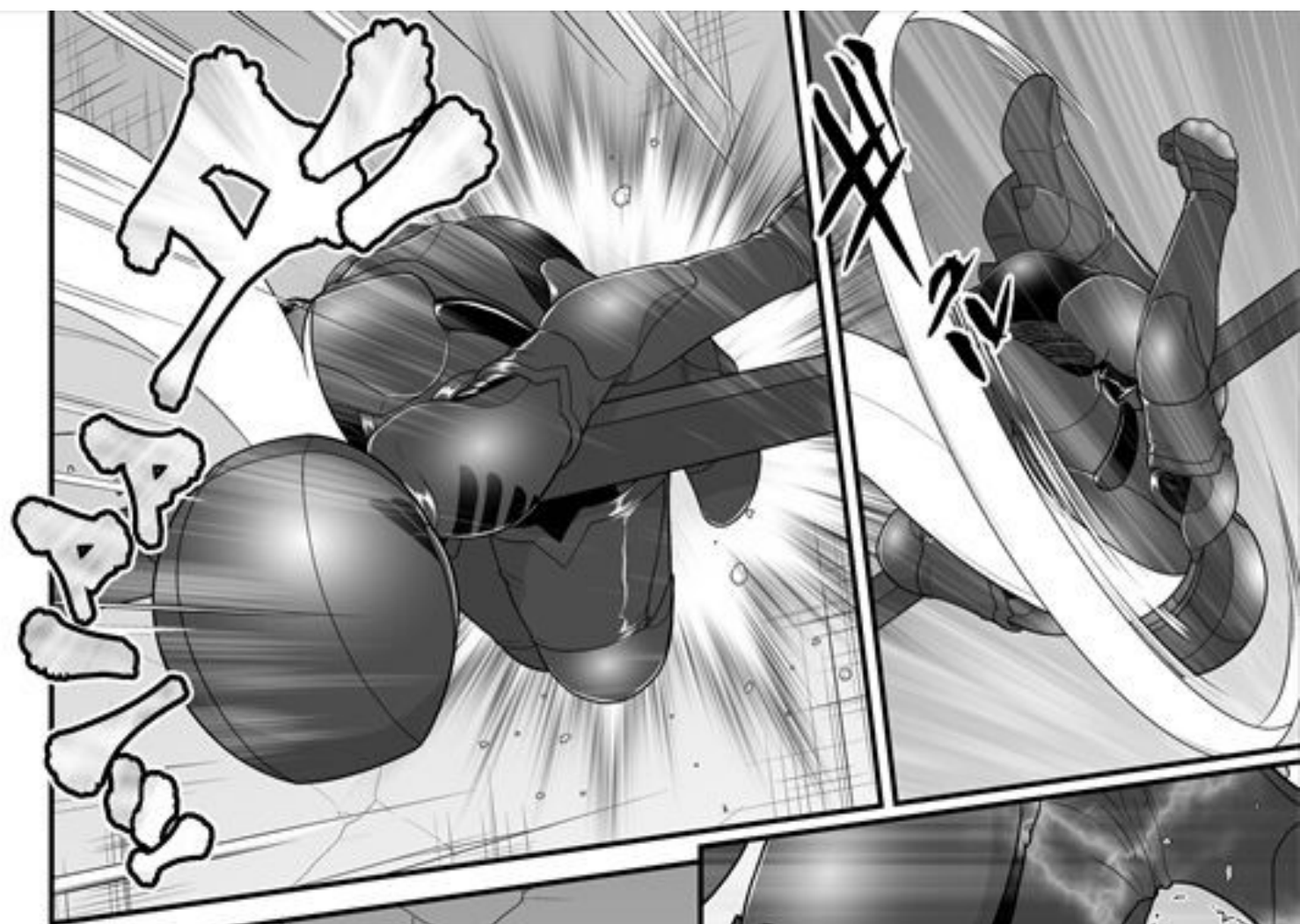
終わりだ

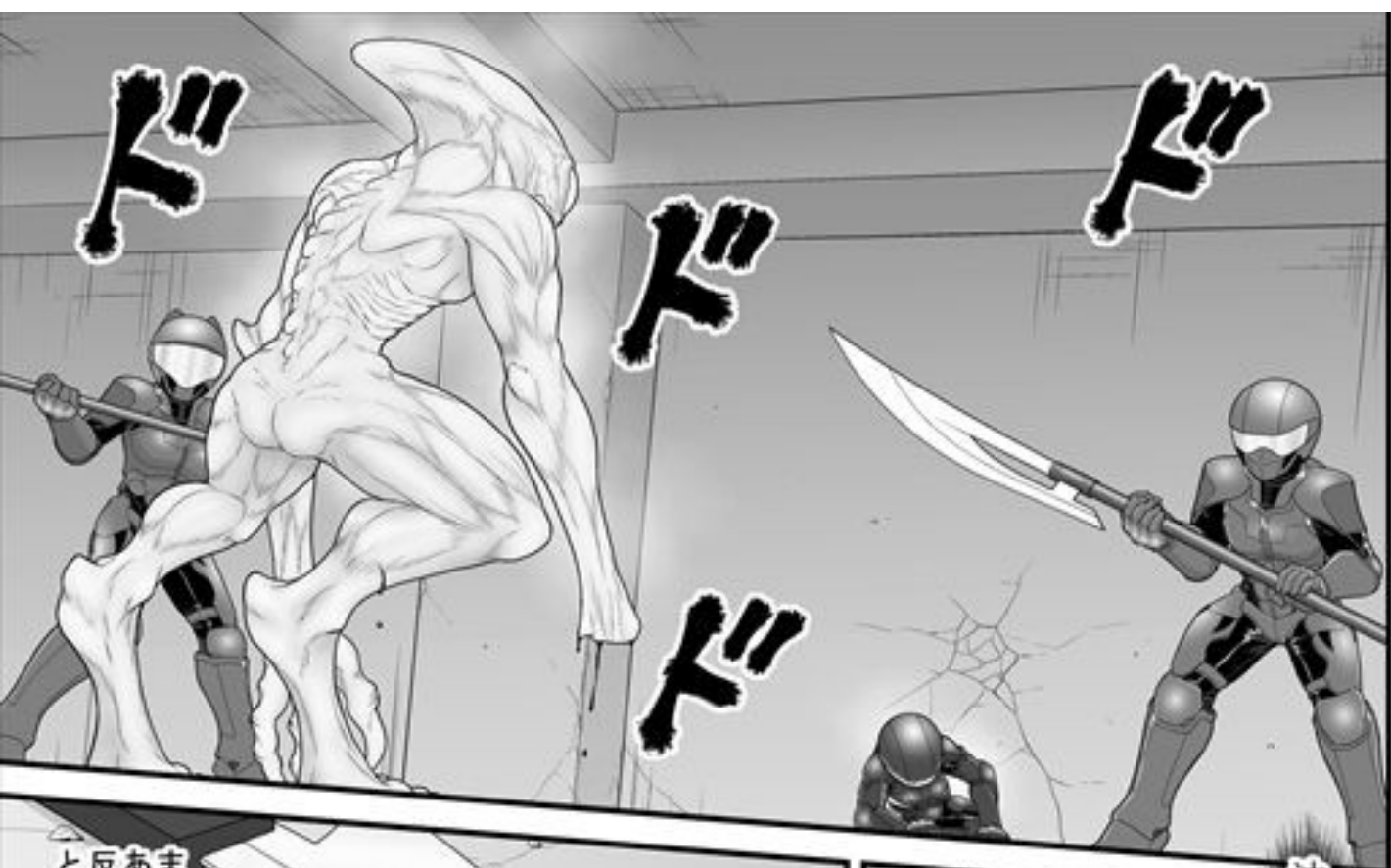
何…!?

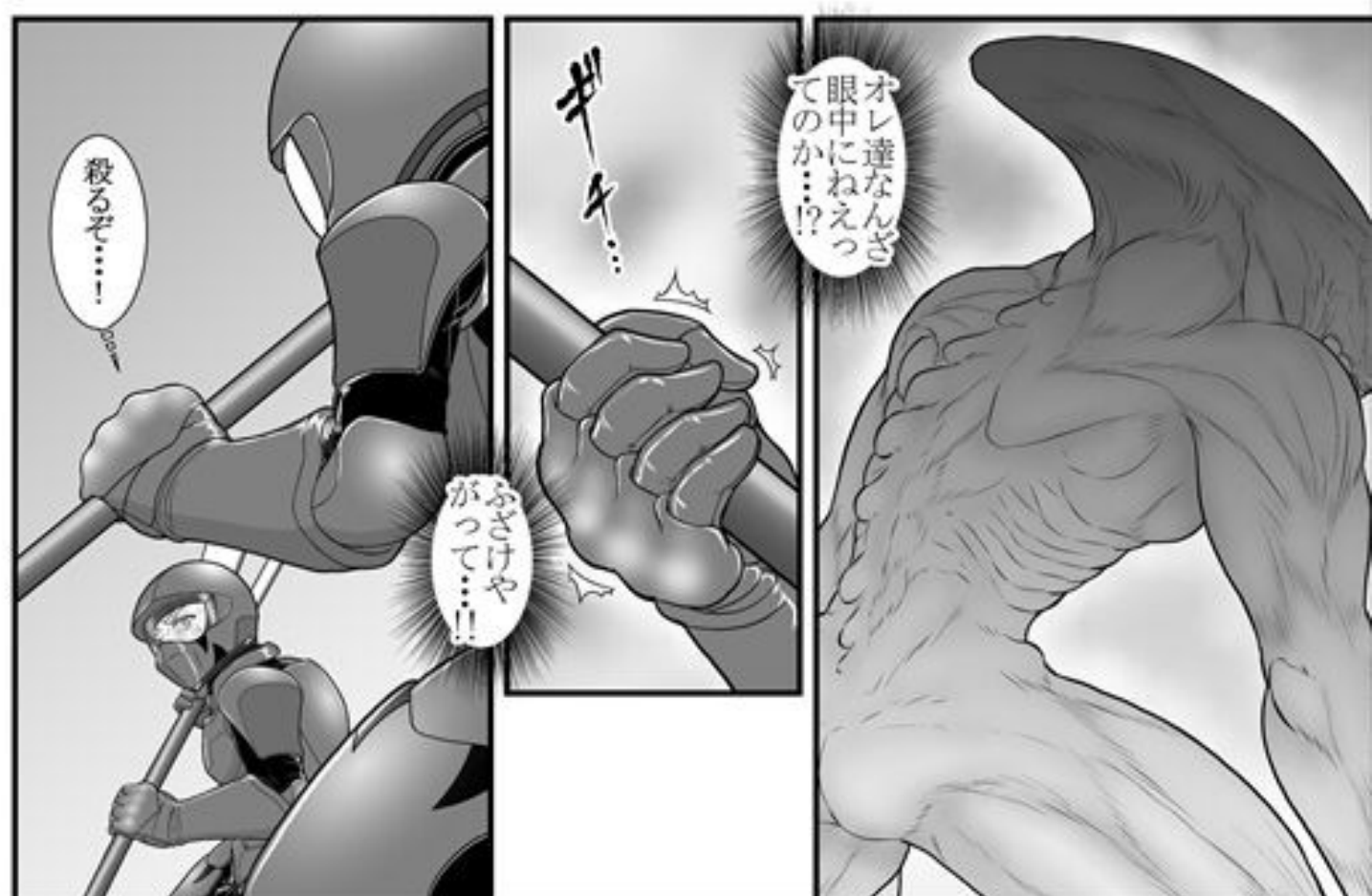


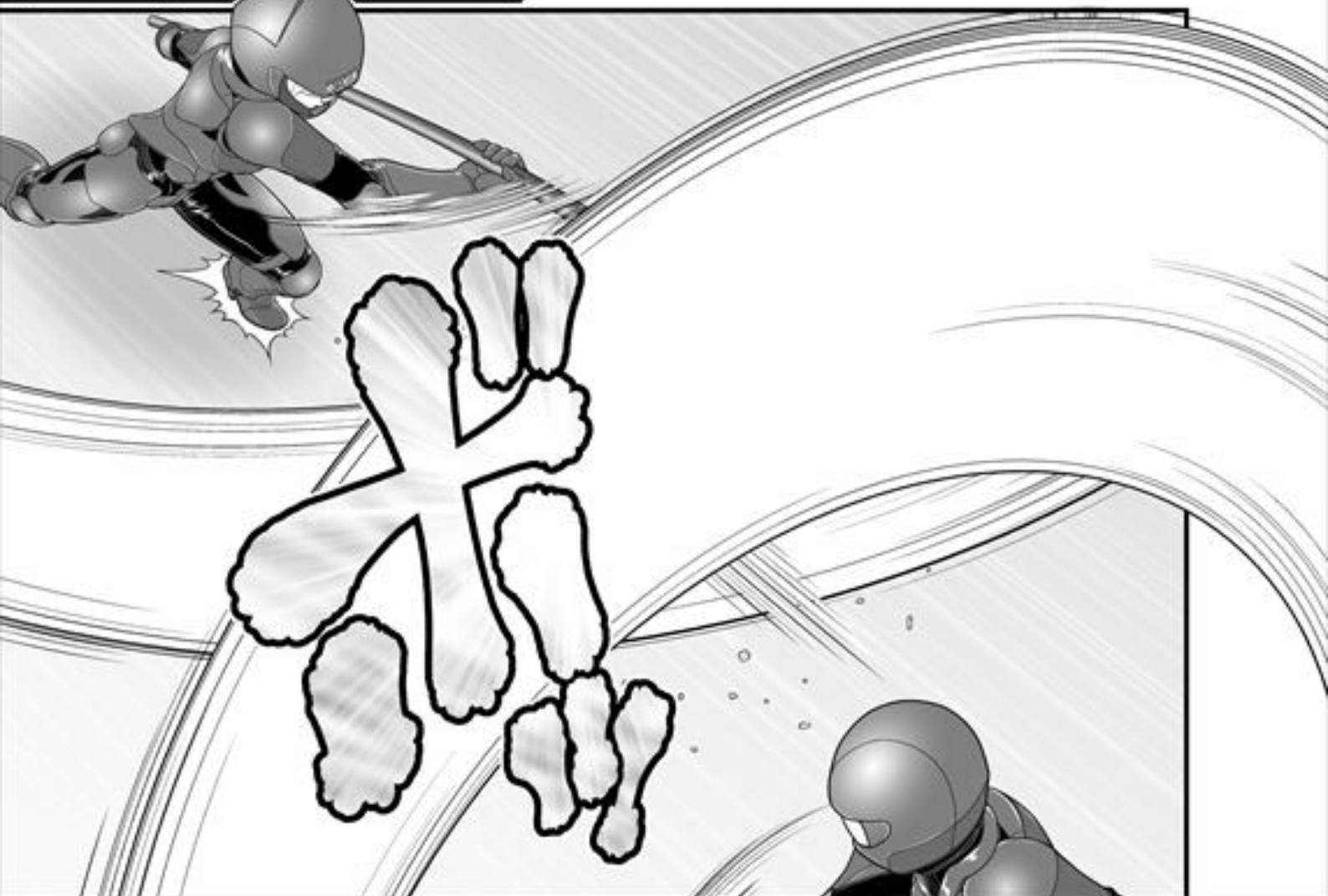
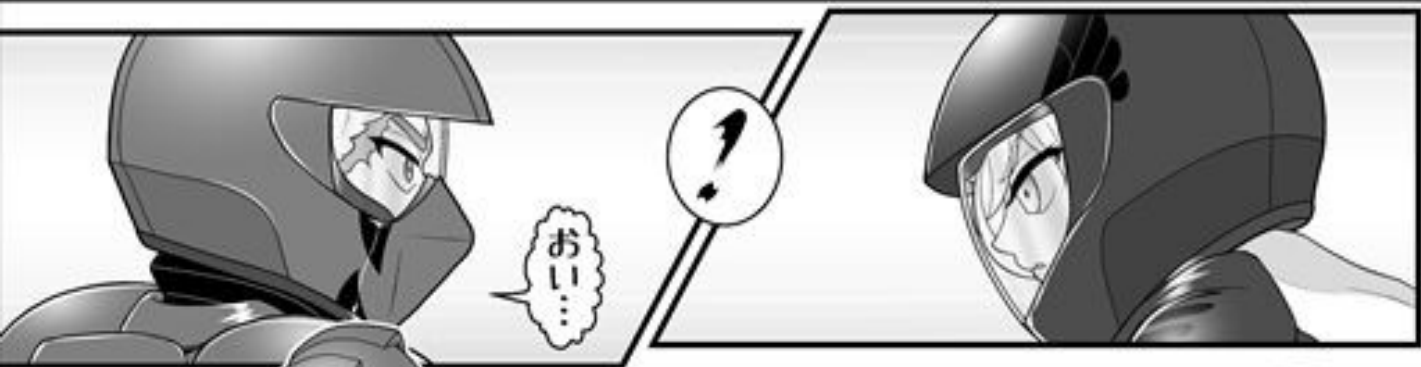


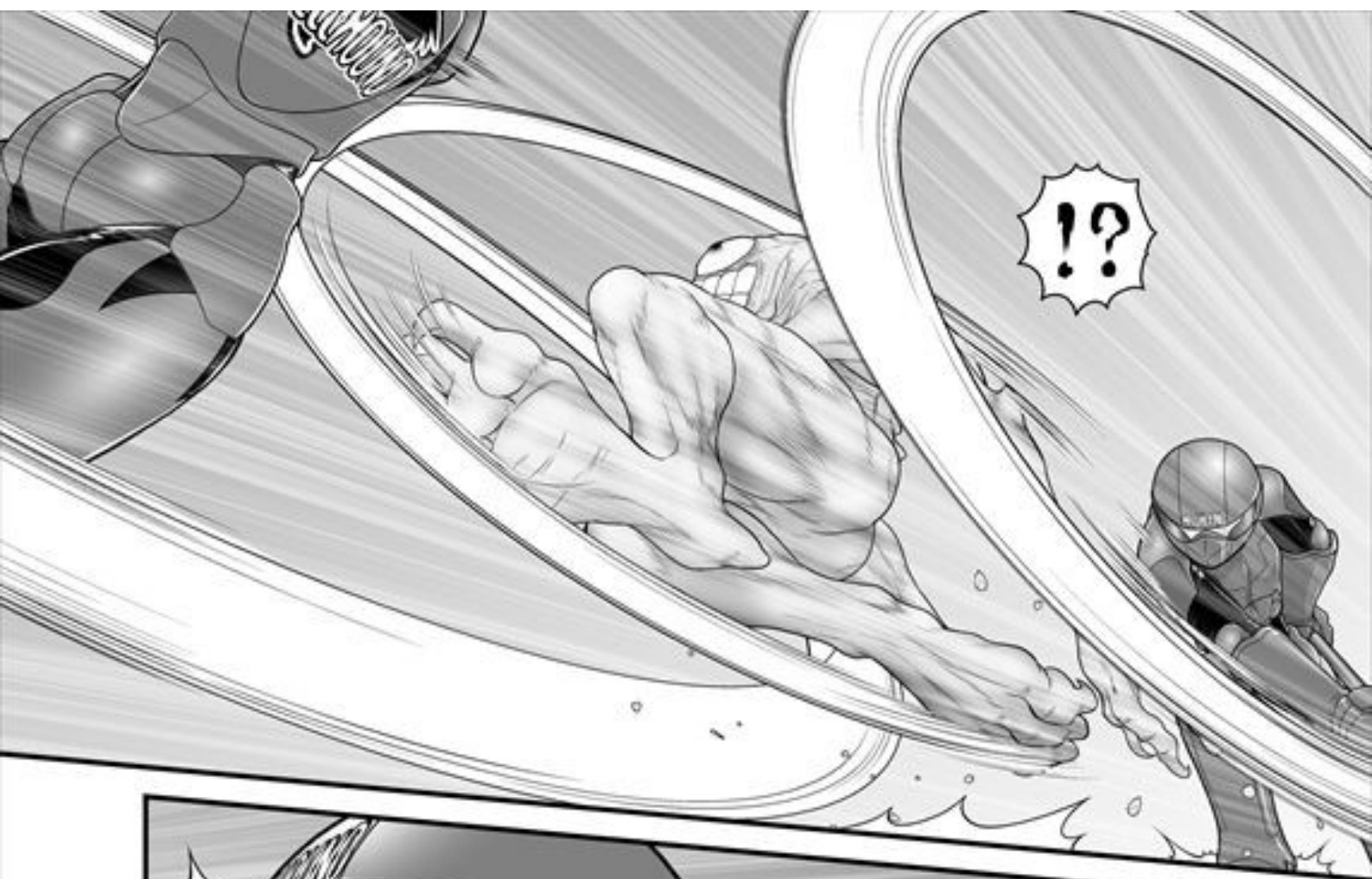




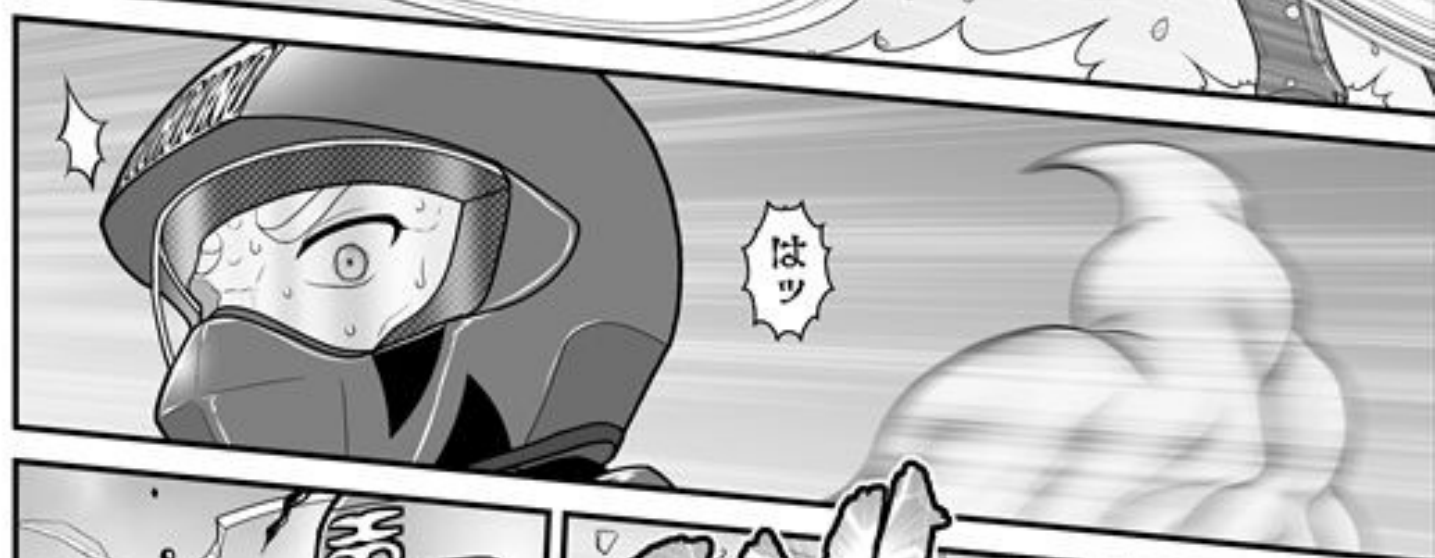




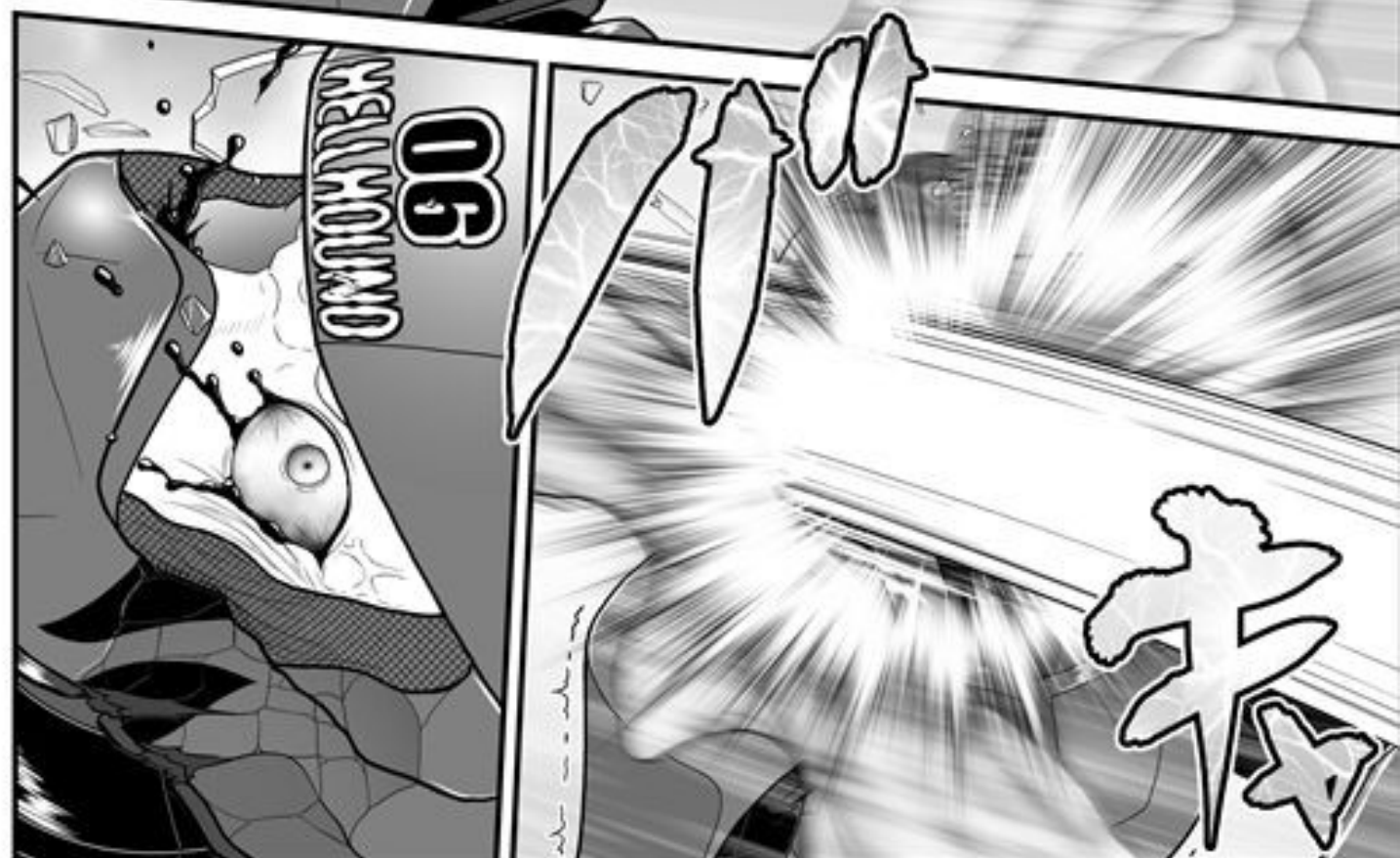




!?

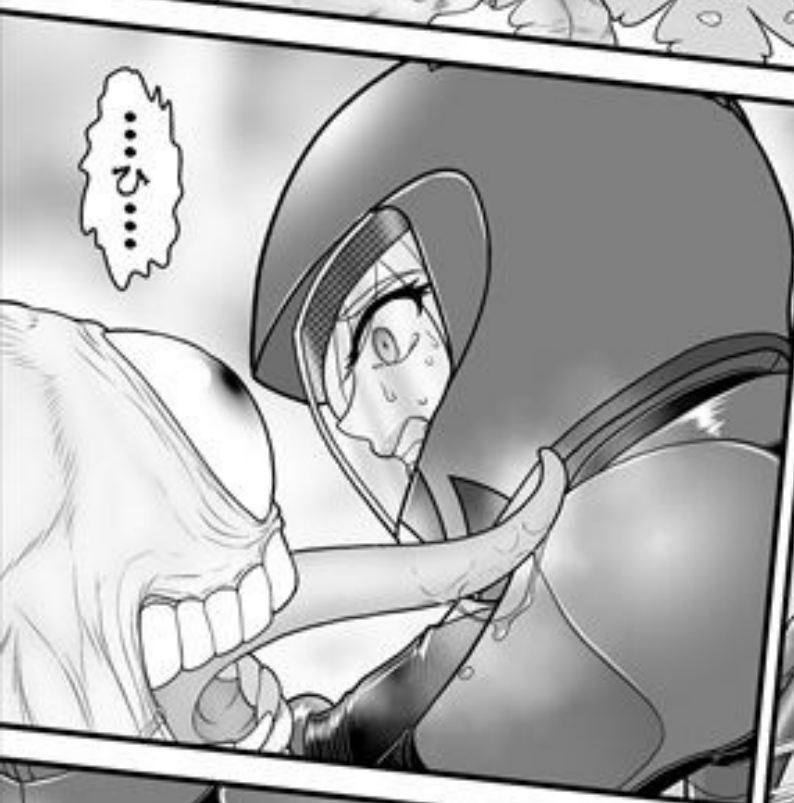
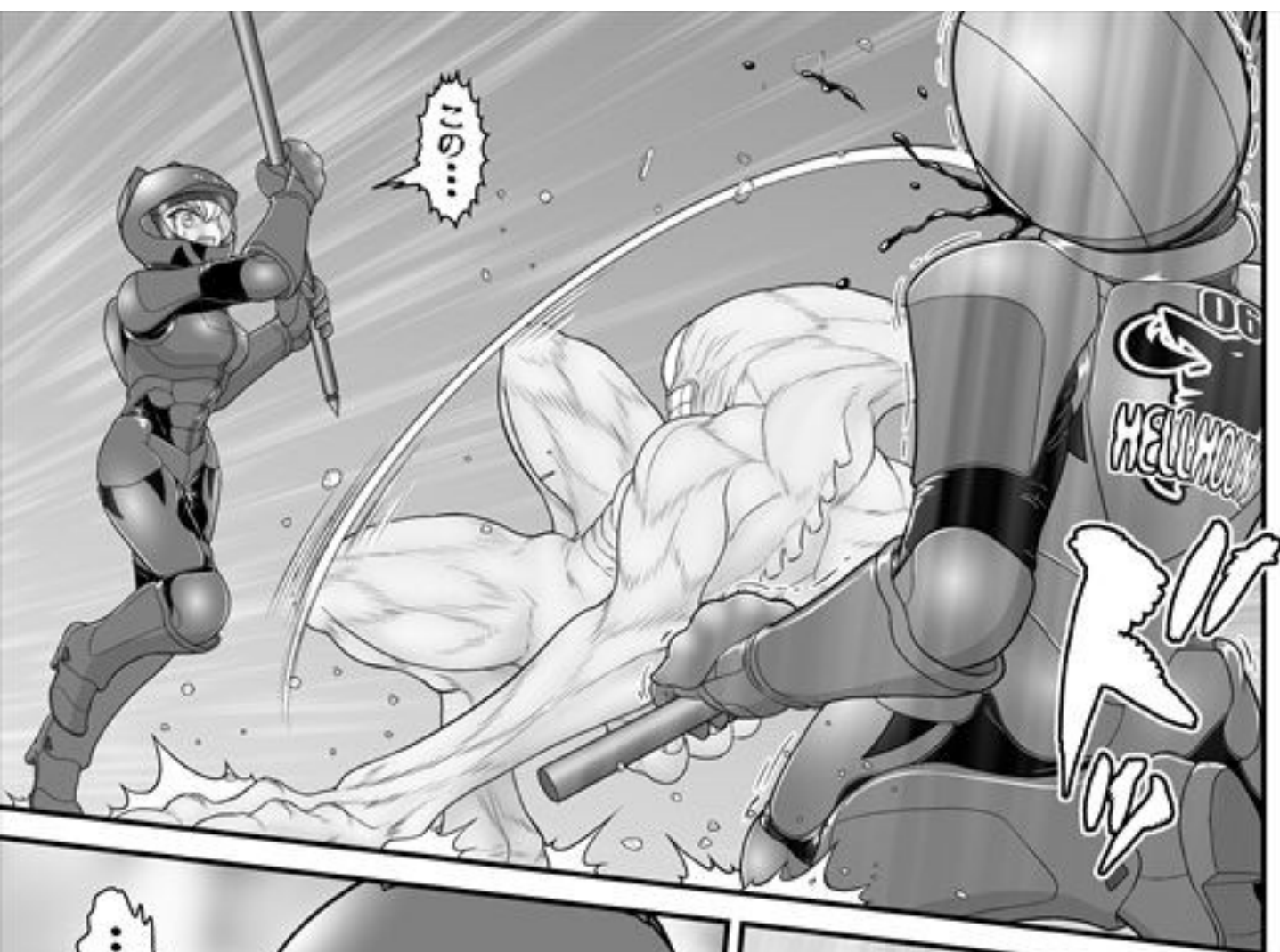


はッ



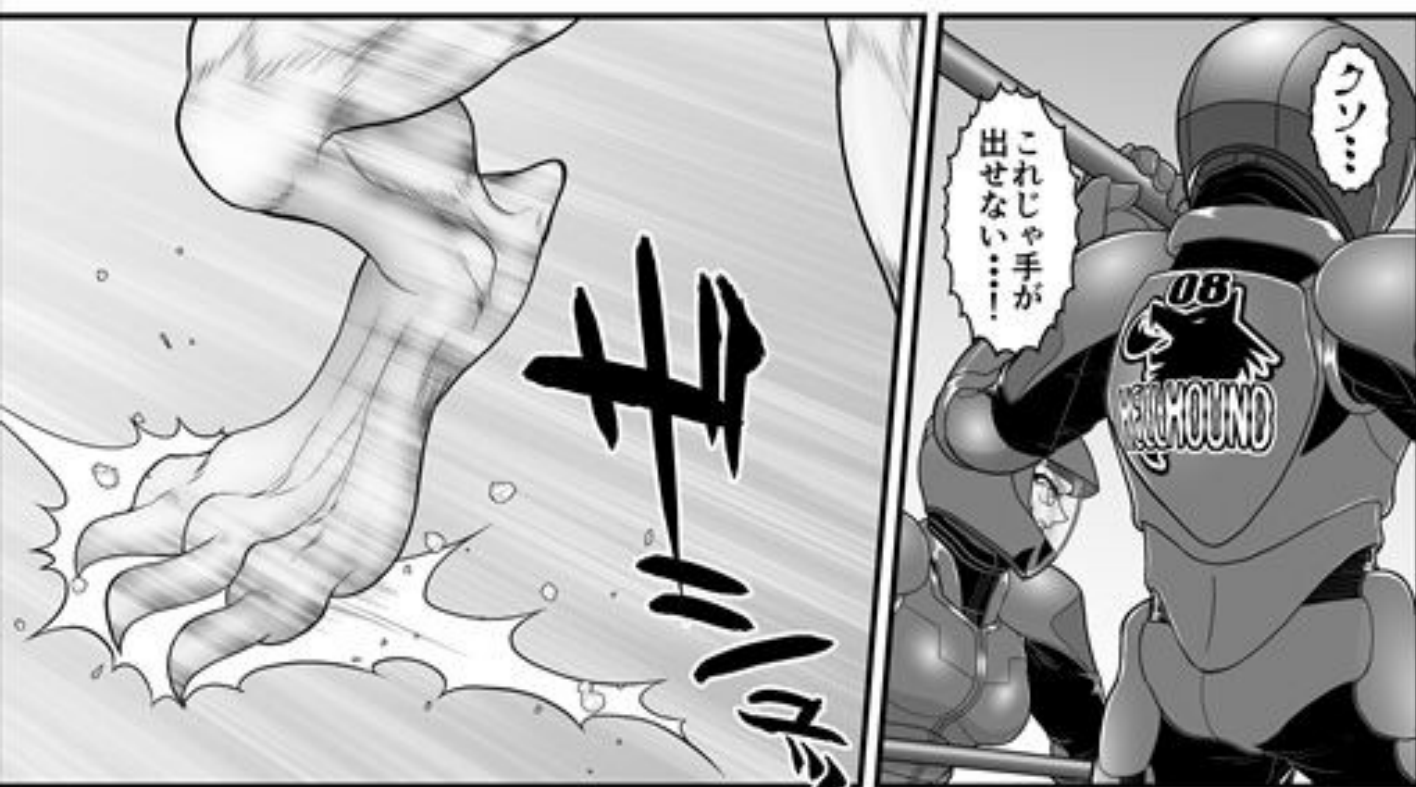
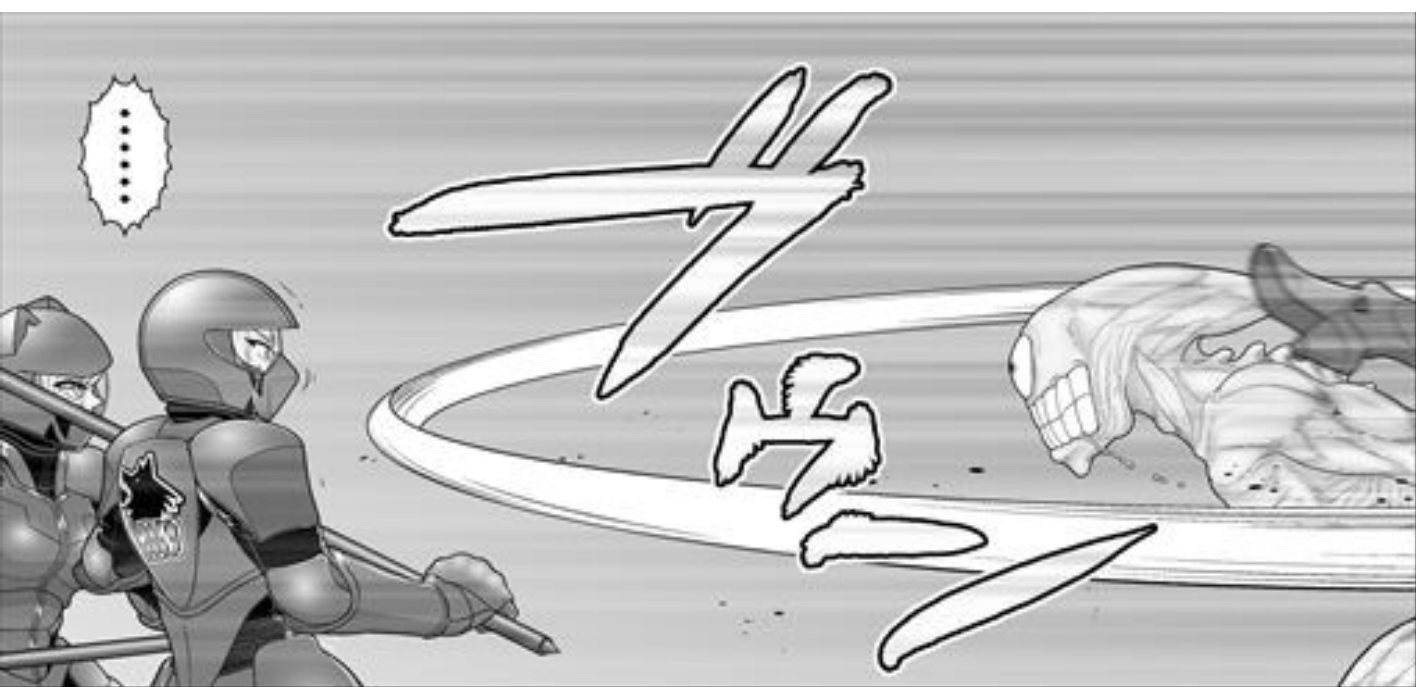
HELLHOUND
06

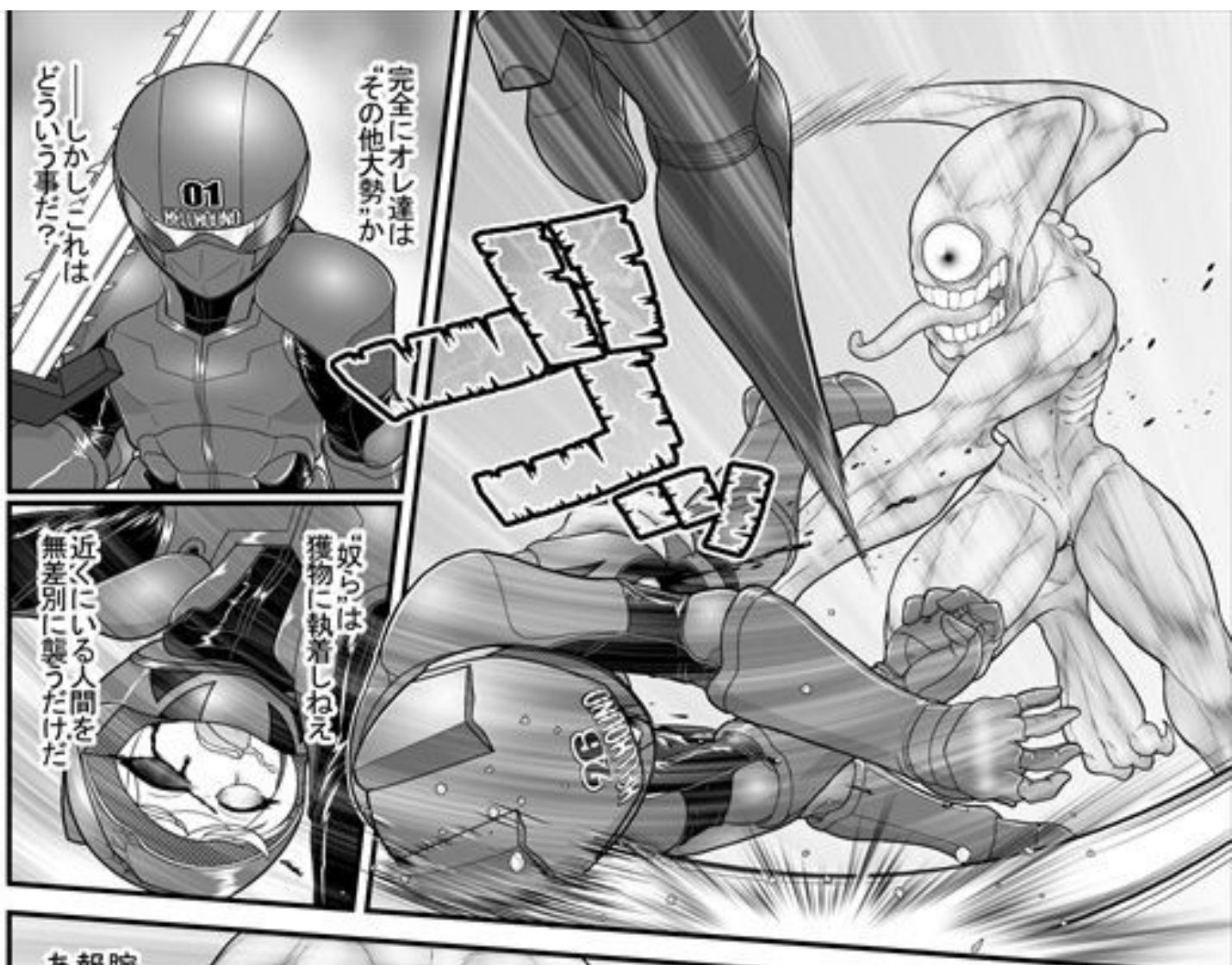
キ

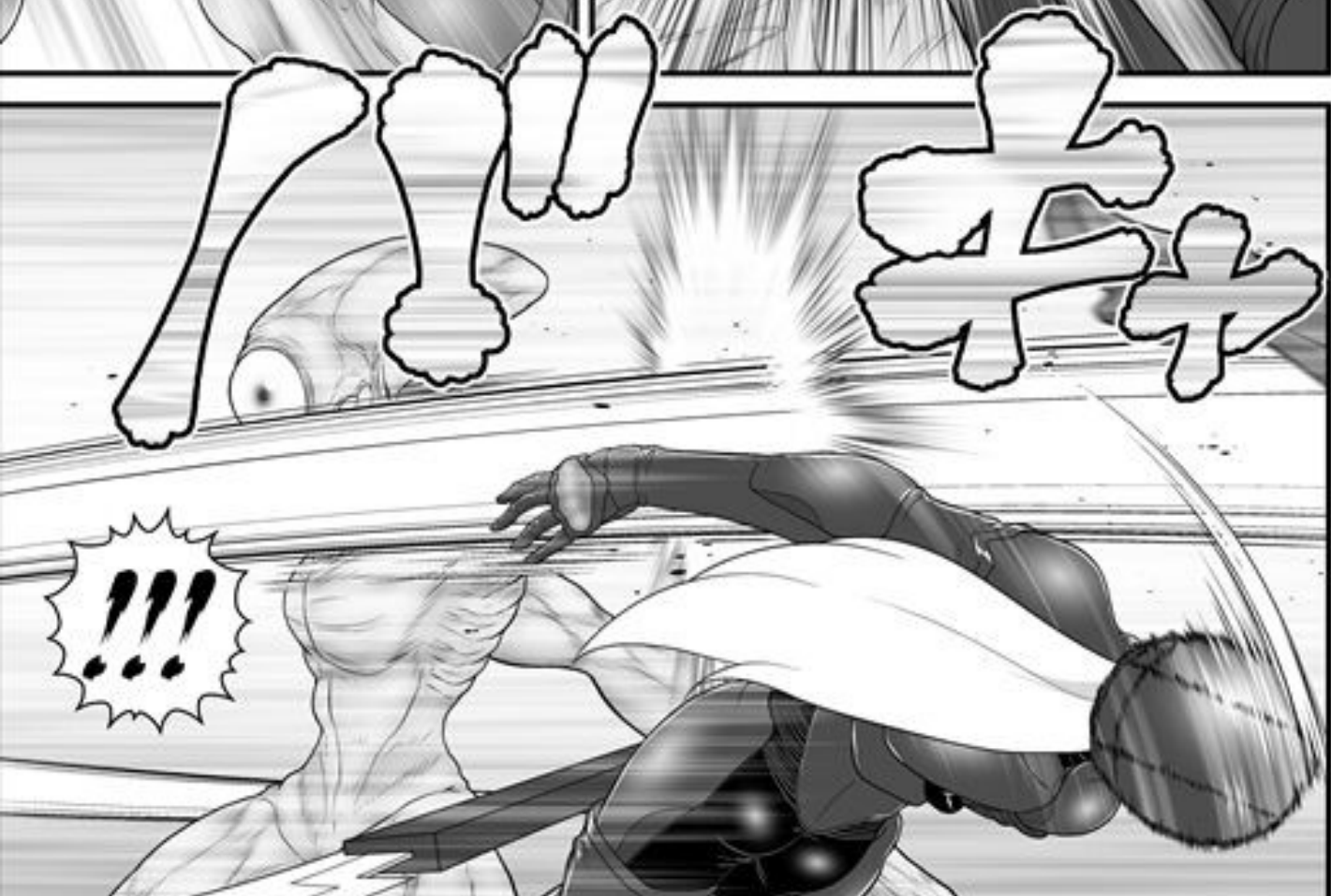
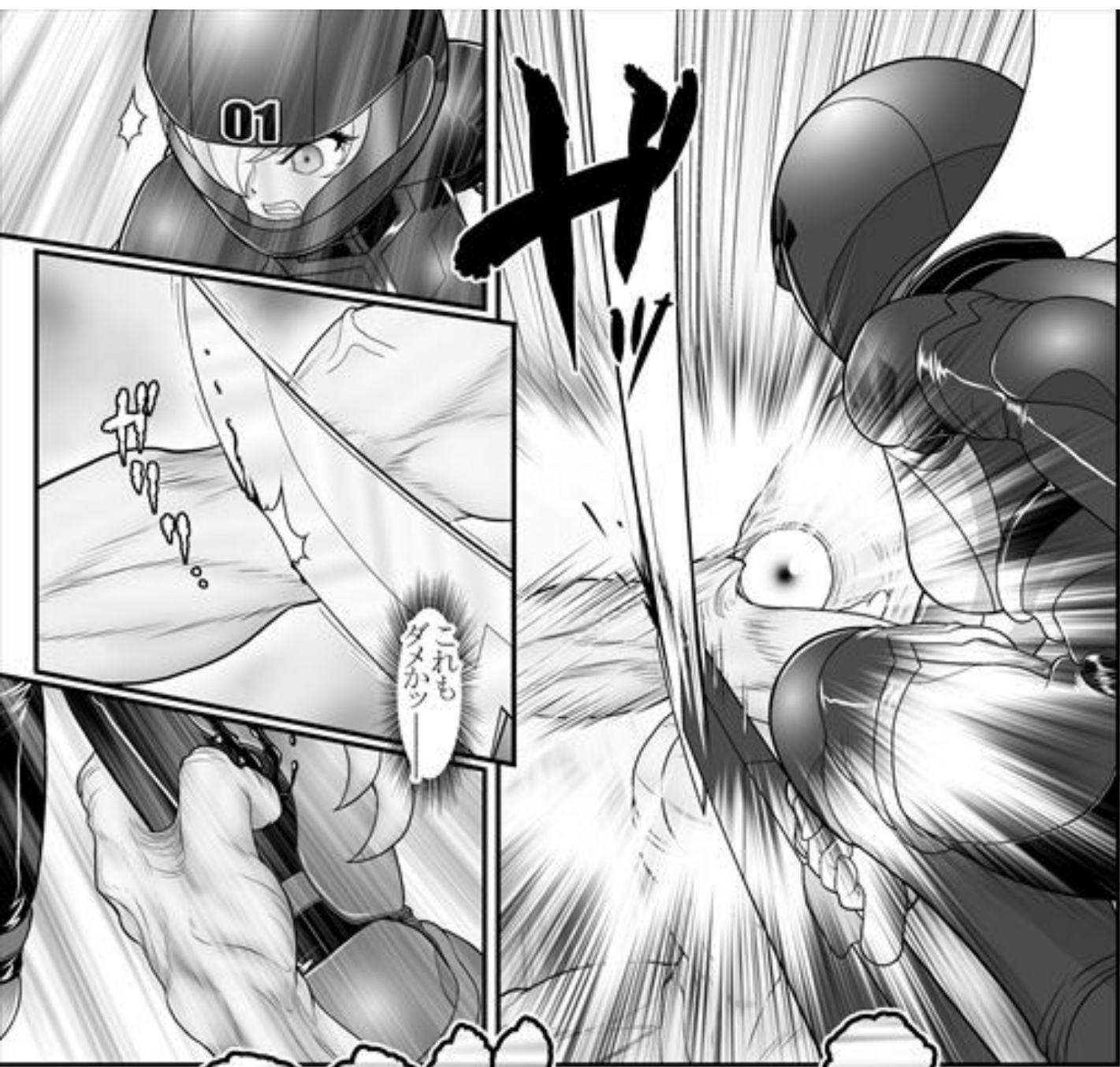


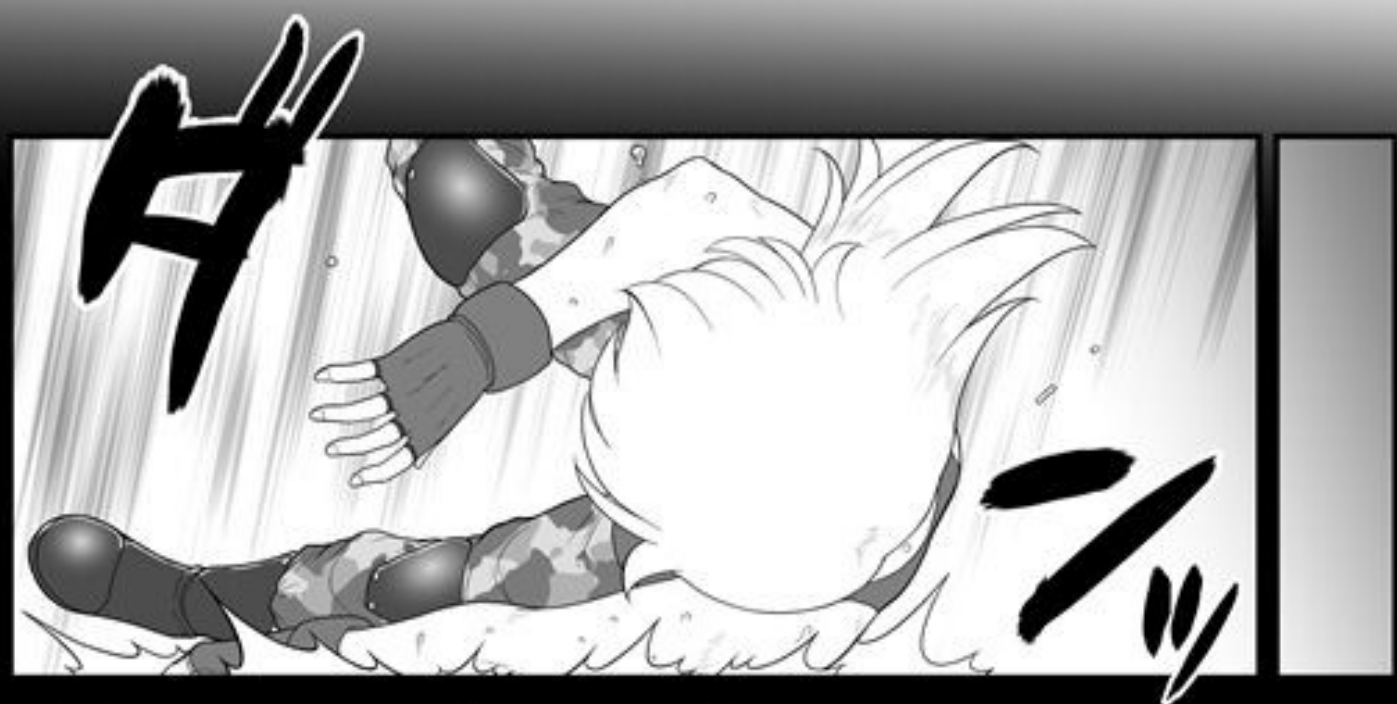




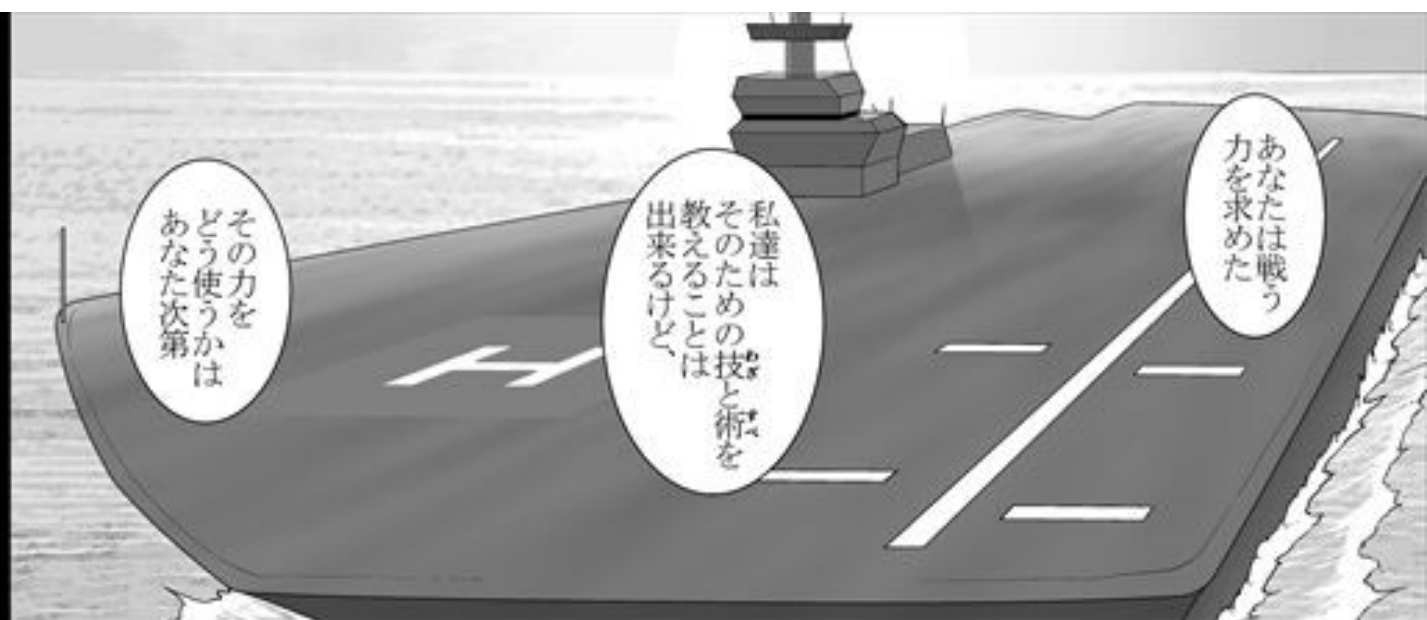




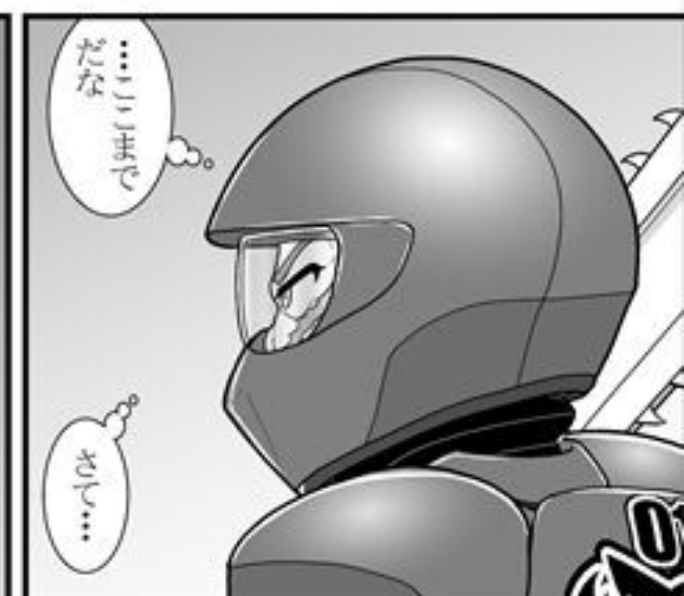
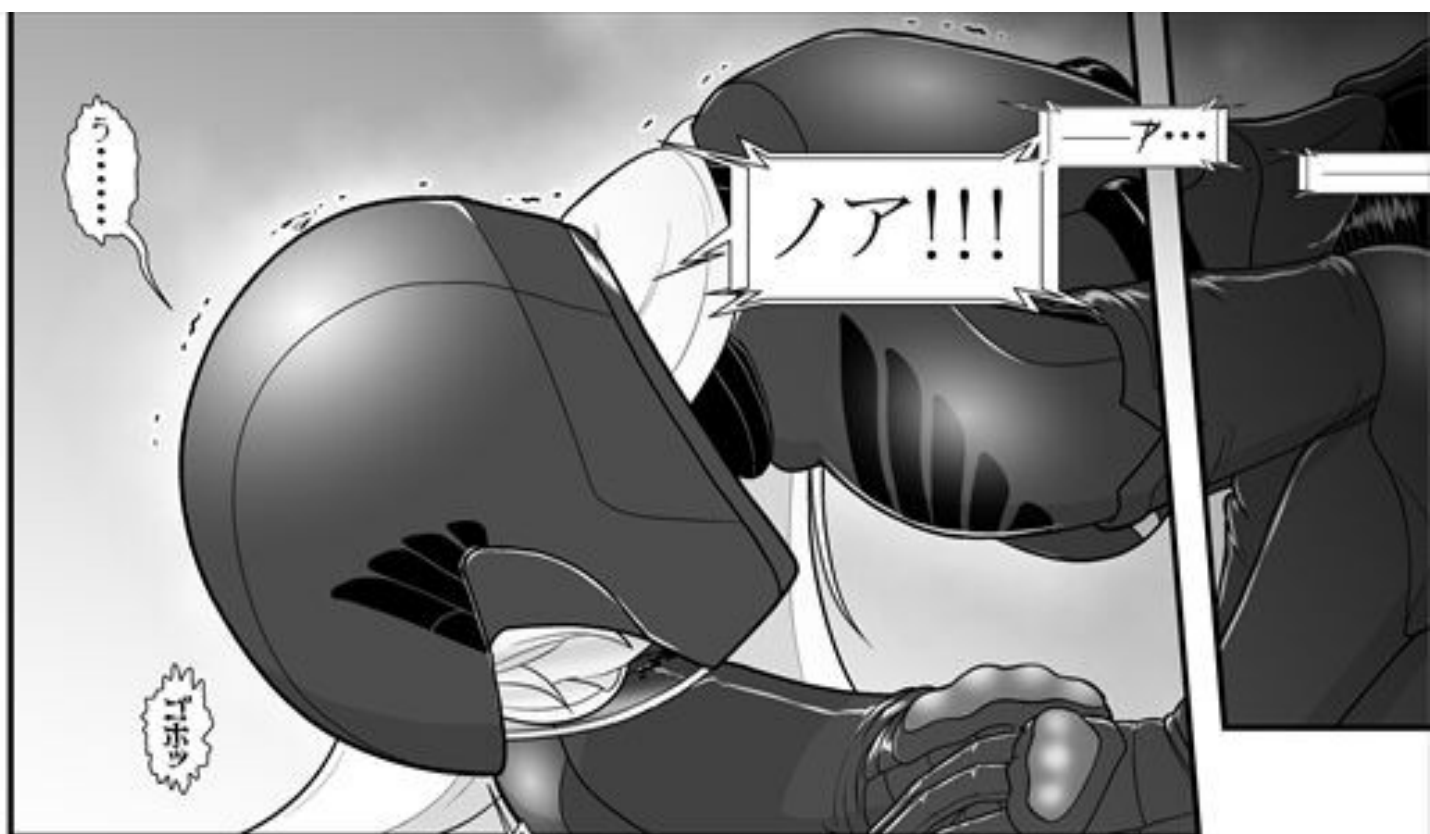






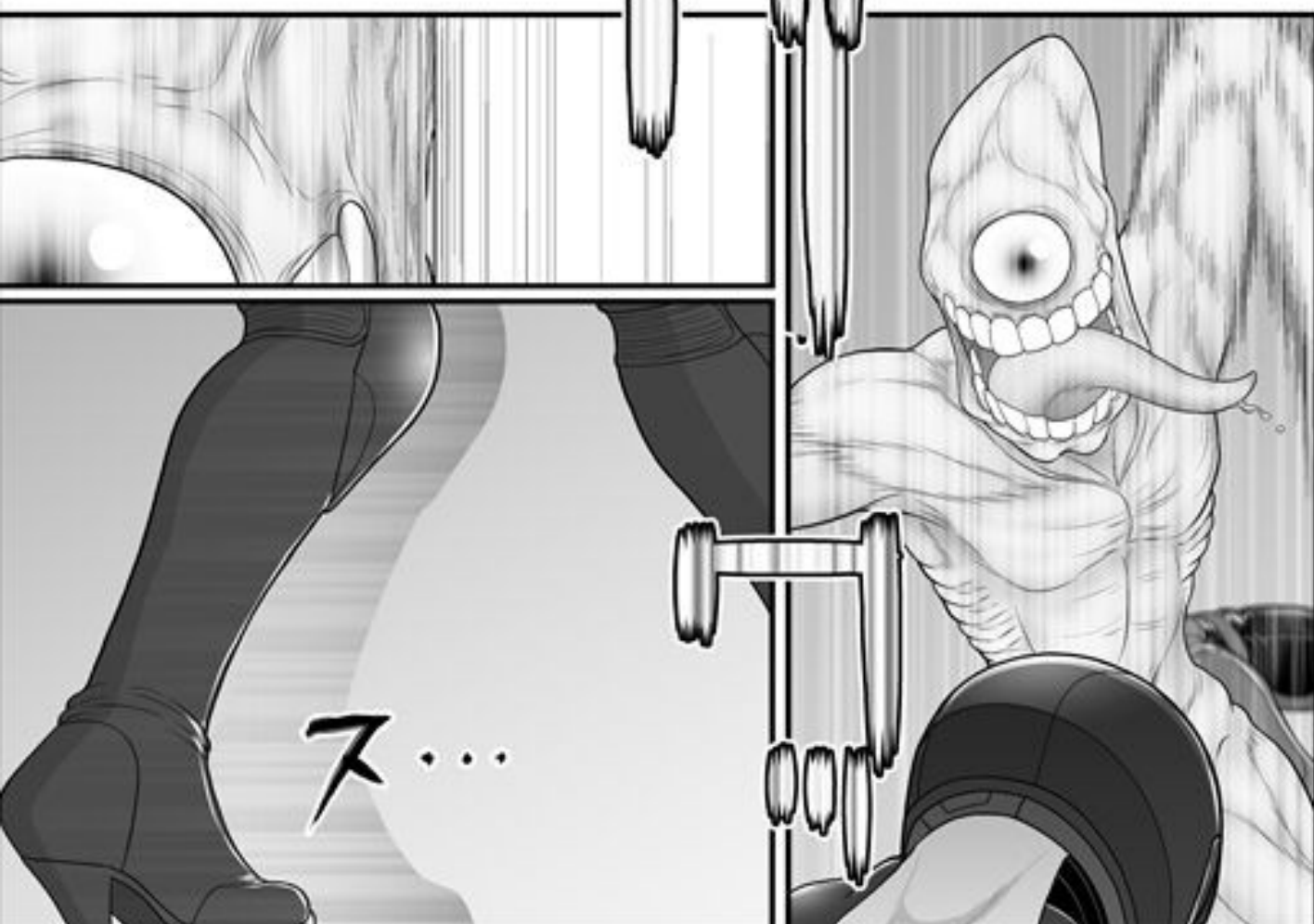
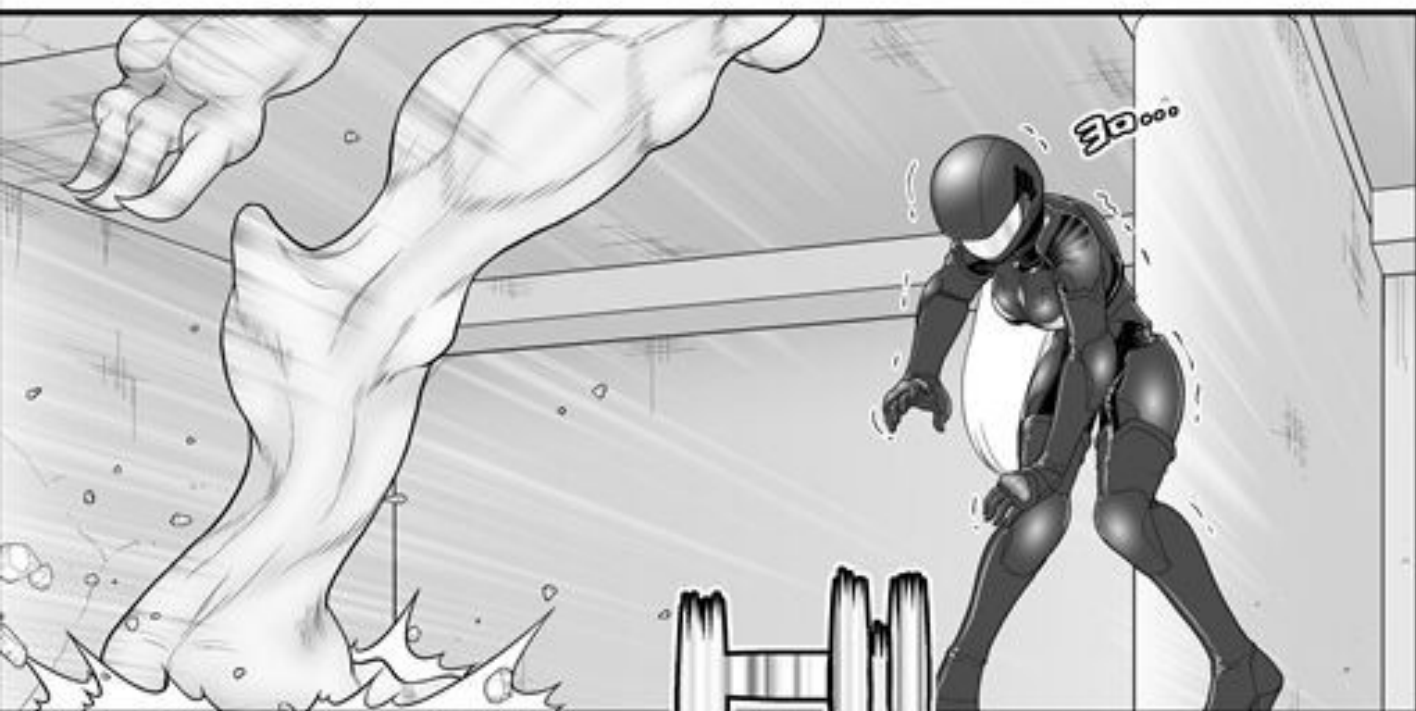


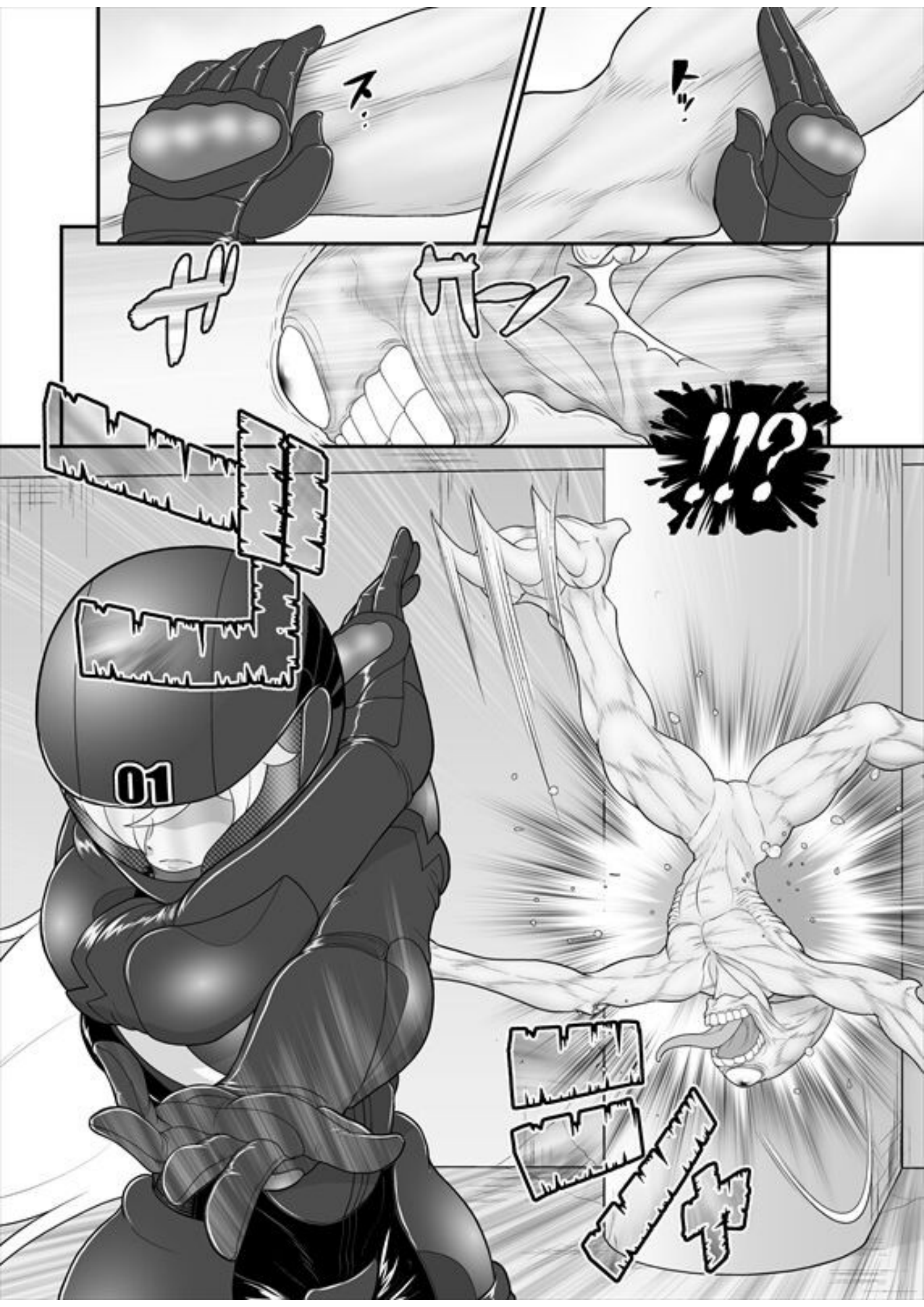




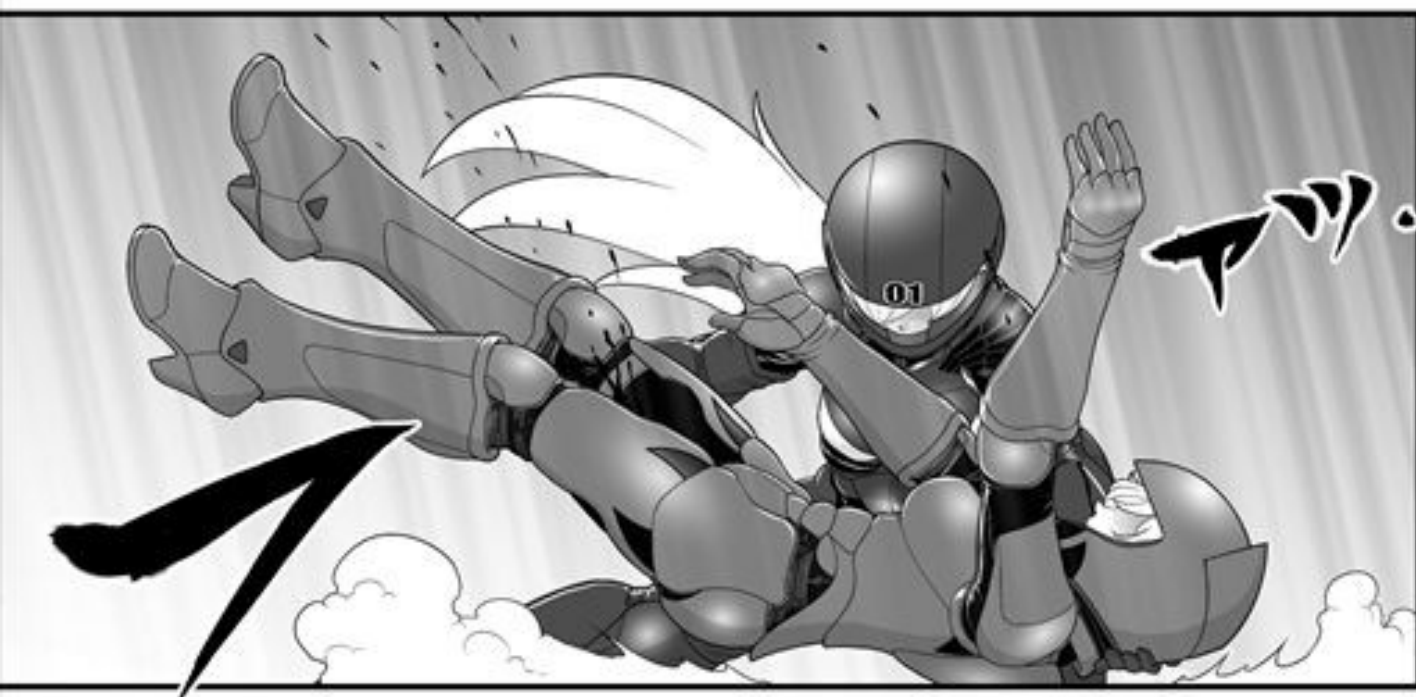
外の連中が
全滅したとなれば
残りの戦力は21人
…少々心許ないな

あのバカ
最悪
メリーとオレの
どっちかが死ぬ事までは
想定しておくべきか









何だ……？
今何が起きた？

また妙な技を
使ったのか……？

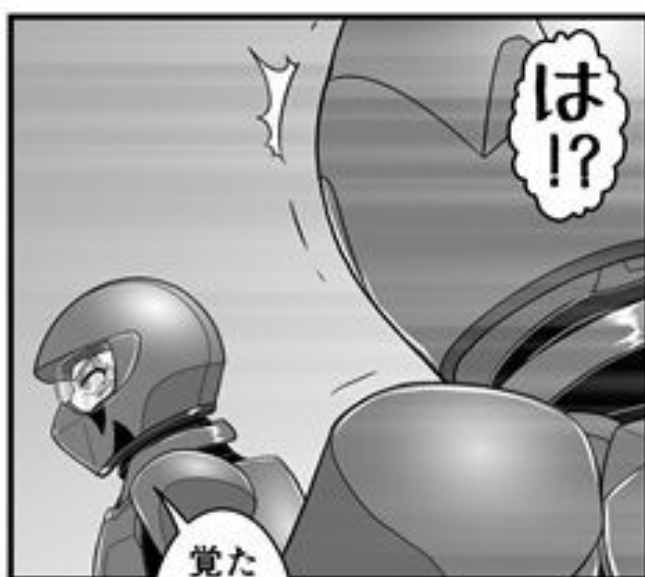
『奴』があいつに
トドメを刺そうと
した瞬間

いきなり『奴』の方が
吹っ飛んだ

立ち上がるのも
やつとな状態に
見えたが……

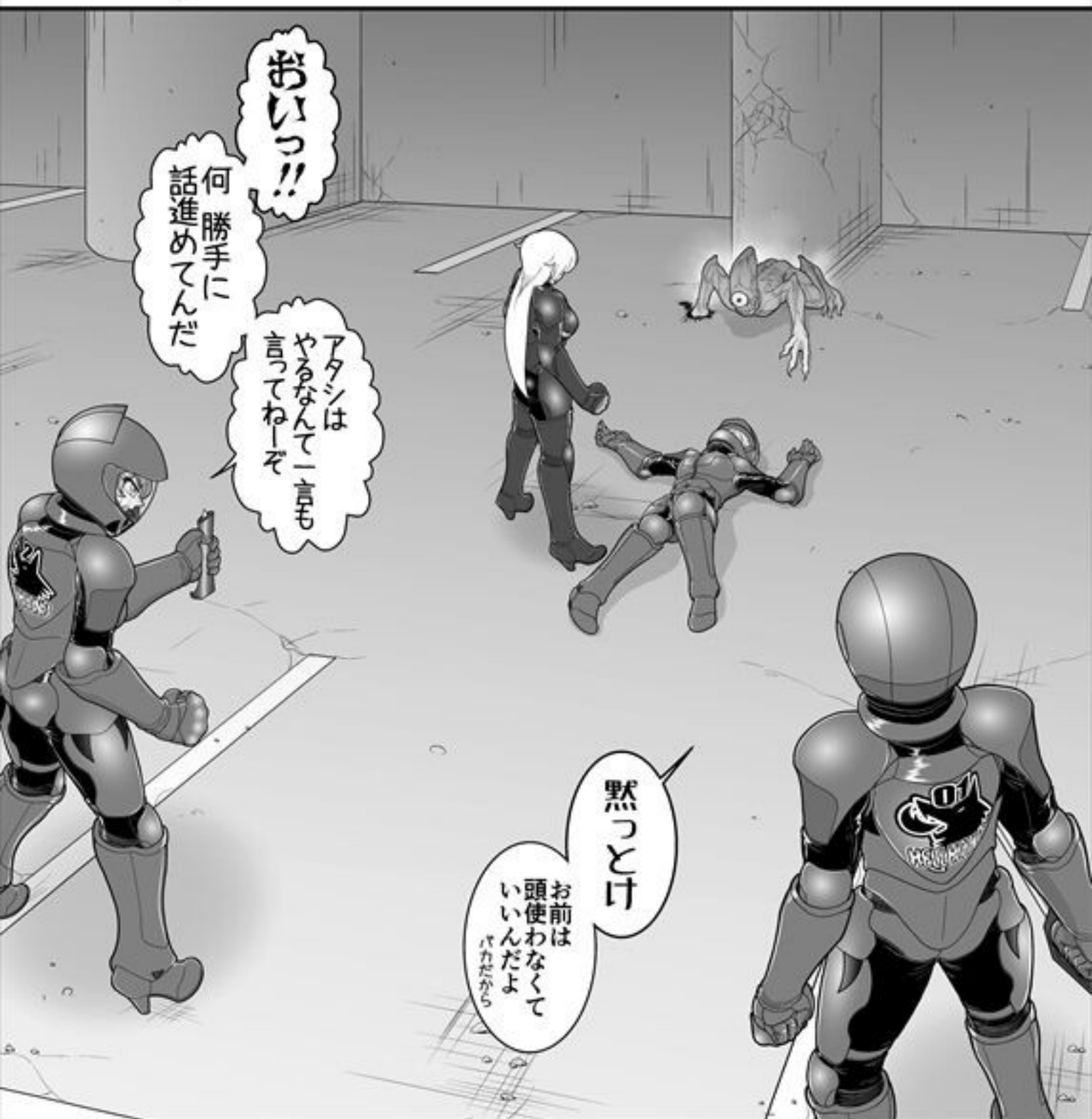
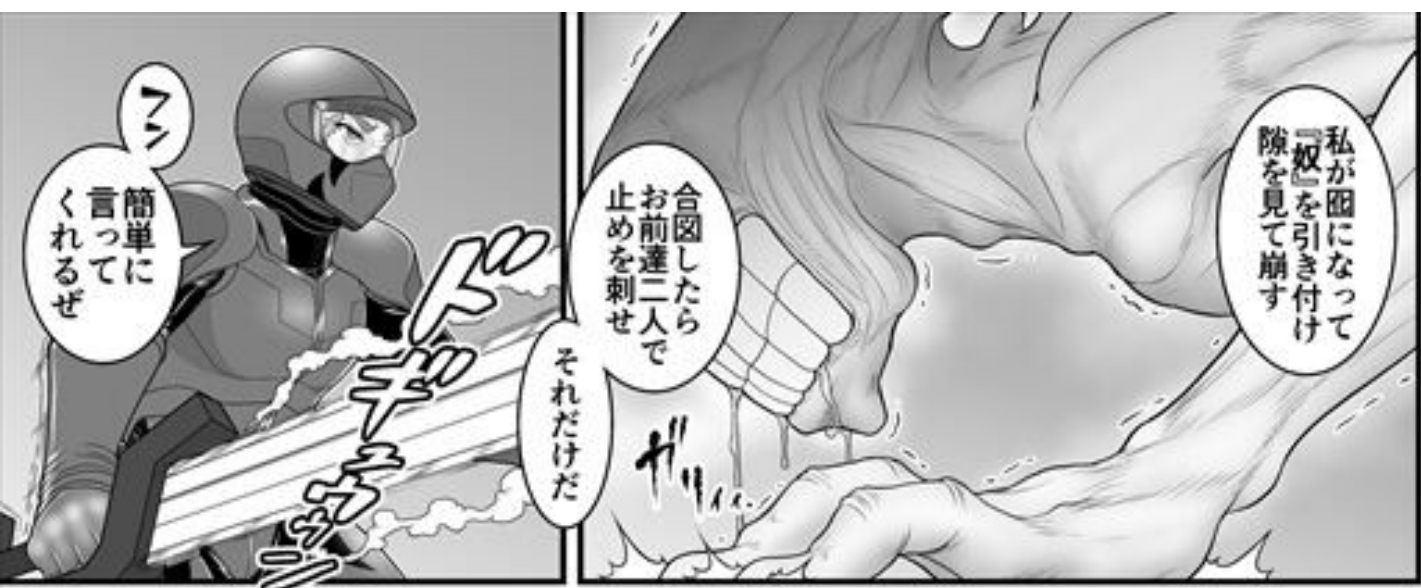
まるで魔法か
超能力だ

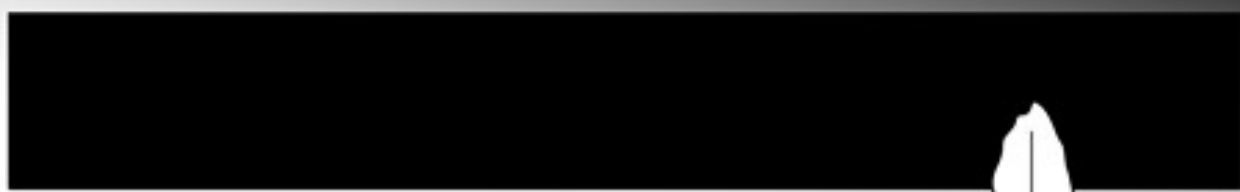






















アキユ...

あ...





呼吸を整えろ^気

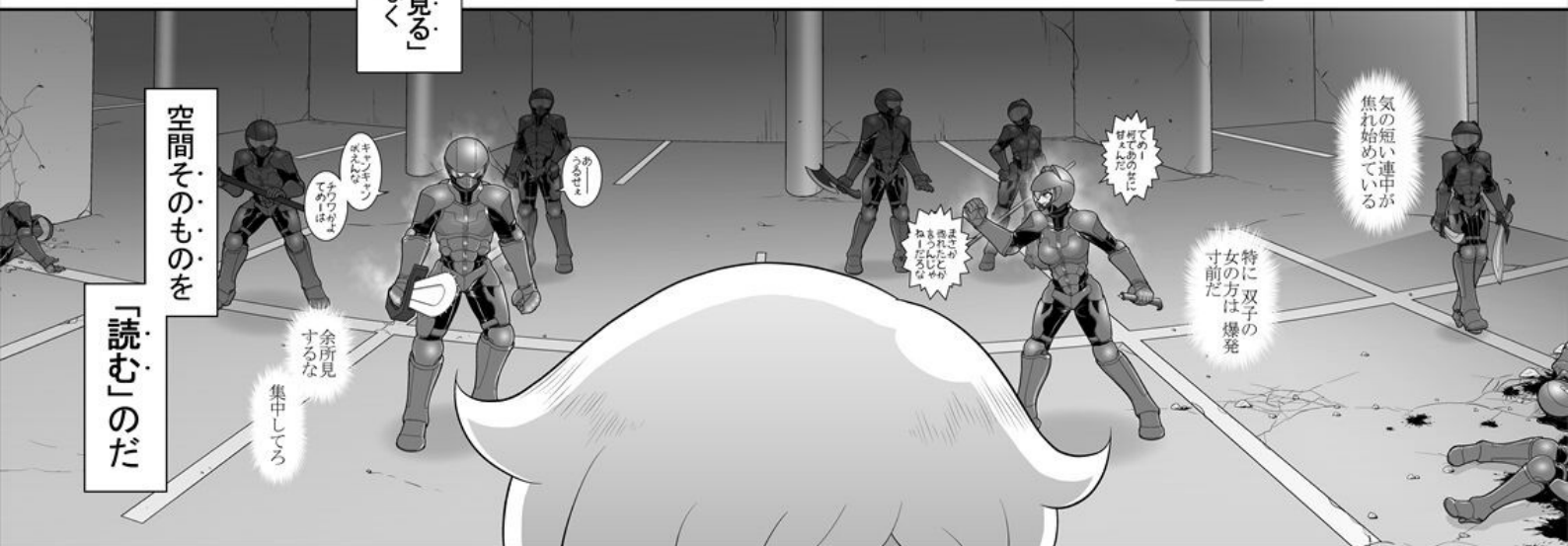
ア...

心の逸^{はや}りを抑え

体は自然体に

「構える」のではない

「備える」のだ

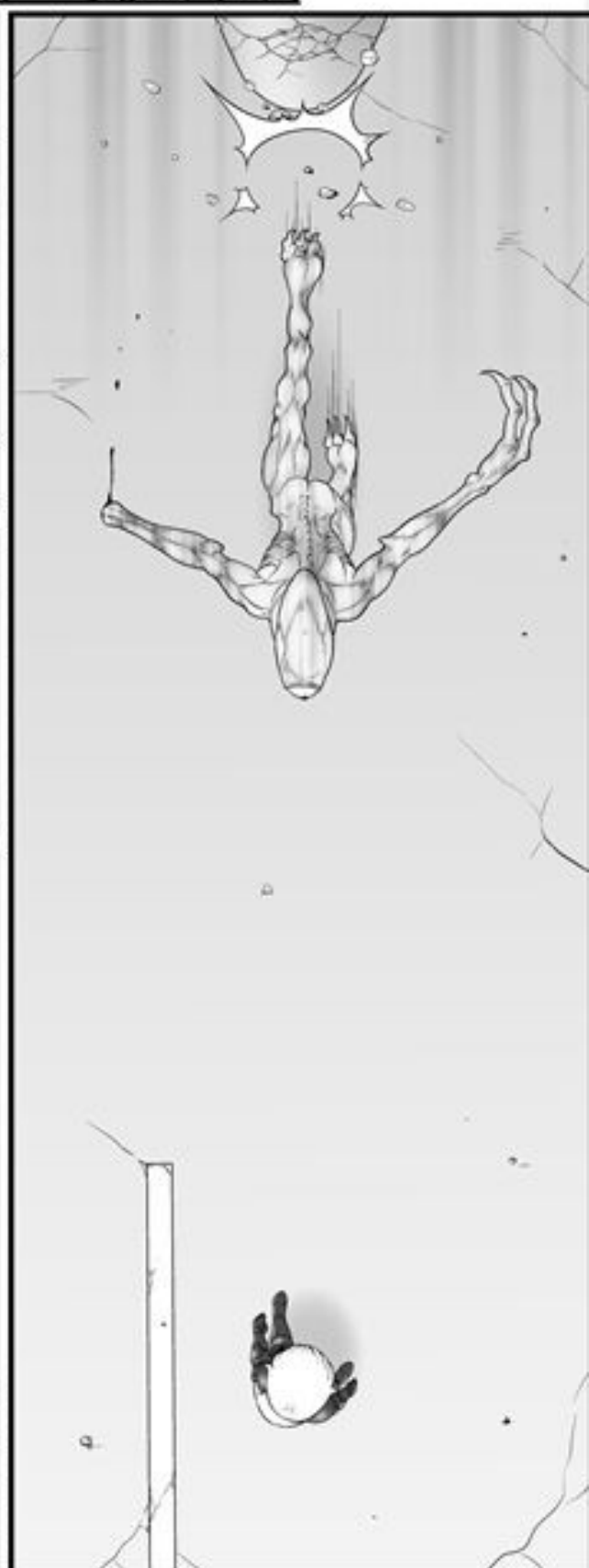




来る



二歩目で
跳ぶ





跳び越えろと
見せかけて

死角

からの

蹴り





右の上段





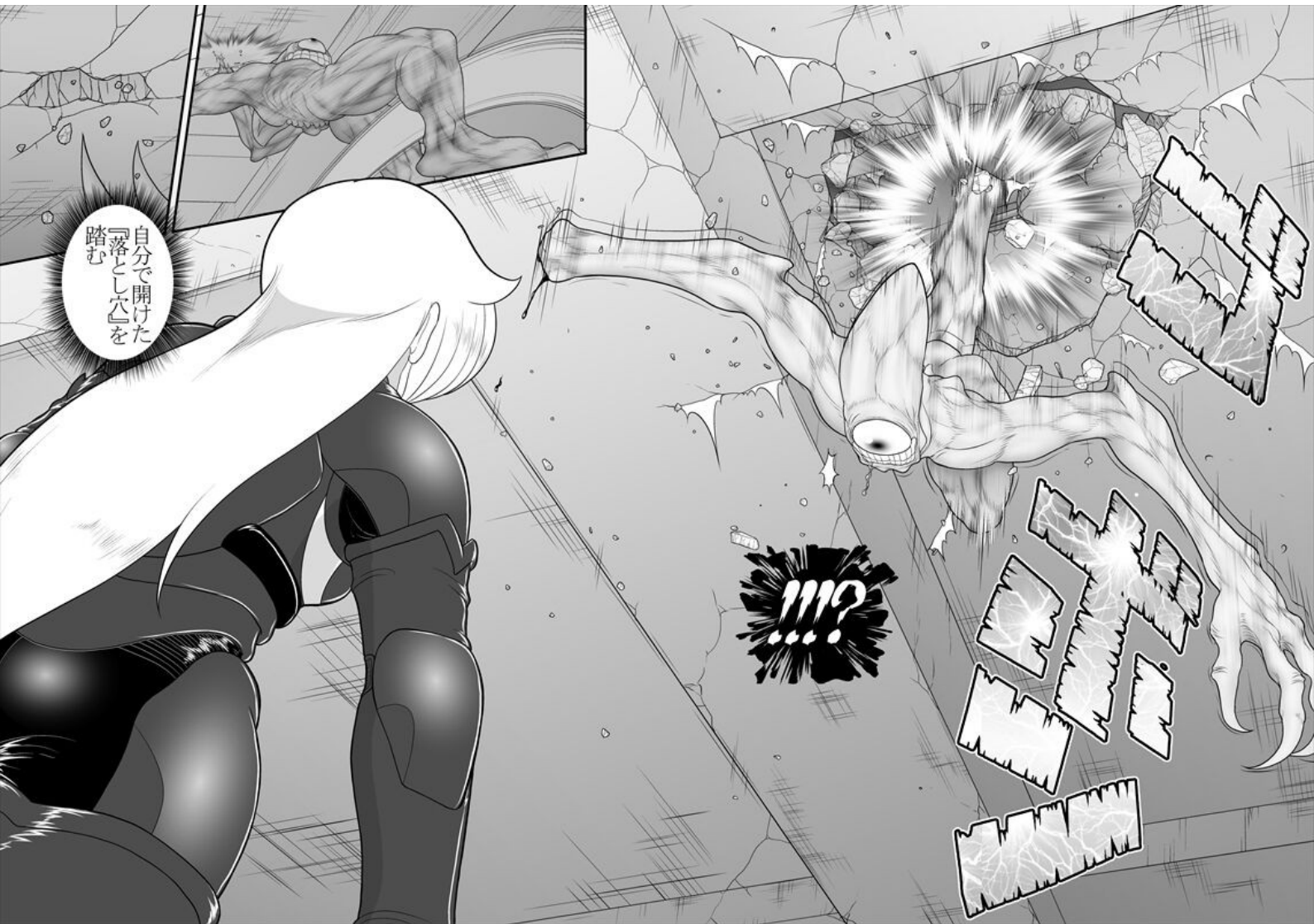
地面を蹴って
跳ね上がり

天井に
着地――



――そう

そこだ







奴の最大の武器は
その異常な反射速度と
機動力を生み出す
両脚

それは踏みしめる
『地面』があつて初めて
威力を発揮する



左から
蹴り上げ

ならば
必然



おい……
メリー
分かって
るな

一発
勝負だぞ

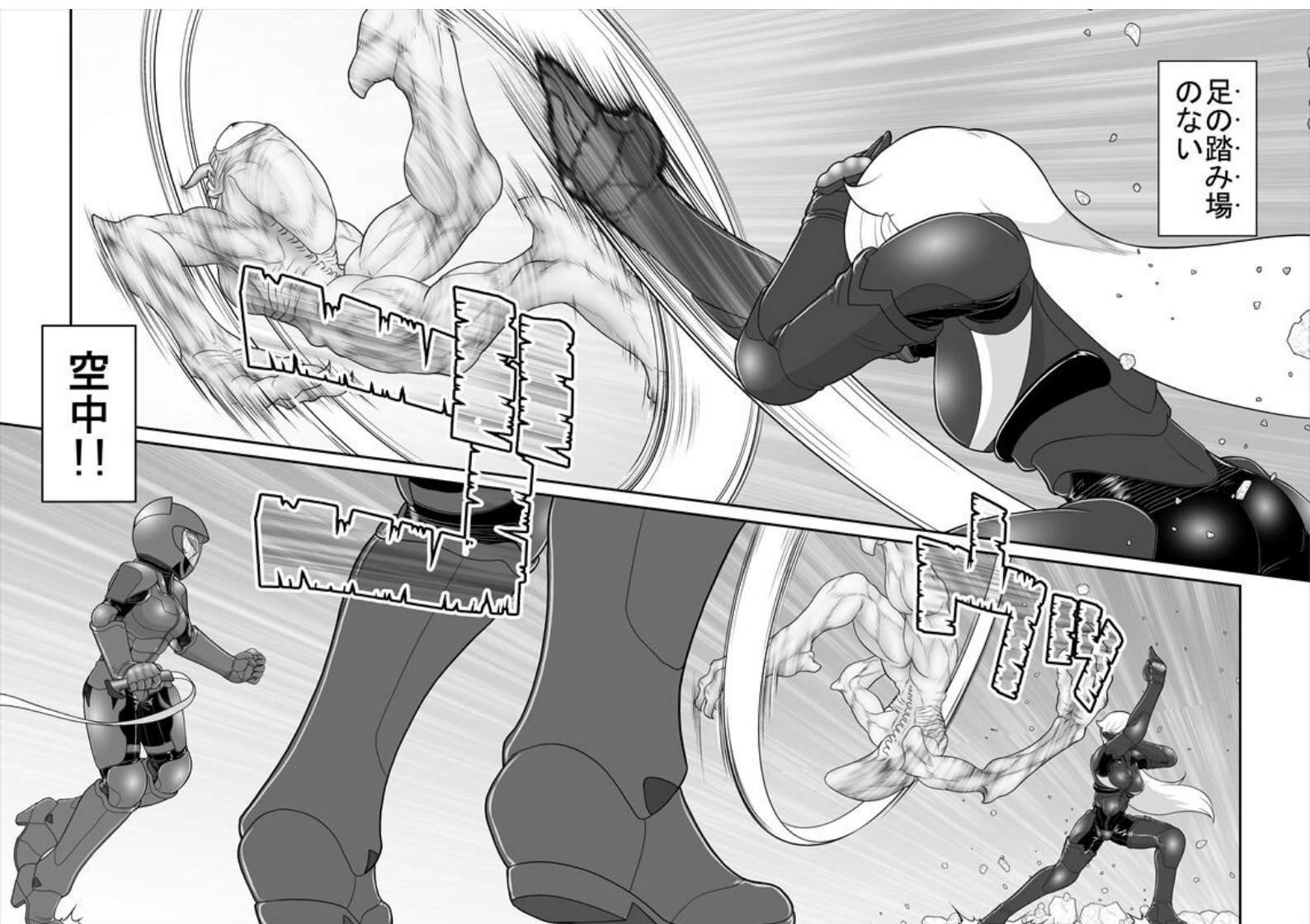
奴の弱点は
その武器を
使えない場所

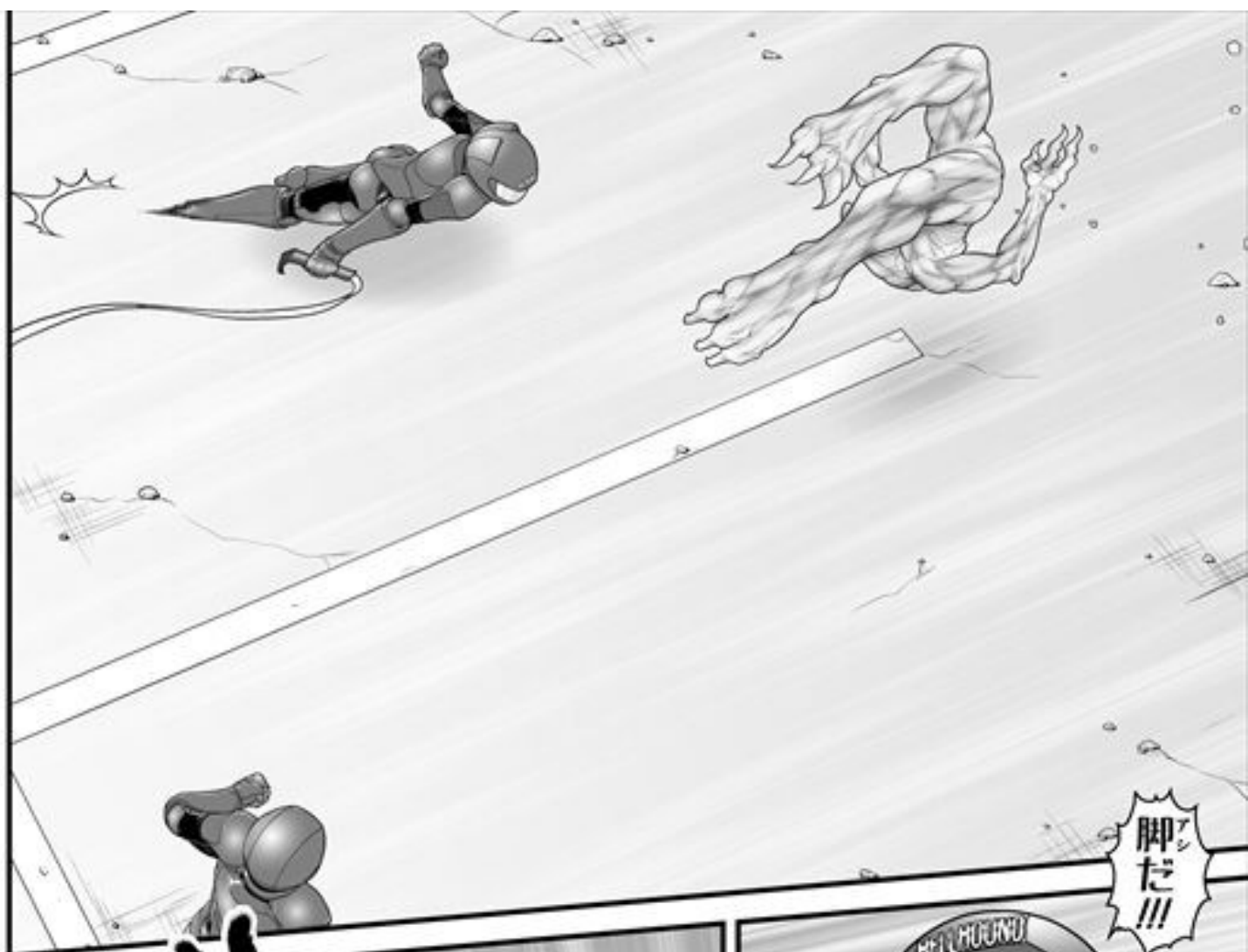
すなわち――

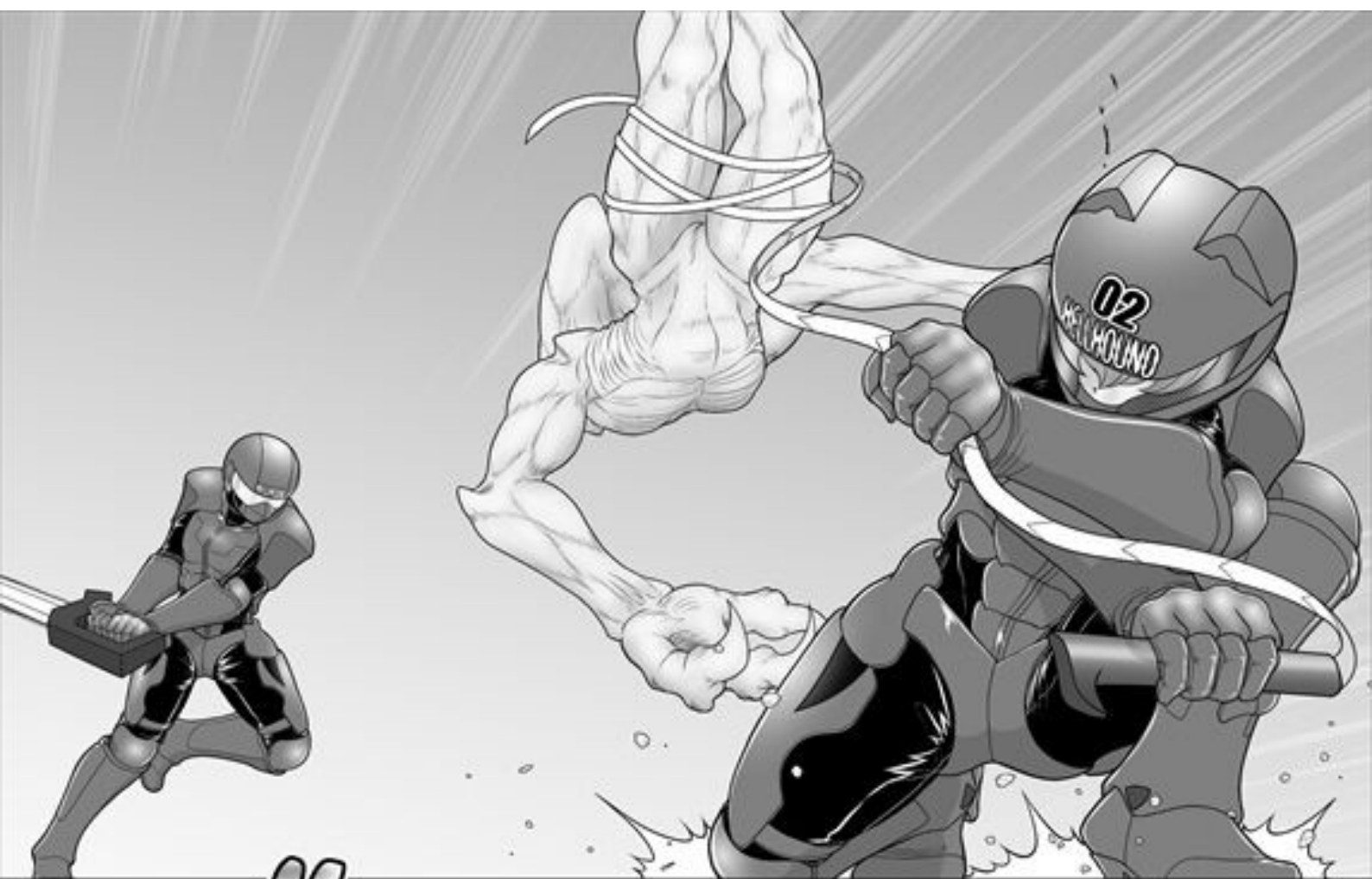


足・の・踏・み・場
の・な・い

空中!!











HYEEEEE
HAAAAA

決まったぜ

ブラッドリー兄妹の
『ブラフディ・タクティクス』
『血まみれ戦法』!!!

さまア
見やがれエ

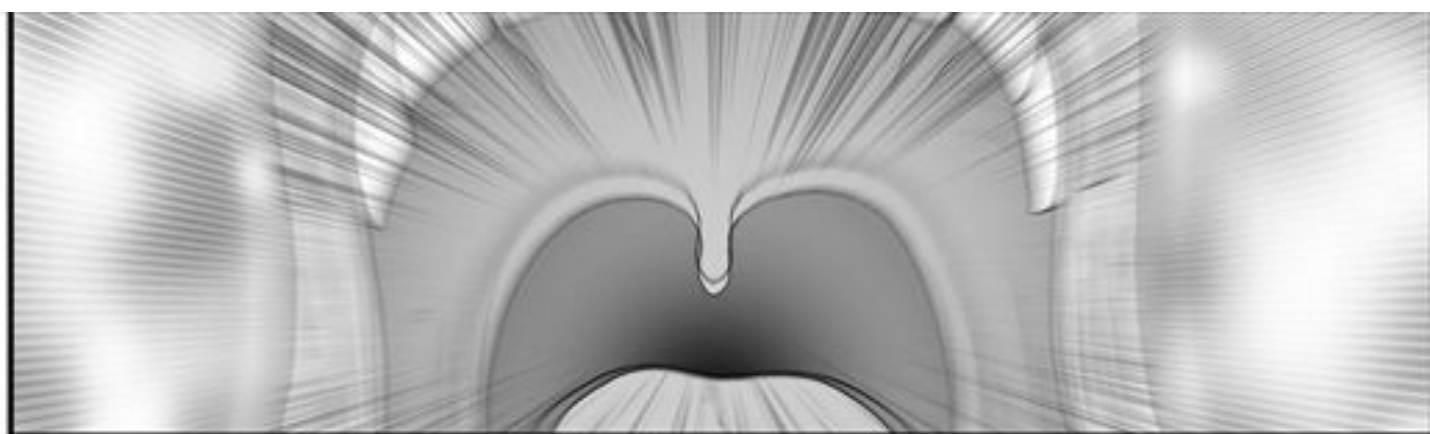


見ろよ
真つ二つ
だぜ
今度こそ
手も足も
出ねエな

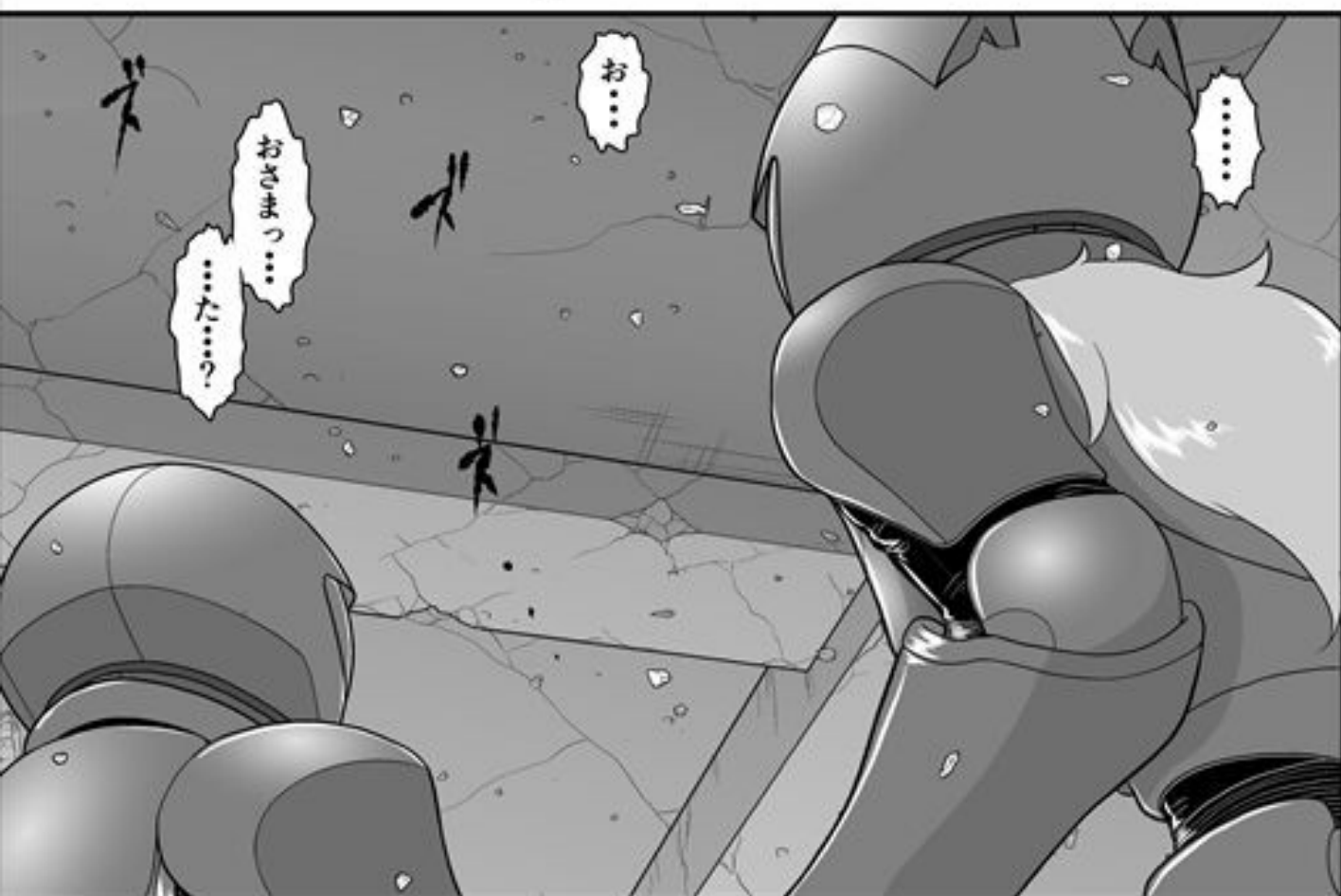
油断するん
じゃねーぞ

首をはねて
確実に止めを
刺せ!!









全神経を
「読み」に集中して

「魔犬」の力も借りて
やっと二匹――

先生なら
息一つ乱さず
捌いただろう

こんな様を
見られたら何て
言われるか……

先生の域には
程遠いな

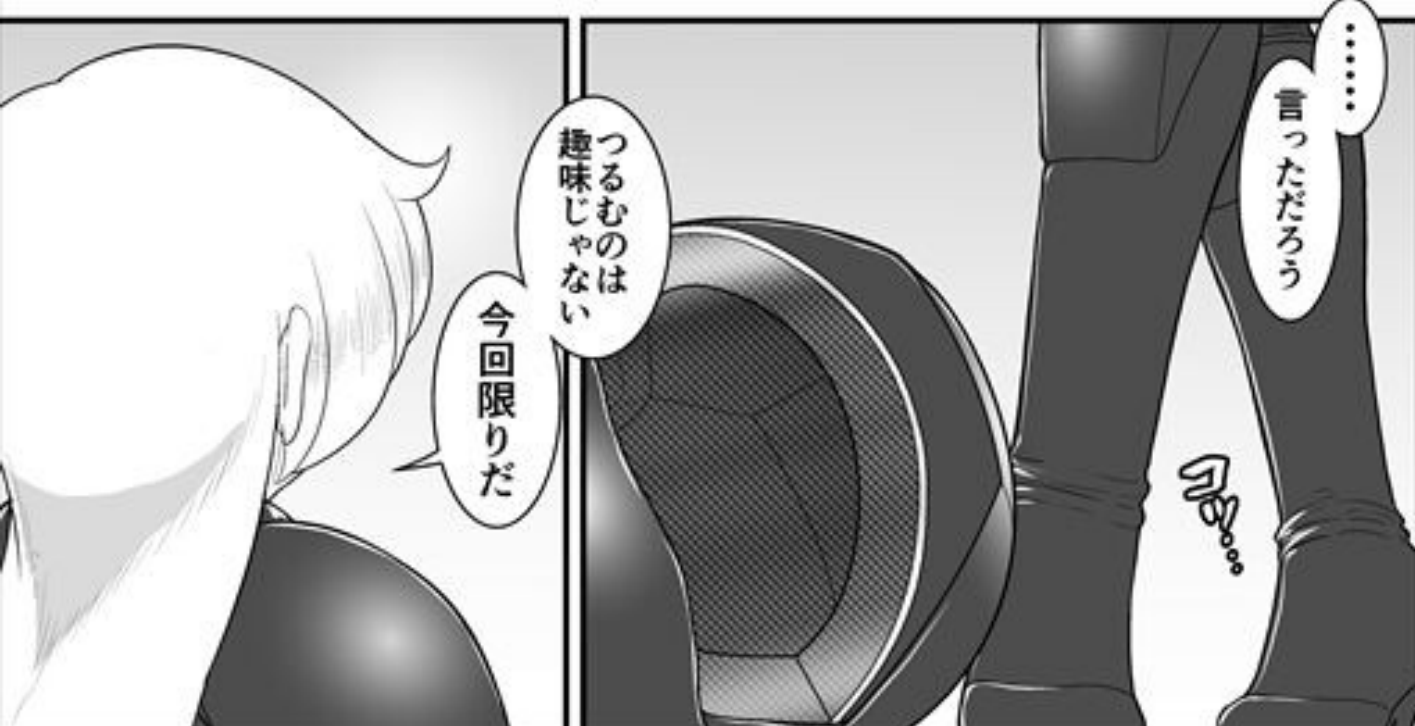
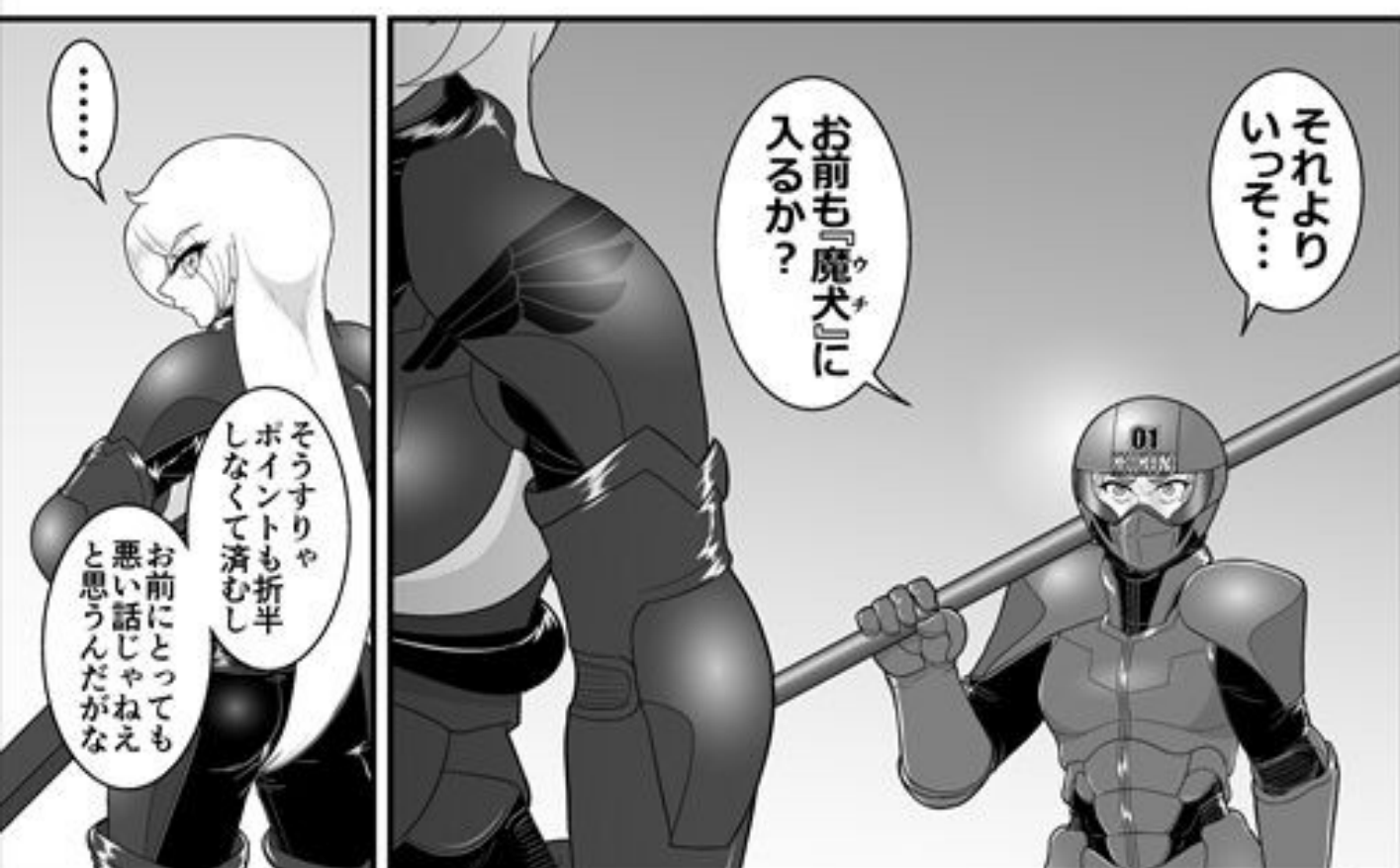
私は……

……たく

油断も隙も
あつたもん
じゃねえ

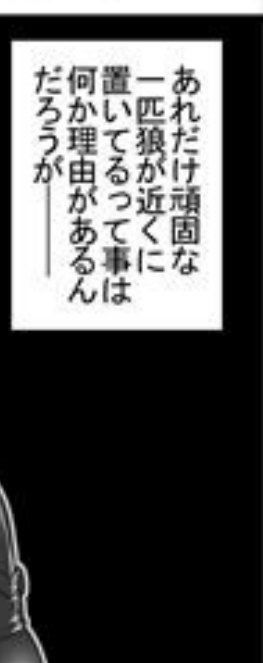
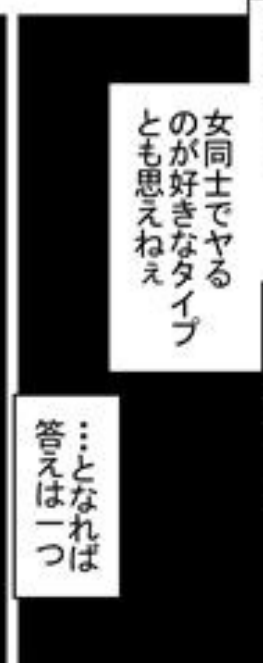
これまで散々
ぶっ殺して
来たが――

こんな奴は
初めてだぜ





…ふん





この話を振った時も
態度が妙だった
やっぱり何か
隠してやがるな



あの金魚の糞が
現れたのは
ちょうど『鉄騎姫』が
ザードを殺つて
のし上がったのと
同じ頃だ



「奴らの情報は
多ければ多いほど
いい」

いつも予想外の
事が起きて
余計な犠牲が出る



あのD地区への
『外征』の時も――

当時オレはまだ
下っ端の分隊長で

別働隊を率いて
任務に当たってた

任務自体は
無事に完了したが

本隊と合流する
途中30匹規模の
「群れ」に遭遇

その中に
「奴」がいた



死者7 重傷4

そのほぼ全員が
そいつ一匹に
やられた

生き残れたのは
運が良かった
だけだ

だがとにかく
生き残った

「サード」撃破と
Aランク任務の
達成――

犠牲は大きかったが
オレ達は浮かれてた

そして
意気揚々と
本隊に戻り、

思い知らされ
たんだ



現実・
奴を——

『外』の
世界の



オレ達が
死ぬ思いで倒した
ザードよりも……

遥かに格上の
怪物の仕業なのは
明らかだ



本隊25人全員の
首なし死体だけが
転がっていた



そこに奴らの
痕跡は無く



……いや
実際は分からねえ
真っ暗だったし
距離もあった

だが間違はなく
“奴”はオレ達を
見ていた



気付いたのは
オレ達二人
だけだ

妹はオレの
背中隠れて
震えていた

まあそれも
無理はねえ

正直オレも
少しチビった
からな……



無事に街に
帰還しチームは
英雄として
迎えられたが

オレ達には
敗北感だけが
残った

あの時奴は
オレ達を皆殺しに
することもできた
はずだ

理由は分からねえ
……だが、
『逃がした』んだ

オレにはそれが
我慢ならねえ

『逃げる』のは
いい

戦略的撤退も
作戦のうちだ

だが……
『見逃される』
のは話が違う

それは侮辱だ……
奴はオレ達を
嘲笑いやがった

『顔を洗って
出直して来い』
ってな……

この屈辱は
奴をブツ殺す
事でしか
晴らされねえ

後悔させてやる

オレ達を生かして
帰したことを――

もしあいつらが
“奴”の情報を
持ってるのなら

オレが必ず
吐かせてやる

そのためなら
手段は選ばねえ



三人まとめて
拉致してやりやあ
話は早いんだが――

あいつは二筋縄じゃ
いかなそうだし

バレたら後が面倒
だからな……



……答……しろ……
……聞こえるか？



おう

そっちは
どうだ？

……そりゃ
こっちの台詞
だぜ

お前ら
何やってんだ？

非常階段で
各階確認しながら
屋上まで上がって
来たんだぞ

そっちが先に
着いてなきや
おかしいだろ

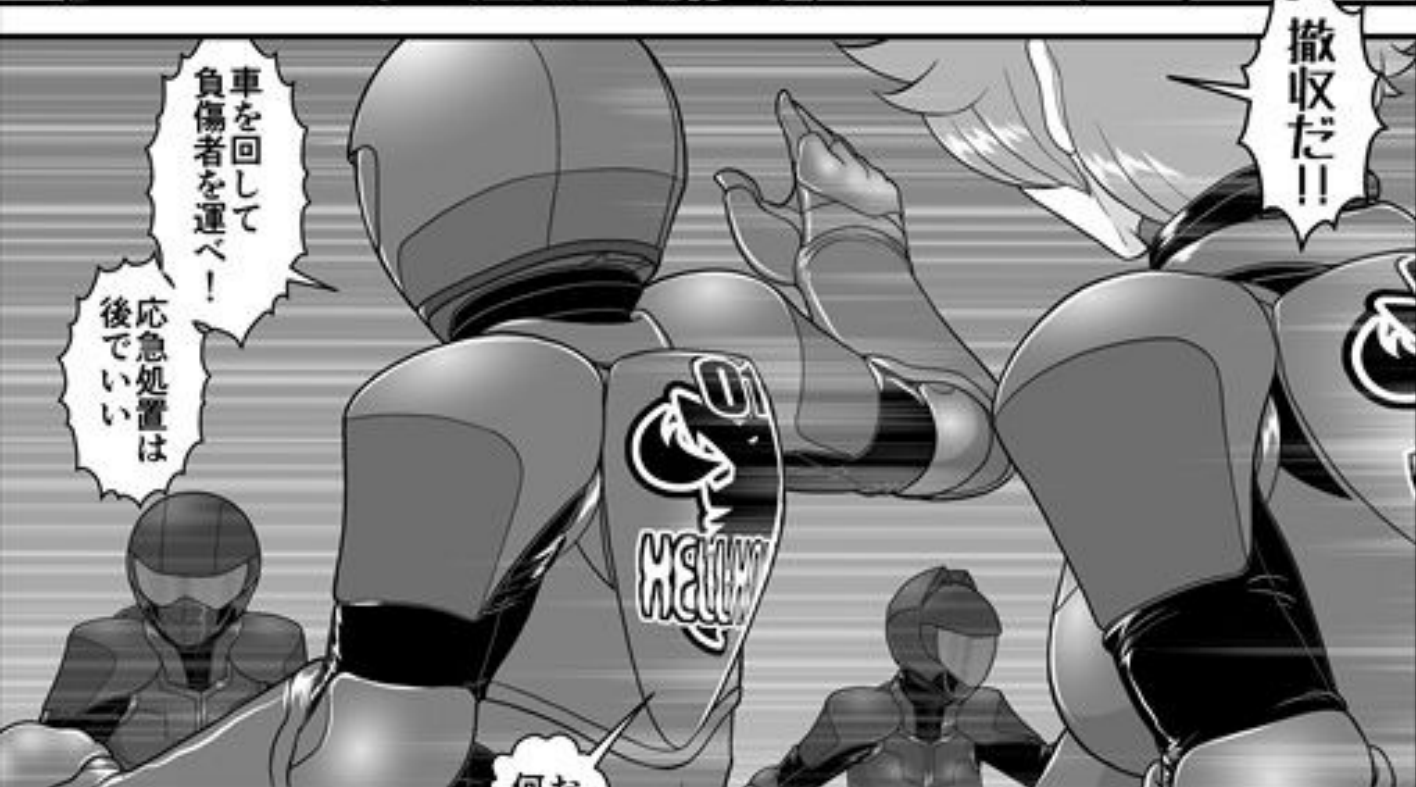
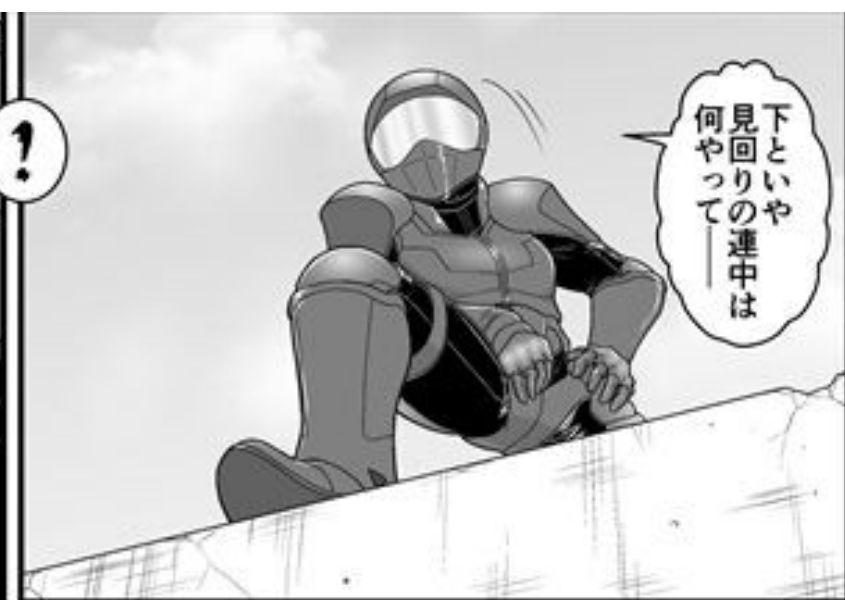
無線も急に
通じなくなっ
てつきり全滅
したのかと期待
しちゃったぜ

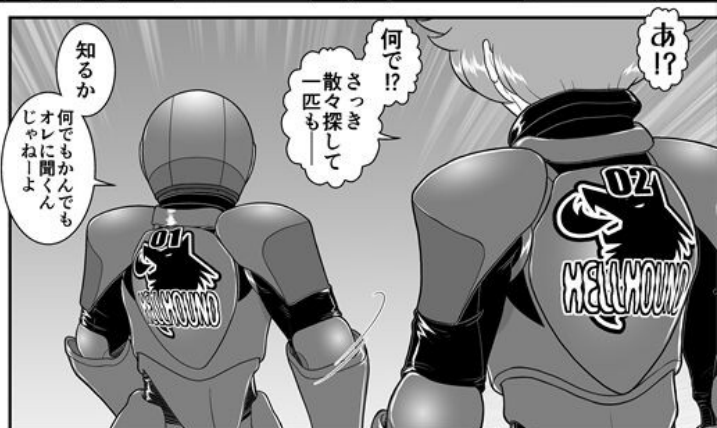
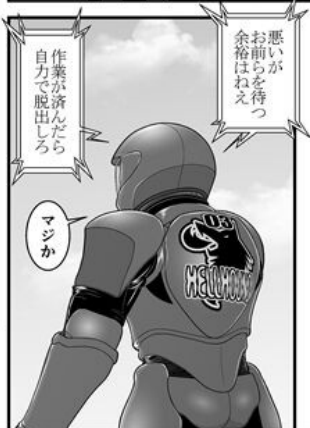
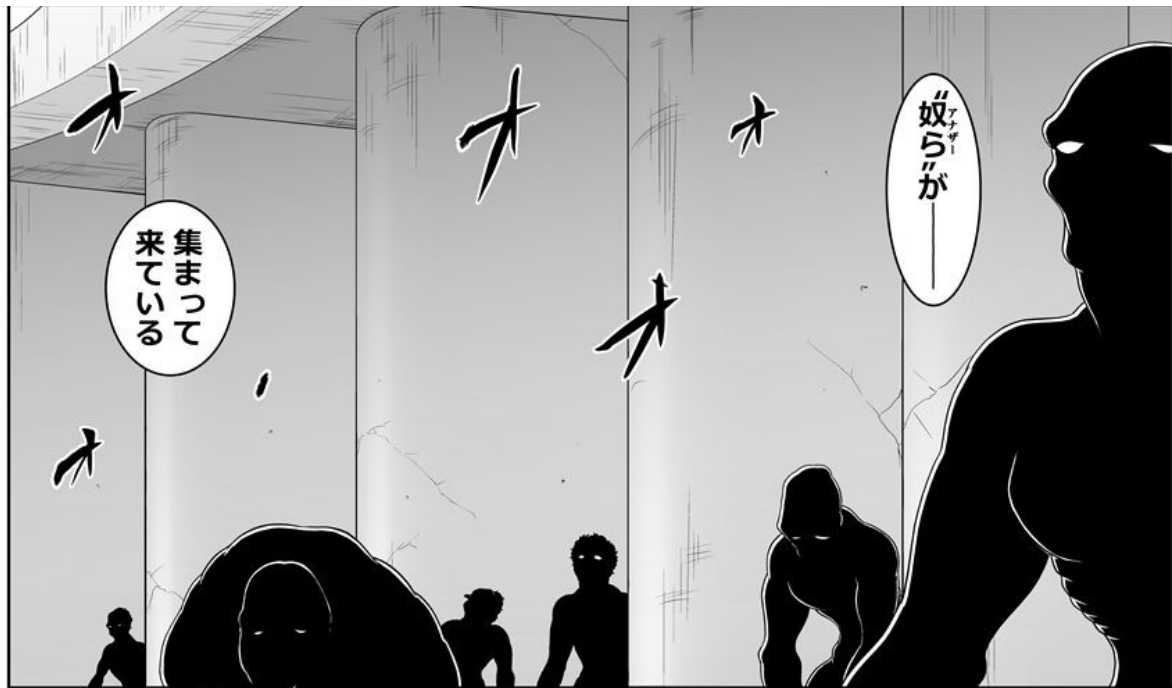


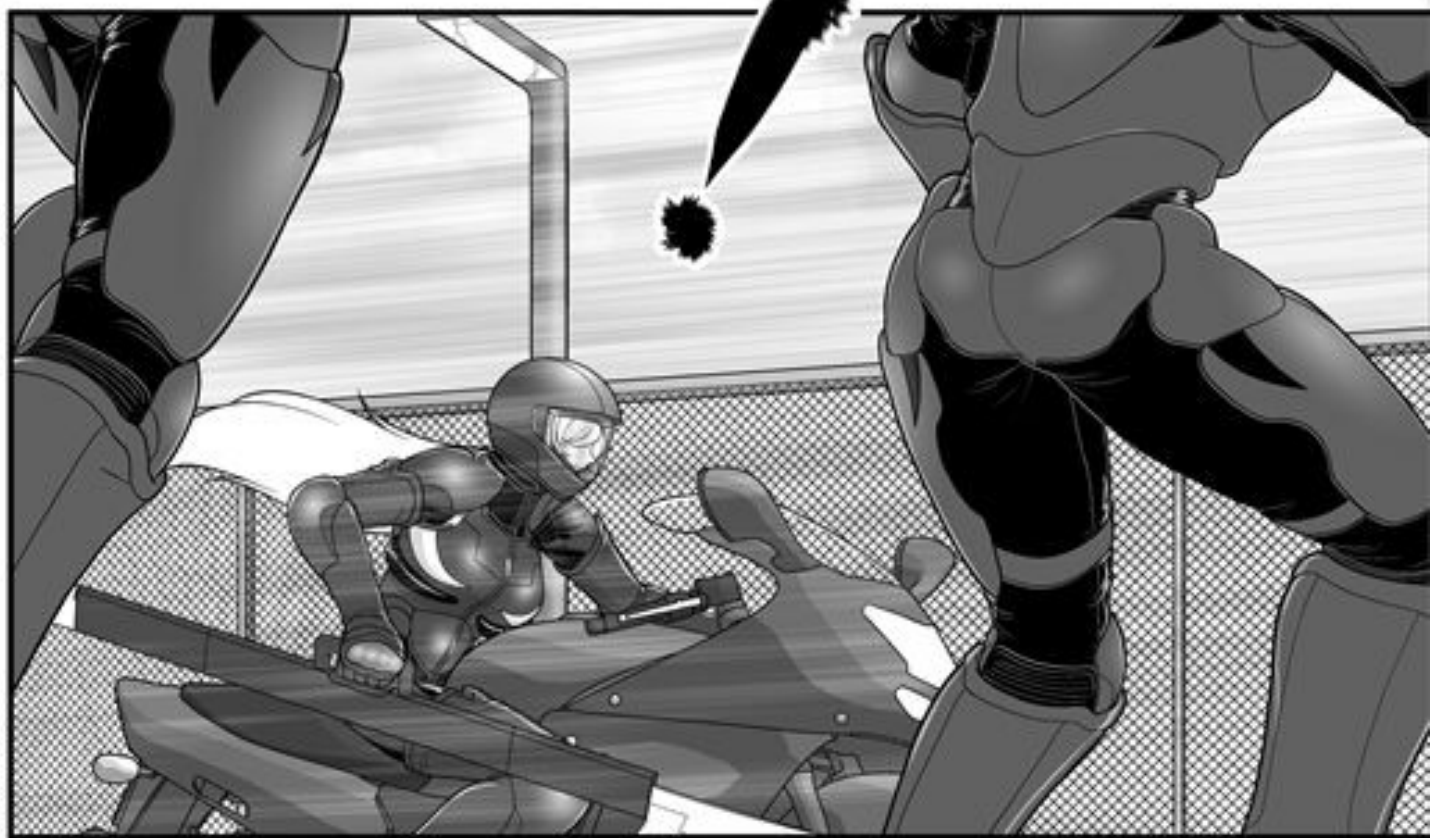
そいつあ
残念だったな

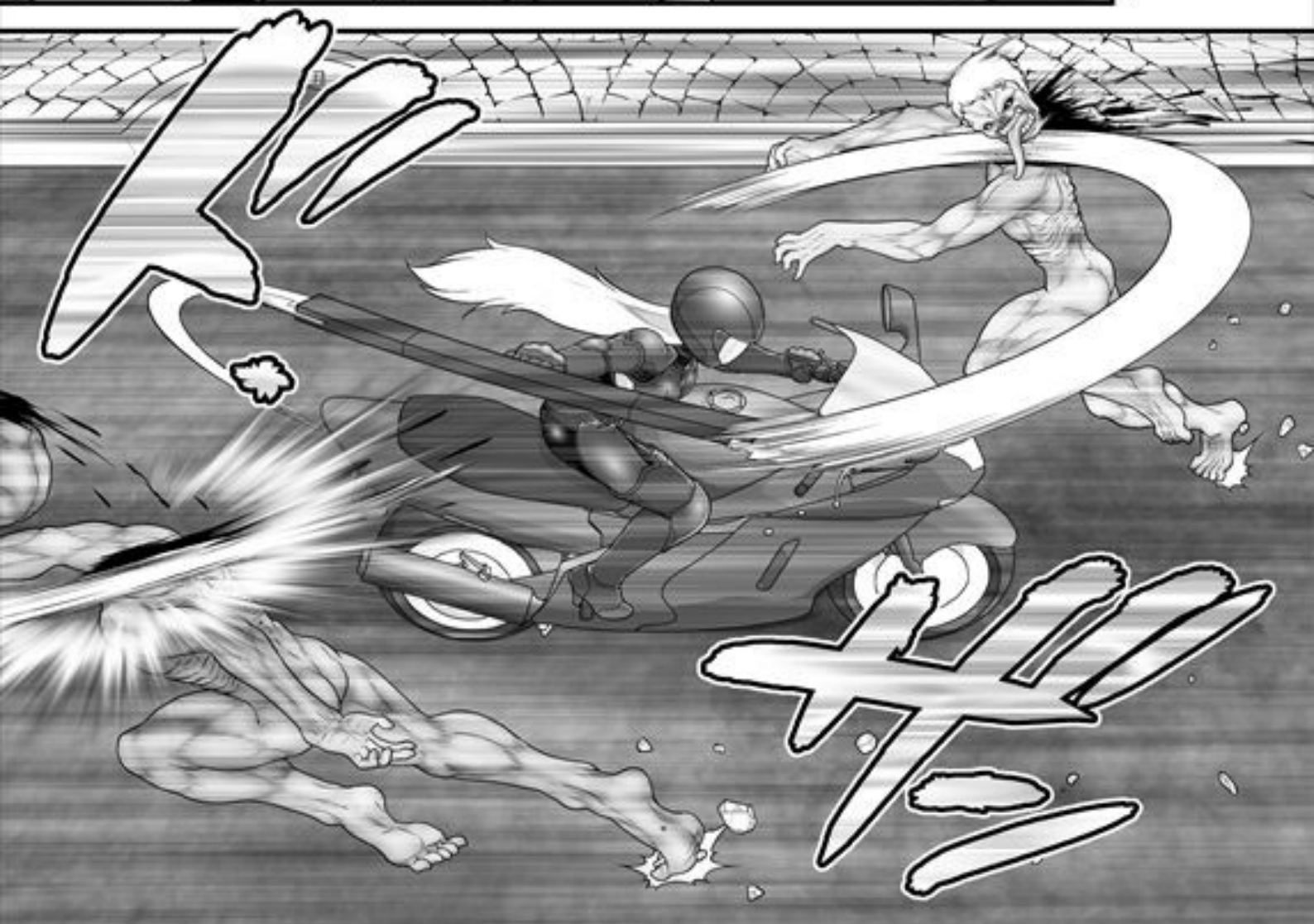
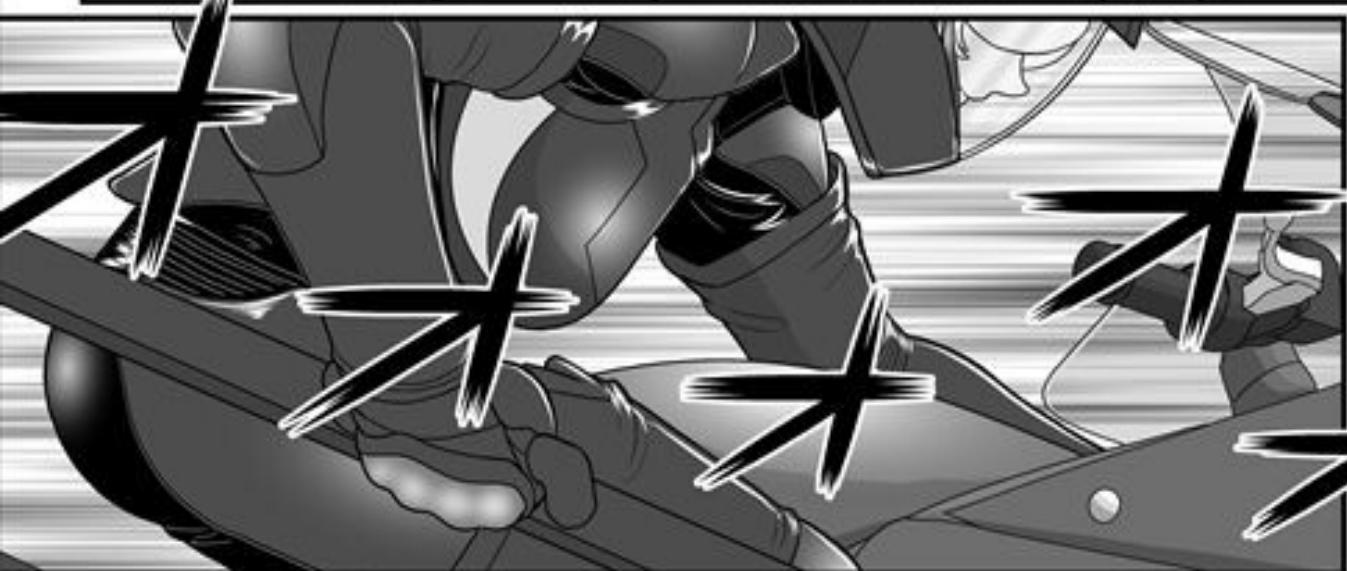
まだ誰にも
ボスの座を譲
気はねーよ



















…しかし惜しいな
あれだけの腕があれば
どこのチームだろうと
引く手数多だろうに

金にも名誉にも興味がねえ
かといってオレ達と同類の
戦闘狂でもねえ
“鋼鉄の処女”とは
よく言ったもんだぜ



オレは欲しい物は
必ず手に入れる

それまでせいぜい
長生きしてくれよ



…だがそれでこそ
落とし甲斐があるって
もんだ



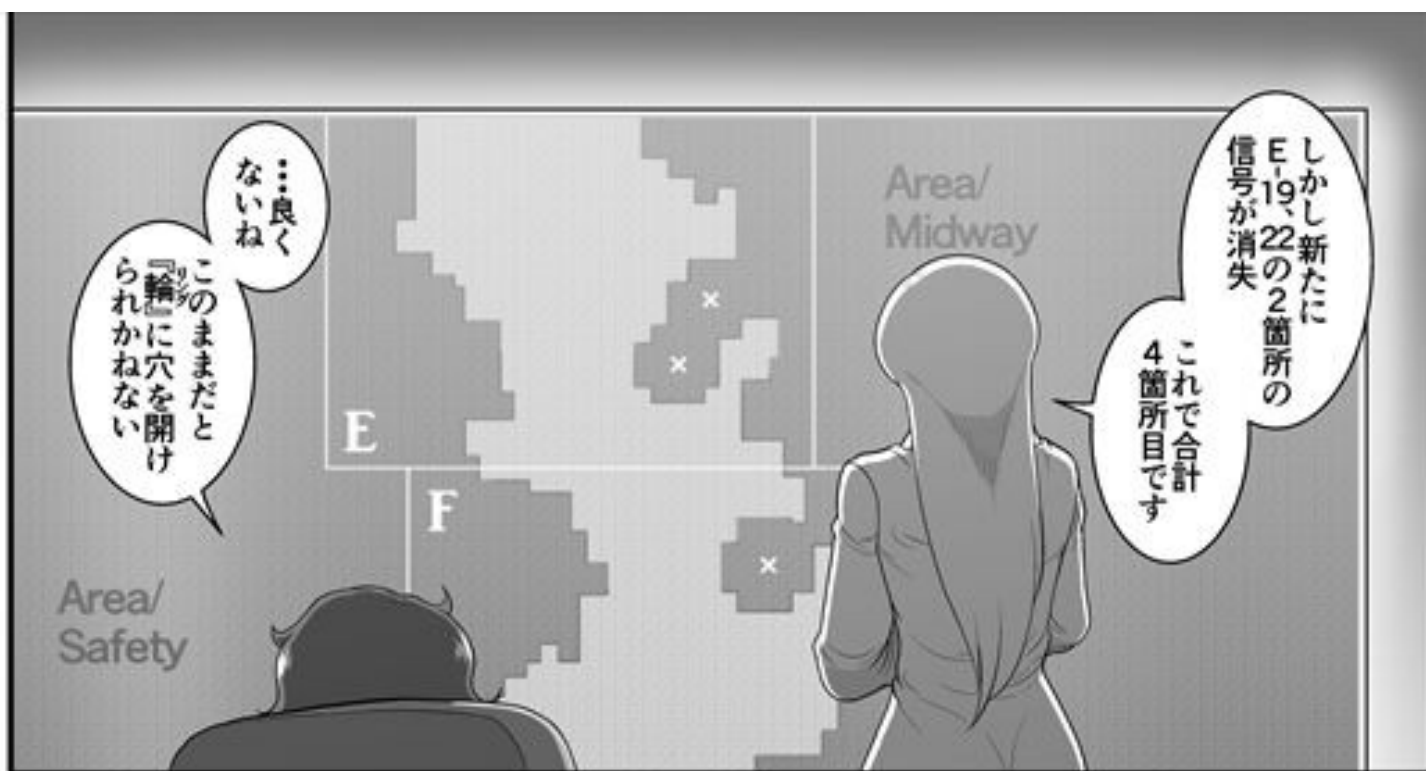
—そうか



博士

ポイントC-7の
装置の信号が復活

再起動を
確認しました





ただのね

仮説

仮説だよ



INFORMATION
ANALYSIS
ROOM

そんな知能が
あるとは思え
ませんし……
そもそも近づけ
ないのでは？

まさか
奴らが自律的に
装置を破壊した
と……？



え？

……そうか
ちょっといい

いや……
C-7の担当にも
戻ったら詳しく
話を聞いてくれ

何か変わったか
どうかな



……ところで
残りの装置の
改修は誰が？

F-9には
ランキング5位
『真紅の風』が
当たっています

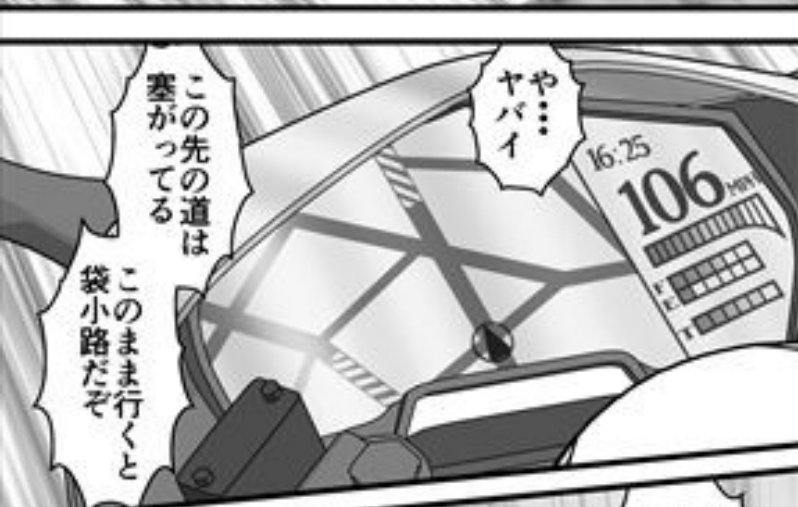
エリア
M地区での任務の
ついでにこなして
来るとの事で……



私の仮説が
正しければ

恐らくは
今頃――









なっ!?

はっ!?

はっ!?

え!?



なっ…

何だ!?

転倒!?

何でこの程度の
カーブで—

今……
何かが上から
飛んできた
ような……?

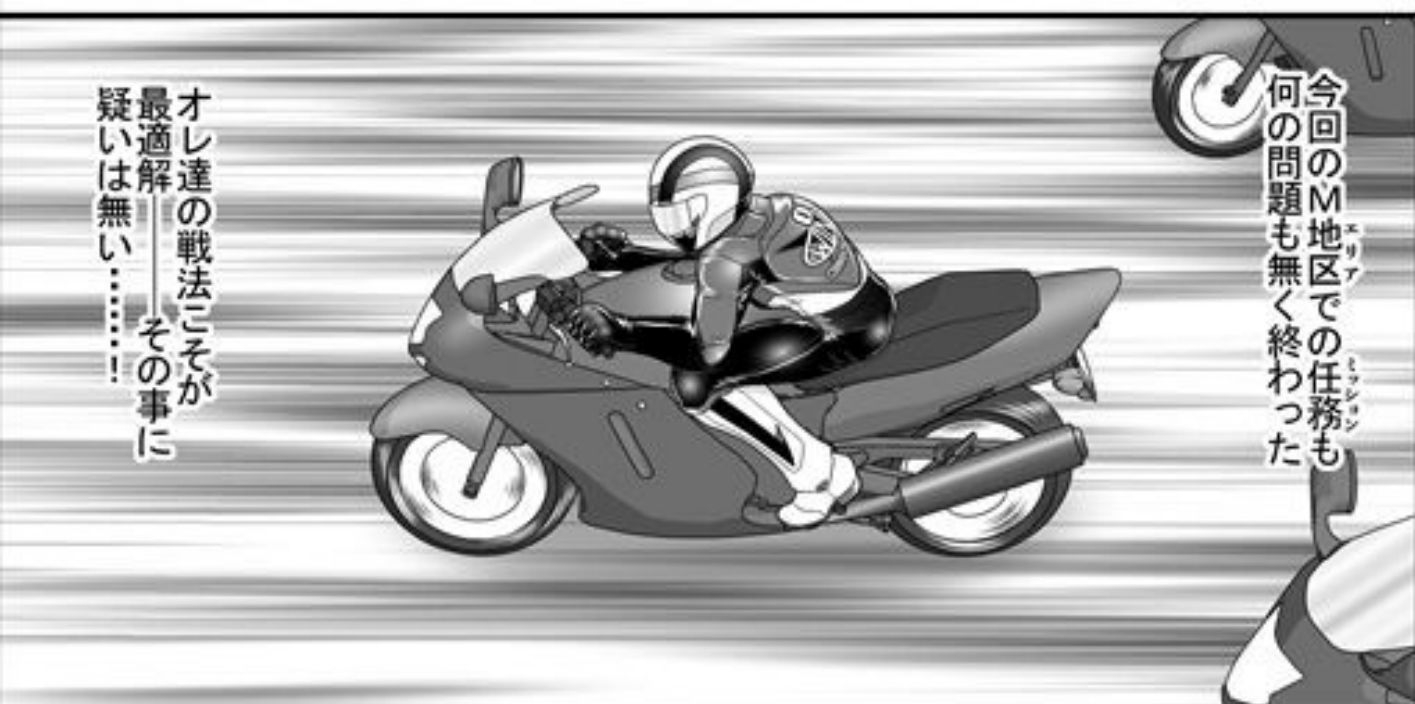
ド
ド
ド
オ
オ



スリツは軽量化重点
防護能力は最低限の
プロテクターと
緊急保護機能のみ
武器もめったに
使わない



『真紅の風』は
スピードを極めた
走りのチーム
バイクは
走りに集中する為の
特別チューン



今回のM地区での任務も
何の問題も無く終わった

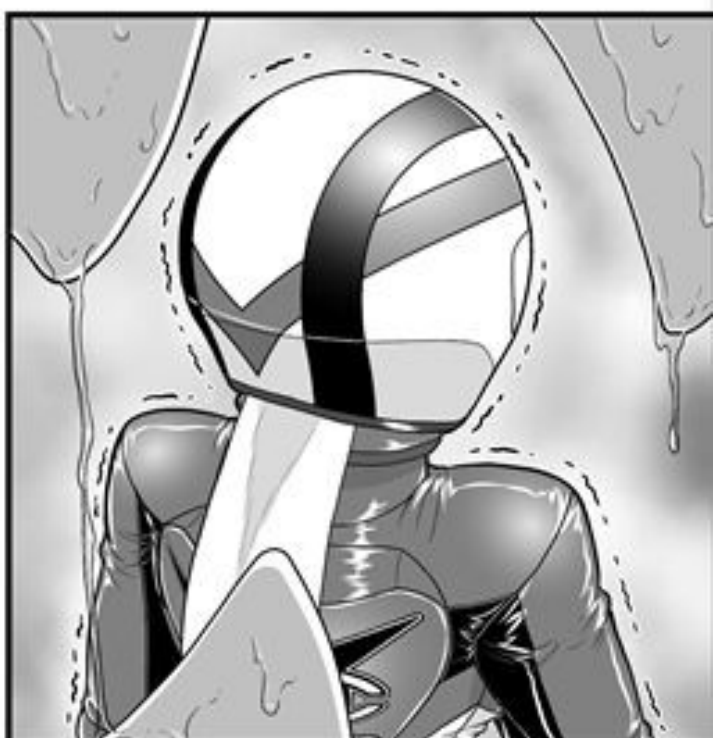
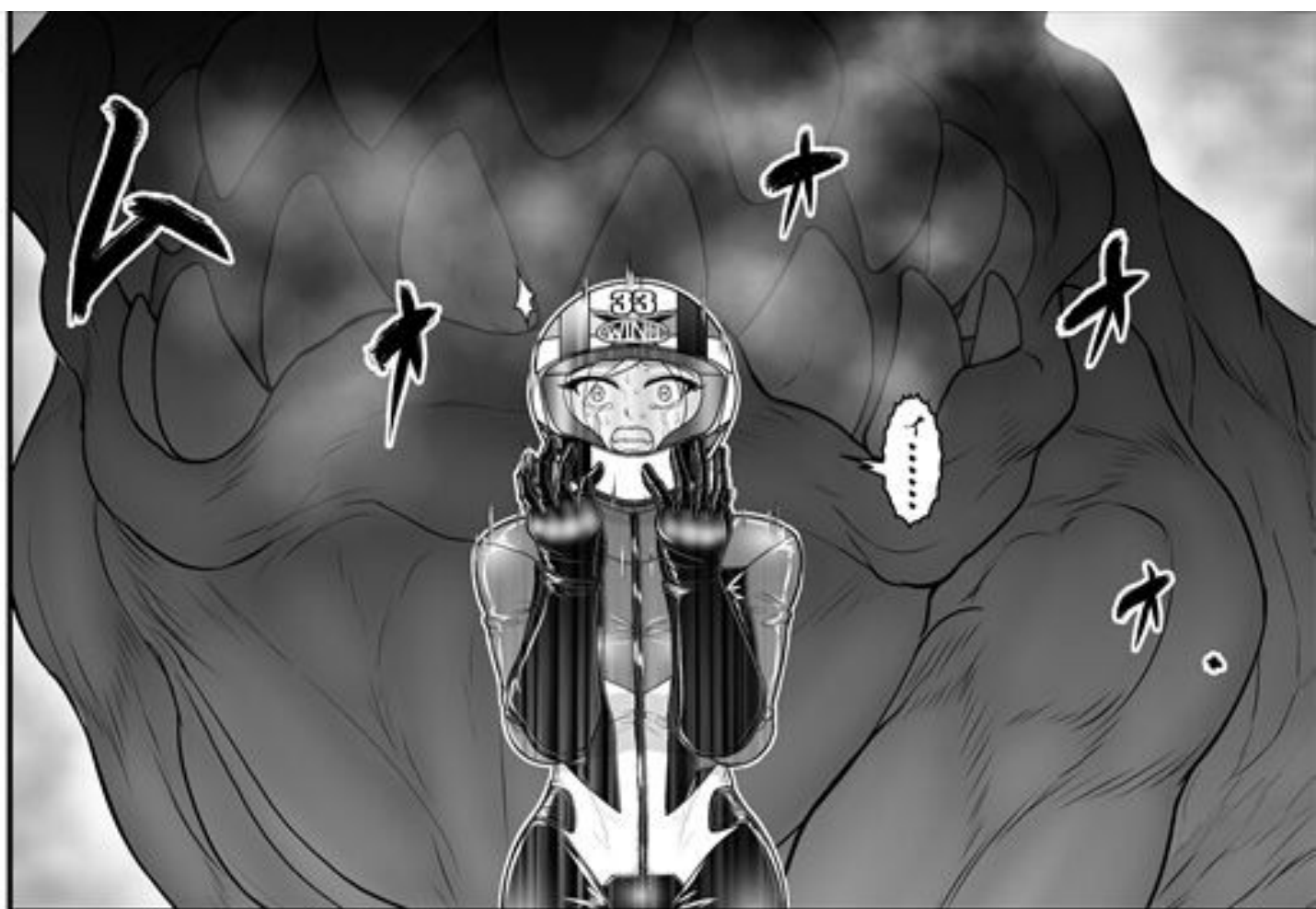
オレ達の戦法こそが
最適解……その事に
疑いは無い……!!



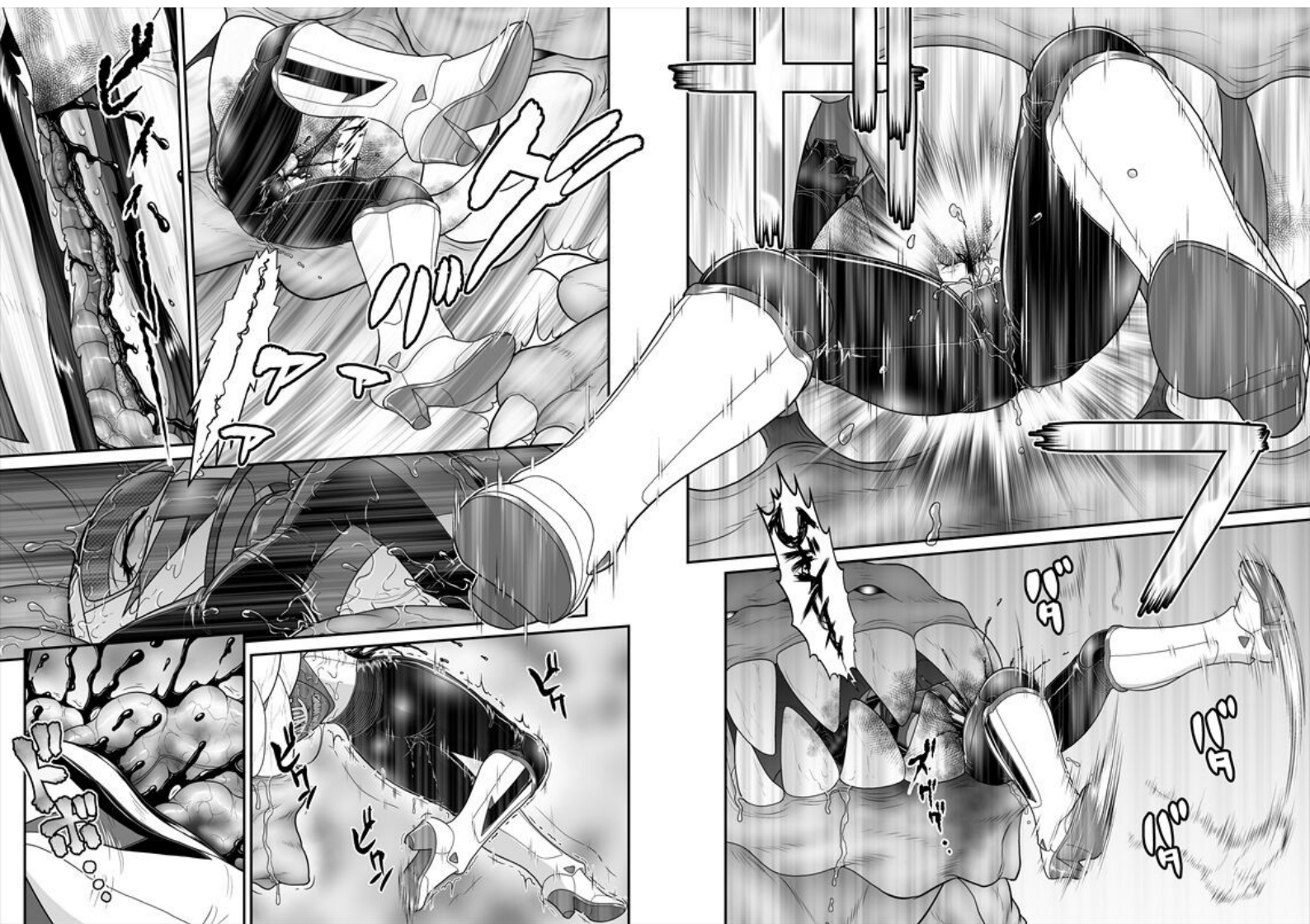
ぎやあああああ
あああああああ

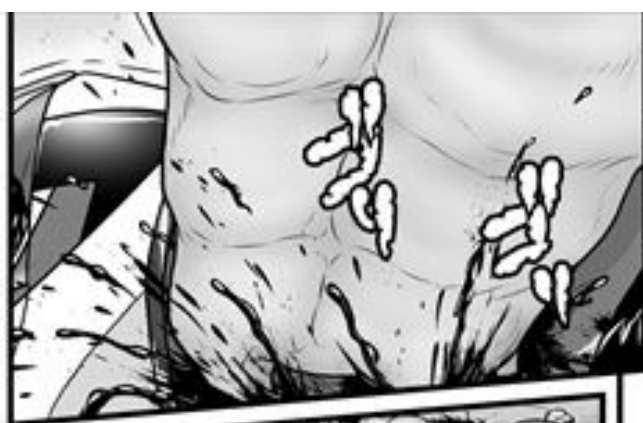


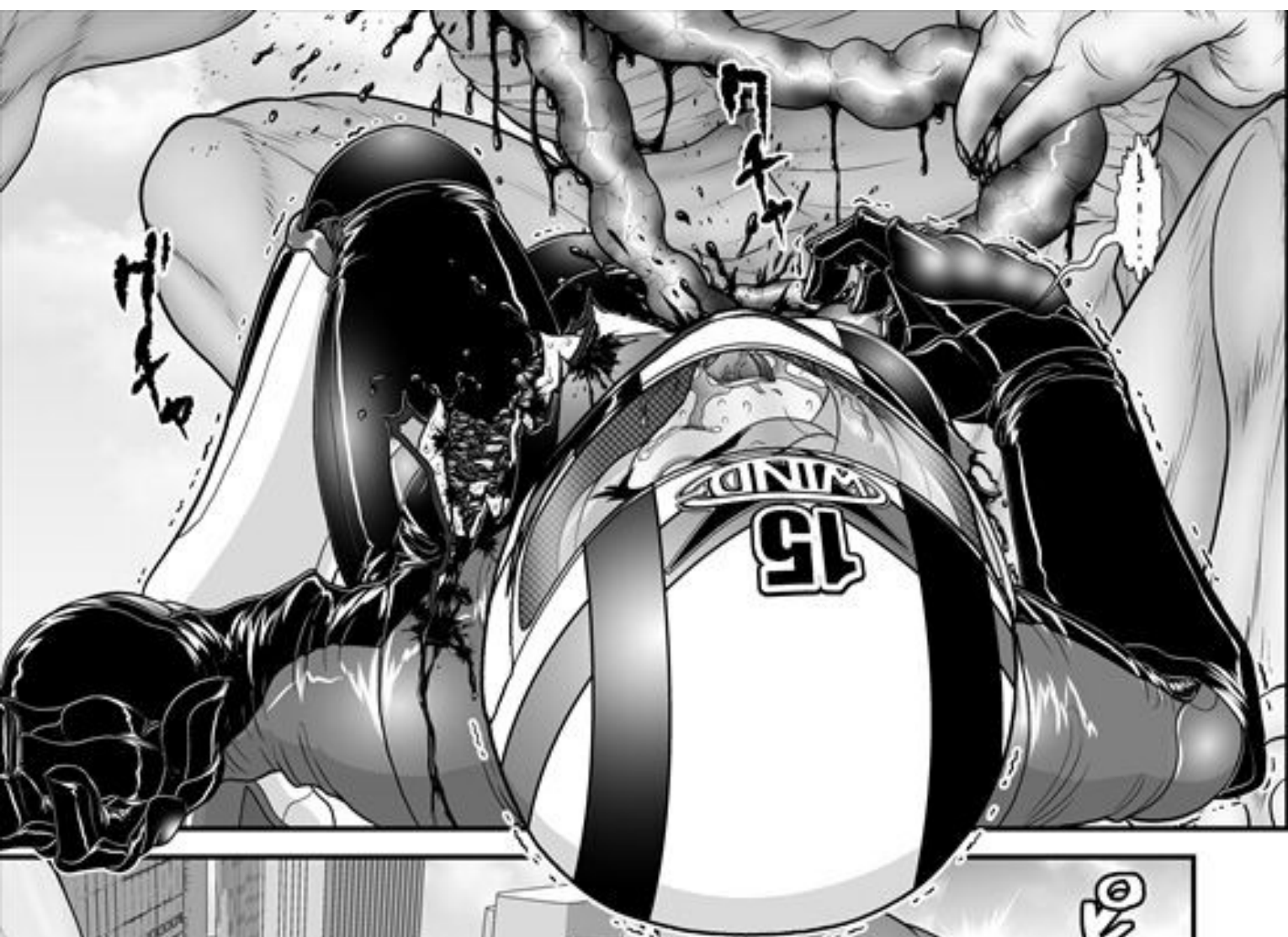


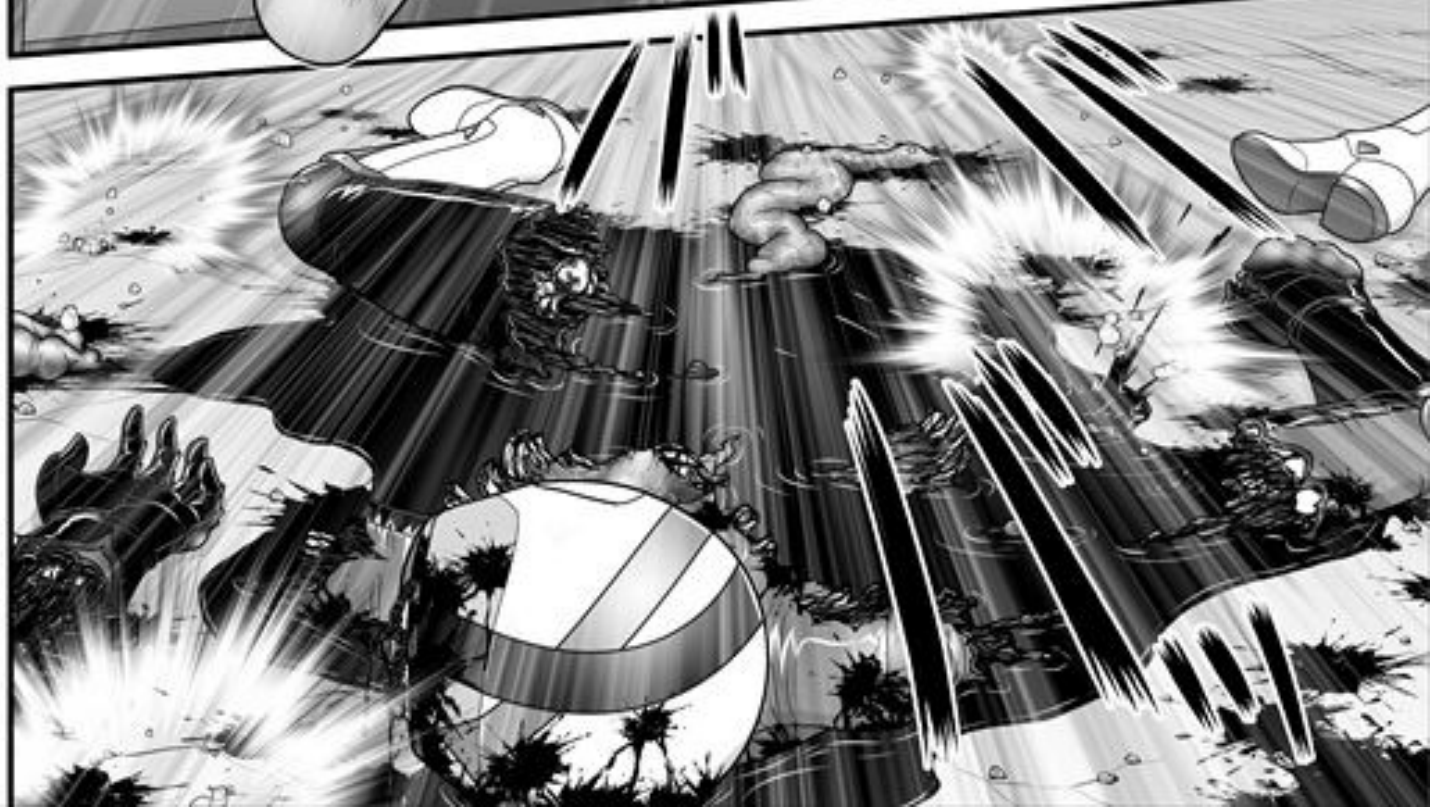
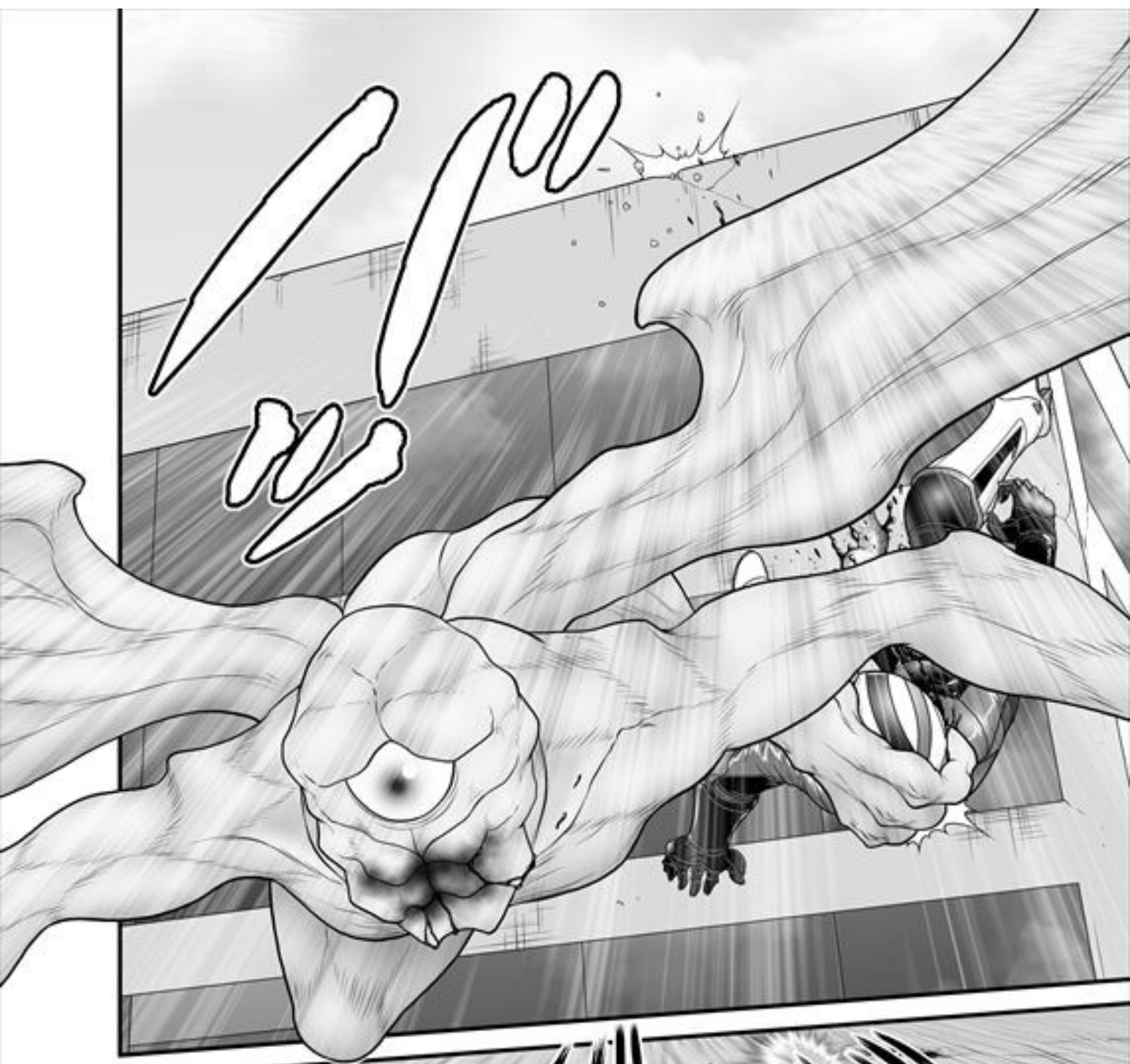
















——後ろ
どうだ？

まだついて
来てるか？

いや……
見えない

3回も方向
変えたんだ

さすがに
撒いただろ



やられたのは
……3人か？

……最悪だな

境界エリアで
何でこんな
事に……

最初の5人と
合わせて8人も……

だが――

あいつらがエサに
なってくれたおかげで
オレ達はこうして
逃げられた



せめて
その事に感謝
するべきだ

食欲しか
頭に無い単細胞
共にもな



——おい
まずいぞ
新たな問題
浮上だ

グルグル回った
せいでバッテリーが
尽きかけてる

一度エンジン
掛けないとS地区
まで持たないぜ

よし……！
一旦ストップだ

一息入れて
ルートを確認する

いいかまだ
油断するなよ

用が無ければ
バイクから
離れるな

小便は
S地区まで
我慢しろ

S地区までは
最短ルートでも
20kmくらいか……

微妙なところ
だな

市街地さえ
抜けちまえば
一直線だ

そうなりや
いくらでも爆音
鳴らして全開で
走れるんだが

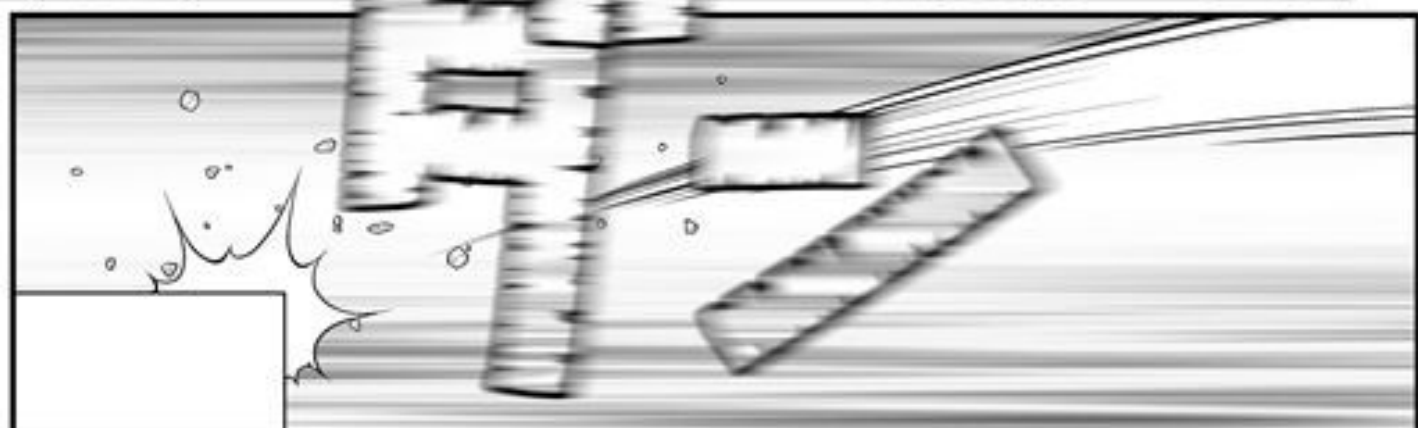
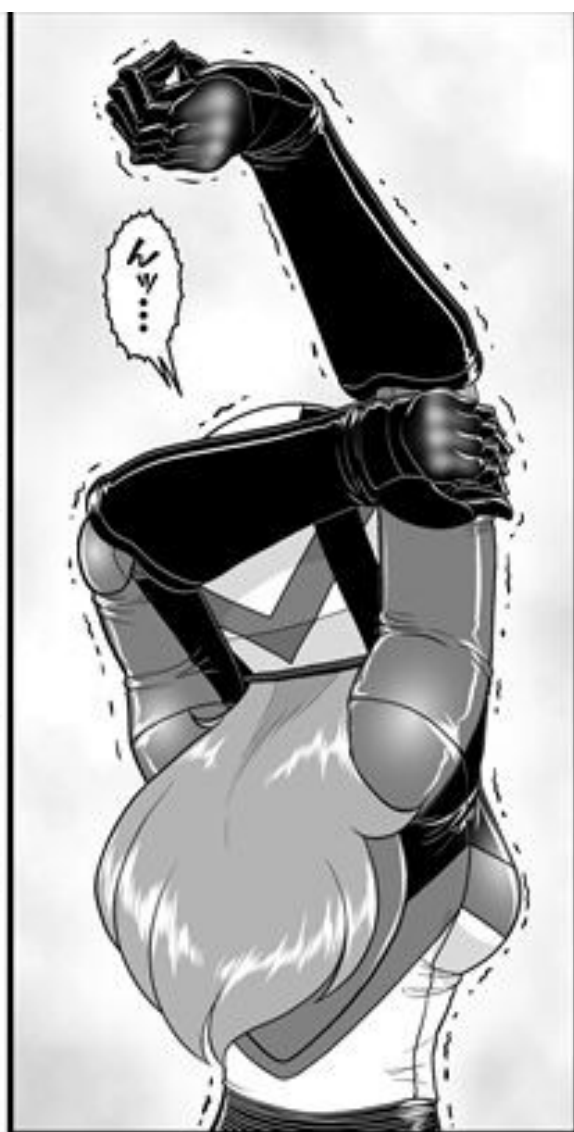
ちょっと待て……

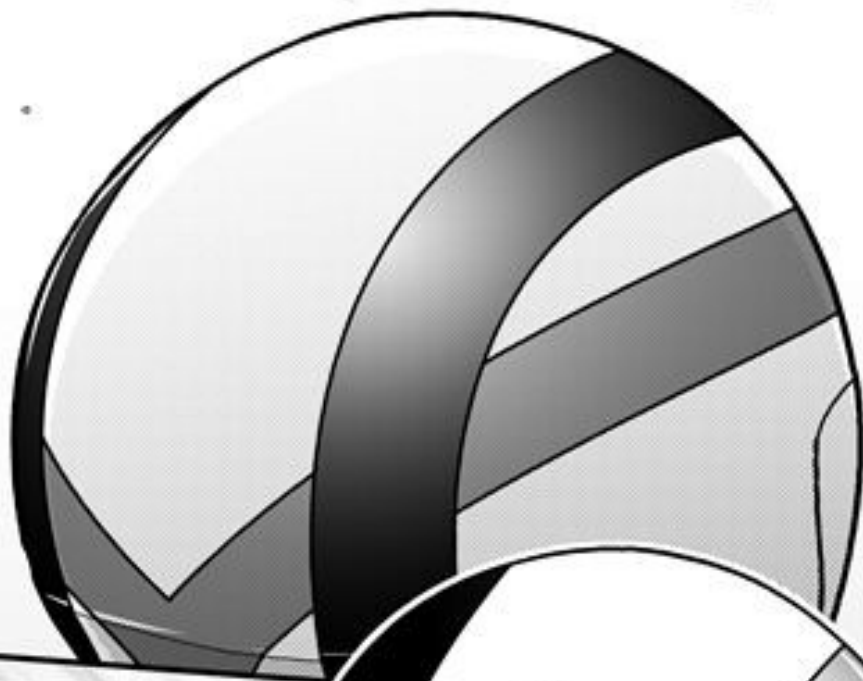
南に8km行くと
ハイウェイに出るが
防音壁があって
奴らは入って
来れない
遠回りだが
そっちが確実だ

よし……
それで行こう

街中で奴らの
注意を引くのは
避けたい

休憩はあと1分だ
準備しておけ



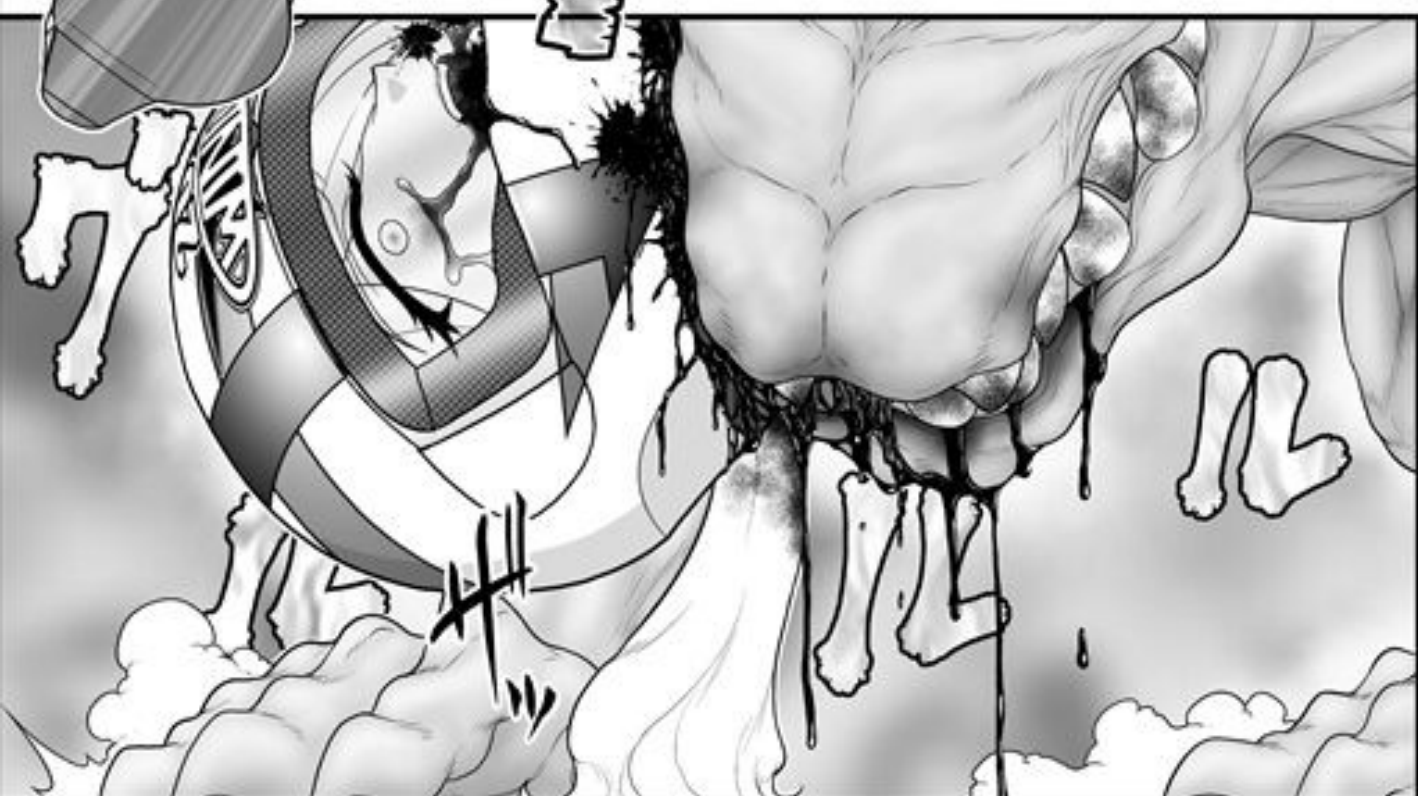


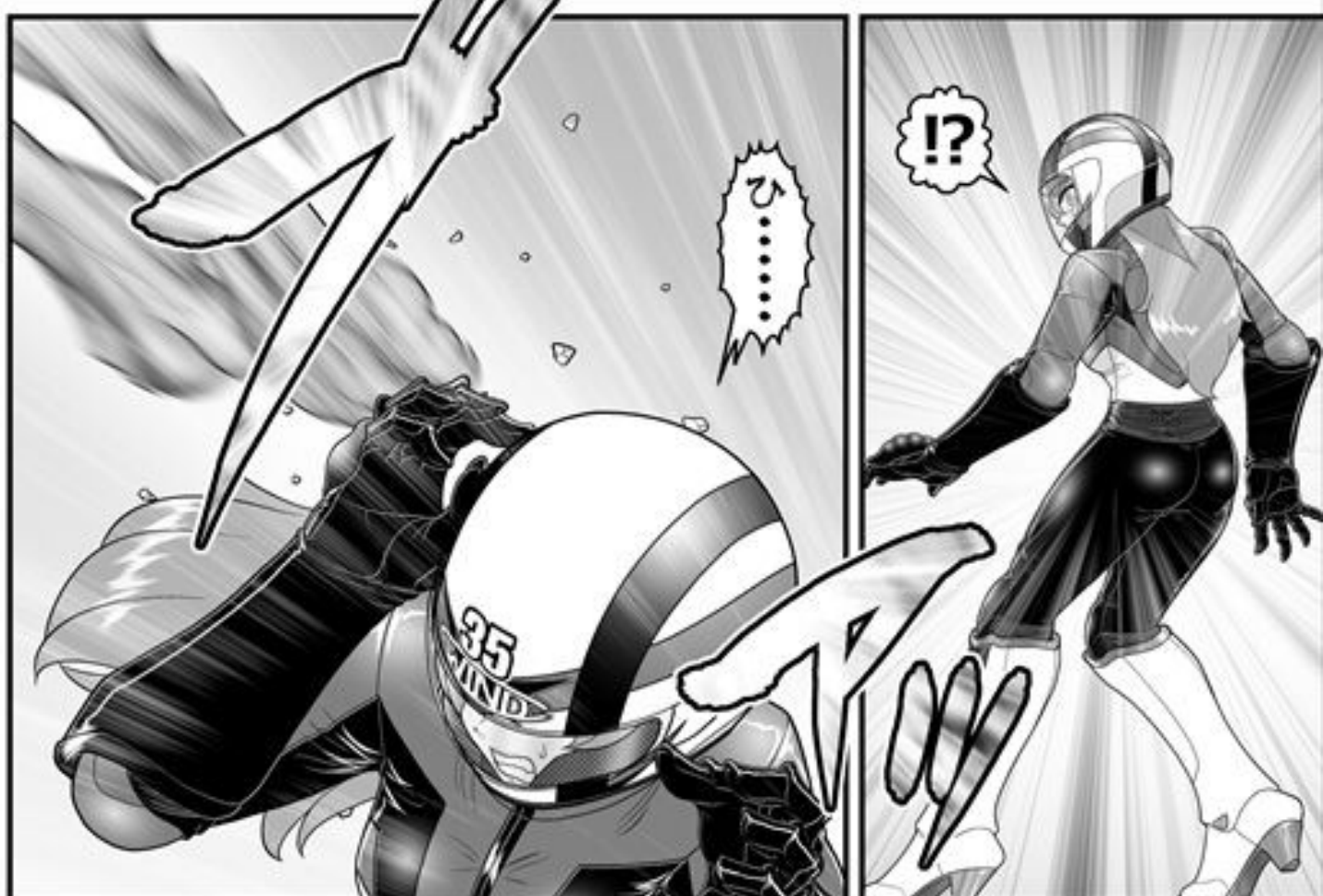
何で

……え？

















走れ!とにかく
走るんだ

ハイウェイまで
たどり着ければ
何とかなる



一体何が
どうなっ
てるんだ!?

確実に
引き離したはずが
いつの間にか
先回りされて――



偶然?

――とても
そうは思えない



完全に
隙と死角を
突かれた

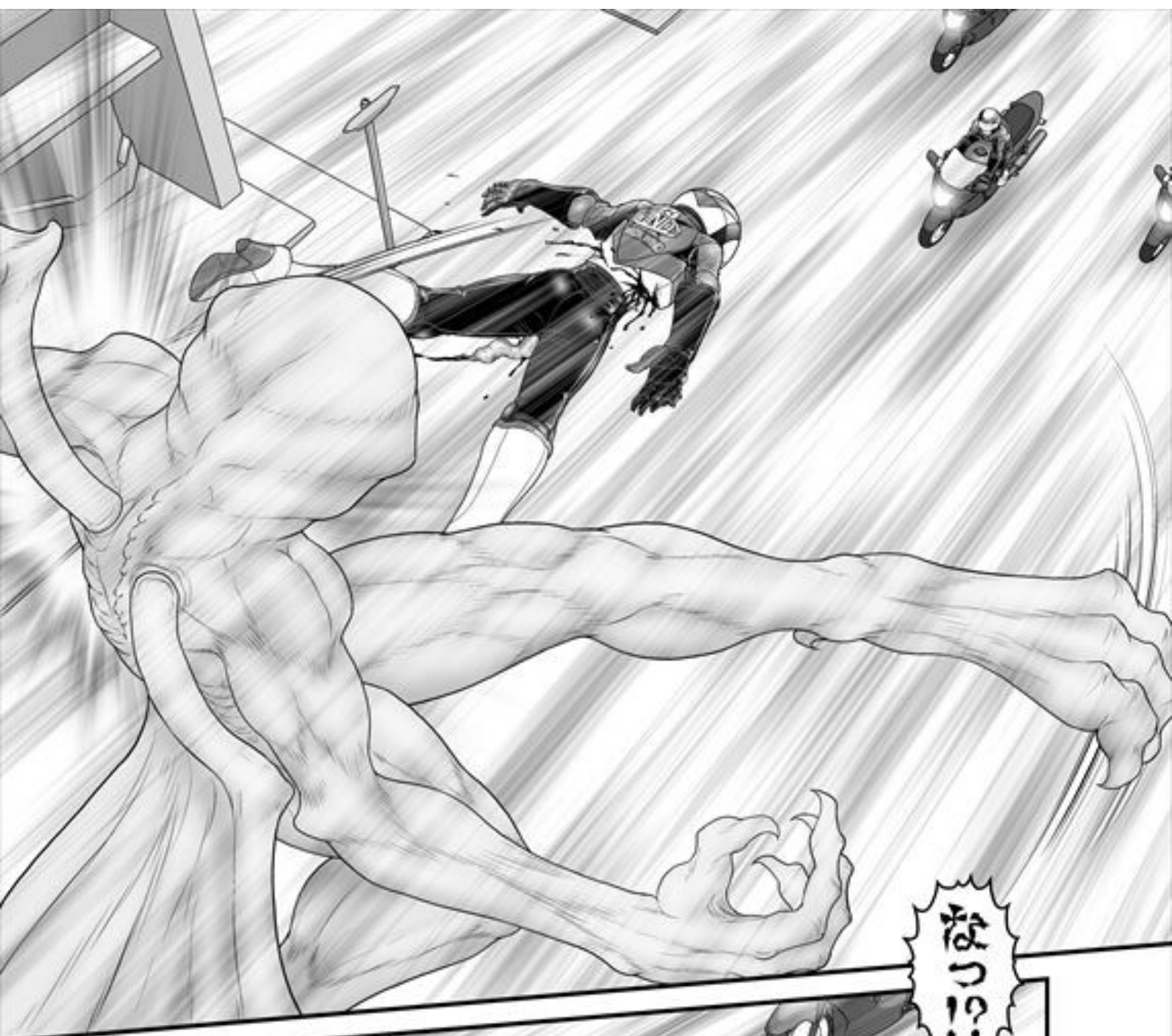
それもパニックを
誘発する絶妙な
タイミングで……



ただ無秩序に
人を襲うだけだった
“奴ら”とは明らかに
動きが違う

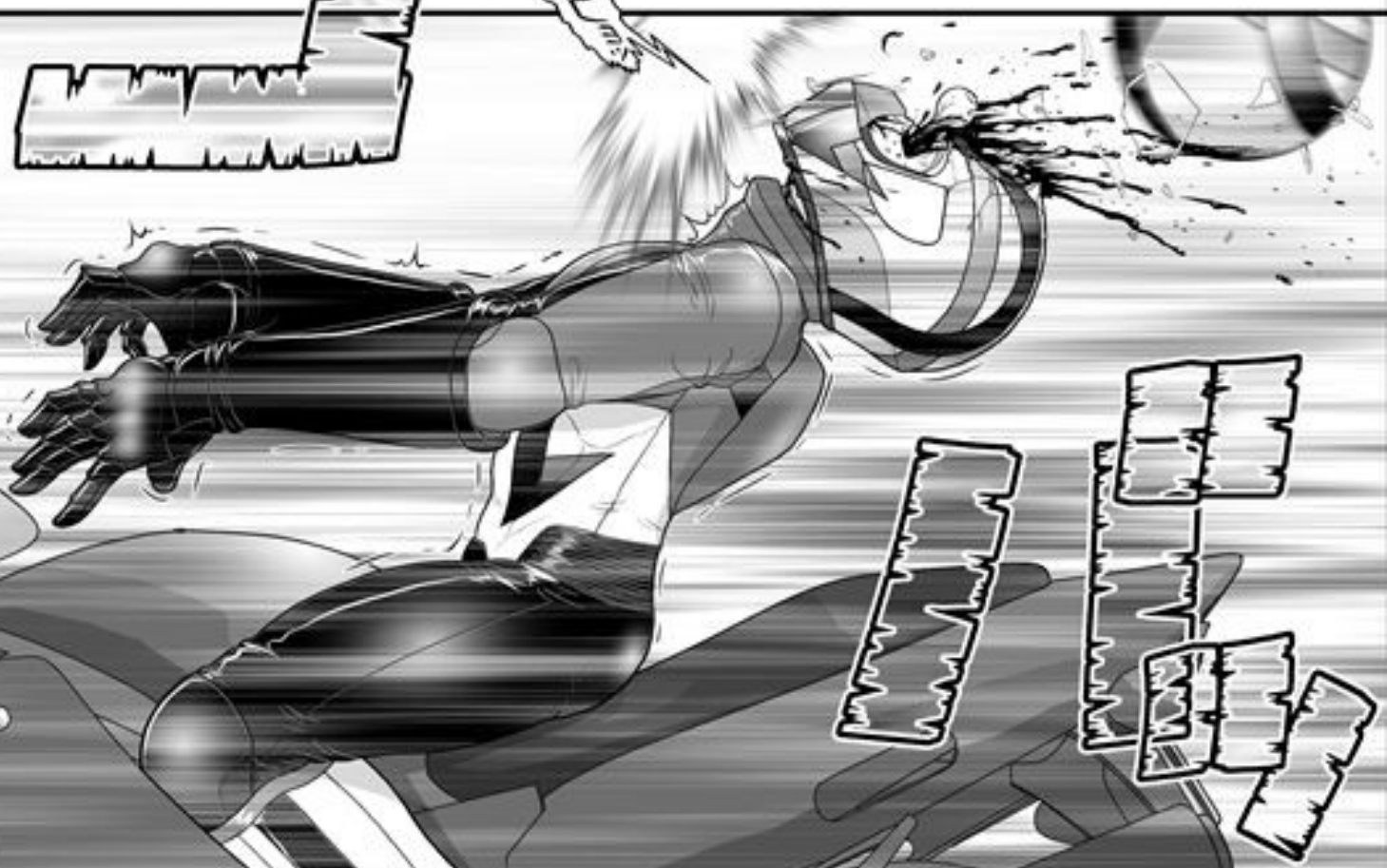
これは……
まるで——

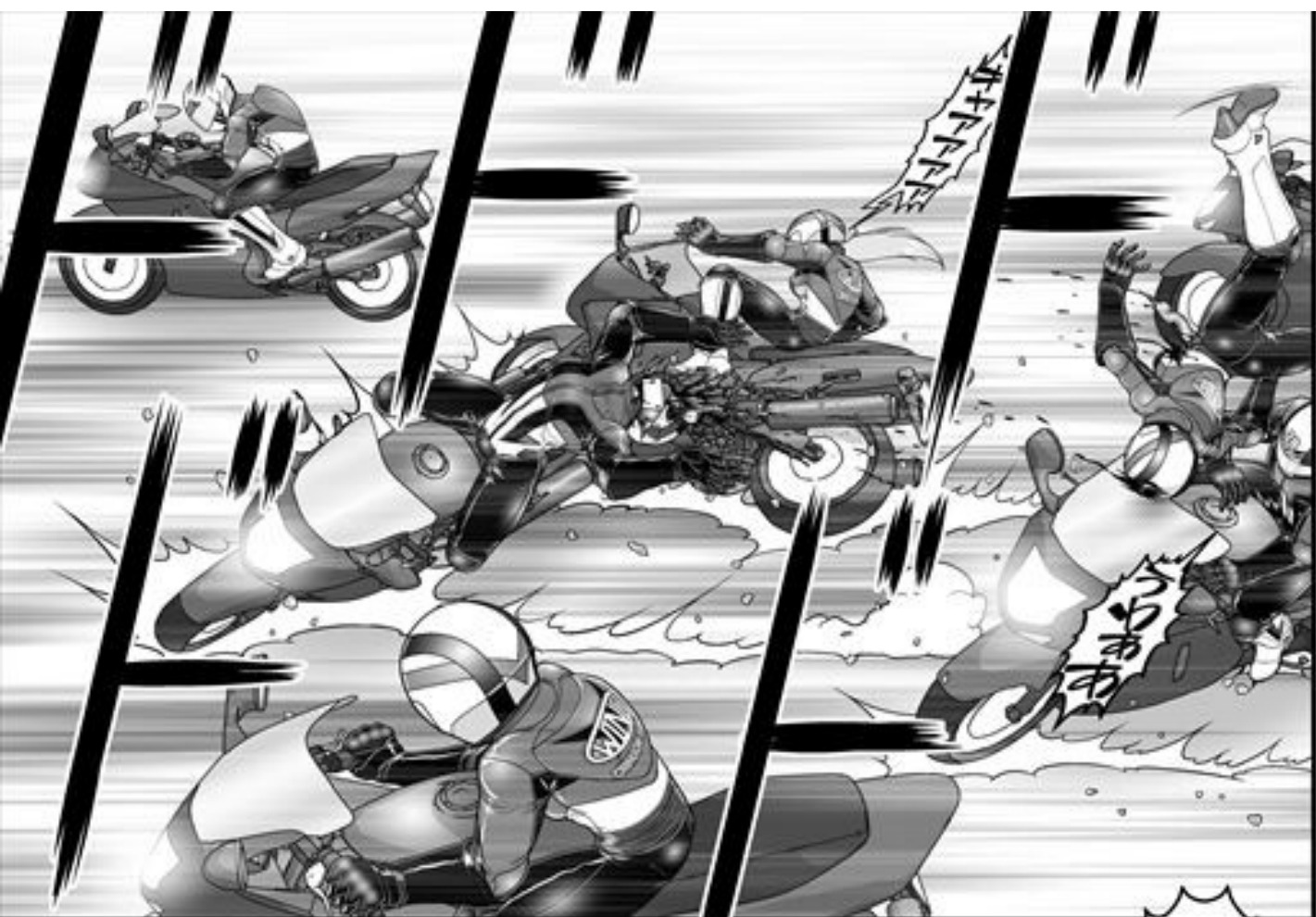




!!







なっ何だ
今のは!?

飛んでたぞ



いつ今……
人を投げた
のか!?

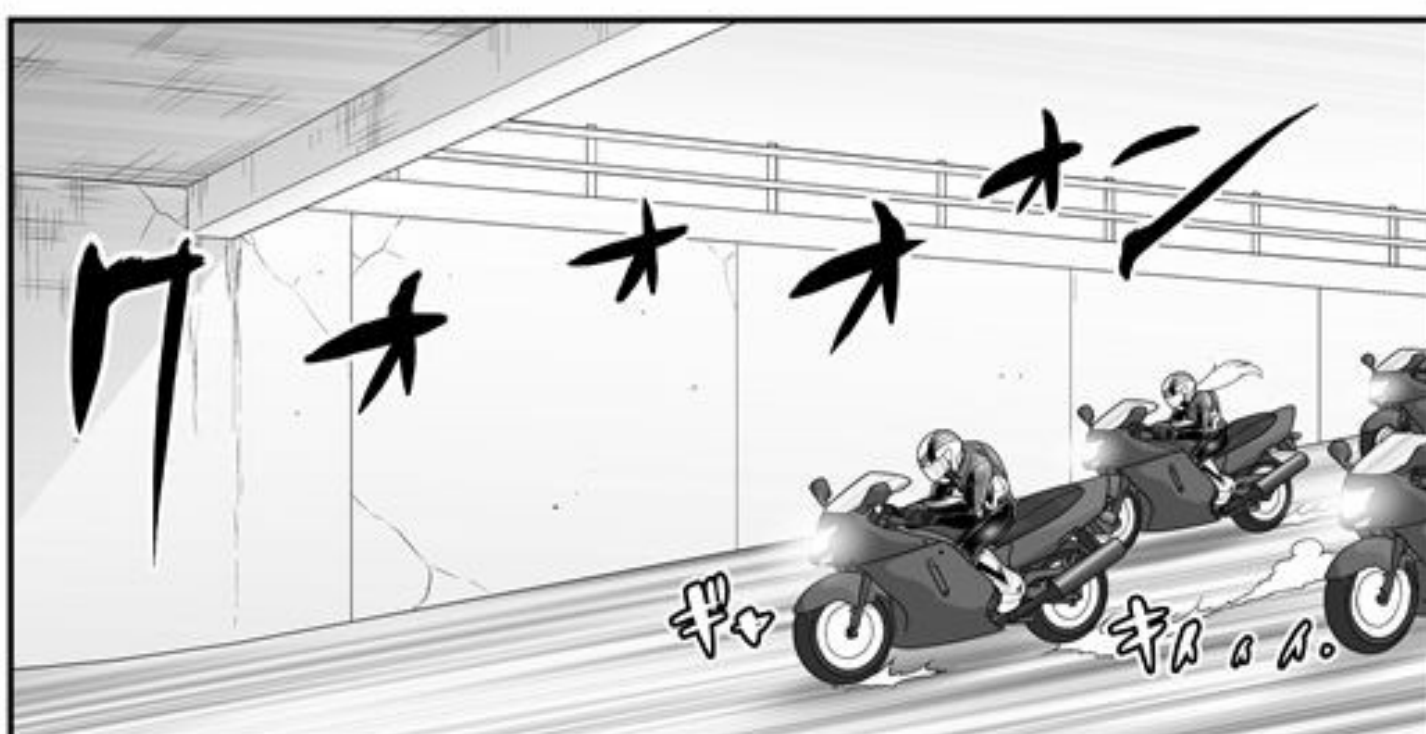


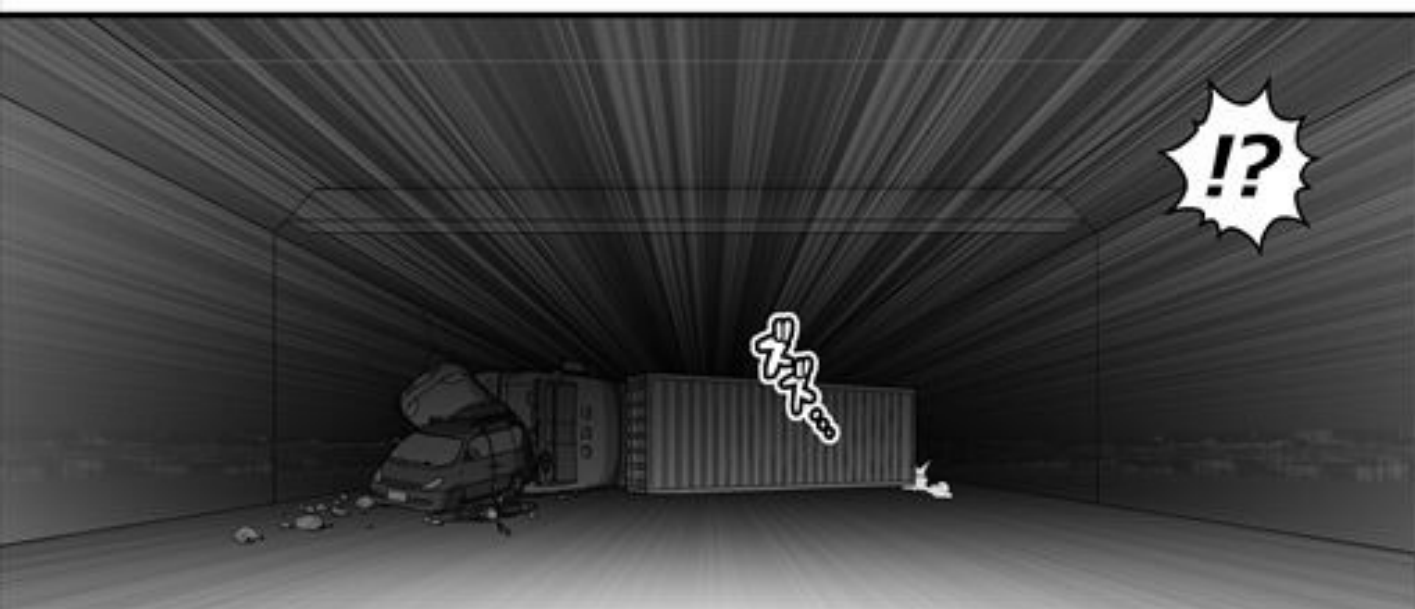
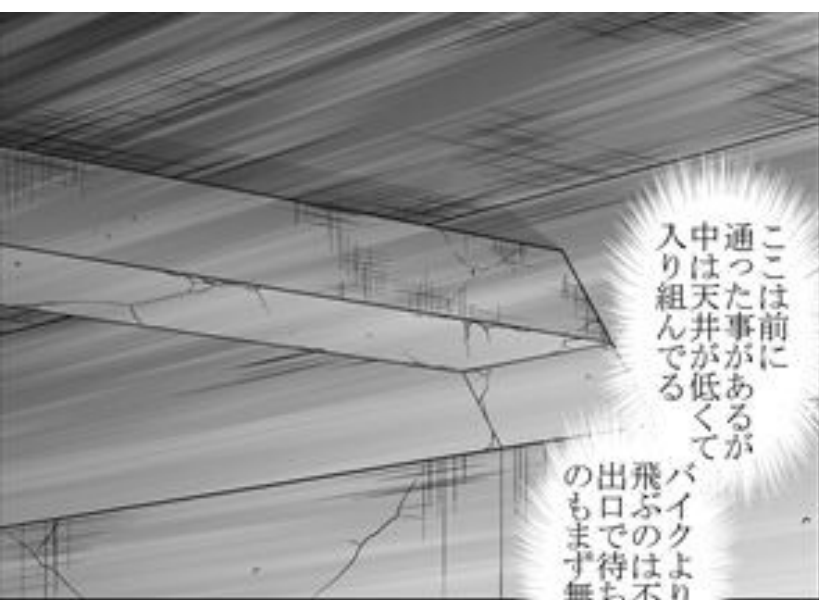
まさか
ずっと奴が上空から
監視して……!?

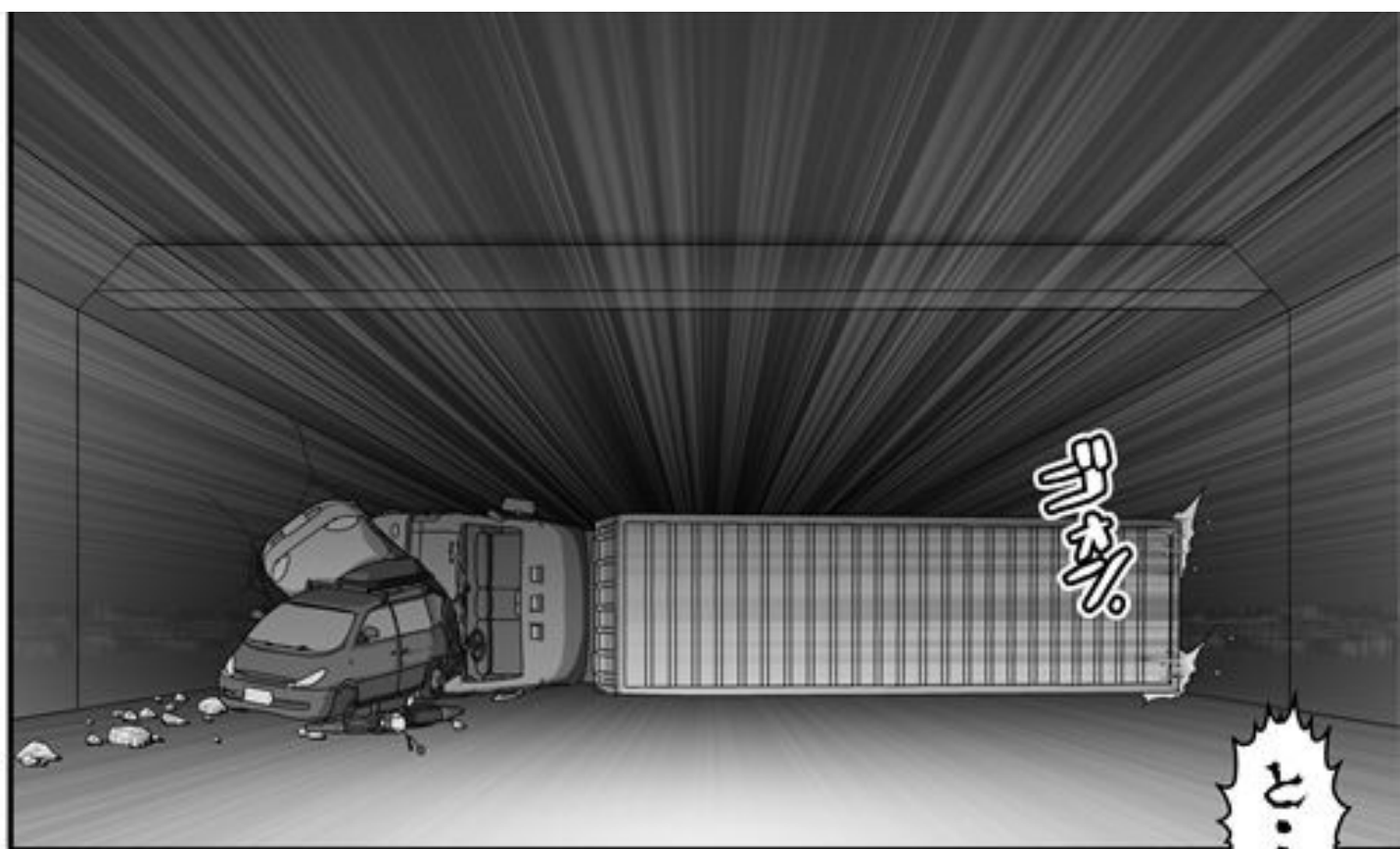


そんなバカな……
奴らにそんな知能が
あるはずが

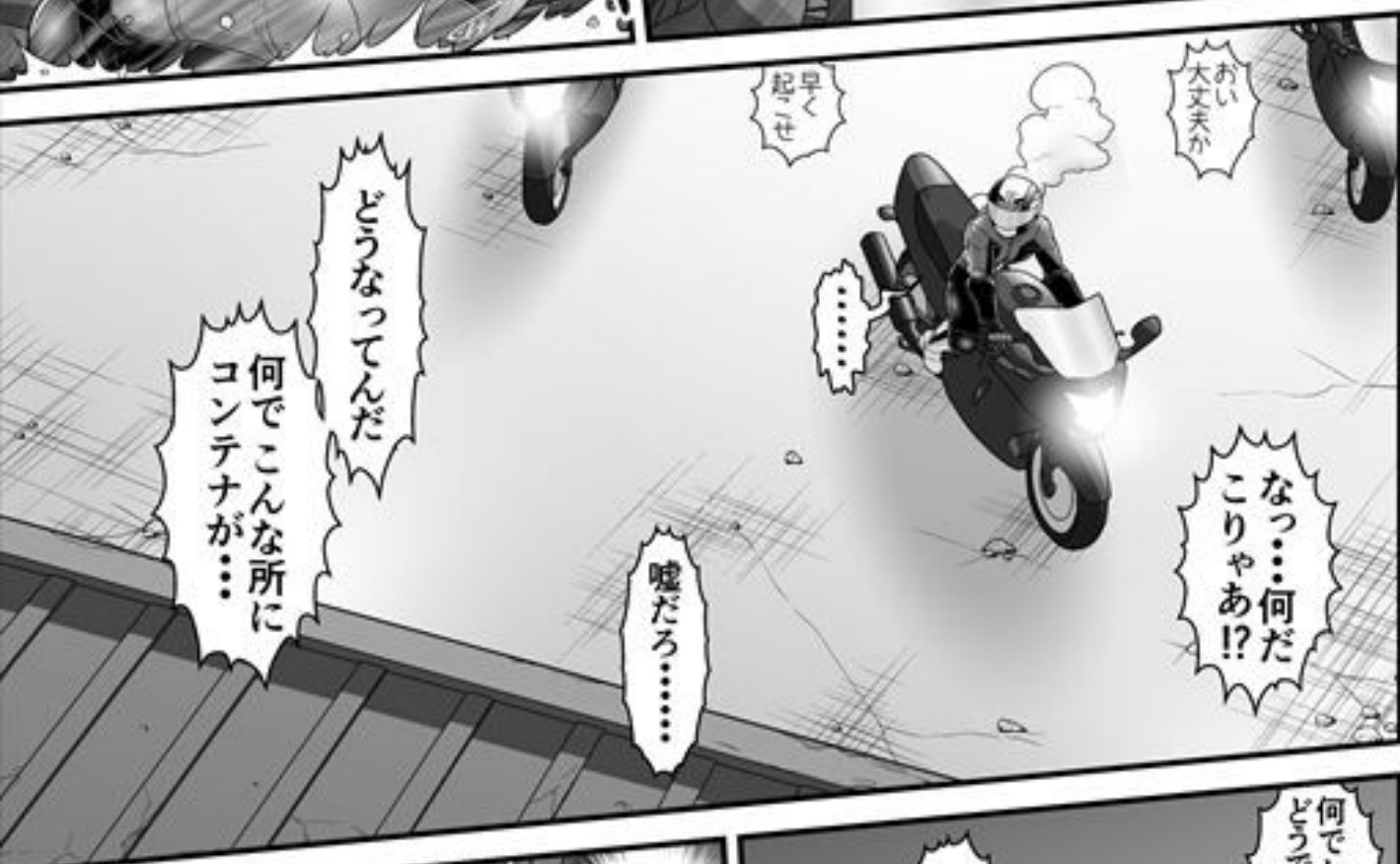
ヒュー





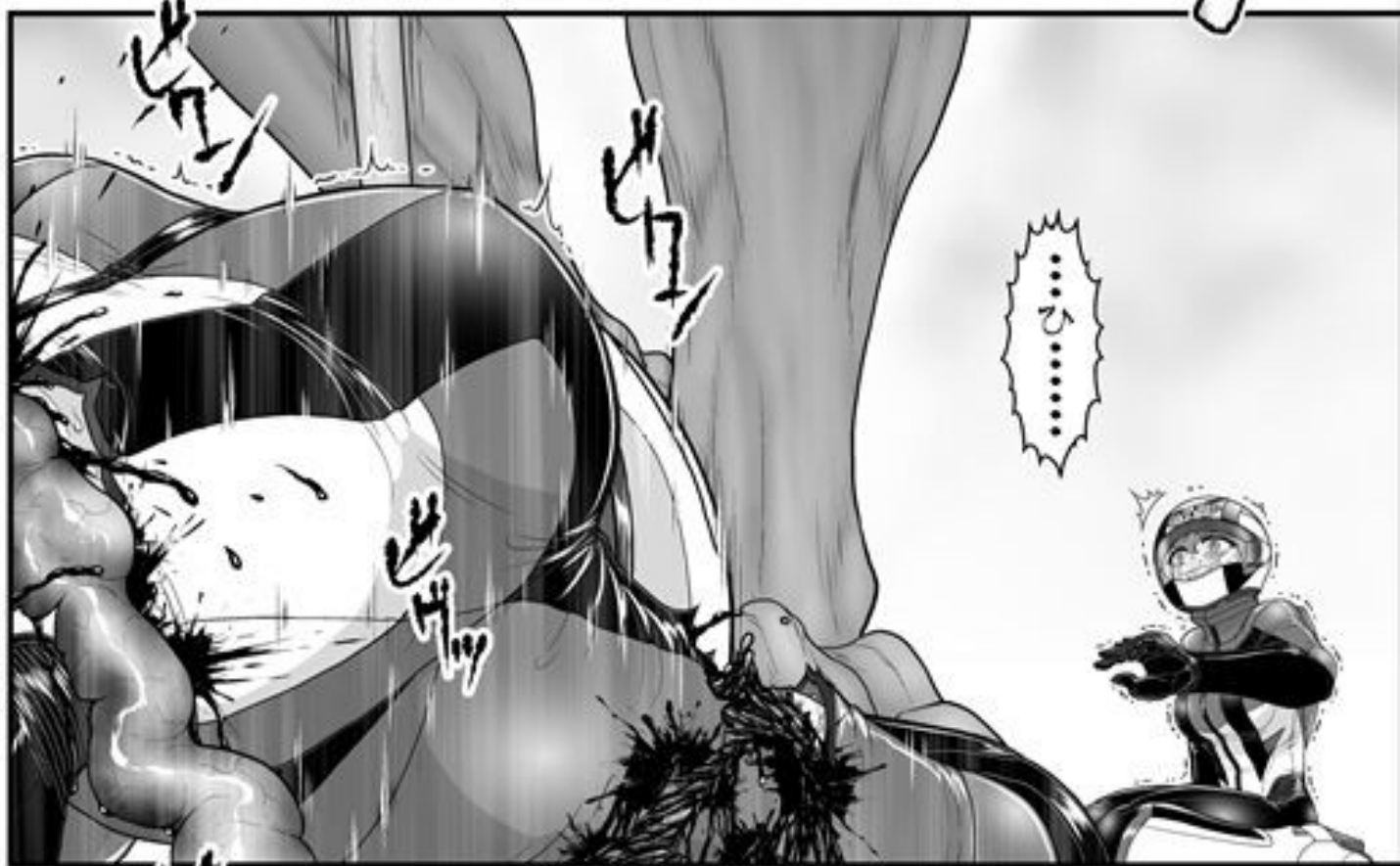


と...
止まれエエエ

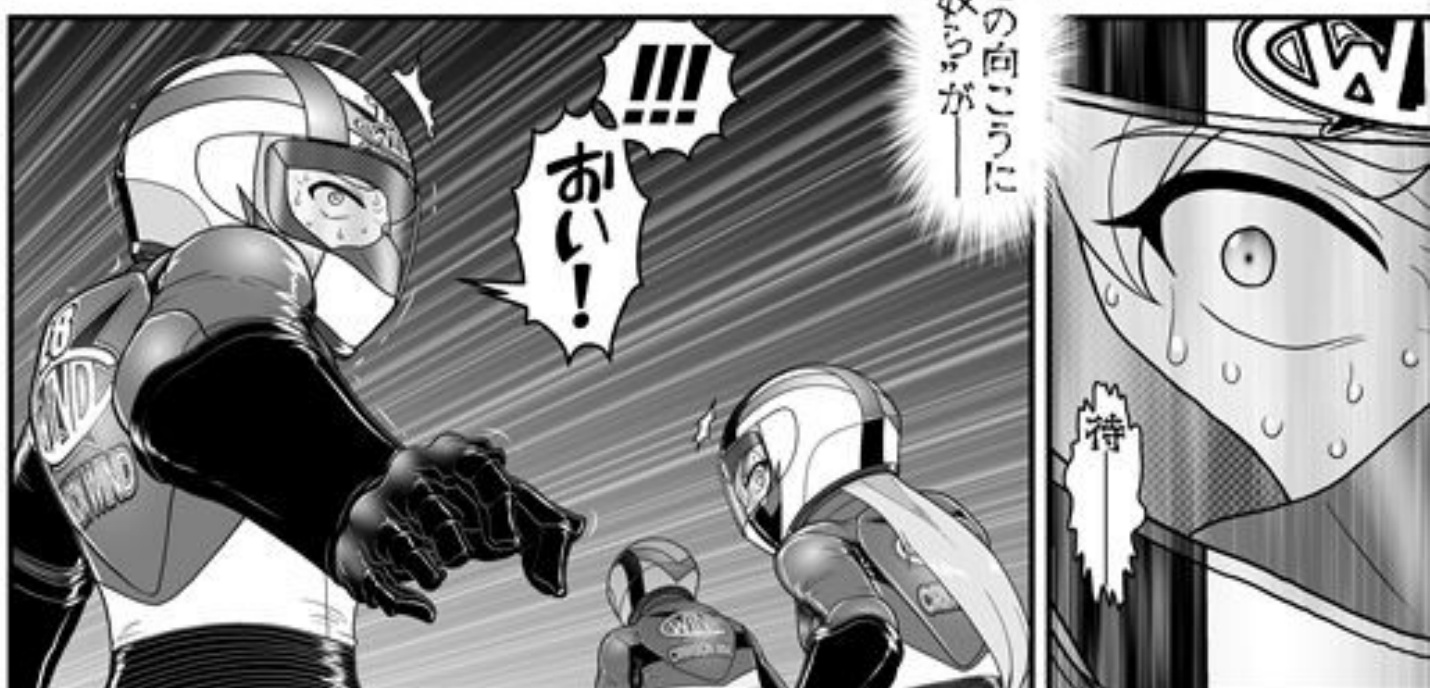
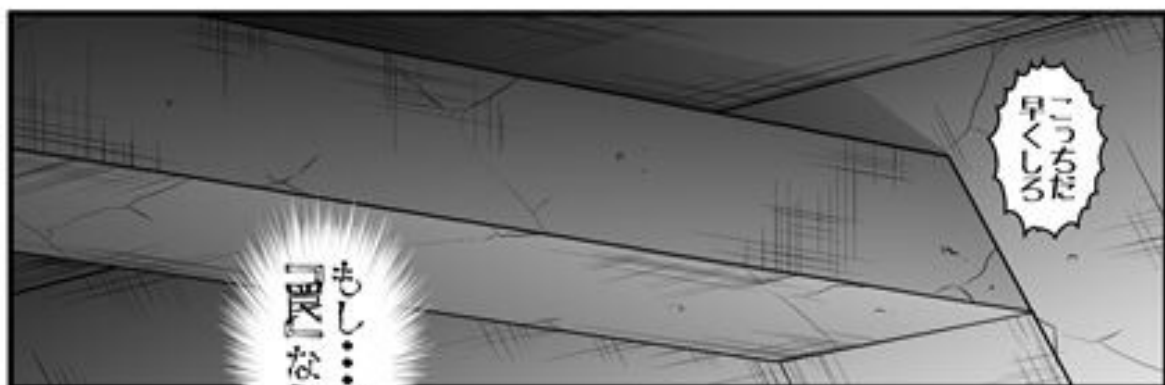


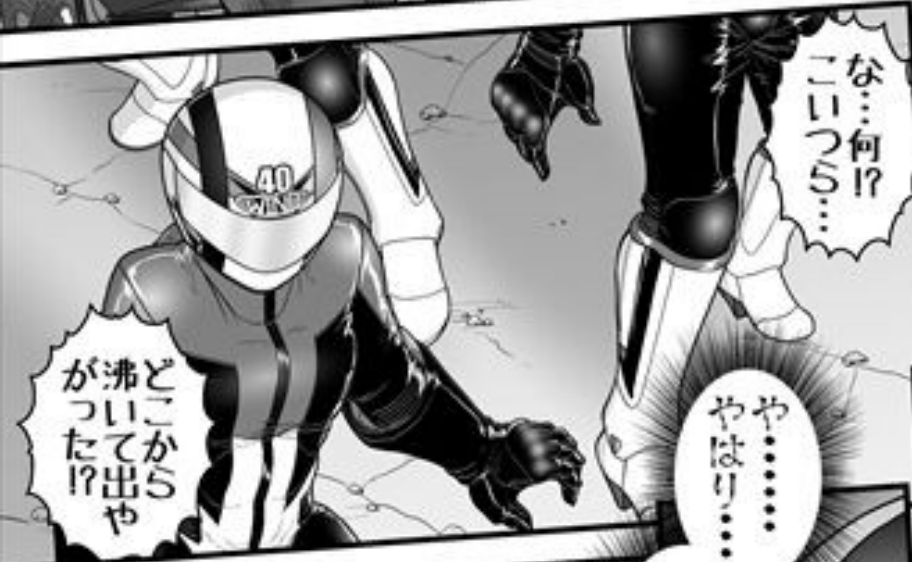




















オレ達は
始めから

ここに向かって
追い込まれていた



うわ…

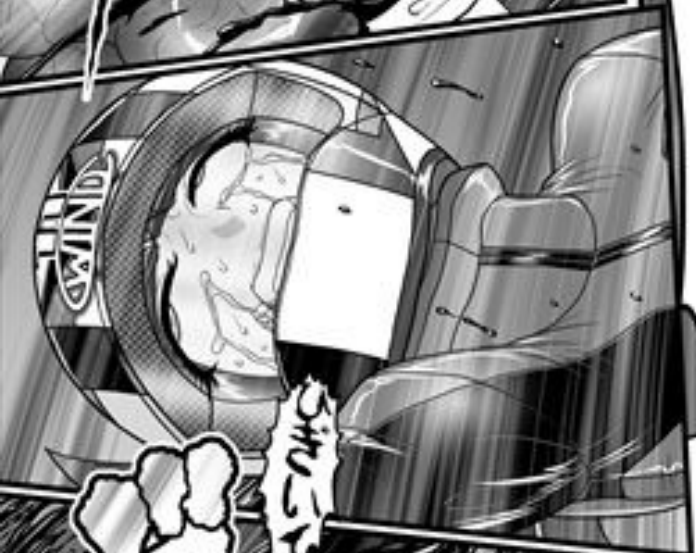
う…





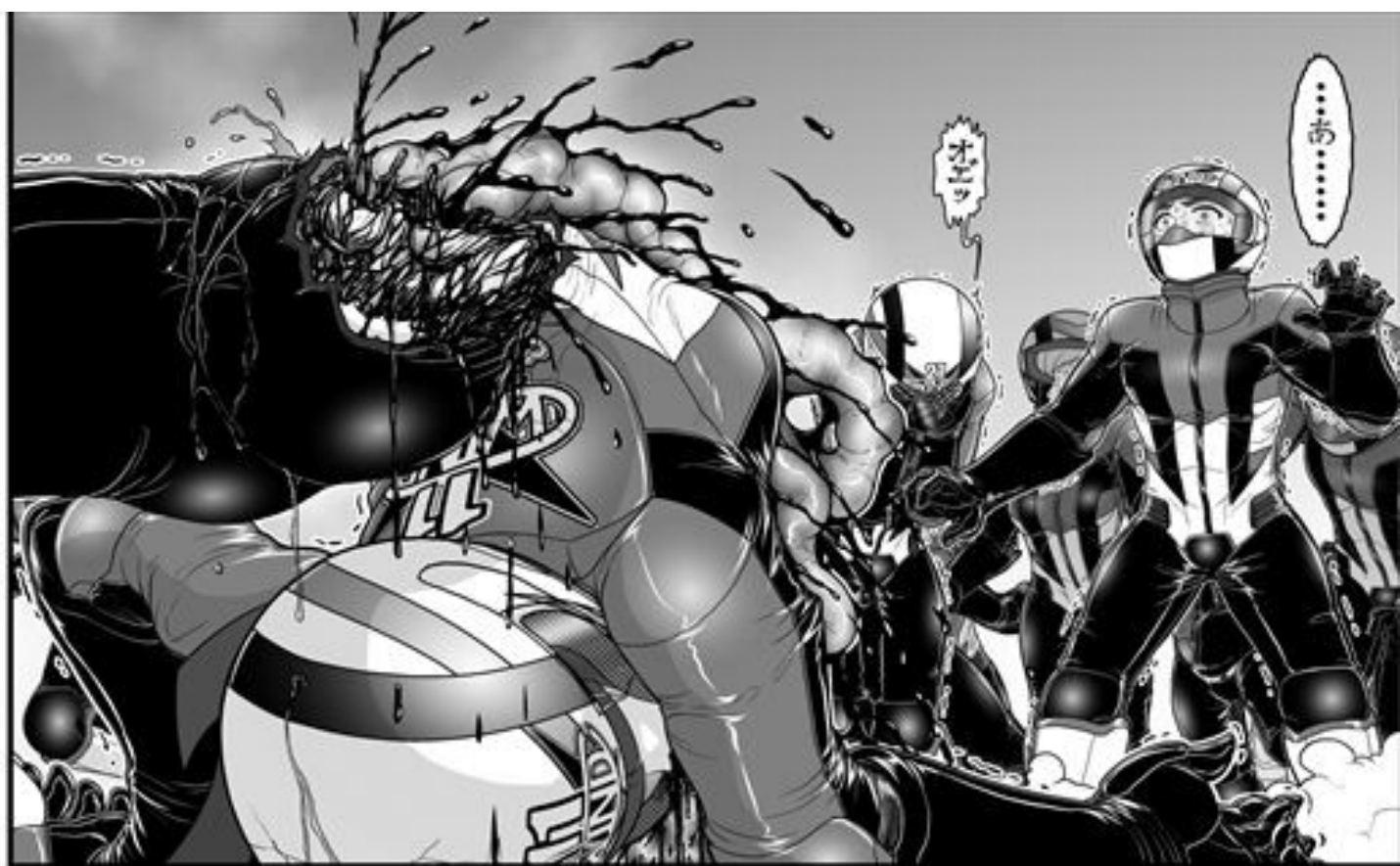
















一体何処で
間違った？



「最速こそ無敵」を
ずっと体現してきた
オレ達にとつて

「奴らは敵じゃなく
ただの背景の二部に
過ぎなかつた」

少しばかり
足が速かるうが
走りを極めたこの
『真紅の風』の前では
どいつも同じ

「怠けないウサギ」に
永遠に追いつけない
ノロマな亀だ

ガッ...
アキ
ガッ

だが
その『亀』が

ただの亀じゃ
なかつたら
どうなる?

ひぎいやああ
ああああああ

ああああたしの
あたしの腕がア
アアアアアア

だっ誰か
あたしの腕

うげっ!!!



バカなの!?

あいつら相手に
走って逃げる気!?



ここを開けて
バイクで逃げる以外
助かる道は無いの

イェッ



はっ早く……
これを動かすのよ
急いで!

む……
無理だ
このまま
向こう側に逃げる
しか

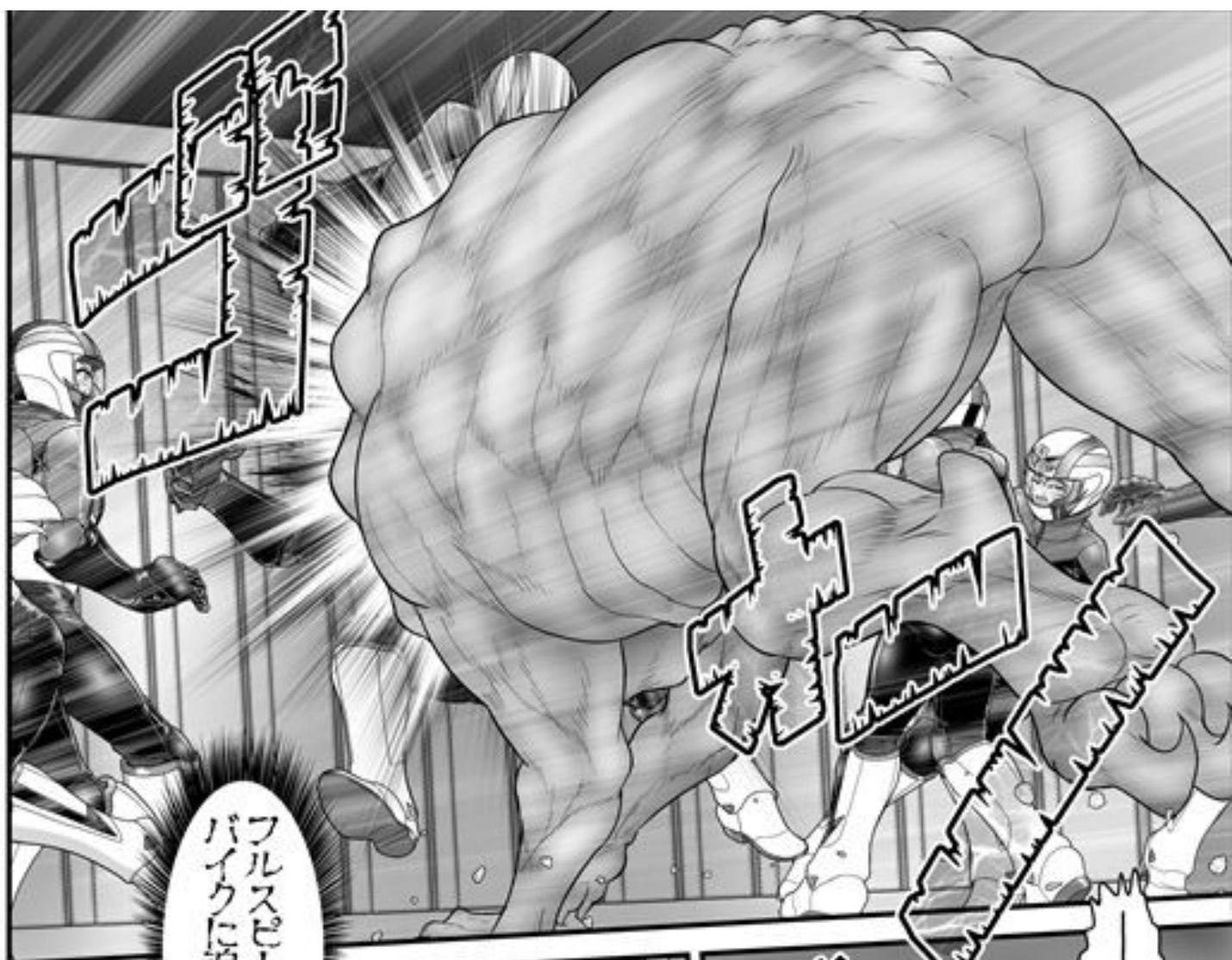


いいから
押して!!
押してエエ

カカカカカカ





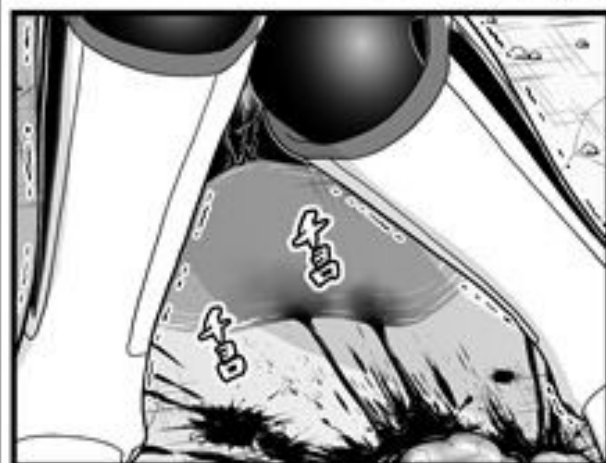




そんな化け物
相手に――

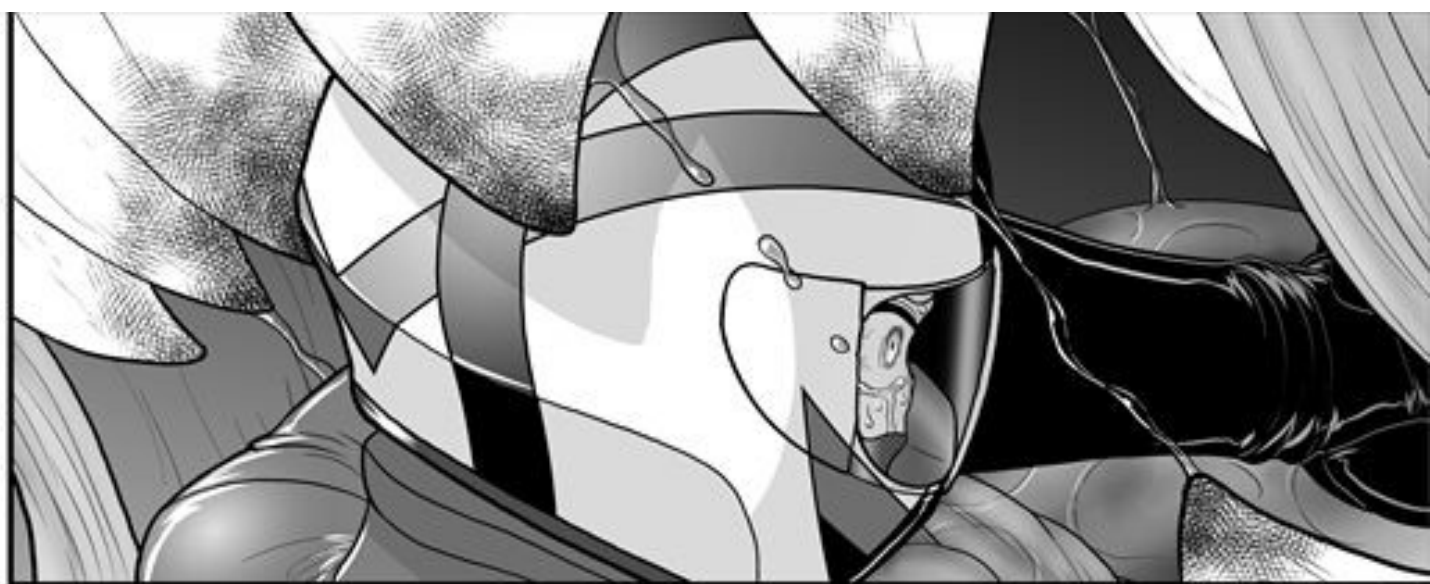
41
WIND

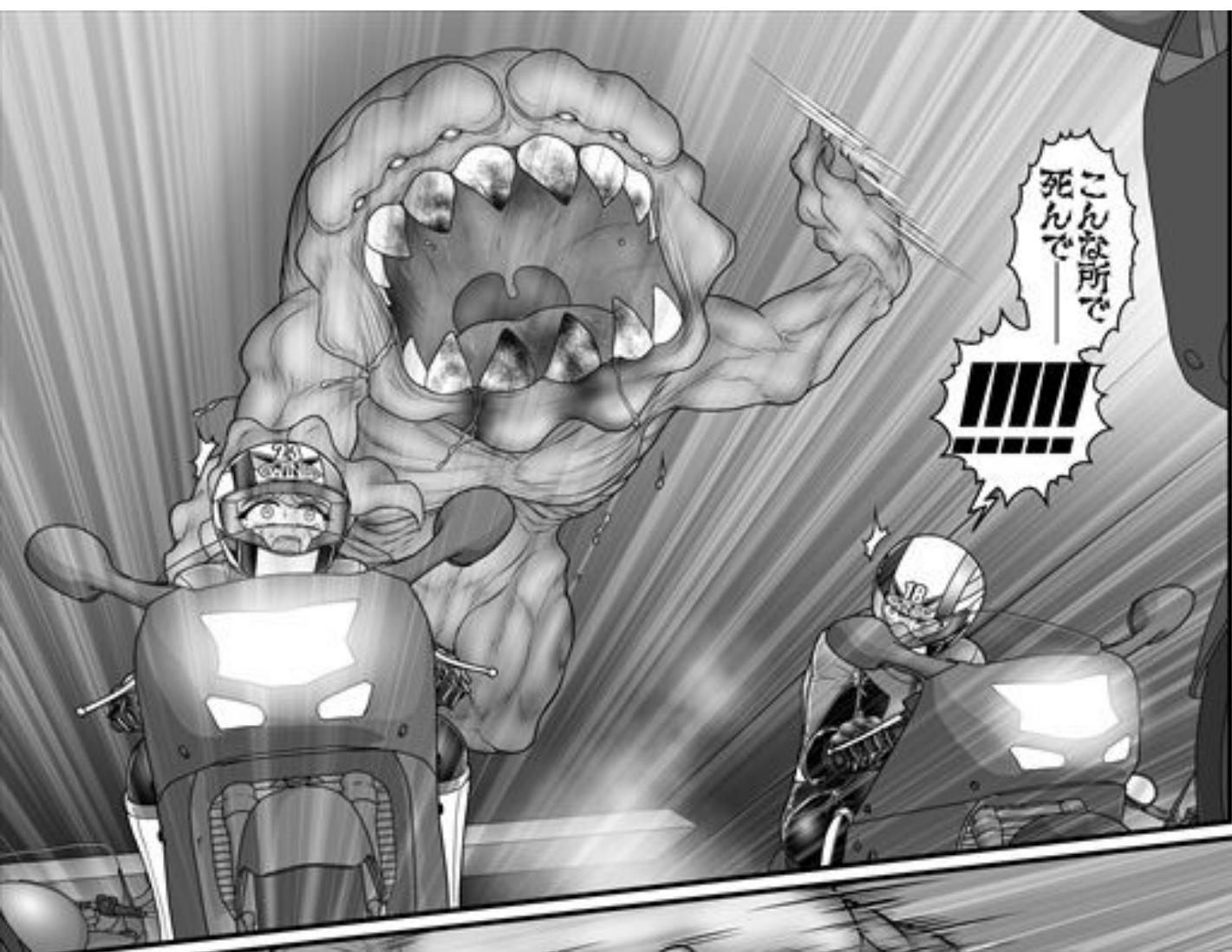
オレ達
人間が何を
出来たって
言うんだ？

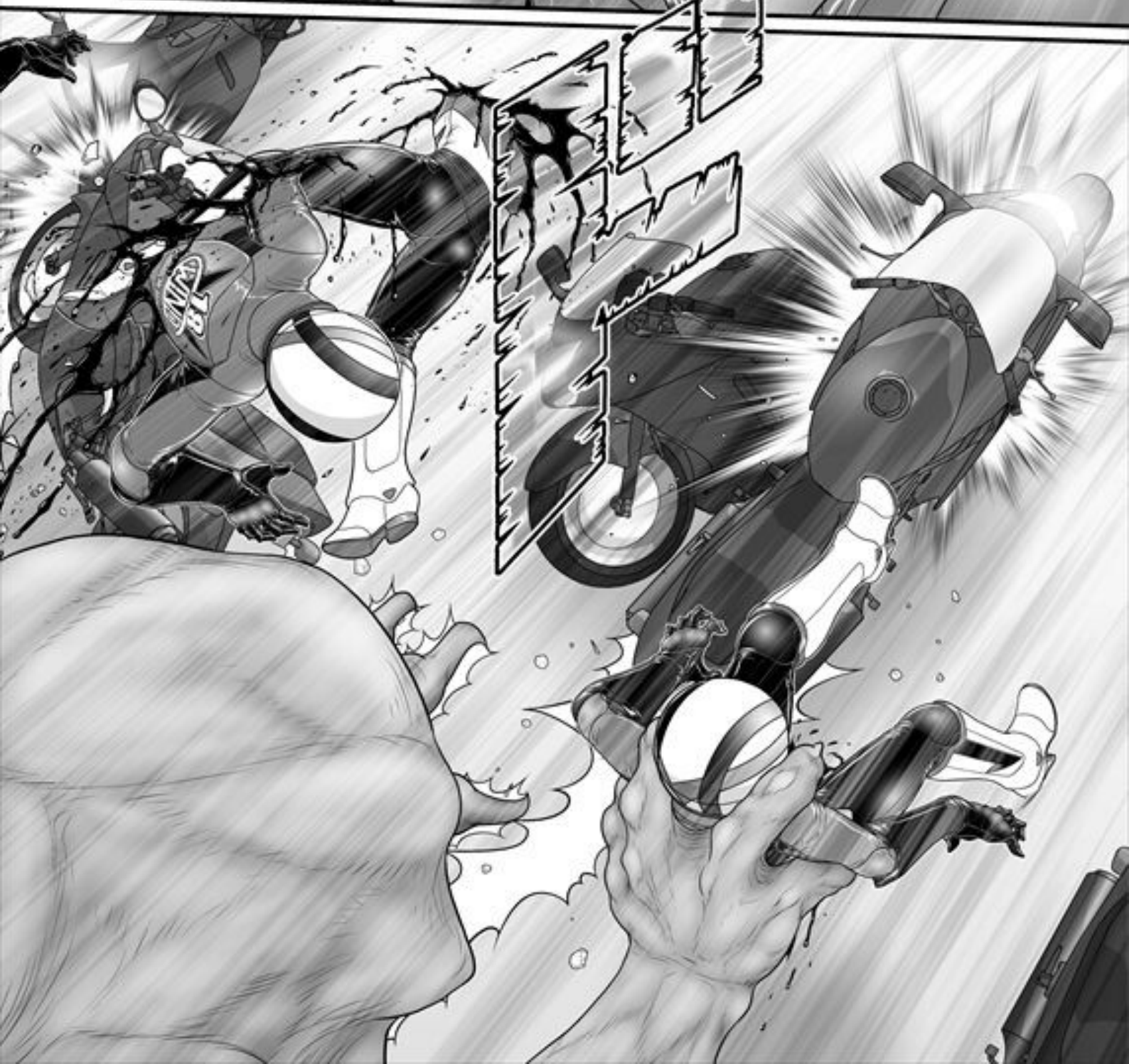
















「餌^{エサ}」
だ

喰われる順番を
待っているだけの
「活き餌」――





奴らに目を
付けられた
時点で――



オレ達は既に
詰んでいたんだ









YEAHHHH!!!

死体は横に
退けとけよオ

よいし
片付いたな

OKだ

そっちは
どうだア

血だまりには
砂撒いとけ



何か最近
また急に数が
増えてねエか?

ポイントを稼げる
のはいいがこれじゃ
体がもたんぜ

この間の
ブレイオフの日には
「セカンド」が壁まで
来たらしいしな...

それで死人も
出たってよ



冗談じゃ
ねーや

準備もなしに
セカンドと殺り合う
なんて自殺行為は
願い下げだ

「魔犬」みたいなの
戦闘狂でも
なきやな

オレ達には
雑魚相手に地道に
稼ぐのが分相応
だぜ

ここんとか
失踪しちゃう
チームが続出
してるし……

何かヤバイ事が
起きる前兆じゃ
ないといいが……

……やめようや
辛気臭え話は

「蛇の話をする
と蛇が出る」って
言っただろ

あーあ

さっさと帰って
酒でも飲みたいぜ

それにしても
遅くねえか？

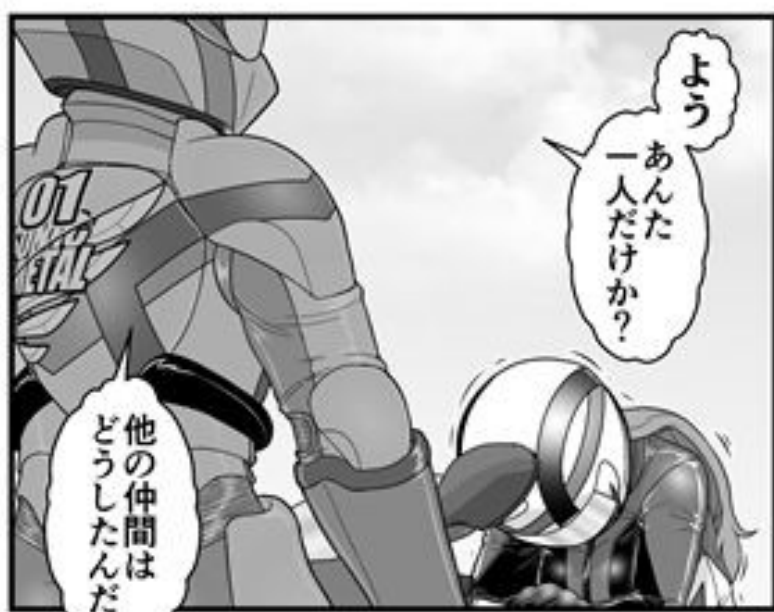
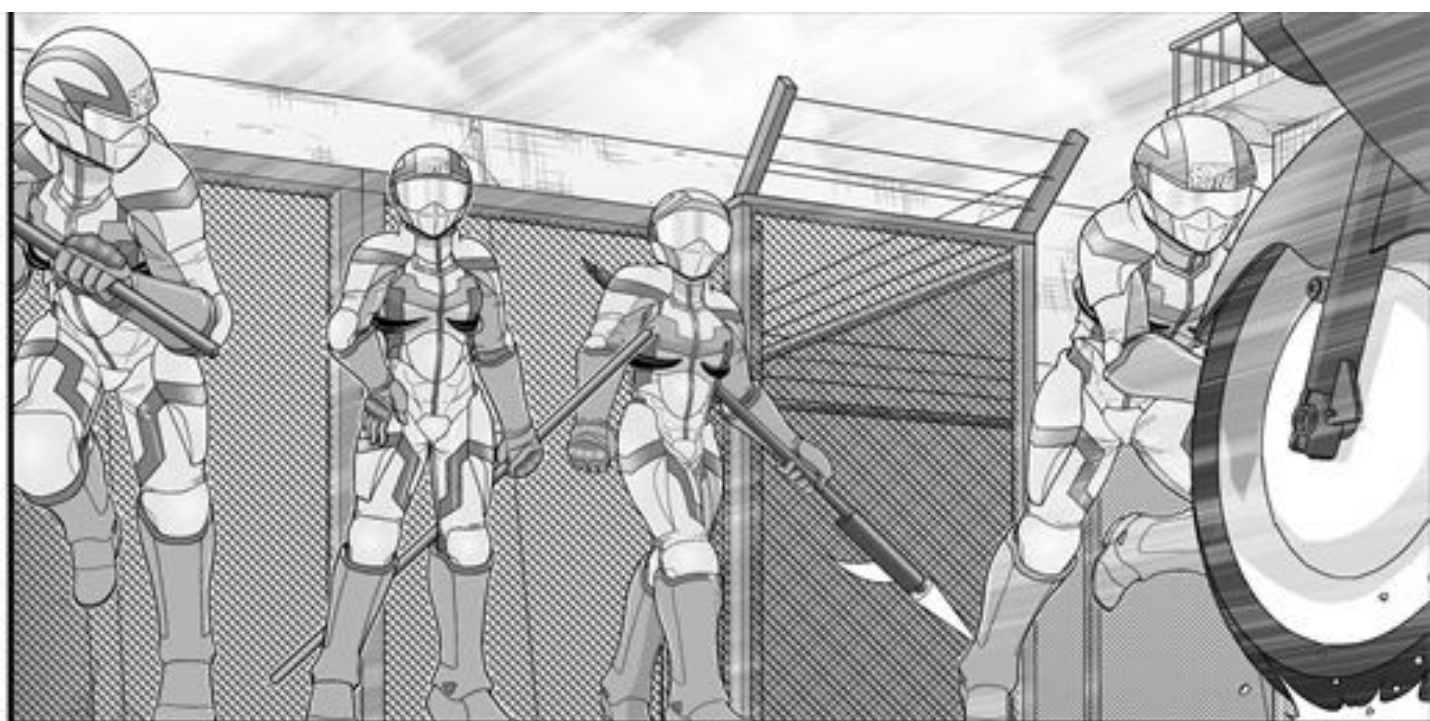
帰還予定は
15時……

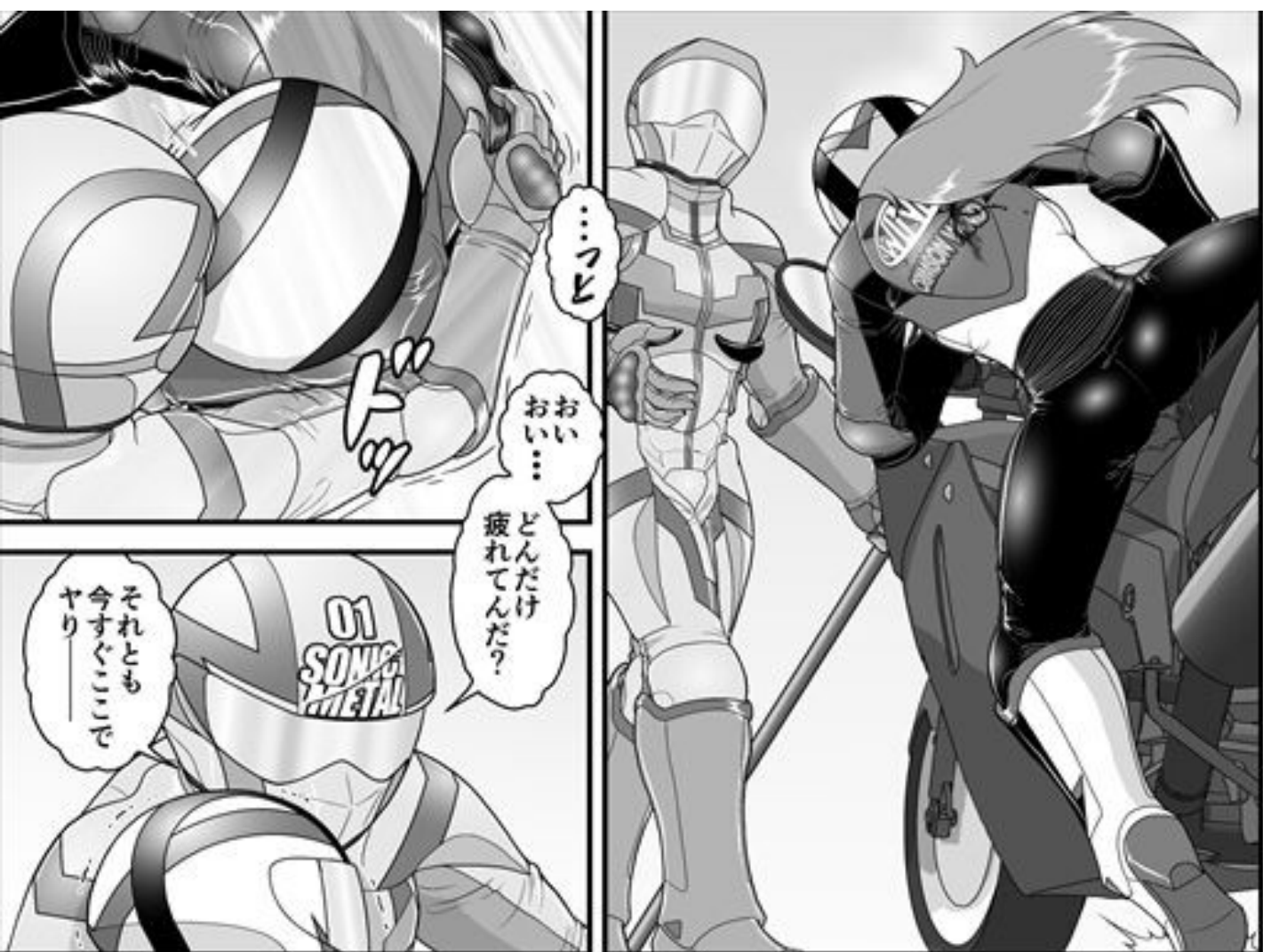
もう二時間も
押してんぞ

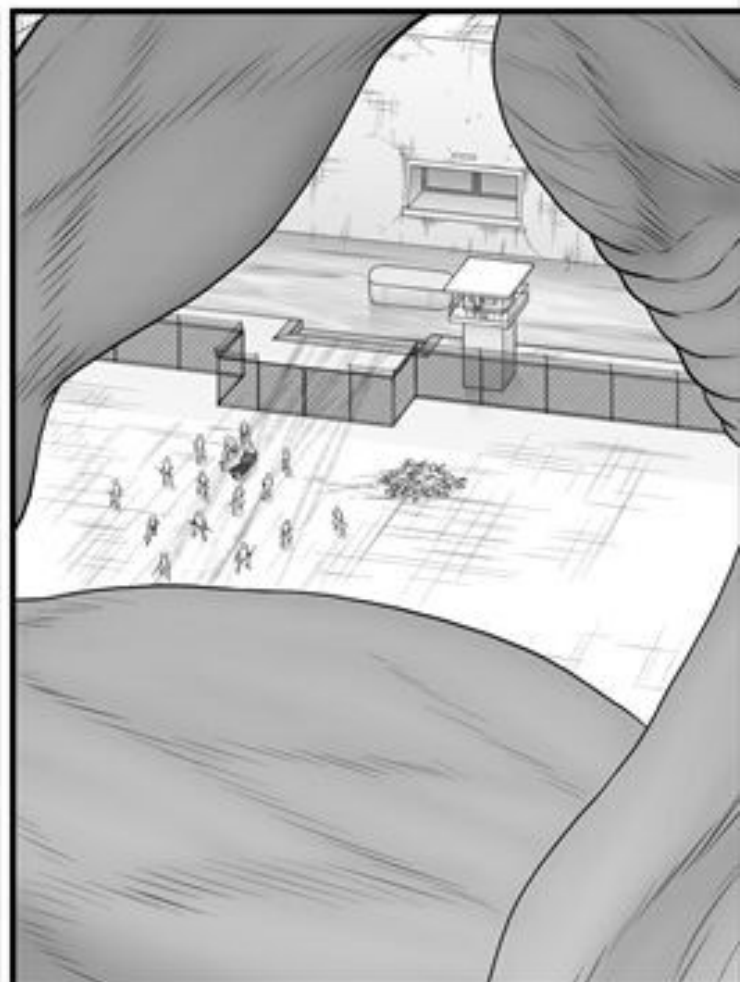
今出てるのは
『真紅の風』
だったよな？

時間に遅れる
ような連中じゃ
ないと思うが……













しかも…
やられたのは
境界エリアだ

当然ルートを
知り尽くしてる
『真紅の星』が
スピード勝負で
負ける訳がねえ

あいつらは
プロだ…油断も
手抜きもない

それがあんなに
あっさりしと……

例の映像
見たか？

逃げ切ったかと思
ったらまるで
先回りされてた
みたい……

空を飛んでる奴が
いたって……

あんな風に
不意を突かれたら
ひとたまりも
ないぜ……

首をちぎられた
女の叫び声が
まだ耳から放れ
ねえよ……

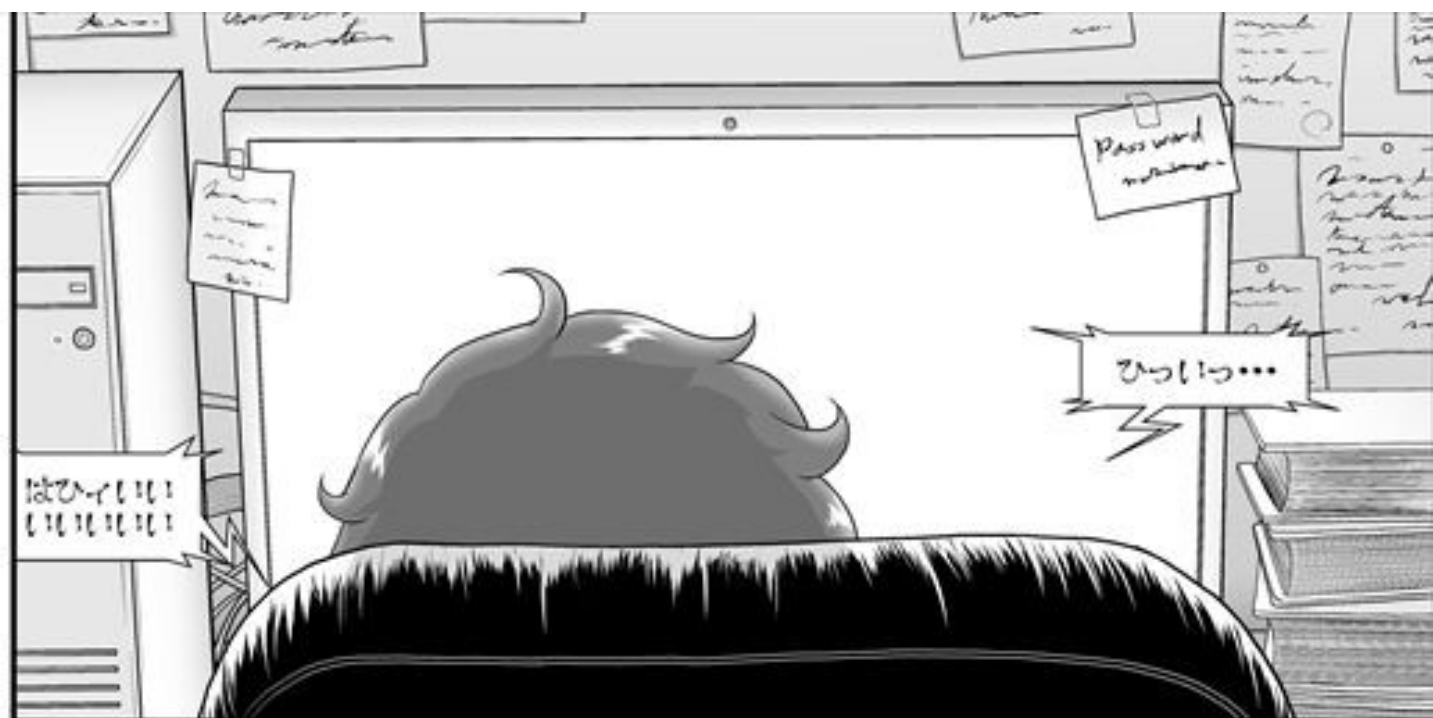
それでも
半分以上は
無事に逃げて
たんだろ？

何でそいつらは
未だに消息不明
なんだ

映像からは
分からんが…
全員死んだと
考えるべき
だろうな

マジで
やべーよ

一体何が
起きてんだ……？





…でも
まあ――

収穫も
あった



あることないこと
憶測が飛び交って、

『異端者』が
やったことまで
奴らのせいに
されてるのは
良かったのか
悪かったのか…

平手…

色々と
予定が狂って
頭が痛いよ



この群れは明らかに
「統一された意思」に
従って動いている

あの『真紅の風』を
出し抜き、無慈悲に
追い詰める連携を
完璧に実行する
統率力――

それは「間違いなく
「知性」が存在して
いる」という証拠だ



“知性ある怪物”が
従うもの――それは
「本能」ではなく「欲求」

“奴”が何を求めて
いるのかさえ分かれば
行動が予測できる

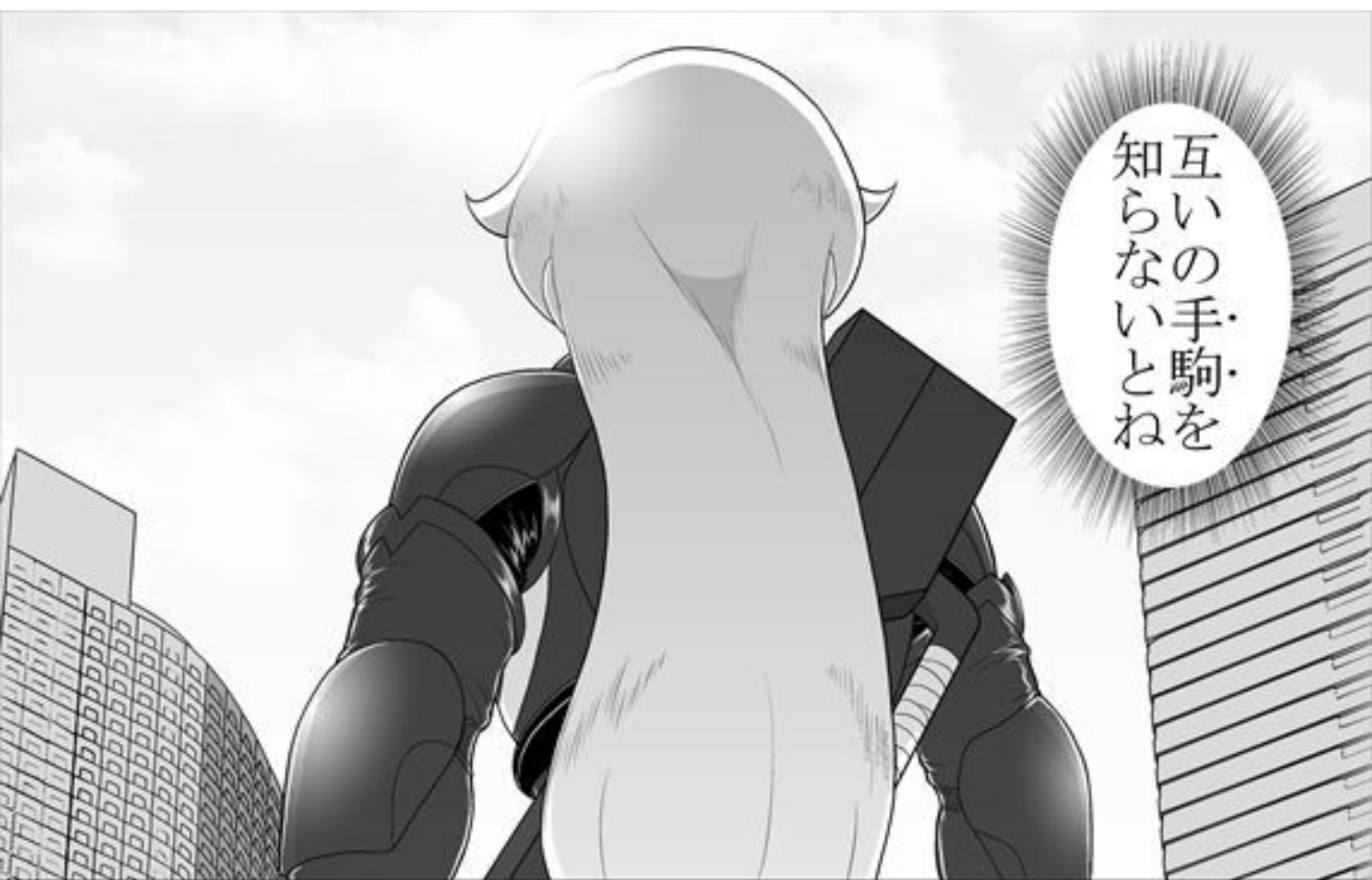


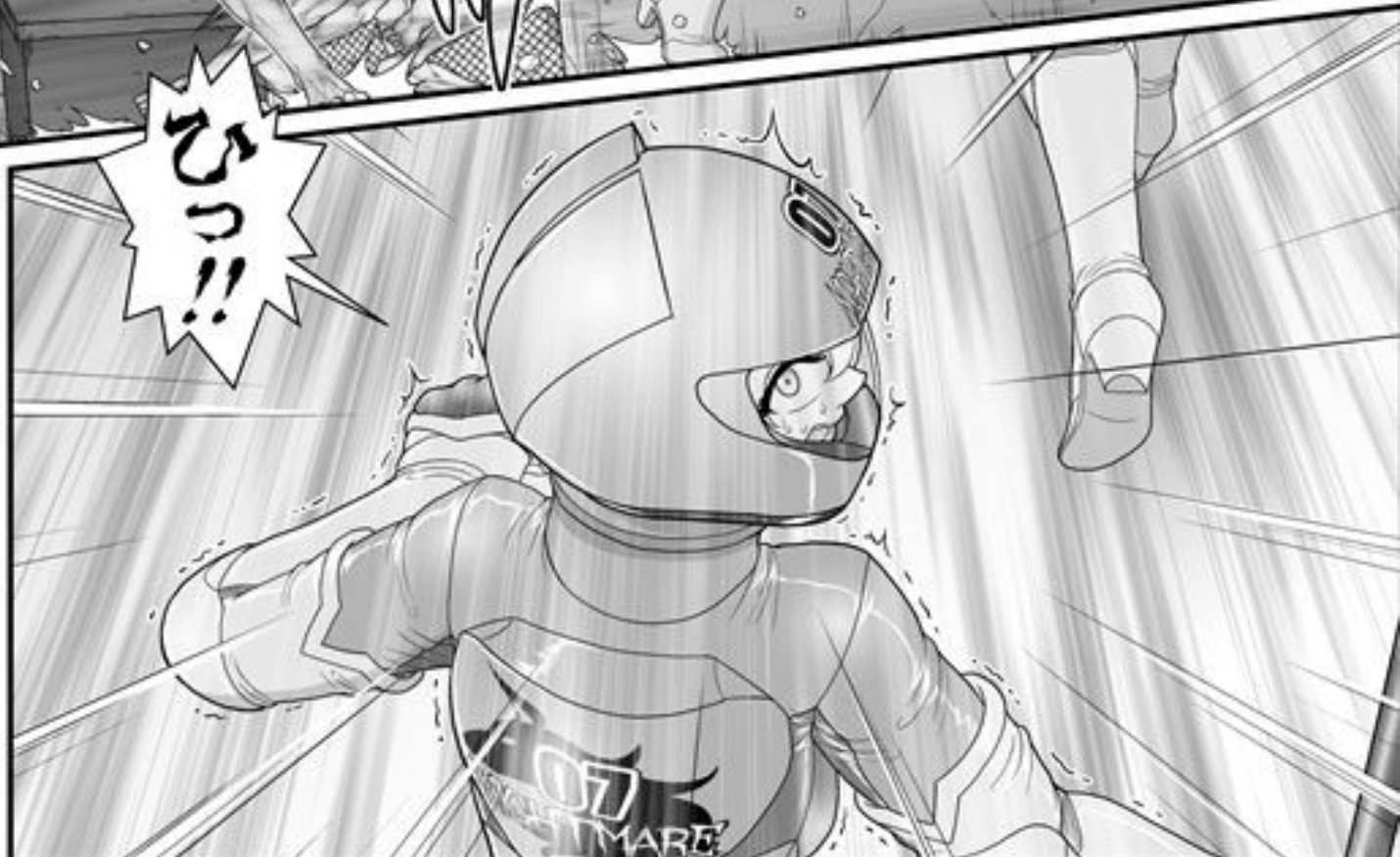
ここはひとつ

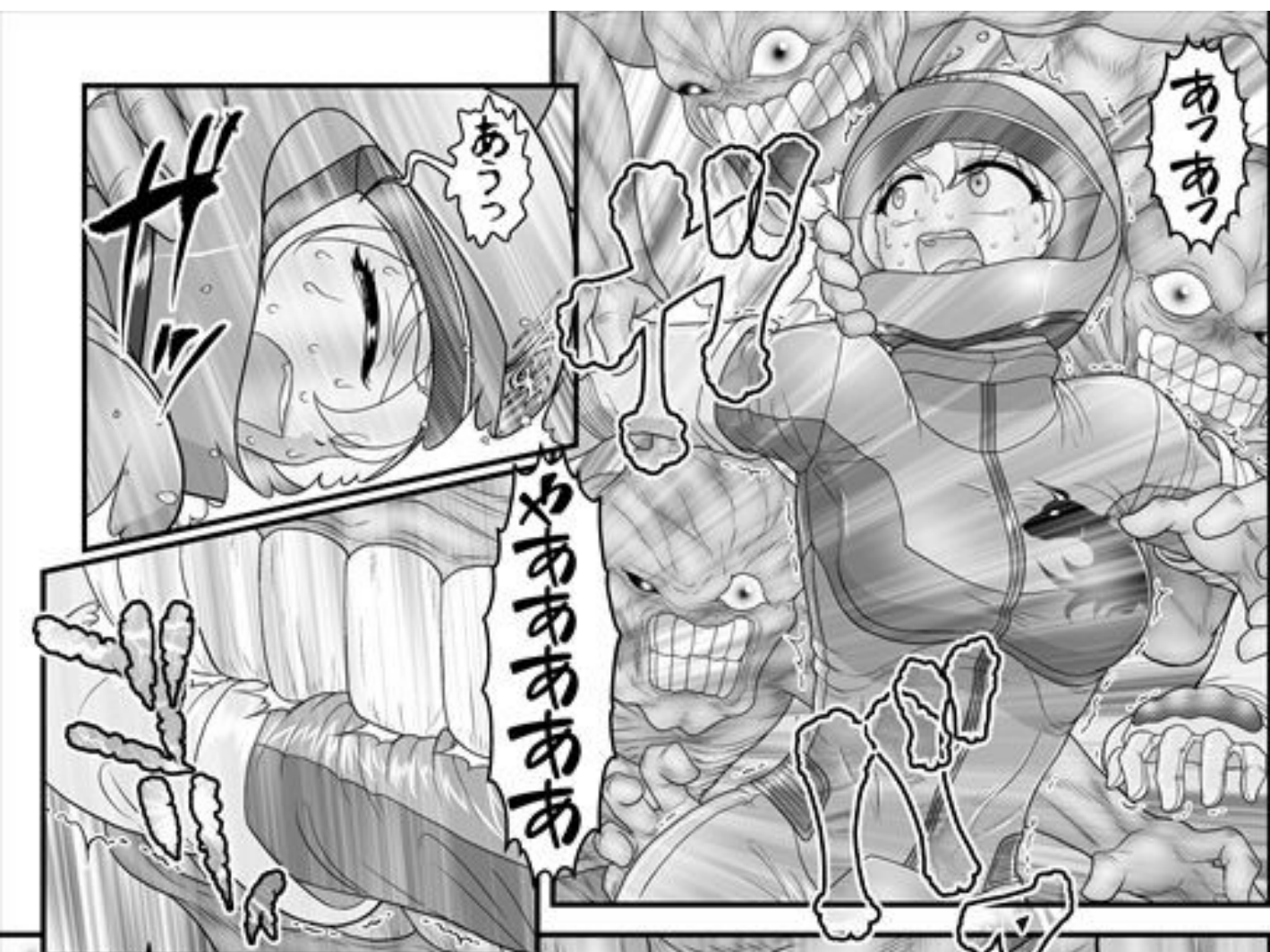
知恵比べと
いこうじゃないか

この世界の『盤面』を
支配するのは
どちらの種か

そのために
まずは――











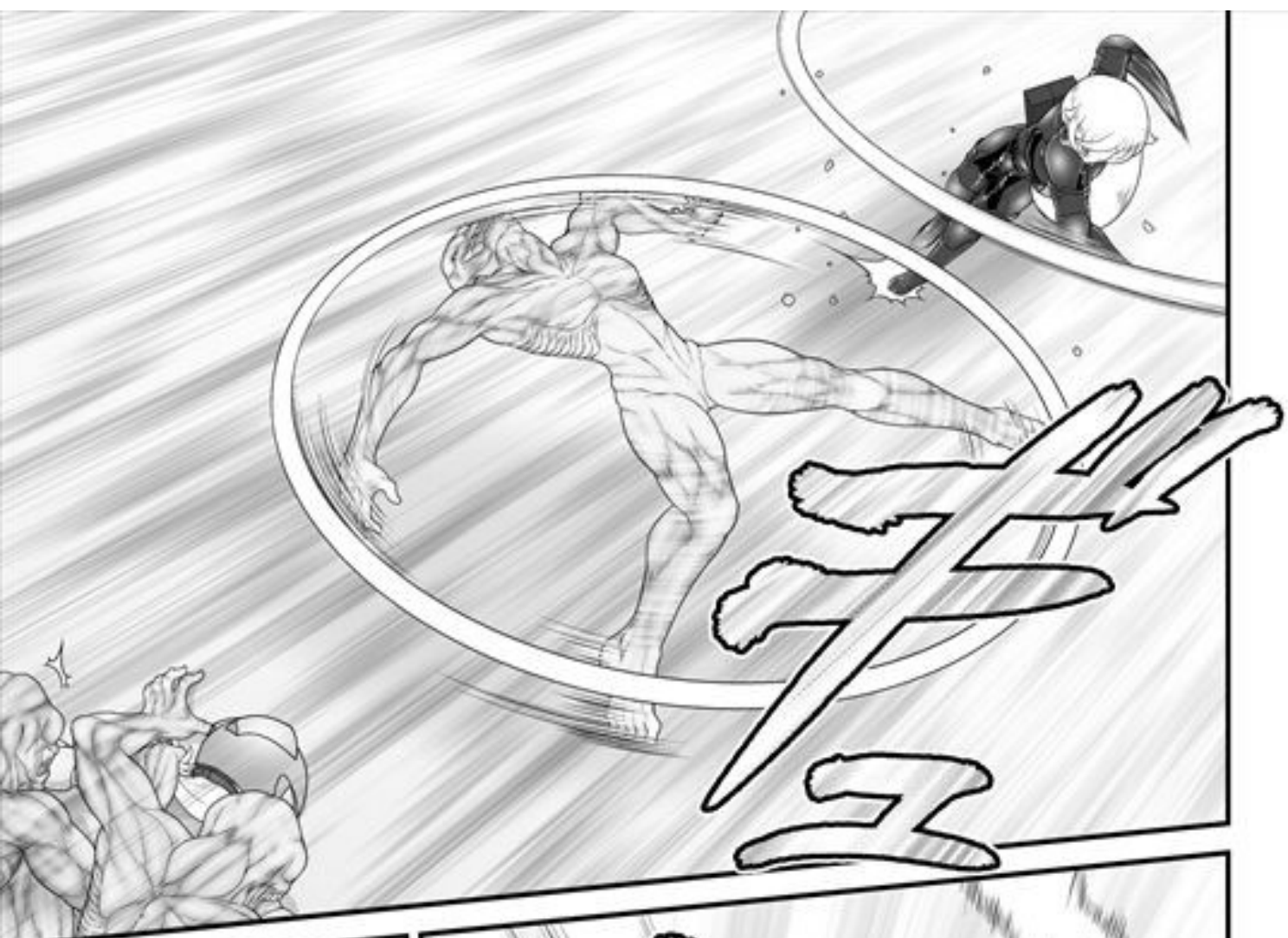


















あの3匹は
他の雑魚とは
違うようだ

一匹くらいは
巻き込めるかと
思ったが――



この通路の狭さに
複数の連携とくれば
厄介さは同等――

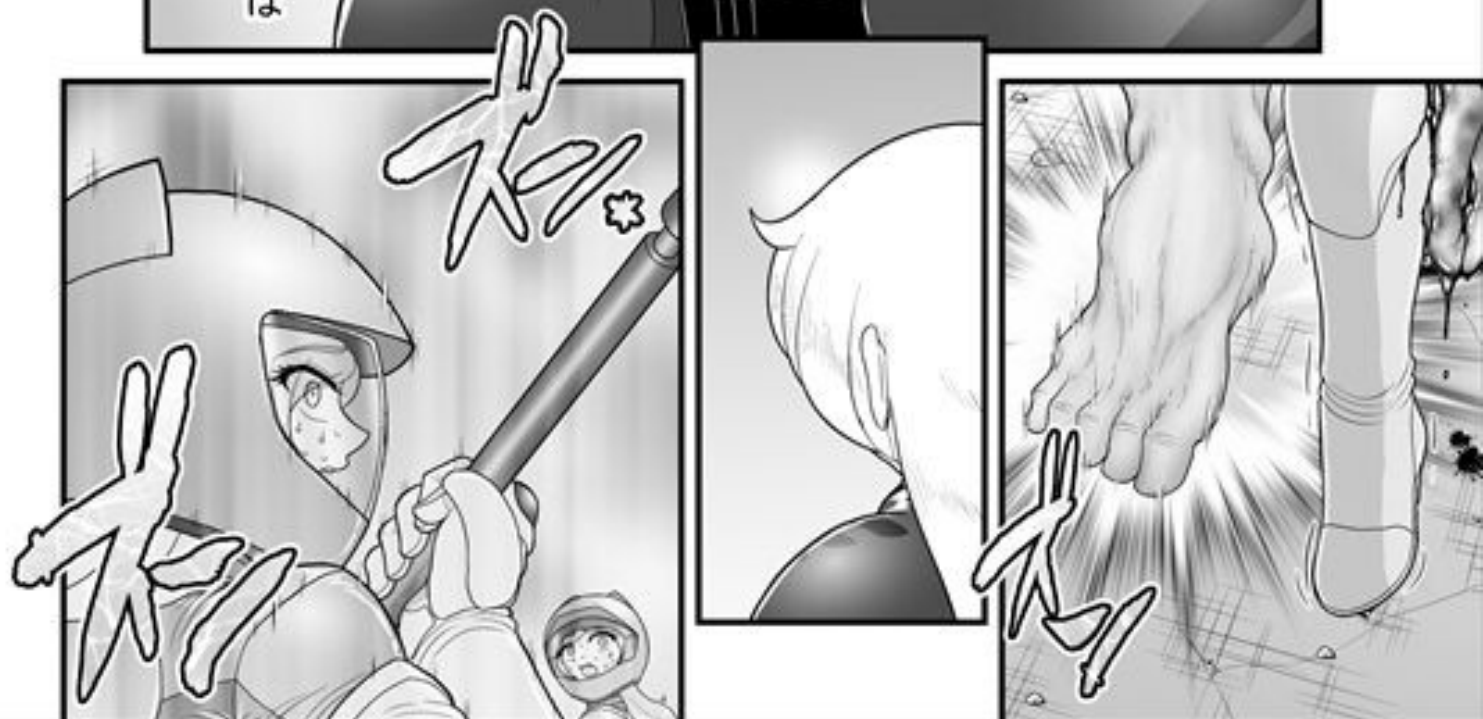
「セカンド」級が3匹
……戦闘能力なら
この間の「サード」が
上だろうが……

『成りかけ』だな



悪くない

勘を取り戻すには
手頃な相手だ

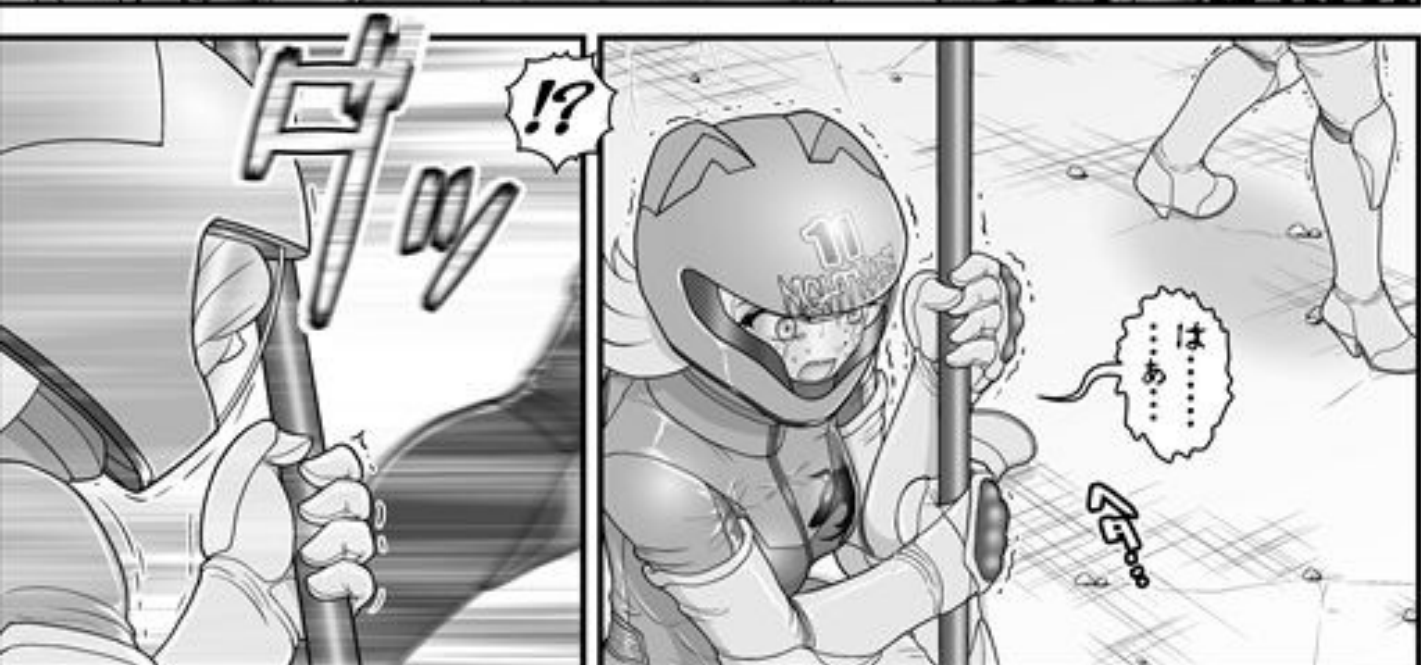
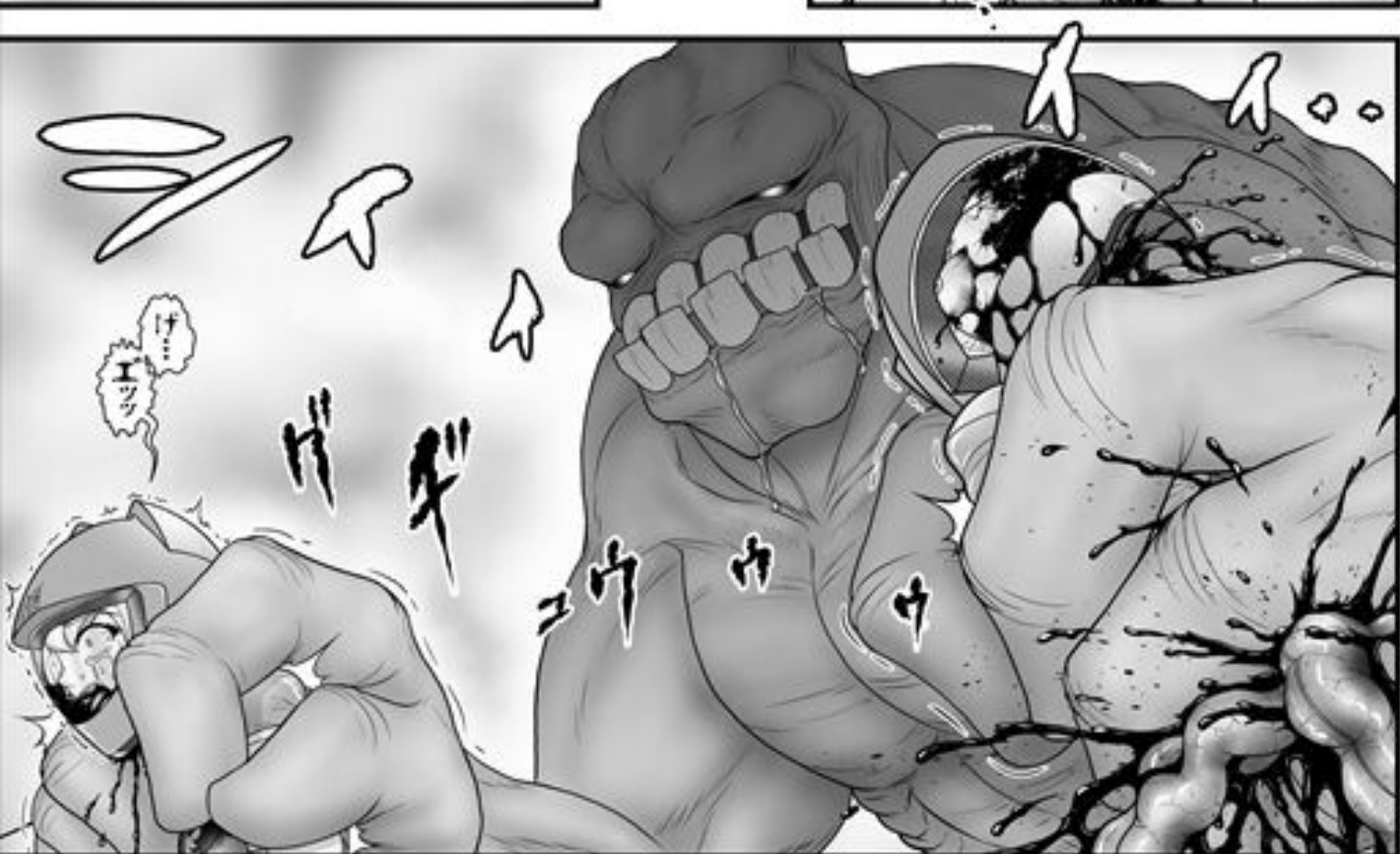




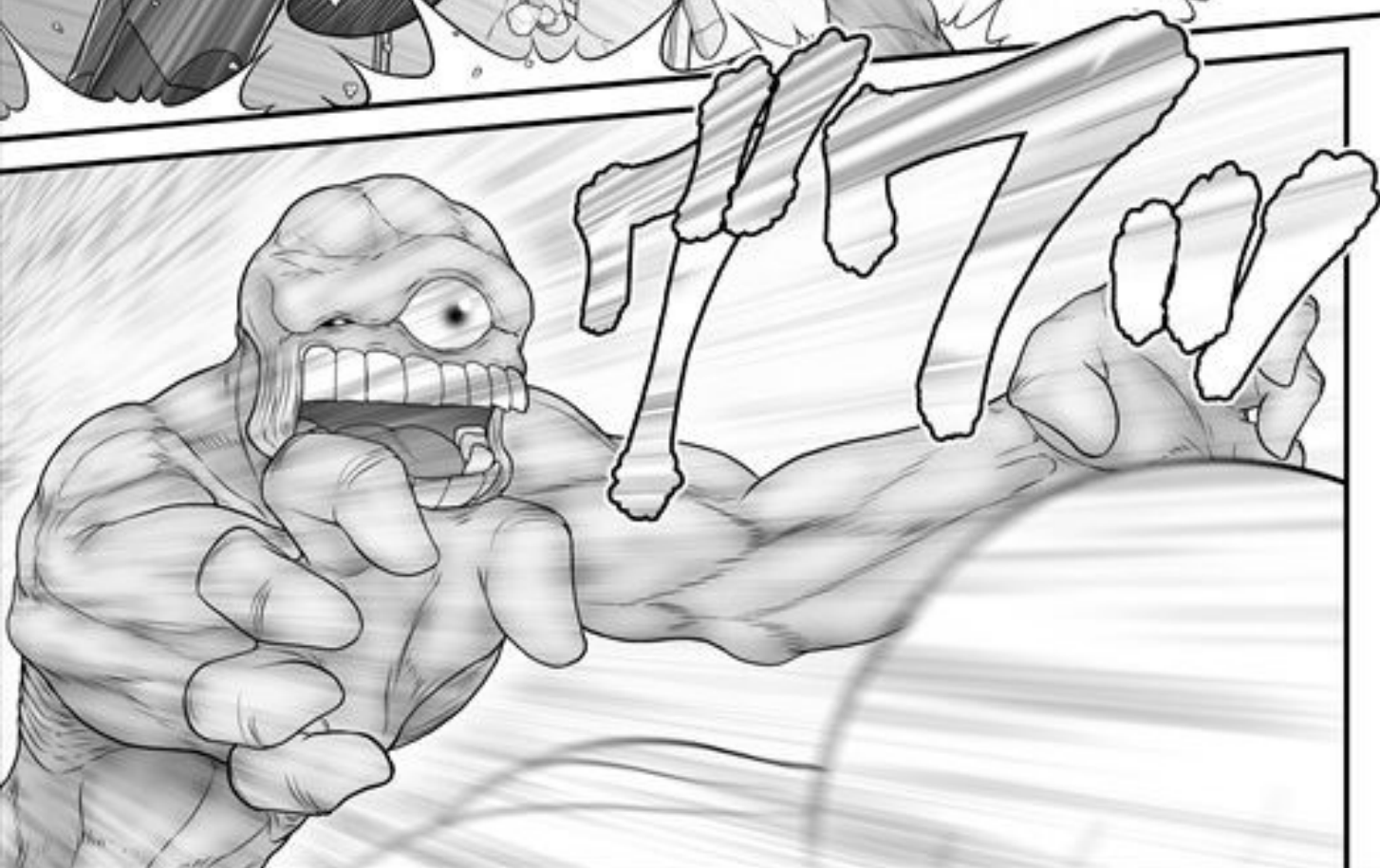
——なるほど

『ボス猿^{ザル}』は
こっちか

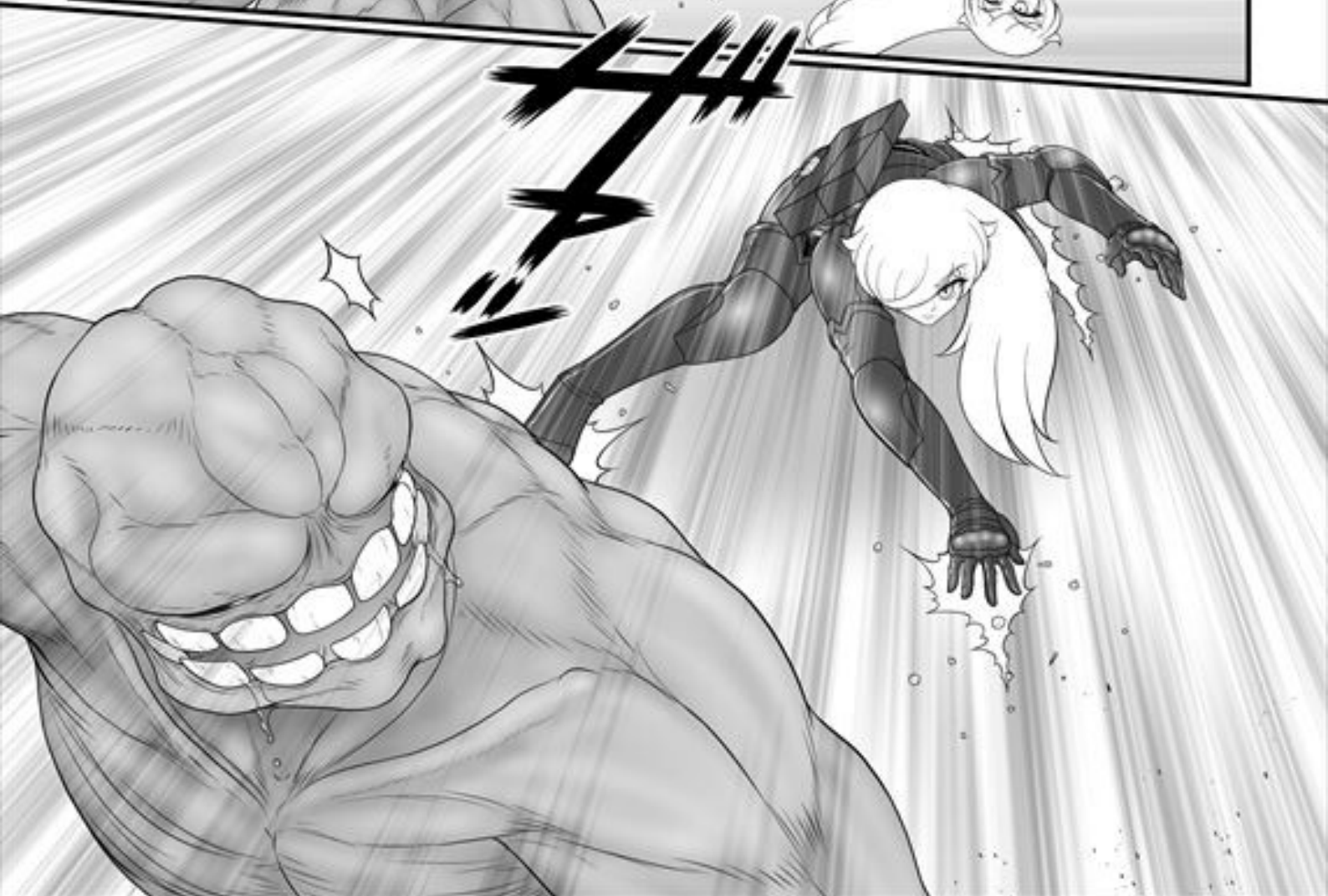


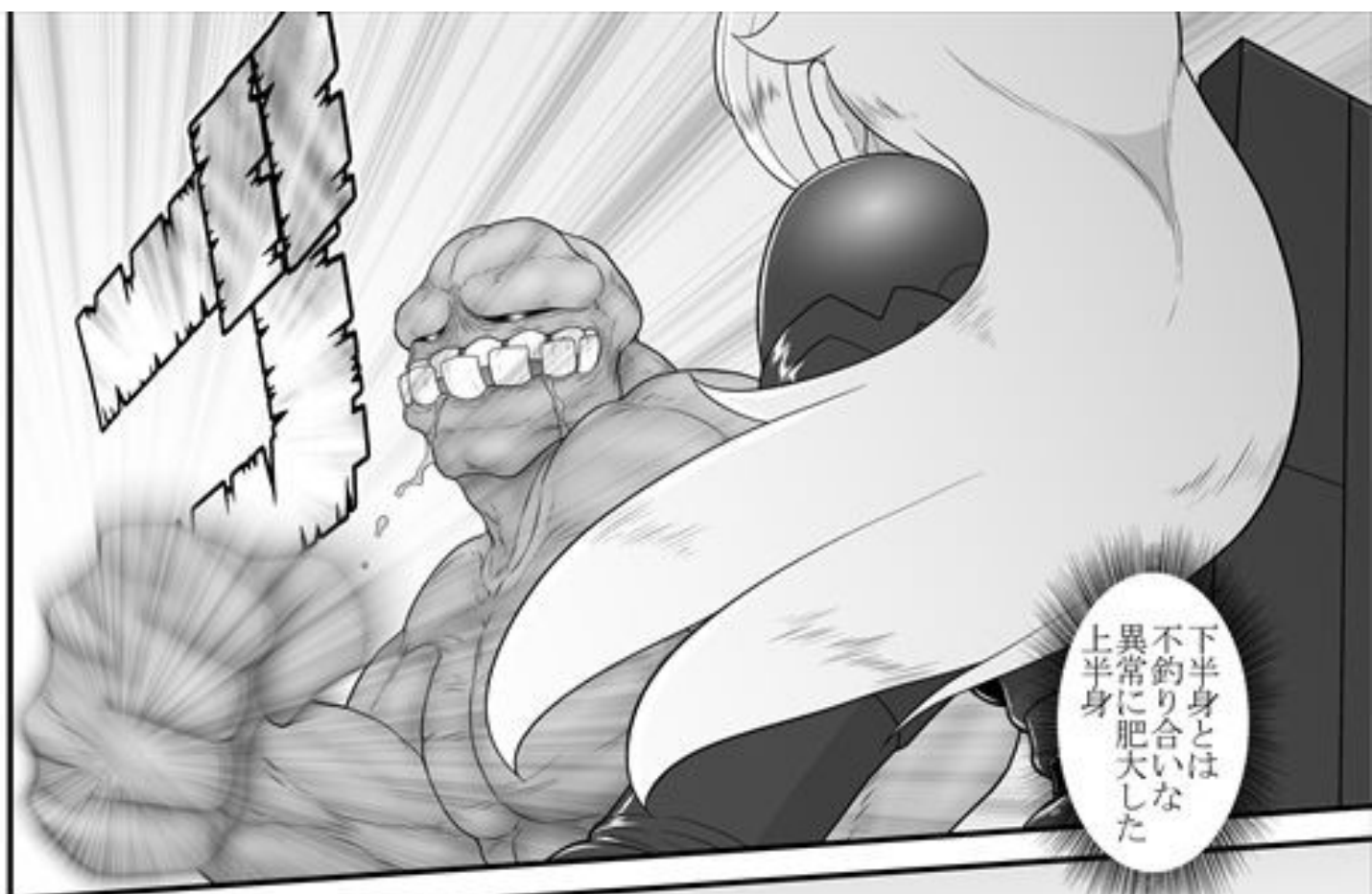












下半身とは
不釣り合いな
異常に肥大した
上半身

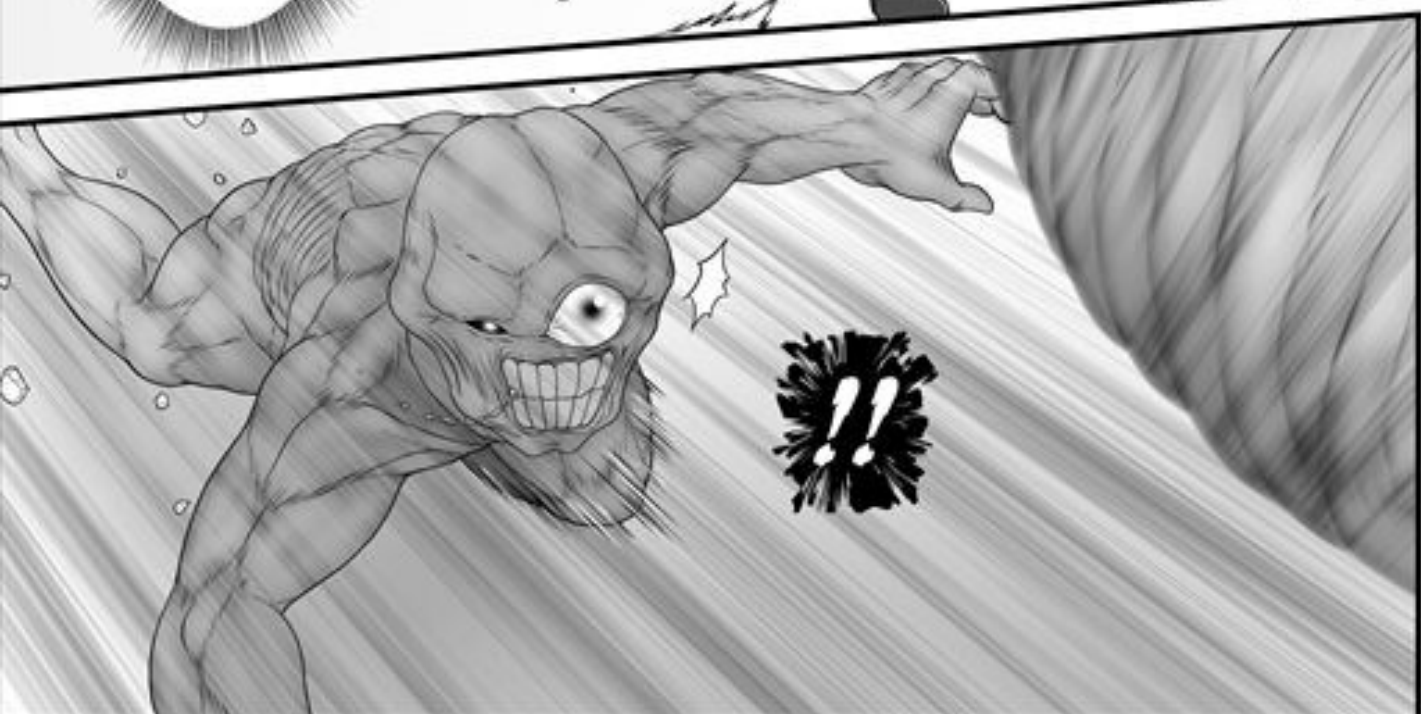
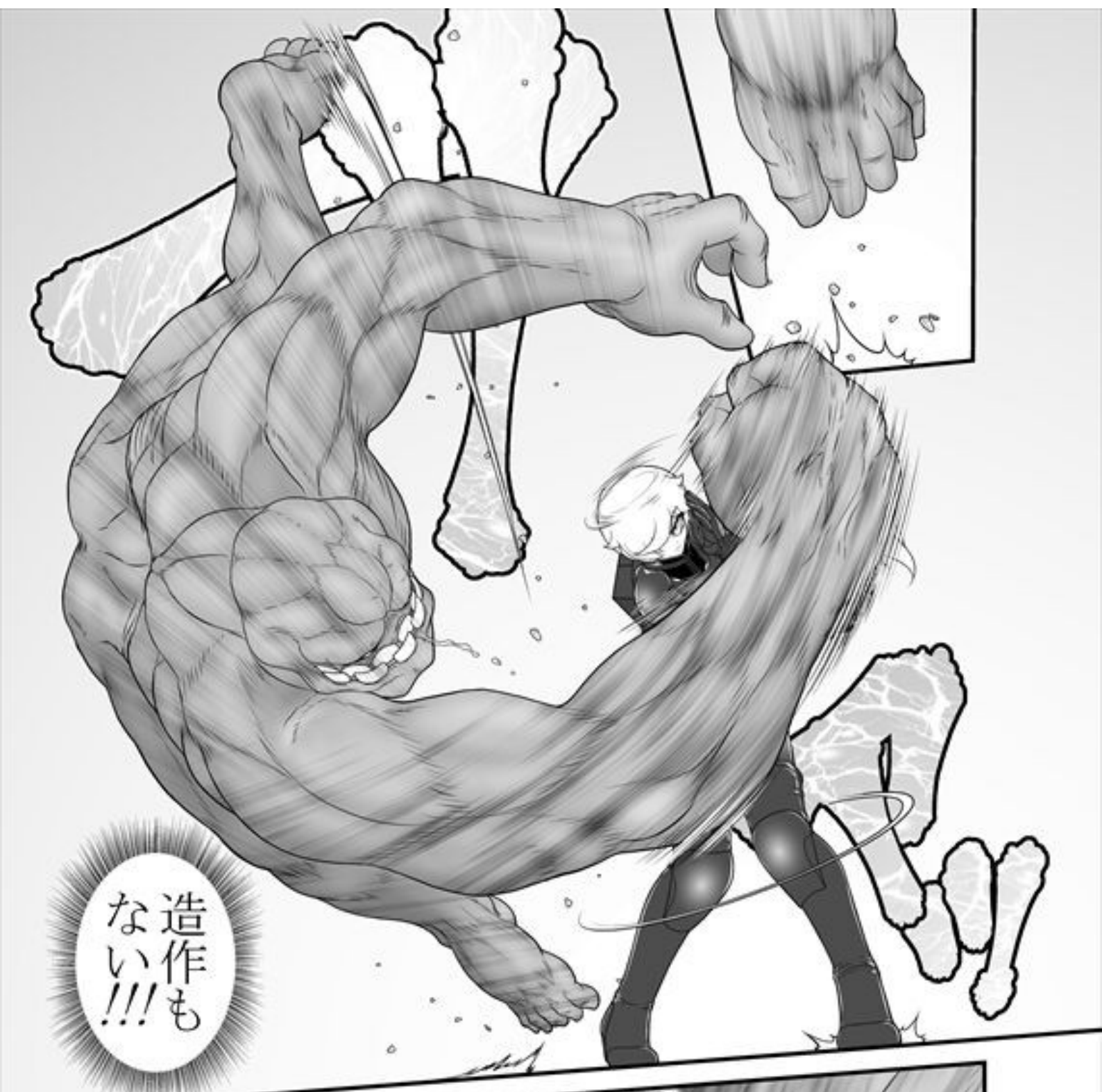


長くて太い腕を
振り回せば容易に
揺らぐ高い重心



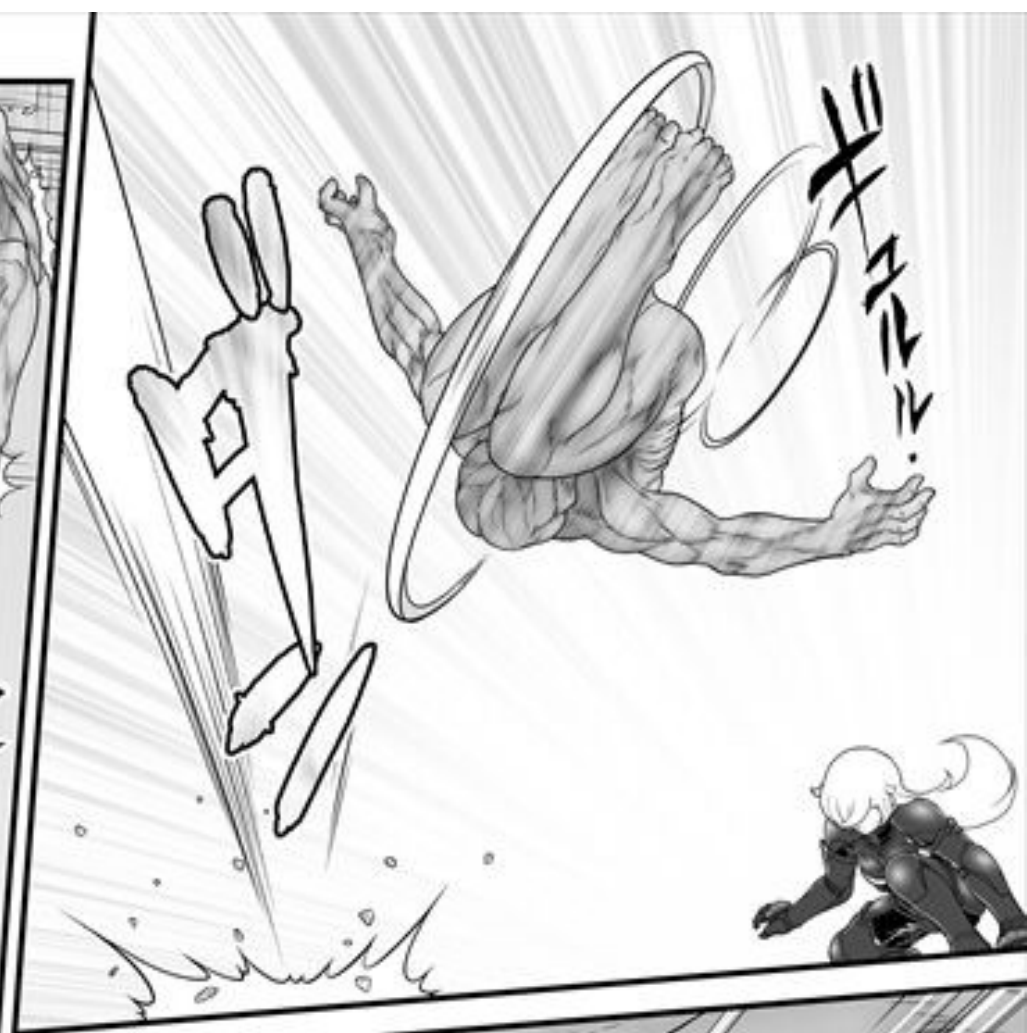
そこを
衝いてやれば
崩すのは――

剛力と
引き換えにした
肉体の歪み



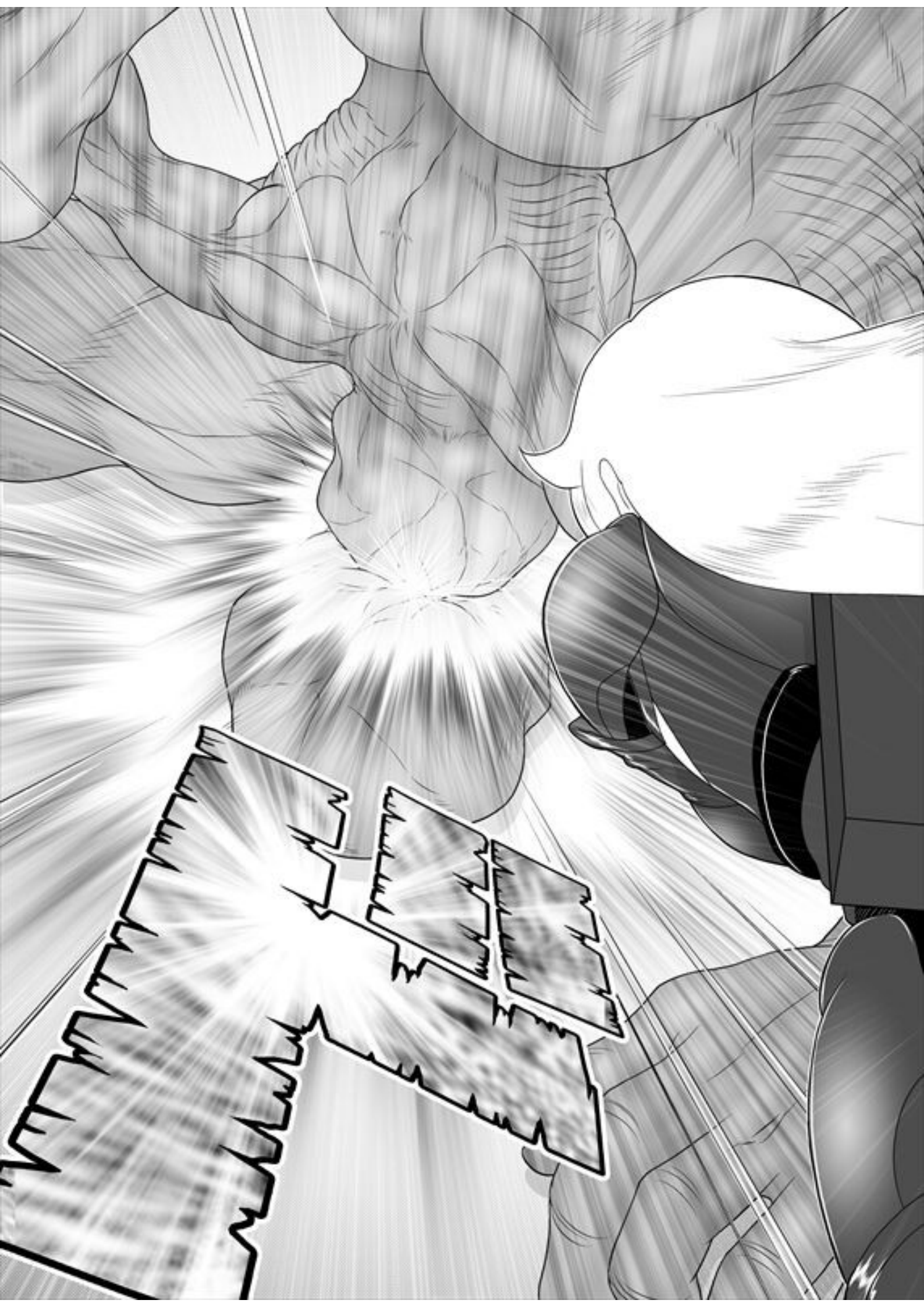






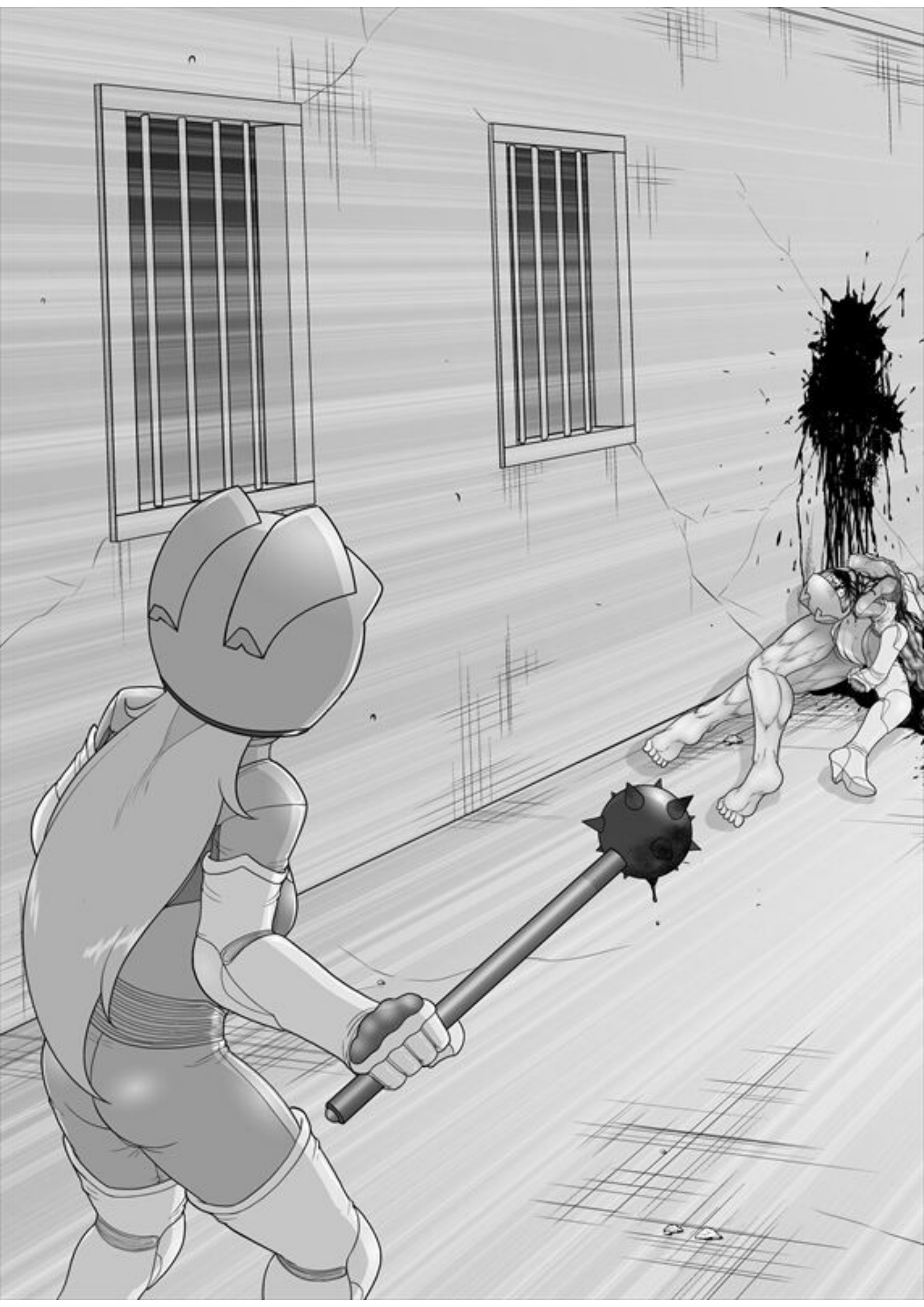




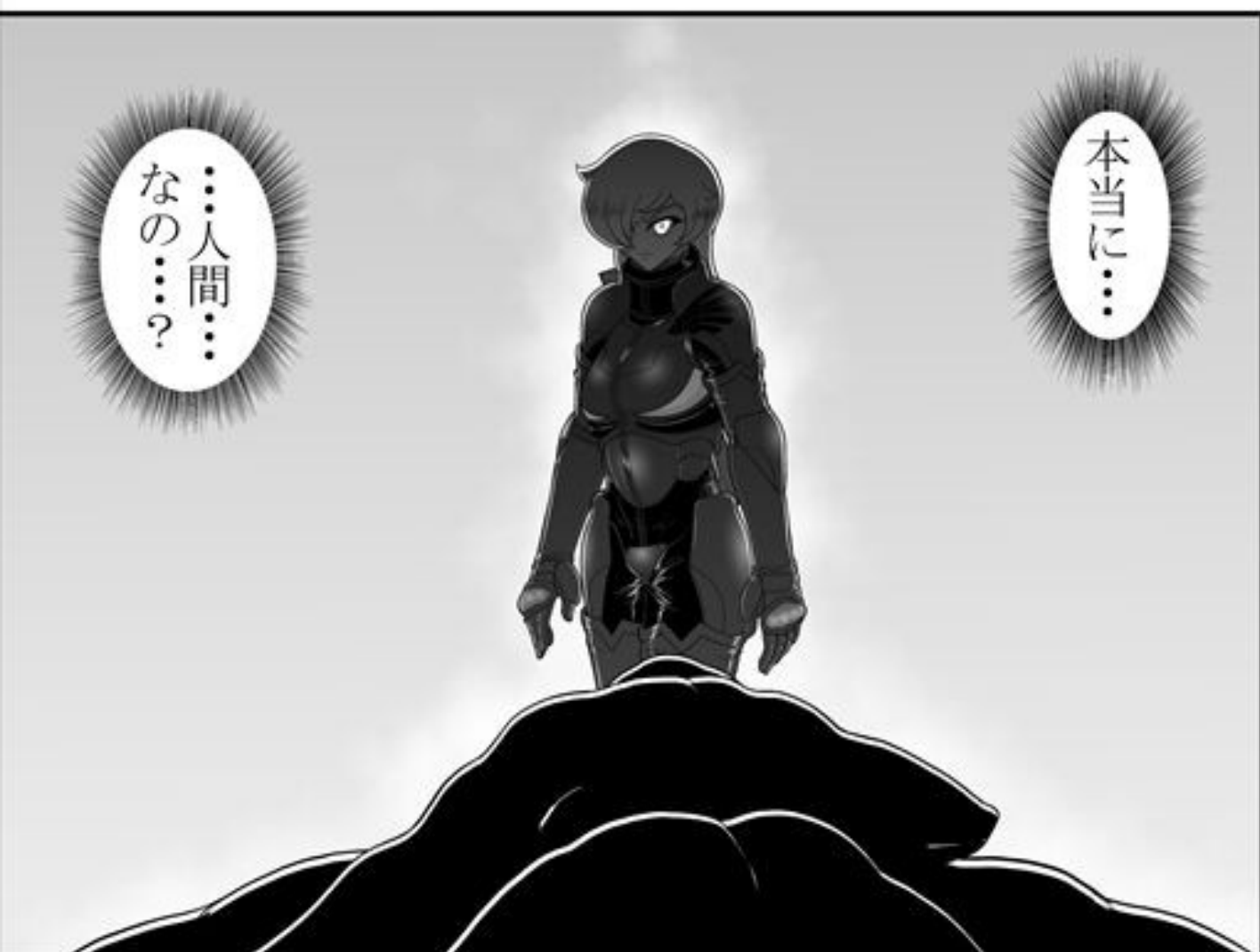














……こんなものが



思ったほど
長持ちしなかったな

……まあとりあえずの
手慣らしにはなった



やはり
大分鈍っているな

ん……

力押しばかりに
頼ってきたツケか……

叩……



感覚を取り戻すには
もっと実戦が必要だ

ペキ

幸い練習相手には
事欠かない



今なら理解する

無手の技のみで
どんな奴らとも渡り合って来た
先生の凄さが



……
とは言った
ものの

問題は
そこだ

「セカンド」以上への
「畸形」はそう頻繁に
起きるものではない

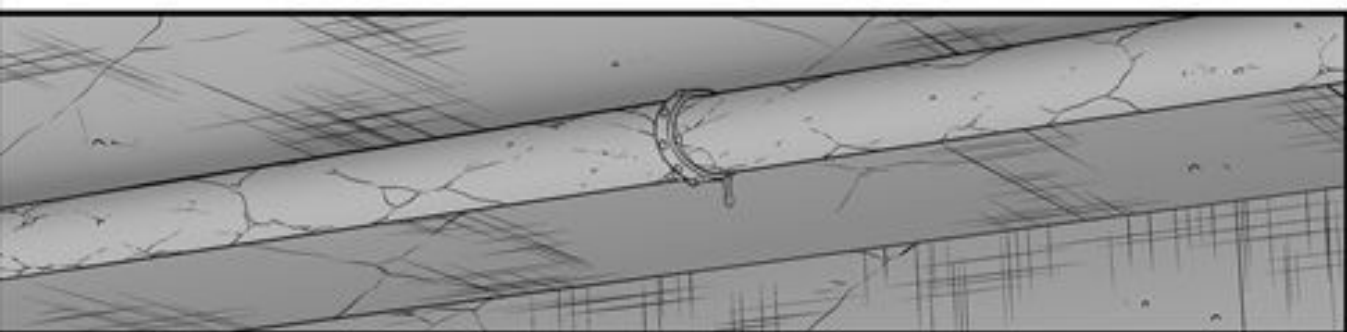
成りかけが同時に
3体も出現する事
自体が異常だ

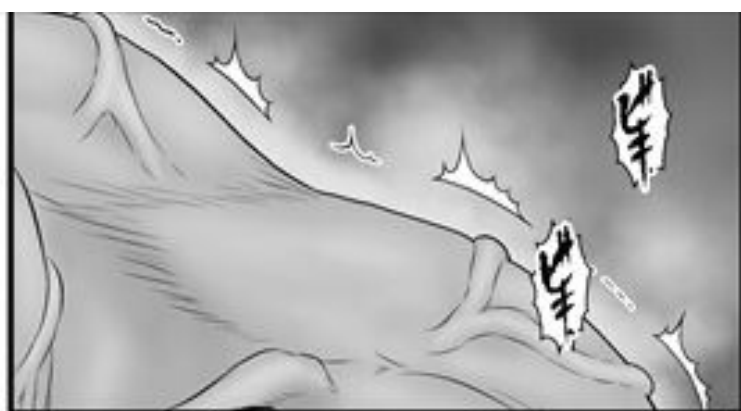
この間の
「ザード」といい……
高位個体の出現率が
上がっていることと

最近頻発している
チームの失踪……
これが無関係とは思えない

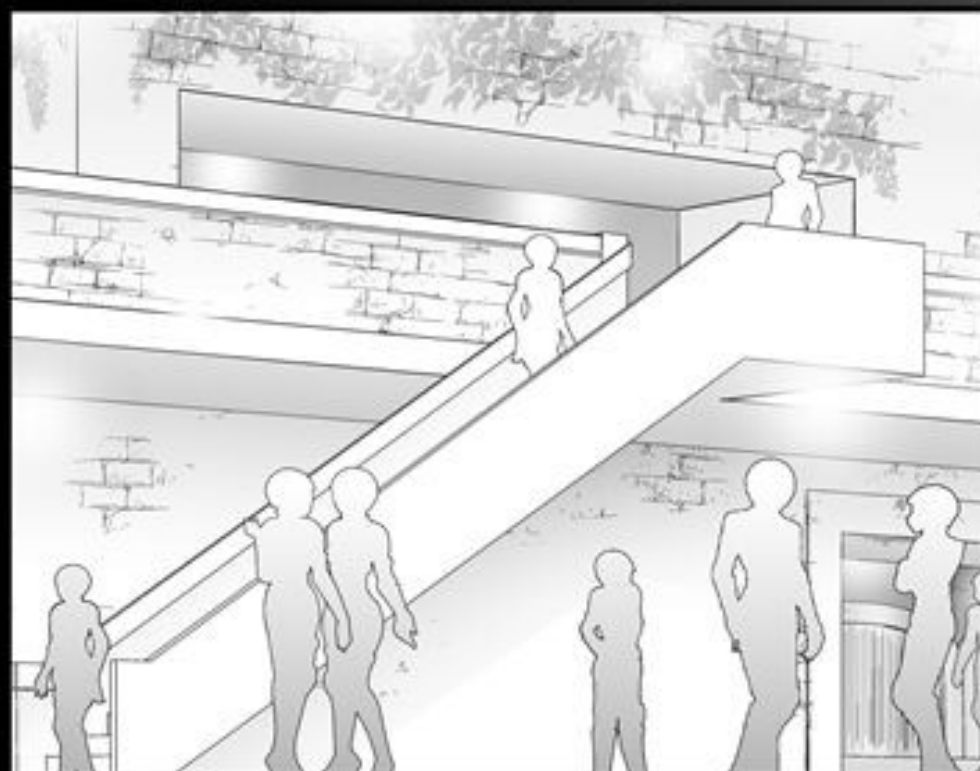
もしこれが
組織的な「狩り」
だとすれば……

消えた連中の
行き先は――









ミッション
緊急特別任務!!!

エリア
S地区 電波塔周辺に
推定70体規模の群れ

“ファースト”10体前後
“セカンド”は未確認

参加人数上限なし!
ポイントは1.5倍!!

マシで!?

3倍だってよ
どうする?

でも……
ヤバくない?

こないだの
映像の事とか……

あれは境界エリア
でしょ?
近づかなきゃ
大丈夫だって

そして今週は
レディース・ウィーク!
女性チームはさらに
ポイント倍チャンス!



それに
人数制限なしだから
バトル系チームも複数
参加してくるはず

ヤバい奴らは
そつちに任せ
とけばいい



雑魚狩りしてる
だけで一気に
ポイントが稼げる

こんな美味しい
話はないよ



——
そう

確かに話が
美味すぎた



だが、何のために？

奴らにエサを差し出す
ようなマネをする
理由は何だ？



割のいい報酬に
明らかに過小評価
された群れ

『美味しい話』には
必ず裏がある

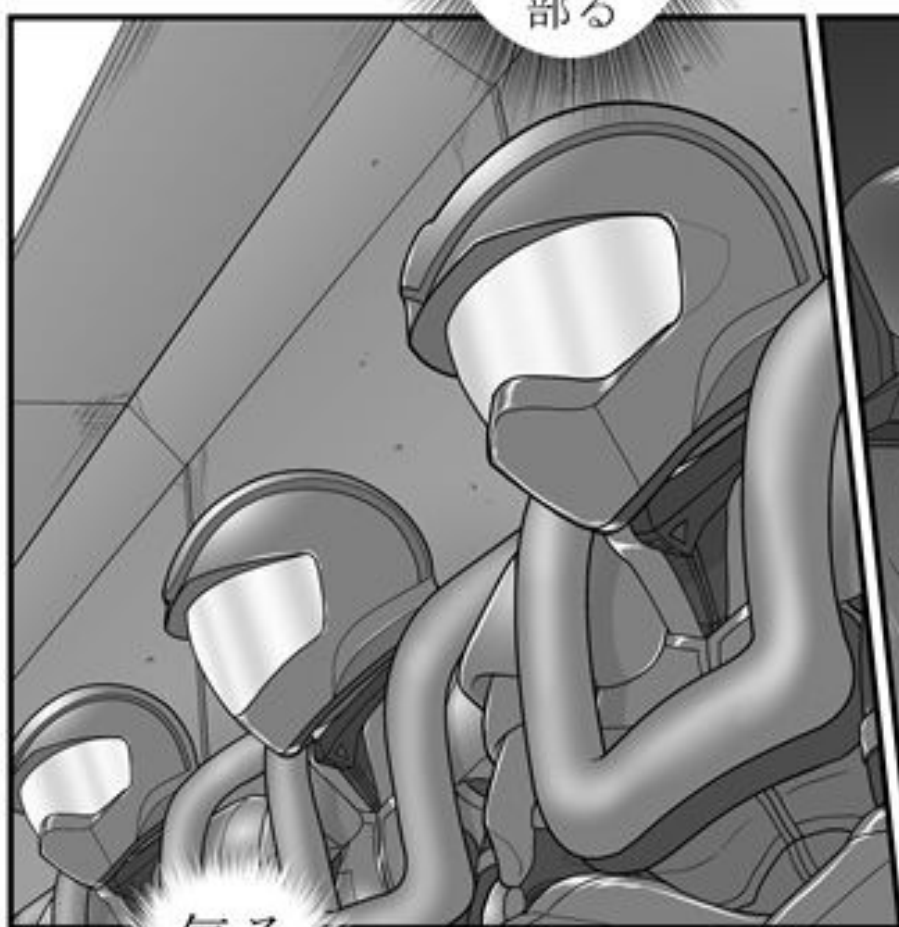


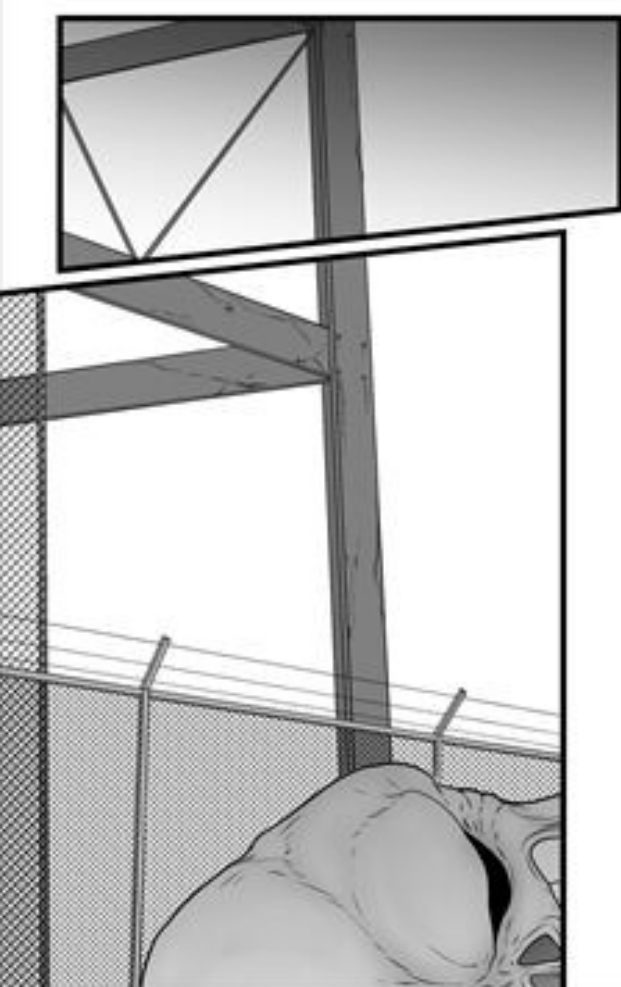
水面下で蠢く
何者かの意図

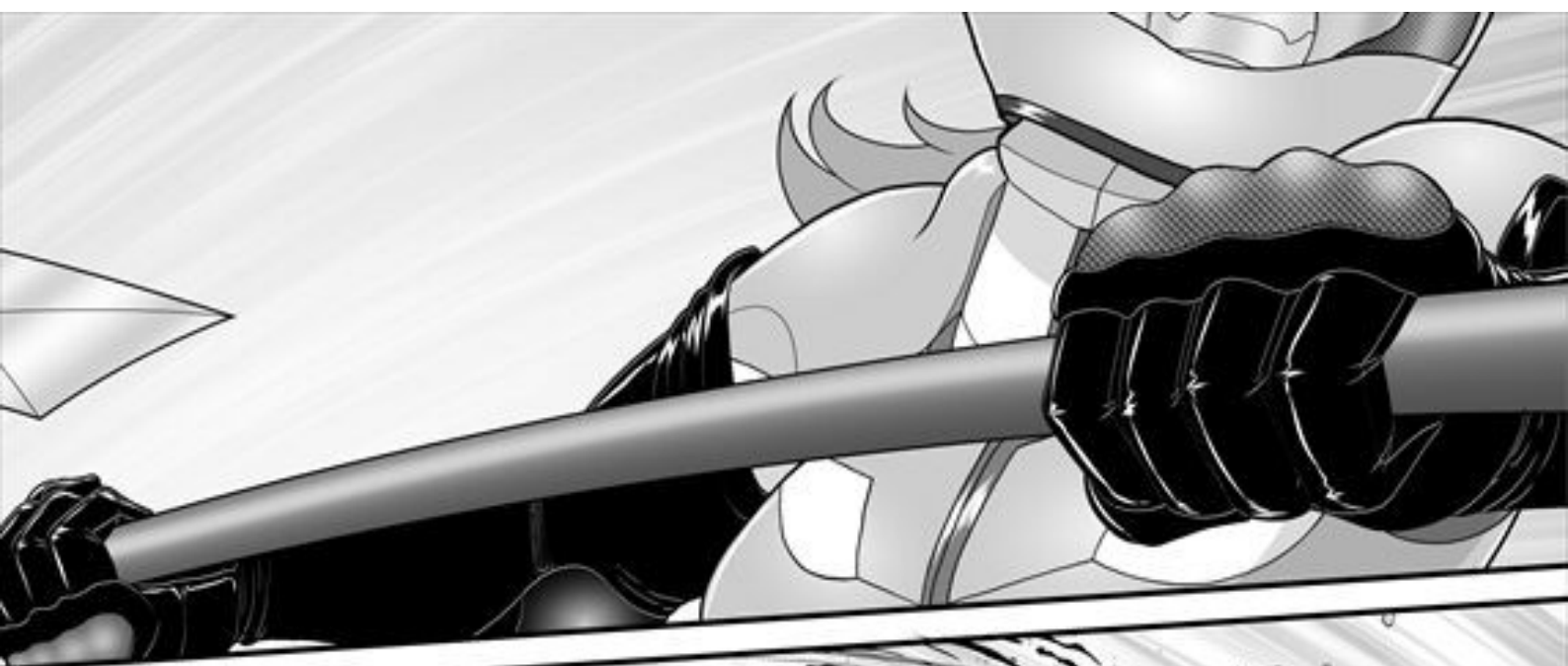


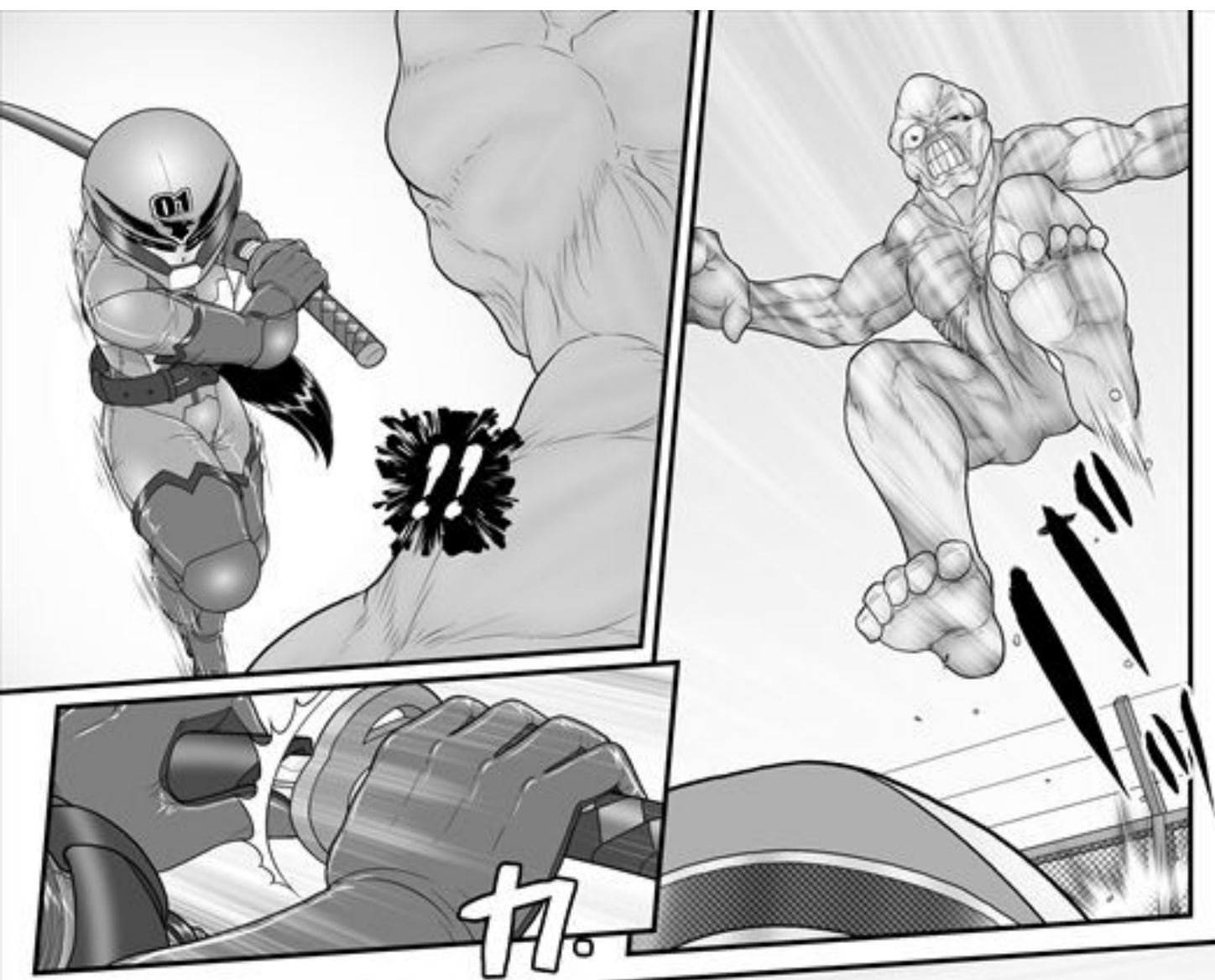
それが何かは
分からないが



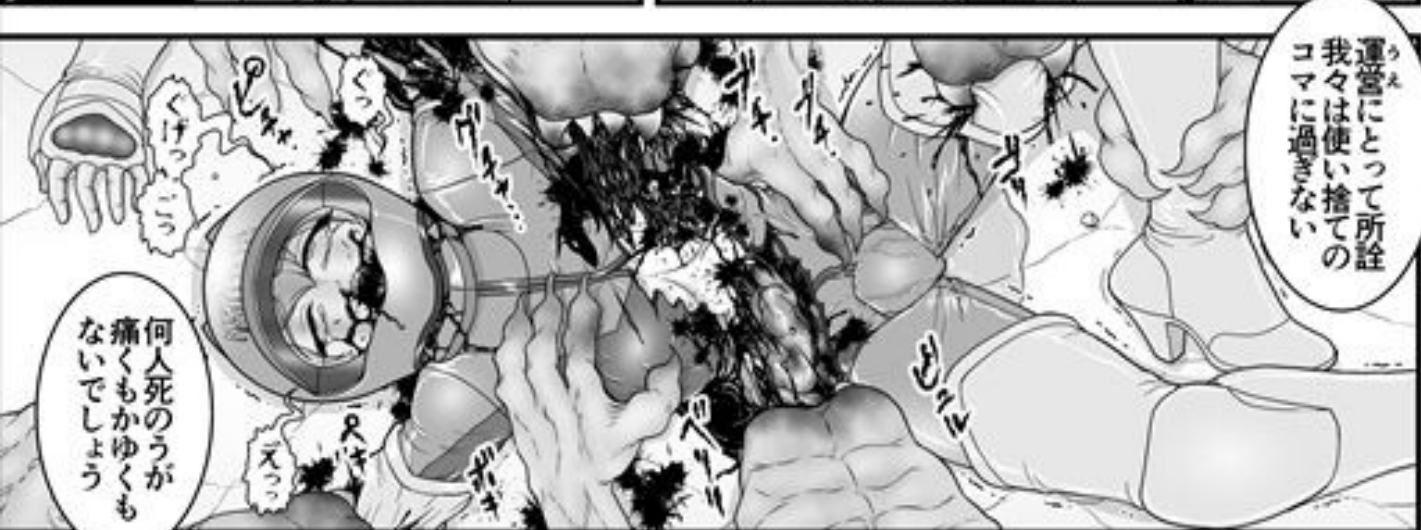












ま…実際
願ったりでは
あるがな

クフフフ

あん時や
不意を突かれて
一発喰らっちゃ
まったが…

今度は
そうは行かねえ

一匹残らず
ズチ殺して

借りて返して
やるぜ

見当たら
ないねー

もう少し
電波塔の近くまで
行ってみるか…

もう既に
近付きすぎ
だけだな

…てかさー
何で近付いちゃ
ダメなの？



ま…確かに
そうだけど

だからって
独り占めは
ズルくね?



シャロンの奴が
一人で行くって
聞かなかったんだよ

その方が
暴れやすい
からって



この間の襲撃では
真っ先にダウンしちゃ
まってたからな…

そのせいで
死人が出たって
気にしてんだよ

今回はその
リベンジがしたい
ってところだろ

誰にも足
引っ張られずにさ



信用
ねーな
ウチら

弱いのが
悪いんだろ

ん?



前方注意!

減速しろ
壁が崩れて

